

君は滋賀縣人小島半兵衛の弟にして明治十五年三月十五日を以て生れ叔父原高助の養子となり昭和二年家督を相續す明治四十年京都帝國大學法科大學經濟學科を卒業し直に住友家に入り石炭肥料及製鋼事業に従事す大正八年辭して高砂工業會社に轉じ現時熱帯産産會社副社長の外前記諸會社の重役たり家族は尙三男鐵三郎(大七、二生)四男誠四郎(同一、一五生)長女都紀子(同一、一四、一五)五男孝雄(昭三、一五生)ありA七五三(東京市品川區北品川三ノ三二五電高輪一四五一)

原 靜雄 從三位勳三等、前橫濱市港灣部長  
東京府土族  
妻 芳 明一六、二生、東京、士、高橋快  
男 大 明四二、九生  
男 正 雄 大二、三三

君は東京府土族原保之の長男にして同三六の兄なり明治四年九月を以て生れ同二十六年家督を相續す同三十年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し同三十一年内務省土木監督署技師に任じ爾來三重愛知各縣技師朝鮮土木部長等を経て横濱市港灣部長たりしが現時閑地にあり家族は尙四男辰雄(大五、一〇生)あり(東京市澁谷區神泉町四電青山九〇七)

原 繁雄 從五位勳六等、判事、都城區裁判  
所判事、佐賀縣土族  
妻 三 明三〇、六生、福島、内山光謙六  
女 三 大四、四生、東京家政學院在學

君は佐賀縣土族原長武の男にして明治十五年一月十五日を以て生れ同四十二年家督を相續す大正三年東京帝國大學法科大學法科を卒業し翌四月六月辯護士を開設す大正十年一月判事に任じ爾來鋼路地方種内區區區大村區各裁判所判事を歴任し現時都城區裁判所判事たり家族は尙二女芳子(大一二、七生)ありA一〇〇(都城市城町四二〇五)

原 十太 正三位勳二等、理學博士、東京帝  
國大學名譽教授、靜岡縣土族  
女 かつ 明三八、三三、御茶の水高女出身  
君は靜岡縣土族原退藏の長男にして明治十五年十一月を

以て生れ同二十九年家督を相續す同二十八年帝國大學理科大學動物學科を卒業し大學院に入り札幌農學校教授學習院教授等に歴任し水産海洋學研究の爲英佛獨各國に留學し同四十四年東京帝國大學農學部教授に任じ大正二年理學博士の學位を受く昭和八年之を退き同大學名譽教授の稱號を授けらるるに大正四年マリーヤル、カロン、マリヤナ各群島に出張せり(東京市大森區田園調布四ノ一七)

原 淳一郎 衆議院議員(兵庫縣選出)、笠戶船  
兵庫縣在籍  
君は明治二十七年十月を以て生れ大正八年明治大學法  
科を卒業し辯護士を開業す兵庫縣會議員同參事會長に  
戸市會議員同參事會長となり又神戸辯護士會副會長に  
擧げらるる等て恩問の爲滿洲國に派遣せらるる現時辯護士  
たる傍ら笠戶船兵庫野商店各會社監査役に任じ昭和七  
年兵庫縣より選ばれて衆議院議員に當選し現に立憲民  
政黨に屬すA三三二(神戸市海區上野通八ノ二九九電  
御影四二二五)

原 象一郎 從四位勳三等、辯護士、辨理士  
石川縣土族  
妻 類 文久二、一〇生、石川、士、堀宏  
母 長女 明一九、四生、埼玉、柳下千太郎  
妻 明四四、四生  
男 健 大二、八生

君は石川縣土族原政矩の長男にして工學博士原龍三郎の兄なり明治十五年五月九日を以て生れ大正十三年家督を相續す明治三十九年東京帝國大學法科大學法科を卒業し同年文官高等試驗に合格す爾來鐵道監督署事務官法制局參事官軍需局長國務院第二部長等に歴任せし後官を辭し現時辯護士たり家族は尙四男士良(大四、九生)五男玉夫(同一、一〇生)四女房(同一、一二、二生)六男芳夫(同一、一〇生)七弟勳二郎妻幸(明三〇、三三、石川、士、不破爲則二女)及其一子あり長女月(同一、二九、七生、跡見女學校出身)は東京府人法學士沖山英雄に二女花野(同一、一〇生、出身同校)は大阪府人商學士佐伯英三に嫁し弟誠四郎(同一、二四、二生)農學士、千葉畜産合資會社支配人)同妻三枝(同一、二八、

九生、北海道、竹内靜勝三女)は其子女を伴ひ分家せりA八四三(東京市豊島區目白二ノ一五五三電牛込二八〇七)

原 伸太郎 從五位勳六等、都市計畫地方委員  
會技師兼地方技師、福岡縣在籍  
妻 鶴子 明二七、一二生、廣島山中女學校  
出身

君は福岡縣人原久吉の長男にして明治十七年七月二十日を生れ同四十四年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し同年千葉鐵道株式會社技師に就職し同四年退職同五年陸軍省軍部軍政管理司技師に任ぜらるる同一年山東縣軍部協定日本帝國委員事務補助を囑託せられ同十二年陸軍省整理員解除と同時に陸軍省同部計畫地方委員會技師に任じ昭和六年地方技師に兼任せられ現在に至る家族は尙二男實(大九、一〇生)二女康子(同一、一二、二生)三男胖(昭二、三三)三女澄子(同七、三三)あり(福岡市科木町)

原 澄治 中國信託會社社長、農農土地、倉敷  
岡山縣在籍  
妻 長 明一八、一〇生、岡山、原幸次郎  
長女 大八、三三

君は岡山縣人星島寛の二男にして明治十一年七月を以て生れ同四十二年先代長の入夫となり家族を相續す同三十六年早稲田大學英語政治科を卒業し現時中國信託會社社長の外前記諸會社の重役たり家族は尙三男吉彦(大四、一〇生)あり(倉敷市倉敷四〇四電七五)

原 正鼎 從四位勳三等、朝鮮總督府判事、  
大邱府判事、山形縣土族  
妻 かつ 萬延元、一三、山形、士、窪島太  
七長女

妻 琴子 明二一、六生、山形、香阪駒太郎  
長女  
男 正 俊 大二、一〇生  
女 佐 多 明四二、一二生、聖心女子學院  
學部出身

君は青森縣土族原正弘の長男にして明治十四年八月を以て生れ大正元年家督を相續す明治三十九年京都帝國大學法科大學法科を卒業し直に司法官試補となり同四十四年判事に任ぜられ京都及大阪地方裁判所に勤務し同四十二年渡鮮來京城區裁判所同地方裁判所同覆審法院高等法院各判事に補せられ大正九年總督府法務局民事課長に轉じ同十二年官命に依り歐米各地に出張同十三年歸朝後高等法院判事京城地方長官高等法院部長等に歴補し昭和七年大邱府判事長となり現在に至る家族は尙二男正典(大四、一二生)二女美和(同一、〇、八生)あり三男正修(同七、五生)は山形縣人香阪駒太郎の養子となり(大邱府三笠町法院官舎第一號電二六六)

原 清右衛門 原清商店、珊瑚翡翠寶石卸商  
東京府在籍  
妻 いく 明二六、一〇生、東京、中村善吉姉  
男 時 夫 大二、一〇生

君は東京府人先代清右衛門の長男にして明治十九年四月二十六日を以て生れ同二十七年家督を相續し前名爲造を改め襲名す原清商店と稱し珊瑚翡翠寶石卸商を營むA四五五B一七八(東京市下谷區茅町二ノ一四電下谷七二七七)

原 全路 東京市水道局長  
廣島縣在籍  
妻 澄 明二四、八生、岡山、士、水川龍  
太郎長女、府立第三高女出身  
男 正 路 大元、九生、京都帝國大學在學  
女 晴 子 大八、一〇生、雙葉高女在學

一、三三あり長女崎(明四二、七生、雙葉高女出身)は東京府人東北帝國大學工學部助教伊澤正宜に嫁せり(東京市中野區新井町六〇九電中野三七二八)

原 善一郎 橫濱商工會議所常議員、神奈川縣  
多額納稅者、南和公司代表取締役  
君は青森縣人原善三郎の長男にして明治二十五年四月二十一日を以て生れ家督を相續す同二十九年又歐洲各國を視察漫遊し歐米通を以て知らるる善三郎の養子となり(横濱市本區本町三ノ谷二八九電本局四五七)

原 物吉 地主  
東京府在籍  
妻 ち 明二九、八生、東京、飯田榮吉五  
男 清 守 大七、八生

君は東京府人先代原清助の長男にして明治九年二月八日を生れ大正六年家督を相續す地主たり家族は尙四女和惠(大一一、二生)五女陽子(同一、一五、四生)四男宗明(昭九、五生)あり長女千代子(明三七、八生)は東京府人杉浦鐵五郎二男武雄に嫁し二男忠雄(同四三、一二生)は分家せりA八六九(東京市澁谷區千駄ヶ谷五ノ八四五)

原 物兵衛 衆議院議員(兵庫縣選出)、辯護士  
東京府在籍  
妻 スエ 明一九、一〇生、東京、高尾芳子  
姉

妻 芳夫 大二三、九生、兵庫、木村啓太郎  
孫  
君は兵庫縣人原善吉の五男にして明治二十四年一月二十五日を以て生れ大正十年兄無吉より分れて一家を創立す同八年日本大學を卒業し辯護士試験に合格す更に獨逸に留學し柏林大學ミュンヘン大學に學び歸朝後日本大學學生監督幹事に擧げられ又東京毎日新聞社社長に就任す現に辯護士にして大正十三年以來衆議院議員に當選すること四回立憲政友會に屬す柔道に長じ又演藝に興味を有す(東京市大森區雪ヶ谷町五四電雪原三九七七)

原 太三郎 南和公司監査役、原憲無限責任  
社員、神奈川縣在籍  
妻 照子 明三三、一〇生、神奈川、原富太  
郎二女  
男 晴之助 大九、九生  
女 藤子 大七、五生

君は神奈川縣人原鐵五郎の長男にして明治二十四年十二月を以て生れ同三十四年家督を相續す現時原合名會社無限責任社員にして傍ら南和公司監査役を兼ねるに第二銀行朝鮮農林會社重役たりし事あり家族は尙二男善次郎(大一一、一〇生)ありA七五七(横濱市中區本牧町和田山一三三九電本局二九五七)

原 太三郎 京都府多額納稅者、米穀商  
京都府在籍  
妻 善平 安政五、四生、滋賀、黒井秀次郎  
長男  
母 文久三、二生、養祖父喜三郎長女  
明二二、三三、京都、原田三之助  
四女  
妻 ヒサ 明二二、三三、京都、原田三之助  
四女





女 松子 明四、四生
君は京都府土族原宮次の四男にして弘化四年七月を以て生れ明治三年分れて一家を創立す...

原 康治郎

正五位勳五等、検事、福井地方裁判所検事
石川縣在籍
妻 キクノ 産課長小石季一養子
大、四、三、石川、佐々木純一

君は舊加州大聖寺藩士原八郎の二男にして明治十六年三月を以て生れ大正十一年家督を相續す...

原 義介

正五位勳四等、判事、熊本地方裁判所判事、山口縣土族
妻 テル子 養子
明三〇、八生、山口、光永常治良

君は山口縣土族原親の二男にして明治十八年十一月を以て生れ同四十年中央大學を卒業し...

原 平吉

大坂府在籍 織物皮革業
妻 タネ 元治元、八生、大坂、姫路ミツ母
女 雪子 明三五、一〇生

君は北海道原口岸太郎の三男にして明治七年八月二十二日を以て生れ同三十六年兄金蔵方より分れて...

原 口 徠 従四位、男爵、日本勸業銀行理事
事、東京府華族
妻 ミチ 明二五、八生、伯爵伊東太郎妹
明四五、六生

當家は先代繁治より顯る繁治は舊豊後國藩士にして夙に軍籍に入り累進して陸軍中將に陞る...

久留米裁判所監督判事兼福岡地方裁判所久留米支部長等に歴任し現時熊本地方裁判所長たり...

原 龍三郎

從四位勳三等、工學博士、東北帝國大學教授、工學部勤務
妻 清 明二一、一、生、東京、堀尾長女

君は石川縣土族原政知の三男にして同象一郎の弟なり明治二十一年七月を以て生れ大正五年分れて...

原 亮一郎

東京書籍取締役、日本製紙取締役
妻 ヒサ 明八、七生、東京、藤井壽二養母

君は東京府土族原亮三郎の長男にして明治二年二月を以て生れ同二十五年家督を相續す...

原 口 亮平

從四位勳三等、神戸商業大學教授
妻 たま 明一八、二、生、兵庫、士、賀集
新九郎妹

君は兵庫縣原口岸三郎の長男にして明治十一年四月を以て生れ同三十七年家督を相續す...

原 科 茂作 南亞公司社員
妻 なな 明二七、一、二、生、静岡、服部富藏
明四五、五生

君は東京府人原科彦左衛門の二男にして明治二十年五月一日を以て生れ昭和二年兄彌三郎方より分れて...

妻 喜美子 明三六、六生、京都、曾野作太郎二女、京都府立第一高女高等科出身

原 初太郎

從三位、勳二等功五級、陸軍中將
妻 ハマ 明八、九生、養父幸一二女
明三七、九生

君は舊筑前黒田藩士素封家原藤三郎の二男にして明治九年一月を以て生れ同縣土族原口幸一の養子となり...

原 口 彦藏

山元オブライト製糖取締役、日本エナメル、羽毛工業各廠監査役
妻 寅次郎 萬延元、一、一、生、現戶主
明三一、一〇、生、東京、大森、キ

當家は初代彦七に於て著る初代彦七は埔玉縣秩父郡より出て酒問屋中井新右門に仕へ其支配人となり...

原 田 斌

東京府在籍
妻 かつみ 明二六、五、生、東京、高田善衛妹
武夫 大一一、一〇、生

君は栃木縣原田郷之助の二男にして明治十九年十月二十一日を以て生れ大正三年先代虎太郎の養子となり...

原 田 幾造 正五位勳四等、福岡鐵道局長
妻 キク 明三三、一〇、生、京都、進藤誠一
山口縣在籍

君は山口縣原田淵之進の四男にして明治二十二年七月十七日を以て生れ大正五年東京帝國大學法政科大學政...

八之部 原田

士良(同六、三三、兄弟三男、現戶主)及其姊妹各一人あり...

原田岩三郎 島根縣多額納税者、松江商工會議所...

原田喜太郎 原田商事社長、日本リース各務監査役、大阪府在籍...

原田久兵衛 万久商店主、貴金屬寶石袋物商、東京府在籍...

原田繁藏 從四位勳三等、判事、長野地方裁判所長、東京府在籍...

原田十衛 正六位勳三等、小田原急行鐵道監査役、熊本縣在籍...

原田純一 廣瀨正金銀行東京支店員、徳島縣在籍...

原田小三郎 小間物商、大阪府在籍...

原田敬一 正四位勳二等功四級、陸軍中將、佐賀縣在籍...

原田仁太郎 東邦電力大牟田支店長、福岡縣在籍...

原田謙二 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙三 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙四 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙五 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙六 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙七 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙八 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙九 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十一 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十二 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十三 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十四 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十五 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十六 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十七 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十八 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十九 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙二十 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

八之部 原田

原田正久 大元、一一生、男、昌子、大元、九生、女...

原田熊雄 正四位、男爵、貴族院議員、岡山縣在籍...

原田繁藏 從四位勳三等、判事、長野地方裁判所長、東京府在籍...

原田十衛 正六位勳三等、小田原急行鐵道監査役、熊本縣在籍...

原田純一 廣瀨正金銀行東京支店員、徳島縣在籍...

原田小三郎 小間物商、大阪府在籍...

原田敬一 正四位勳二等功四級、陸軍中將、佐賀縣在籍...

原田仁太郎 東邦電力大牟田支店長、福岡縣在籍...

原田謙二 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙三 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙四 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙五 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙六 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙七 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙八 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙九 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十一 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十二 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十三 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十四 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十五 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十六 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十七 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十八 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙十九 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙二十 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙二十一 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙二十二 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

八之部 原田

原田謙二十三 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙二十四 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙二十五 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙二十六 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙二十七 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙二十八 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙二十九 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙三十 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙三十一 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙三十二 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙三十三 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙三十四 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙三十五 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙三十六 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙三十七 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙三十八 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙三十九 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙四十 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙四十一 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙四十二 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙四十三 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙四十四 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙四十五 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙四十六 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙四十七 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙四十八 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙四十九 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙五十 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

原田謙五十一 大阪朝日新聞社編纂局總務兼論設委員、岡山縣在籍...

八之部 原田

八之部 原田

八之部 原田

**原田 晴枝** 明四二、三生  
 女 小枝 大八、八生  
 女 朋枝 大五、一一生

君は岡山縣人原田理一郎の二男にして明治十八年三月二十六日を以て生る同四十二年早稲田大學文學科を卒業し夙に操觚界に入り現時大阪朝日新聞編輯局長職務論委員兼整理部長にして兼に同社整理部長兼聯絡部長たり大正十一年歐米に航し新聞事業を視察す家族は尙四女良枝(大一一、七生)五女幹枝(同一五、三生)の外兄翁(明一一、四生)及其一男あり姉美惠(同一五、二生)は廣島縣人林庄治郎長男嘉三郎に妹榮(同一八、九生)は同縣人橋高憲造に同眞與(同一二、六生)は岡山縣人佐藤實太郎長男健太郎に妻姉近野(慶應三、六生)岡山、原田三郎治長女)は廣島縣人佐藤又三郎に嫁せりA七九八(兵庫縣武庫郡精道村産屋伊勢澤田五五八ノ三電産屋二七七五)

**原田 新藏** 日本衛生興業社長、南熱海多賀園經營主、阿波屋、洋傘履物商、東京府在籍

妻 秀 明一六、四生、東京、盛久三郎妹  
 女 演 大八、一一生、東京第三商業在學  
 女 演 大五、三生、東京女學館出身

原田家の遠祖は南朝の忠臣新田義興の世にして上野國新田の庄に地五千貫を領し南朝に盡す後世多摩川畔に歸農して舊幕時代名主役を勤め連綿として今日に至る君は先代新藏の三男にして明治十一年七月を以て生る同三十八年家督相続と共に前名竹次郎を改め襲名す阿波屋と稱し洋傘履物商を營ふ又南海多賀園を經營し傍ら日本衛生興業社長たり兼に綿業社長たりしことあり家族は尙三男俊夫(大一一、五生)弟愛之助(明一四、七生)あり長女婦美子(同一三、九生)東京女學館出身)同夫精治(同一五、五生、東京、天津彦之助弟)は共に分家し二女榮子(同一四、一八生、東洋家政女學校出身)は津田實に三女静子(同一四、五生、立教高女出身)は中村弘二に嫁せりA二〇〇五B二二四(東京市品川區大井庚塚町四九五電大森一四九三)店舖東京市京橋區銀座西八ノ一電産屋七三三)

**原田 貞作** 材木商、東京府在籍

妻 明三〇、七生、東京、小野部金六長女

君は大阪府人入江紋三郎の三男にして明治二十四年四月二十七日を以て生れ昭和六年同府人先代ヨシエの夫となり家督を相続し前名友一を改め襲名す家主たり家族は尙長女ヒサ子(明二、九生)二男正二郎(同一七、一八生)ありA一〇一四(大阪府此花區上福島南三ノ四電産屋八〇九)

**原田 佐造** 天清堂、菓子商、大阪府在籍

妻 明二三、九生、大阪、田端治平六女

君は京都府人明田佐太郎の弟にして明治十九年一月十四日を以て生れ先代サトの養子となり大正三年家督を相続す天清堂と稱し菓子商を營むA二八五B一四〇(大阪府南區難波新地五番町二四六電産三六一〇)

**原田 精市** 住友銀行種田支店長、和歌山縣在籍

父 宇市 慶應三、一一生  
 妻 富惠 明三四、一一生、岡山、藤田辰次郎女

君は和歌山縣人原田宇市の長男にして明治二十三年八月を以て生れ昭和五年家督を相続す大正五年東京高等商業學校専攻科を卒業し同年住友銀行に入り本店及人形町京都各支店に勤務し布哇住友銀行支店支配人を經て現時種田支店支店長たり家族は尙養子縁(大一一、五生)あり(種田住友銀行支店內)

**原田 隆** 醫學博士、原田産科婦人科病院、福岡縣在籍

妻 廣 明二五、一一生、兵庫、津村千二女

君は福岡縣人原田喜一郎の二男にして明治十四年八月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す明治四十一年京都帝國大學醫學科大學を卒業し日本赤十字社滋賀支部病院に奉職する事十年其間海外留學二回に及大正五年醫學博士の學位を授けらる醫學博士にして原田産科婦人科病院長たり又同病院附屬産婆看護婦養成所を設立し二千有餘の卒業生を出すに至り(婦人泌尿器病學)「婦人衛生」新産學「家庭看護學」等の著書あり家族は尙三女嘉子(大九、一一生)四女喜久子(同一二、一一生)五女壽子(明七、一一生)あり長女アツ子(明四、五、五生)は九州帝國大學勤務醫學士宮原通順に嫁せりA九七〇(大阪府南區豐町一ノ一五電産場三〇〇三)

**原田 隆康** 正五位勲六等、京都帝國大學助教、工學部勤務、日本アルミニウム製造所顧問、熊本縣士族

父 隆升 慶應二、八生、現戶主  
 母 ツタ 明八、四生、熊本、竹田徳太郎女  
 妻 登代子 明三一、九生、熊本、田尻昇藏長女

君は熊本縣士族原田隆升の長男にして明治二十五年三月を以て生る大正七年京都帝國大學理工科大學化學科を卒業し現時京都帝國大學助教にして工學部勤務たる傍ら前記會社の顧問たり家族は尙二女早穂子(大一一、三生)三女充穂子(同一四、四生)四女晚穂子(同一五、一〇生)五女嘉穂子(明四、一〇生)弟隆道(明二、七、九生、步兵少佐)同妻リツ(同一三、七生、熊本、木下字三郎二女)及其二子あり妹クニ(同一三、七、八生)は兵庫縣人富井六造に嫁し亡叔父隆茂妻モ、エ(同一二、八生、熊本、日野徳勝三女)は數名の子女及孫を伴ひ分家せり(京都市上京區紫野大徳寺町一〇電産四三四〇)

**原田 武一郎** 京都府多額納稅者、加藤伍商店種田支店長、繪具染料商、京都府在籍

妻 達 明三七、二生、京都、河合太一郎女

君は京都府人原田徳太郎の長男にして明治三十一年一月を以て生れ大正十五年家督を相続す繪具染料商を營ふ傍ら前記會社の重役にして京都府多額納稅者たり家族は尙長女芳子(大一一、七生)二男敬之助(明四、二生)三男實三(明六、五生)弟三郎(明三九、二生)あり弟安次郎(同一三、六、四生)は同妻章子(同一四、三、一一生、京都、松井隈太四女)を伴ひ分家し妹ノブ(同一四、一、二生)は大阪府人市居峻一に嫁し叔母クニ(同一二、六生)は京都府人加藤道榮亡長男伍兵衛の未亡人たりA二九五B二二〇(京都市中京區油小路錦樂師下ル電本局一三三四)

**原田 調兵衛** 家主、大阪府在籍

妻 ヨシエ 明二五、一一生、先々代調兵衛養子、大阪、高橋清三郎妹

**原田 貞介** 正三位勲二等、工學博士、錦鷺間祇候、山口縣在籍

妻 イケ 明二六、三生  
 妻 ムメ 明三一、六生、長男精忠妻、山口  
 妻 ムメ 明二八、一一生  
 妻 三子 明三八、一一生  
 妻 三男 明四〇、四生  
 妻 富士子 明四二、五生  
 妻 キクコ 大二、一〇生

君は山口縣人原田精一の長男にして慶應元年三月を以て生れ後家督を相続す土木監督署技師内務技師等に歴任し内務技師となる工學博士にして錦鷺間祇候を仰付けらる家族は尙孫周(大八、一一生、長男精忠長男)あり(山口縣長府町古江小路電二二五)

**原田 虎次郎** 大阪府多額納稅者、原田商店種田支店長、文房具商、大阪府在籍

妻 ひて 明九、一〇生、大阪、狹間萬助長女

君は大阪府人原田又兵衛の長男にして明治二年五月を以て生れ同七年分れて一家を創立す文房具商を營み現に原田商店社長にして大阪府多額納稅者たり家族は尙四男量夫(大六、一一生)孫喜久子(同一五、一〇生)長男武治郎長女)同妻智子(明四、一一生、同二女)あり二女芳江(明三二、一〇生)同夫秀三(同一九、二生)大藏、村上格弟)は分家し二男賢藏(明三七、七生)弟榮藏(同一二、三生)も亦各分家し三男勇三郎(同四五、三生)は大阪府人藤田タニの養子となり弟又之助(同四八、一一生)は同府人原田又兵衛の相續人となり三女マサ(同一三、五、一〇生)は同府人原田竹園新三郎に嫁し姉さく(文久二、一〇生)は同府人原田邦太郎の母たりA五八四B五〇三(大阪府南區南久賣寺町一ノ一三電産場三二四六)

**原田 縫之助** 龜岡銀行種田支店長、京都府在籍

妻 リノ子 明一、二生、貴族院議員田中一明妹  
 妻 源之助 明三二、九生、川崎第百銀行員、法學士  
 妻 正夫 明三九、三生、三男源之助妻、衆議院議員、岡田忠彦長女  
 妻 五郎 明三八、一一生、阪神電氣會社社員、經濟學士

原田家は代々京都府下曾我根郡村に土著せる地主農たり君は原田太郎助の長男にして明治五年七月を以て生れ昭和四年家督を相続す夙に龜岡銀行に入り支配人たり取締役京都支店長を経て現時常務取締役たり兼に伏見銀行監査役に推される家族は尙孫蘭子(大一一、一〇生)三男源之助長女)同邦彦(明三、四生、同長男)あり四男源四郎(明三二、九生、安田信託員、法學士、經濟學士)は大阪府人木村權右衛門に弟太郎(同一二、六生)法學士)は京都府人西田莊兵衛に各養子となり長女幸(同三五、一一生、京都府立第一高女出身)は千葉縣人日本郵船會社社員法學士市原章則に妹ヒロ(同一〇、二生)は京都府人田中忠雄に妻妹まつ(同一五、九生、京都、俣野文右衛門長女)は同府人山内治三郎に嫁せりA七三二(京都市上京區西洞院通一條上ル電産二四六四)

参照 竹島新三郎、武田元助、武田槍三郎の項

**原田 徳次郎** 日本電報通信社監査役、福岡日新報社營業局長、福岡縣在籍

妻 アサ 明六、一一生、福岡、士、青柳風生女  
 妻 徳 大三、一一生

**原田 彦輔** 正五位勲六等、鐵山監督局技師兼東京帝國大學工學部講師、福岡縣士族

妻 きよ 明三一、二生、東京、田中ふい妻  
 妻 彦彦 大八、一一生、東京、高橋尋常科在學

君は福岡縣士族原田種紀の五男にして明治二十一年九月を以て生る大正三年九州帝國大學醫學科大學を卒業し同十年鐵務技師に任じ鐵山監督局技師兼農商務技師商

**原田 彦輔** 正五位勲六等、鐵山監督局技師兼東京帝國大學工學部講師、福岡縣士族

妻 きよ 明三一、二生、東京、田中ふい妻  
 妻 彦彦 大八、一一生、東京、高橋尋常科在學

君は福岡縣士族原田種紀の五男にして明治二十一年九月を以て生る大正三年九州帝國大學醫學科大學を卒業し同十年鐵務技師に任じ鐵山監督局技師兼農商務技師商

工技師東京鐵道監督局技師鐵山局勤務を経て現時前記の職に在り...

原田 等

從四位勳四等、朝鮮總督府判事、海州地方院長、大分縣在籍...

原田 博明

大阪府在籍、大分縣在籍、大分縣在籍、大分縣在籍...

原田 孫六

京都府在籍、養父米一良四女、養父米一良四女...

原田 禮一

正五位勳五等、高知高等學校生徒、主事兼教授、岡山縣在籍...

一三、七生(二男)育(昭三、四生)あり養妹さく(昭三八、四生、養父米一郎五女)同留重(昭四一、七生、同宮西入電本局二九三六)...

原田 元吉

大阪府在籍、明三三、三三、小西長得孫、長男政一妻、大阪...

原田 彌三郎

東京府在籍、明一七、一七、東京、小池儀三郎、小池儀三郎...

原田 幸雄

鹿児島縣在籍、大元、八生、東京、小池儀三郎、小池儀三郎...

原田 禮一

正五位勳五等、高知高等學校生徒、主事兼教授、岡山縣在籍...

養父 清光 安政六、一、岡山、水野安、休三男、明二一、八生、養父清光二女...

原田 六郎

原田汽船、南洋郵船各社社長、大阪鐵工所代表取締役、神戸海運...

原田 庄造

東京府在籍、明二八、二生、東京、山本伊三郎、山本伊三郎...

原田 憲吉

宮城縣在籍、明三三、二生、鹽釜土地運取役、鹽釜土地運取役...

原田 憲吉

宮城縣在籍、明三三、二生、鹽釜土地運取役、鹽釜土地運取役...

A五二六B一六五(東京市淺草區花川戸五一電漢草一六三三)

原本虎一郎

鳥根縣在籍、鳥根縣在籍、鳥根縣在籍、鳥根縣在籍...

原山直兵衛

吳商工會議所副會頭、廣島縣多額納稅者、廣島縣在籍...

原山直兵衛

廣島縣人原山直平の三男にして明治九年十一月を以て生れ...

原山直兵衛

廣島縣人原山直平の三男にして明治九年十一月を以て生れ...

原山直兵衛

廣島縣人原山直平の三男にして明治九年十一月を以て生れ...

農科大學林學科を卒業し山林技師同技師鹿兒島大林區飯肥小林區各署長を経て同十三年營林局技師に任じ大...

原山直兵衛

鳥根縣在籍、鳥根縣在籍、鳥根縣在籍、鳥根縣在籍...

原山直兵衛

廣島縣人原山直平の三男にして明治九年十一月を以て生れ...

原山直兵衛

廣島縣人原山直平の三男にして明治九年十一月を以て生れ...

原山直兵衛

廣島縣人原山直平の三男にして明治九年十一月を以て生れ...

原山直兵衛

廣島縣人原山直平の三男にして明治九年十一月を以て生れ...

八之部 針(生、谷、塚)

張(間、谷) 播(磨)

(※印は姻族關係)

て生れ同三十三年分れて一家を創立す味噌醬油醸造業
を善み傍ら前記各會社の重役を勤む家族は尙孫一郎
(大、一、二、生、長男徳太郎長男)あり長女はつ(明
三、二、六、生)宮城縣人篠崎勝三に二女かつ(同三、七、
三、生)は同縣人小島浩造に三女よし(同三、九、三、生)は
秋田縣人千葉翔に嫁せり(仙臺市河原町三二四)
針生利喜多 住友銀行日本橋支店長
東京府在籍
妻 明二〇、二生、静岡、河村八郎次
三女、お茶の水高女專攻科出身

君は東京府人針生利喜の長男にして明治十六年九月を
以て生れ大正九年家督を相續す明治三十九年慶應義塾
理財科を卒業し住友銀行に入り大正十四年九月内支店
長を経て現時日本橋支店長たり釣魚に興味あり家族は
尙二男八壽彦(大五、一、生)三男憲造(同七、八、生)二女
のぶ(同二、〇、四、生)あり姉サダ(明三、二、生)は東京府
士族松井廣吉に嫁せりA二三七(東京市麻布區市兵衛
町一〇三番番一四四九)
參照 松井廣吉の項

針ヶ谷 虎雄

針ヶ谷陶器店、陶器商
東京府在籍
妻 つめ 明三六、一〇生、三重、中山眞興
長女

君は東京府人針ヶ谷作太郎の二男にして明治三十年八
月十日を以て生れ昭和五年家督を相續す針ヶ谷陶器店
と稱し陶器商を勤む家族は尙長女延子(大、一、一、二
生)二女富美子(同五、四、生)二男博(昭七、八、一、一、
生)は同縣人齋藤利一に嫁し二女ツノ(同三、七、一、
生)は同縣人内藤金次郎に嫁し二女ツノ(同三、七、一、
生)は同縣人古池順次郎に嫁し(同三、二、四、生)は同縣人
井元貫市に嫁せり(福岡市大學通五五三一)

針塚 長太郎

從三位勳二等、上田實業專門學校
長、群馬縣在籍
妻 ノブ 明一六、七、生、醫學博士山本誠一
姉

君は群馬縣人針塚喜治の長男にして明治四年十一月
針塚長太郎

を以て生れ昭和二年家督を相續す明治二十九年帝國大
學農科大學法學科を卒業し生絲検査所技手文部省高等
師範學校教授文部省圖書寮査査官同省視學官盛岡高等農
林學校教授等に歴任し現時上田實業專門學校長たり(同
三、九、一、〇、生)は同縣人小島浩造に三女よし(同三、九、三、
生)は同縣人千葉翔に嫁せり(仙臺市河原町三二四)
(大、一、〇、七、生)あり長女ウメ(明三、二、一、生)は群馬縣
人間庭決夫に二女である(同三、四、八、生)は列事中心里に
三女ふち(同四、二、五、生)は群馬縣人橋本富壽に嫁しツキ
(同七、一、二、生)は同縣人盛田仁右衛門長男傳次郎に同
(同二、〇、七、生)は同縣人速川庫三郎に嫁し弟卯八
(同二、〇、七、生)同妻(同二、七、八、生)宮城、三品
晴後妹)は共に其子女を伴ひ分家せりA二六五(上田市
新寺町四三三)

張問 源四郎

從四位勳四等、前朝鮮總督府中樞
院書記官、青森縣在籍
妻 明三、二、六、生、宮城、千葉勉妹
長女

君は青森縣人張問半左衛門の三男にして明治十九年一
月を以て生れ同四十五年東京帝國大學法政科大學政治科
を卒業し文官高等試験に合格す香川縣屬同縣香川郡奈
良縣添上郡各郡長同縣理事官朝鮮總督府參事官同道
務官忠清南道平安北道全羅南道各内務部長朝鮮總督府
事務官總督官房會計課長等に歴任し同總督府中樞院書
記官兼朝鮮總督府事務官にして内務局勤務たりしが現
時閑地にあり家族は亡兄多聞の妻テル(明一、四、九、生、
青森、伴操姉)及其子女弟利春(同二、六、一、一、生)同妻
マサ子(同二、九、四、生、東京、野口伊右衛門二女)あり
(東京市淀橋區戸塚町一ノ三七六)
參照 千葉勉の項

張問 利春

從五位勳四等、大使館一等書記官
伊國大使館在勤、東京府在籍
妻 キン 明二九、四、生、東京、野口伊右衛
門二女

君は青森縣人張問半左衛門の四男にして明治二十六年
十一月を以て生れ昭和六年兄弟多聞より分れて一家を
創立す大正七年東京帝國大學法政科大學政治學科を卒業
し同年文官高等試験外交科に合格す爾來外務屬領事官

補香港在勤外交官補支那那俄國各在勤大使館三等書記官
公使館三等書記官西班牙在勤大使館三等書記官白耳義
在勤大使館二等書記官公使館二等書記官ルーマニア國
在勤セルブクロアト、スロヴェニア國領事を経て昭
和五年公使館一等書記官に任ぜられ同七年外務書記官
に轉じ條約局第一課長兼第二課長に補せられ同八年大
使館一等書記官に任じ伊國在勤を命ぜられ現在に至る
(留守宅)東京市赤坂區水川町一七番番山二五九七)

張谷 備一郎

醫學博士、北總病院長
茨城縣在籍
妻 豐 松 慶應三、三、生
長女

君は茨城縣人張谷豐松の長男にして明治二十二年二月
を以て生れ第一高等學校を経て東京帝國大學醫學科大學
に學び大正三年十二月卒業す同年十二月千葉縣野田
町に北總病院を創設し其の院長となり診療に従ふ昭和
七年醫學博士の學位を授けられ書畫刀劍和歌に興味
あり家族は尙長女穂子(大、二、三、生)二男勝人(同、一、
四、四、生)二女美穂子(昭二、四、生)あり(千葉縣野田町
中野臺五三〇番番二七)

播磨 九助

福岡縣多額納稅者、履物卸商
福岡縣在籍
妻 元右衛門 安政元、一〇生
長女

君は福岡縣人先代九助の長男にして明治十年四月二十
三日を以て生れ大正四年家督を相續し前名浪太郎を改
む履物卸商を勤む縣下の多額納稅者に列し直接國稅一

播本 孝良

大阪府在籍
妻 孝 明一、三、生、兵庫、西口孫左衛
門長女

君は大府府人先代吉松の長男にして明治六年三月二十
九日を以て生れ同二十二年家督を相續す現に金物商を
勤む家族は尙孫千鶴子(大九、八、生)、亡養子房次郎長
女(同幸雄(同三、三、生)、同長男)あり二女喜美子(明
四、五、一、生)は同夫儀一(同三、七、八、生)大阪、小池武
弟(其一子を伴ひ分家すA七一八(大阪市浪速區元町二
ノ一三五番番二九四五))

播本 源二郎

金物商
大阪府在籍
妻 つま 明三〇、六、生、亡養子房次郎妻
長女

君は大府府人播本源三郎の長男にして明治十三年二月
二十八日を以て生れ大正十五年家督を相續す資産家た
り家族は尙六女大つ子(大、一、一、三、生)あり長女ひさ
(明四、〇、八、生)は大府府人和田三郎長男正一に二女
キミ子(同四、五、七、生)は同府人鹿野正道長男正孝に嫁
し三男正治(大、三、五、生)弟卯之松(明三、六、二、生)は各
分家せりA五三七(堺市甲斐町東四丁日四四)

播磨 由太郎

家主
兵庫縣在籍
妻 ひさ 明一〇、六、生、愛知、加藤辰次郎
妹

君は兵庫縣人藤田常次の長男同只市の兄にして明治元
年九月十一日を以て生れ同二十四年先代ななの入夫と
なり家督を相續す家主たり家族は尙孫由紀子(大、二、一、
二、生)、長男政一(長女)同政雄(昭二、一、一、生)、同長
男(同壽次(同四、一、〇、生)、同三子(同二、生)は大府府
人加藤よしの養子となり三男米三郎(同三、四、一、〇、生)
は分家せりA七九八(神戸市東區東多聞通六ノ一三九

春木 一郎

正三位勳二等、法學博士、帝國學
院會員、東京府在籍
妻 太 明四二、一、生
長女

君は故貴族院議員春木義彰の長男にして明治三年七月
を以て生れ同三十七年家督を相續す同二十七年帝國大
學法科大學法律科を卒業し大學院に學び羅馬法研究の
爲め佛獨伊諸國に留學す歸朝後直ちに京都帝國大學法

八之部 播(磨、本) 春(木)

(※印は姻族關係)

八一五

千三十四を納む家族は尙三男良平(大九、一〇、生)孫八
重(同九、一、一、生)、長男久次長女(同四、一、一、〇、生)孫八
重(同三、五、七、生)同債助(昭四、五、生、同長男)の外弟直吉
(明三、五、七、生)同妻トム子(同三、九、八、生、東京、梅
津久次郎長女)及其二子あり長女スマ(明三、四、一、〇
生)は福岡縣人齋藤利一に嫁し二女ツノ(同三、七、一、
生)は同縣人内藤金次郎に嫁し二女ツノ(同三、七、一、
生)は同縣人古池順次郎に嫁し(同三、二、四、生)は同縣人
井元貫市に嫁せり(福岡市大學通五五三一)

播磨 幸七

播磨本店代表取締役、石鹼製造
兵庫縣在籍
妻 通 江 明二、三、五、生、大阪、米田重太郎
四女

當家は神戸市西出町に住し世々船具商を勤みしが先代
幸七明治十三年の交石鹼製造業を開始す是れ本邦に於
ける石鹼製造の嚆矢にして爾來四十餘年を閲し今日の
盛大を見るに至れり君は其長男にして明治十八年三月
を以て生れ大正十年家督を相續し前名幸市郎を改め製
名す明治四十四年慶應義塾を卒業し播磨本店石鹼油脂
工業所社長として遺業を繼承す(神戸市商工會議所議
員に擧げらるる妹正子(明二、九、一、生)は大府府人小島三
一郎に長女和江(明四、四、七、生)は同縣人阪大防山三
郎に二女純子(大、二、六、生)は兵庫縣人山本太郎に嫁し弟
義雄(同三、四、七、生)早大専門部政治経済科出身)は同
府人筒井新兵衛孫愛子に同貞雄(同三、七、四、生、關西
大學商科出身)は愛媛縣人清家豊松二女秀子に各婚養
子となり同唯雄(同三、三、四、生、報徳實業學校出身)は
其妻幸枝(同三、七、八、生、大阪、八上善次郎三女)と共に
其子女を伴ひ分家せりA四一五(兵庫縣武庫郡御影
町那家電報二〇一一)

播磨 佐太郎

兵庫縣在籍
妻 幸 明二、六、三、生、兵庫、大西友次郎
二女

君は兵庫縣人播磨佐吉郎の三男にして明治十五年八月



(※印は姻族關係)

科大學教授となり同十三年東京帝國大學法科大學教授に轉じ昭和五年辭職し法學博士の學位を受け又帝國大學院員に推され家族は尙三男博(大七、一三)三女文(同一、二)五男五郎(昭二、一三)あり義姉カ(文久、六)は男博北島千歳先代具雄に妹ユキ(明一、一)二生)は子爵板倉勝朝先代勝憲に嫁せり(東京市本郷區駒込西片町七)

春木節郎 從四位勳四等、內務技術師、東京土木出張所勤務、島根縣在籍 母 ヲノ 慶應元、六生、島根、山田勘三 妻 榮 明二五、五生、東京、竹田禮之助 男 正市 大元、一二生

春田惣太郎 大原府在籍 妻 ラウラ 明一九、五生、京都、松宮孫次郎 養子 正作 明三三、八生、長女初子夫、福井 女 初子 明四三、六生、養子正作妻 君は島根縣人春木周七の長男にして明治十七年十月を以て生れ大正十年家督を相続す明治十四年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し同十四年内務技術師に任ぜられ現に東京土木出張所勤務なり家族は尙三男雄次郎(大、四、三)四男和夫(昭三、八)弟秀次郎(明二三、一〇)同妻千恵子(同二九、三)生、東京、横手千代之助長女あり(地味區大手町東京土木出張所)

春田石松 地金商 大原府在籍

春田助太郎 鎌倉海濱ホテル業務取締役 神奈川縣士族 君は大阪府清水兵衛の二男にして明治十一年一月二十三日を以て生れ先代武次郎の養子となり同二十年家督を相続す現に地味商を営む養女ツギ(明三三、一)生、大阪、生母、春田ツマ(は分家せりA七五一、四B一〇一〇、大阪市南區谷町六ノ四五電東八三七)

春田惣太郎 大原府在籍 妻 ラウラ 明一九、五生、京都、松宮孫次郎 養子 正作 明三三、八生、長女初子夫、福井 女 初子 明四三、六生、養子正作妻 君は島根縣人春木周七の長男にして明治十七年十月を以て生れ大正十年家督を相続す明治十四年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し同十四年内務技術師に任ぜられ現に東京土木出張所勤務なり家族は尙三男雄次郎(大、四、三)四男和夫(昭三、八)弟秀次郎(明二三、一〇)同妻千恵子(同二九、三)生、東京、横手千代之助長女あり(地味區大手町東京土木出張所)

春田隆四郎 正五位勳三等、陸軍少將、野野陸軍飛行學校校長、東京府在籍 妻 うた子 明二四、二生、東京、土、加藤政子 養子 實俊 大五、三三 女 光子 大二、二生 君は岡山縣人上田宗兵衛の二男にして明治十四年八月十八日を以て生れ同三十七年先代トミの養子となり大正六年家督を相続す吳服商を営むA四三二B一五三三(大阪市南區大寶寺仲之丁三〇電南三五六)

春山作樹 正四位勳二等、文學博士、東京帝國大學教授、文學部勤務 妻 しく 非簡治長女 大五、一三 養子 樹 明四四、二生 佐伎子 大八、七生 君は大原府人先代重助の長男にして明治十四年六月十四日を以て生れ大正九年家督を相続す石輪製菓業を営む長女千恵(明四二、七)生)は大原府人久米次次郎長男一郎に嫁せりA七二二(大阪市東區十二軒町二六電東三八五八) 參照：久米定助の項

春名成章 從五位、衆議院議員(靜岡縣選出) 妻 千代 明二七、三生、靜岡、武内翁石養 君は鳥取縣人山中吉吉の弟にして明治十六年十二月十七日を以て生れ同三十一年家督を相続す同三十九年早稻田大學政治經濟科を卒業し後時事新報東京朝日新聞東京日日新聞各記者となり鐵道大臣秘書官に任ぜられ昭和九年同内閣成立するや選信大臣秘書官に任ぜられ昭和七年靜岡縣より選ばれ衆議院議員に當選し現に無所属なり(東京市澁谷區原宿三ノ二七一電青山一一二)

春元伊三郎 石輪製菓業 大阪府在籍 母 とよ 文久元、二生、大阪、阪口清重三 妻 チヨウ 明一九、二生、滋賀、西岡金十郎 男 信夫 明三九、二生 妻 雪子 寶藤辨之助三女 女 義久 明四〇、九生 女 房江 明四四、五生 大元、九生 君は鳥取縣人山中吉吉の弟にして明治十六年十二月十七日を以て生れ同三十一年家督を相続す同三十九年早稻田大學政治經濟科を卒業し後時事新報東京朝日新聞東京日日新聞各記者となり鐵道大臣秘書官に任ぜられ昭和九年同内閣成立するや選信大臣秘書官に任ぜられ昭和七年靜岡縣より選ばれ衆議院議員に當選し現に無所属なり(東京市澁谷區原宿三ノ二七一電青山一一二)

春田惣太郎 大原府在籍 妻 ラウラ 明一九、五生、京都、松宮孫次郎 養子 正作 明三三、八生、長女初子夫、福井 女 初子 明四三、六生、養子正作妻 君は島根縣人春木周七の長男にして明治十七年十月を以て生れ大正十年家督を相続す明治十四年東京帝國大學工科大学土木工學科を卒業し同十四年内務技術師に任ぜられ現に東京土木出張所勤務なり家族は尙三男雄次郎(大、四、三)四男和夫(昭三、八)弟秀次郎(明二三、一〇)同妻千恵子(同二九、三)生、東京、横手千代之助長女あり(地味區大手町東京土木出張所)

春田隆四郎 正五位勳三等、陸軍少將、野野陸軍飛行學校校長、東京府在籍

半澤虎太郎 從四位勳四等、北海道帝國大學附屬水産專門部教授、北海道在籍 妻 リエ 明二一、四生、北海道、山田千代 女 郁子 明四四、六生 男 時郎 大二、五生 君は北海道人半澤源助の二男にして明治十五年三月を以て生れ大正十二年兄死より分れて一家を創立す明治四十二年北海道帝國大學農學部農學科を卒業し爾來岐阜縣農事試驗場技術師同縣農事講習所技術師茨城縣農事試験所技術師に歴任し大正九年土壤學及肥料學研究の爲米英獨瑞の各國に留學を命ぜられ同十年鳥取縣高等農學學校教授に任じ同校生徒となり現に北海道帝國大學附屬水産專門部教授なり家族は尙三女慶子(大九、九)三男俊郎(同二二、九)四女和子(同二四、八)五女實子(昭三、二)あり(札幌市大通東七ノ一二) 參照：下城好雄の項

半澤洵 正四位勳二等、農學博士、北海道帝國大學教授、農學部勤務 妻 ミカ 明一四、二生、現戸主 長女、東京女高師出身 男 道郎 明四三、三生、北海道帝國大學附屬農學部在學 女 啓 明四一、九生、日本女大出身 明四四、一、二生、北海道帝國大學在學 君は北海道土族半澤時中の長男にして明治十二年一月を以て生れる同三十四年札幌農學校を卒業し同四十四年應用農學研究の爲獨逸に留學し札幌農學校助教授東北海帝國大學農科大學助教授同教授等に歴任し現に北海道帝國大學教授にして農學部勤務なり大正四年農學博士の學位を受く家族は尙三男安(大八、五)あり長女徳(明四〇、七)生、日本女大出身)は宮城縣人工學士松野榮治に妹澄(明二一、一〇)生)は北海道人早川元次郎弟千代松に同母(同二六、八)生)は山形縣人秋野豊四郎長男豊太に嫁し姉雅は前記早川元次郎の母にして妹深雪(同三一、三)生)は外戚半澤家を相続せりA一〇五(札幌市北六條西一二ノ二電二二八六)

半澤善四郎 群馬縣多額納税者、半田農林産社 妻 隆一 明一四、二生、養父平次郎長女 男 隆一 明三三、九生 女 一 中村福三郎長女 女 一 明四四、五生 君は群馬縣人半田源次郎の二男にして明治九年十二月を以て生れ先代平次郎の養子となり同十四年家督を相続す吳服商を営み務ら前記各會社の重役にして直接納税二千六百九十圓を納め明治三十年以來縣下の多額納税者に列す兼に市原銀行頭取たり)ことあり朝鮮及内地にて農林業を営み經營地積五萬餘町歩に及ぶ家族は尙四男二郎(大、四、一)一男六女(同九、一)七女(同四、一〇)孫義次(昭三、四)二男隆一(明三九、五)大叔母まつ(安政元、三)昭三、四生、二男隆一(九、五)生)は群馬縣人須藤定雄に三女ふじ(同四二、六)生)は同縣人下城好雄長男一郎に嫁し長女ふじ(同三二、一)生)は和歌山縣人小林方明に嫁せり(東京市杉並區上荻窪三二七電荻窪二〇五九)

半田寅之助 大阪府西區會議員、半田銀行各代表取締役、南外輪船運査役、大阪三品取引所第二部取引員 大阪府在籍 妻 孝次 明三一、三生、大阪、池元吉吉 男 康子 明四一、二生、長男孝次妻、大阪 女 眞子 明三九、三生 女 貞子 大二、一三 君は大原府人半田茂兵衛の四男にして同清太郎の大叔父なり慶應二年十月を以て生れ明治三十一年家督を相続す大阪三品取引所第二部取引員にして前記各會社の重役たり又選ばれて大阪市西區會議員なり家族は尙三男和子(昭五、一)一男、長男孝次長女(同満千子)同七、三三、二二)ありA一七五三(大阪府西區本田二ノ七〇電西五六三〇) 參照：池元吉吉、宮崎彌三郎、半田清太郎池尾時二、岩淵宗太郎岩淵彌三郎の項

半田辰五郎 大阪府在籍 妻 カ 明三五、五生、京都、片岡ヨネ 女 一 明三九、一〇生)は大阪府人山松友次郎二男秀郎に同キヨ(同四四、一)生)は同府人奥田寅之助に嫁せり弟伊三郎は分家せりA七二二B二〇四(大阪府浪速區惠美須町一ノ一電戎八四四)

半田寅之助 大阪府西區會議員、半田銀行各代表取締役、南外輪船運査役、大阪三品取引所第二部取引員 大阪府在籍 妻 孝次 明三一、三生、大阪、池元吉吉 男 康子 明四一、二生、長男孝次妻、大阪 女 眞子 明三九、三生 女 貞子 大二、一三 君は大原府人半田茂兵衛の四男にして同清太郎の大叔父なり慶應二年十月を以て生れ明治三十一年家督を相続す大阪三品取引所第二部取引員にして前記各會社の重役たり又選ばれて大阪市西區會議員なり家族は尙三男和子(昭五、一)一男、長男孝次長女(同満千子)同七、三三、二二)ありA一七五三(大阪府西區本田二ノ七〇電西五六三〇) 參照：池元吉吉、宮崎彌三郎、半田清太郎池尾時二、岩淵宗太郎岩淵彌三郎の項

半田正身 正四位勳三等、第三高等學校教授 京都府士族 妻 正 正四位勳三等、第三高等學校教授 京都府士族 妻 正 正四位勳三等、第三高等學校教授 京都府士族

(※印は姻族關係)

ハ之部 半(田、谷、間)

妻 シウ 明一七、三三、新潟、大鹽正廣長
女 春子 明四四、二生、京都府立女子專門
君は石川縣士族半田正信の長男にして明治十四年九月
を以て生れ後家督を相続す同三十四年東京帝國大學理
科大學化學科を卒業し大學院に入り後廣島高等師範學
校教授に任ぜられ英獨に留學し第八高等學校教授を経
て現時第三高等學校教授たり妹貞(明一八、四生)は石
川縣人藤田茂太郎弟外次郎に嫁せり(京都市左京區淨
土寺南田町一五一電上六四一〇)

半田 貢

妻 ノア子 明四三、三三、東京女學館出身
女 妙子 大二、一三、東京女學館出身
女 幸子 大三、一三、東京女學館出身
君は舊豊前中津藩士半田貢一の四男にして同鐵一郎の
弟なり明治十三年四月を以て生れ同十四年一族半田藤
市之榮子となり家督を相続す同三十九年東京帝國大學
工科大学電氣工學科を卒業し直ちに小田原電氣鐵道會
社に入り技術より漸次累進して専務取締役となりし
後之を退き現時前記鐵道會社の重役たり趣味を有
才長女光子(明三七、四生、香蘭女學校出身)は東京府
人愛國生命保險會社員大町清に二女後子(同三三、二
生、出身校同上)は北海道人田岸藤吉二男捨造に三女
クラ子(同四〇、一三、出身校同上)は東京府人竹内善
次郎に嫁せりA二七六(東京市在原區小山町五〇七)
八電高輪五二〇三)

半田盛次郎

妻 喜代 明二七、一〇生、養父寅太郎長女
君は福岡縣人奥山弘の二男にして明治十五年六月二十
九日を以て生れ先代寅太郎の養子となり昭和六年家督

判(治) 范(範)

を相続す家主たり(福岡市西中洲町八九〇電九〇四)

半谷重次郎

君は東京府人半谷重右衛門の長男にして慶應二年十月
を以て生れ夙に家督を相続す資産家たり家族は尙孫誠
(昭八、二生)あり孫光一(大六、一三、神奈川、大
河内喜右衛門長男)は分家せりA八〇八(東京市四谷區
舟町二六電四谷三八八)

半間 巖保

君は新潟縣人半間俊藏の二男にして明治二十年一月十
八日を以て生れ大正九年家督を相続す大正四年東京帝
國大學工科大学機械科を卒業し翌年通信省に入り通信
局技手となり同六年通信省技師に進み熊本通信局海務
部下關出張所長心得東京通信局海務部横濱出張所勤務
等を経て昭和七年現官に轉じ熊本通信局海務部地方海
員審判所に在勤す家族は尙長女惠美(大五一、九生)弟
互(明四一、四生)あり同義雄(同二五、八生)同妻シヅ
(同三三、七生、新潟、長岡庄吉三女)は其子を伴ひ分
家せり(門司市西門町四ノ三四三〇)

判治勝三郎

君は愛知縣人判治源藏の三男にして安政三年四月十五
日を以て生れ明治十六年先代兄喜助の後を承け家督を
相続す現時名古屋綿絲布取引所會員たり長女ひさ(明
二一、二生)は東京府人清水林之助に嫁せりA七二六

(※印は姻族關係)

B二四八(名古屋市西區御幸本町二ノ一五電本局一九
九〇)

范 姜 羅

君は新竹州の出身にして明治十一年三月二十日を以て
生る同三十年新竹國語傳習所卒業後總督府國語學校師
範部に學び明治三十五年以來公學校訓導となり傍ら同
四十二年以來書房雜誌講習會講師として教壇に立ちし
が大正三年退職後後合炭礦公司理事となり同九年新
屋區長次いで新屋庄長となり其他農會庄地方委員桃
園大洲地方委員公共埤圳主事各團體人會臺灣支部中
都幹部委員農會肥料共同販賣評定委員三七水利組合
長州水産會地方委員水産特別議員等を経て現時新竹州
協議會員たり紳章佩用者なり(新竹州中壢郡新屋庄)

范 寶 勳

君は新竹縣參事范慶霖の長男にして明治二十二年二月
を以て生る同四十四年臺北國語學校を卒へて直ちに臺
北地方法院書記兼通譯を勤め大正八年辭して基隆に移
住し義和商行を始め其他教育社の重役を経て同十年臺
洋漁業會社常務取締役となる翌年基隆商工信用組合を
創設して専務理事となり傍ら臺北州產業組合巡迴講習
會講師を囑託し基隆公益社評議員に選任され又同市各
公學校保護會評議員幹事顧問及同風會評議員に推戴
せられ昭和五年市協議會員を経て現時市協議會員たり
(基隆市福徳町一ノ六)

範田龍太郎

君は愛知縣士族伴喜幸の長男にして明治二十四年八月
を以て生る大正四年東京帝國大學工科大学應用化學科
を卒業し臨時産業調査局技師農商務技師等を経て同十
一年燃料研究所技師に任じ同所長心得に補せられ昭和
八年同所長となり今日に至る大正八年及昭和三年の兩
度歐米各國に出張す家族は尙長女静子(大一一、三三)
二女定子(同一一、一一)三女龍子(昭三、一一)あり
姉たか(昭二〇、二生)は愛知縣人村田友吉長男市
郎に同婚(同二三、二生)は岐阜縣人三輪惣彌長男俊一
に嫁し弟幸一(同二三、三三)は愛知縣士族伊藤守の
養子となり叔父定次郎(慶應二、二生)同妻みよ(明四
三生、愛知、今井九右衛門妹)は其子女を伴ひ分家せ
りA一一三(東京市目黒區洗足町一四六八電荻原三六
七七)

再興す先是同十九年英國に航し學業を修むる事五ヶ年

再興す先是同十九年英國に航し學業を修むる事五ヶ年
歸朝するや父を扶けて家業に従事し漸次發展するに及
び貿易商船多商會を興し又各種の事業に關與し大阪鐵
工所を經營すると共に遠州鐵道大阪海上火災保險大正
製酒會社の重役たりし事あり趣味に書畫釣魚撞球等
あり長女貞子(明三四、六生、神戸女學院出身)は兵庫
縣人小寺西二に養子秀子(同二四、六生、兵庫、若林
美姉)は同縣人土井慶吉に嫁せりA三六五七(大阪市西
區川口町一六電四四〇一)

東 東

妻 千代 明三一、二生、岡山、佐藤登太郎
君は島根縣士族伴の弟にして明治二十年四月を以て
生れ同三十年家督を相続す同三十八年大阪府立農學校
獸醫科を同四十三年盛岡高等農林學校獸醫科を卒業し
同四十四年法政大學に入學大正五年文官高等試驗に合
格し同七年警視廳警視となり愛知縣田原郡長に補せられ
長崎縣理事官福井岩手縣知事各縣書記官に歴任し
昭和四年大分縣書記官に任じ内務部長に補せられ同七
年關東廳事務官に任ぜられ警務局長保安部長兼高等警
課長を経て現時前記の職に在り家族は尙二男康(大八、
一〇生)あり姉きよ(明一六、八生)は長野縣人原嶺
に嫁せり(旅順市學臺二)

伴 圭

妻 とみ 明二八、七生、大阪、竹越友吉二
君は福岡縣士族伴忠一の長男にして明治十八年四月二
十五日を以て生れ大正十四年家督を相続す明治四十三
年仙臺高等工業學校冶金科を卒業し直に八幡製鐵所に
入り技術第四製鐵課長に進み現時日本製鐵會社技術師
り家族は尙三男節生(昭三、二生)弟止男(明四三、
一一生)あり同温(同三五、六生)は分家せり(八幡市高
見二丁目)

伴 庄兵衛

君は京都府人先代庄兵衛の六男にして明治三十七年十
二月三日を以て生れ大正十年家督を相続と共に前名克三
を改め養子主たり姉阿波(明三五、一三)は分家
し妹美智(同三九、一二)は大分縣人佐藤惣吾二男孝
二に嫁せりA四七二(京都府愛宕郡野村大字市原)

伴 傳兵衛

君は滋賀縣人先代傳兵衛の長男にして明治七年四月を
以て生れ同三十三年家督を相続し前名傳之助を改め養
子伴傳と稱し夜具吳服蚊帳商を營み養に富士蚊帳會
社取締役たり(東京市日本橋區通一ノ九一電日本橋
二二二)

伴 房次郎

君は京都府人伴惣十郎の二男にして明治七年九月を以
て生れ同三十五年分れて一家を創立す同年東京帝國大
學法科大學法律學科を卒業し京都帝國大學法科大學助
教授に任じ同四十四年民法及商法研究の爲英獨佛各國
に留學し同四十五年小樽高等商業學校教授となり大正
十年同校長に任ぜられ現在に至る小樽商業會議所
特別議員に擧げらる(小樽市小樽二丁目電小樽一三六
〇)

伴 義定

君は京都府人伴惣十郎の二男にして明治七年九月を以
て生れ同三十五年分れて一家を創立す同年東京帝國大
學法科大學法律學科を卒業し京都帝國大學法科大學助
教授に任じ同四十四年民法及商法研究の爲英獨佛各國
に留學し同四十五年小樽高等商業學校教授となり大正
十年同校長に任ぜられ現在に至る小樽商業會議所
特別議員に擧げらる(小樽市小樽二丁目電小樽一三六
〇)

母 たかの

妻 富子 明二三、二生、群馬、今泉嘉一郎
君は愛知縣士族伴喜幸の長男にして明治二十四年八月
を以て生る大正四年東京帝國大學工科大学應用化學科
を卒業し臨時産業調査局技師農商務技師等を経て同十
一年燃料研究所技師に任じ同所長心得に補せられ昭和
八年同所長となり今日に至る大正八年及昭和三年の兩
度歐米各國に出張す家族は尙長女静子(大一一、三三)
二女定子(同一一、一一)三女龍子(昭三、一一)あり
姉たか(昭二〇、二生)は愛知縣人村田友吉長男市
郎に同婚(同二三、二生)は岐阜縣人三輪惣彌長男俊一
に嫁し弟幸一(同二三、三三)は愛知縣士族伊藤守の
養子となり叔父定次郎(慶應二、二生)同妻みよ(明四
三生、愛知、今井九右衛門妹)は其子女を伴ひ分家せ
りA一一三(東京市目黒區洗足町一四六八電荻原三六
七七)

伴 律治

君は川邊郡伊丹町の舊家に於て代々總年寄役を勤め
當家は川邊郡伊丹町の舊家に於て代々總年寄役を勤め
祖父善左衛門は勤王の志厚く維新當時は諸國志士の來
り投する者多く同地方の名望家として夙に知らる明治
三十年當時阪鶴鐵道會社社長たりし南工學博士の徳也
に依り鐵道運輸取扱會社を創設し爾來數十年一貫して今
日に至る君は兵庫縣人森森佐十郎の三男にして明治十
六年一月を以て生れ先代佐十郎の父と成り同三十七年家
督を相続す祖業を繼承して運送業に従事し傍ら前記會
社の重役にして又兵庫縣方面委員たり家族は尙二男治夫
(大一一、二生、縣立伊丹中學校在學)ありA四一七(兵
庫縣川邊郡伊丹町伊丹二九九電七三三(營業所)電一一
一三三)

ハ之部 伴

(※印は姻族關係)

伴 良太郎

京都府多額納税者、京都取引所取引員、京都府在籍。明一九、一一生、京都、鞍田ハル...

伴野 乙彌

生氣嶺粘土石炭採取取締役、西脇銀行、太陽生命保険各取締役。東京府在籍。明七、五生、兵庫、土、八代則彦...

坂 常三郎

從三位勳三等、前農林省技師、岐阜縣在籍。明二、一一生、静岡、影山常太郎...

坂東 舜一

川西航空機取給役、兵庫縣在籍。明六、一一生、兵庫、平山與八郎...

坂東 禎吉

阿波商業銀行監査役、徳島縣在籍。明六、九生、徳島、福島清三長女...

君は岐阜縣人古川佐七の長男にして明治二年五月を以て生れ先代芳太郎の養子となり同二十一年家督を相続す...

君は東京府土佐郡西良の一長男にして明治三年十二月十六日を以て生れ昭和六年家督を相続す同二十五年陸軍少尉に任じ大正九年陸軍中將に累進す...

君は徳島縣人小松武進郎の二男にして明治十七年十二月を以て生れ先代香取の養子となり大正四年家督を相続す...

坂東 信樹

徳島縣多額納税者、阿波貯蓄銀行、阿波貯蓄銀行、阿波貯蓄銀行、阿波貯蓄銀行...

坂東 彦三郎

日本俳優学校理事、音羽屋、歌舞伎俳優、東京府在籍。明二、七生、東京、中村太郎(市川團右衛門)妹...

坂東 三津五郎

歌舞伎俳優、七代目大和屋、坂東三津五郎(守田壽作)流家元、東京府在籍。明一、八生、東京、瀧口秀次郎養子...

坂東 伊平

材木商、東京府在籍。明二、九生、徳島、犬伏徹郎長女。喜之助 明四五、四生。明四五、四生...

坂東 幸太郎

衆議院議員(北海道選出)、農業、北海道在籍。明二八、四生、北海道、長野爲助...

坂東 秀調

三代目大和屋、歌舞伎俳優、東京府在籍。明三、三三、神奈川、間瀬ハト...

坂内 義雄

五島電燈社長、球磨川電氣、球磨川電氣、球磨川電氣、球磨川電氣...

坂野 信夫

三菱銀行三宮支店貸付係長、兵庫縣在籍。明三、一一生、現住主。父 兼通 文久三、一一生、大阪、仁村修三...

阪東壽三郎

豊田屋、歌舞伎俳優  
大阪府在籍

妻 きの 子 明二六、五生、先代市川右團治養

君は兵庫縣人上田勇藏の二男にして明治十九年十二月十日を以て生れ同二十年先代壽三郎の養子となり同二十二年家督を相續す本名を與三郎と稱す三郎俳名を菊翠と稱す同二十三年五歳にて大阪角座に出演「紅屋騒動」に門付け踊子を勤め初舞臺なし爾來先代右團治の門下として藝道に精進し後長次郎を改め父名壽三郎を襲名豊田屋を屋號とし關西劇壇に重きをなす「小山田庄左衛門」の小山田「西郷と豚俵」の西郷等は當り役に於ては松竹映畫にも出演し「忠臣蔵」の重役大石内藏之助に扮し其至藝を發揮すA四九九(大阪府南區長堀橋一ノ四七電南二二四八)

番匠谷英一

立教大學教授、劇作家  
大阪府在籍

妻 文子 明二八、八生

君は大阪府人番匠谷平吉の長男にして明治二十八年八月十四日を以て生れ大正九年京都帝國大學文學部獨文學科を卒業す三三講師大學教授を経て現時前記立教大學教授たり演劇研究に従事し多数の創作翻譯等あり(東京市豊島區雑司ヶ谷町六ノ一二四六)

潘成鑑

新竹州協議會員、新竹州同光會評議員、新竹州勸業調查委員、新竹州農會副會長、新竹州農會顧問、新竹州在籍

君は新竹州人潘澄漢の三男にして明治八年十二月二日を以て生るその一生は公職の生涯にして三十有餘の公職に歴任したりといふ其重要なものは新竹區街庄長土地整理組合長新埔區青年會會長新埔區街庄協議會員新竹州協議會員新埔信用組合長等にして地方開發の功勞者として數回表彰せられ又明治三十五年早くも臺灣紳章を受け大正四年御大禮記念章を授けらる昭和二年大正天皇の御大禮儀に參列の光榮に浴し益々社會公共事業に貢献するところあり家族は妻潘魏氏金連の外に四男六女あり(新竹州新埔區新埔庄)

潘成元

新竹州在籍  
新埔庄慈濟會顧問、紳章佩用者

君は新竹郡新埔庄名門の由にして慶應三年七月を以て生る漢學に造詣深く前清の文秀才なり社會公共の爲に多額の寄附を惜まざる篤志家にして夙に明治三十九年臺灣紳章の佩用を許され義に又日本赤十字社特別社員及新埔庄慈濟會顧問の推選を受け其他有功章褒章等授與されたる事一再ならず長男欽龍亦夙に新埔庄役場吏員となり現時同庄助役として政治の改善に専念す(新竹州新埔區新埔庄)

潘致祥

高雄州協議會員、高雄州衛生委員、高雄州水産會特別委員、高雄州在籍

君は高雄州の出身にして明治二十一年を以て生る總督府農學校獸醫學科卒業後實業界の人となり曾て臺東産業社監査役高雄州漁業組合監事として活躍し傍ら専心街協議會員等となり地方開發公共事業に功勞あり紳章佩用者なり現時市協議會員及前記の要職に在り園藝に趣味を有す家族は妻潘陳氏宿の外に五男二女あり(高雄市府後町)

潘邦治

臺中州在籍  
臺中州開拓功勞者、紳章佩用者

君は臺中州彰化郡福興庄の出身にして文久三年三月を以て生る幼少より漢學を修め儒學者として知らる明治三十年鹿港辨務署第十五區區長に任命され同三十二年彰化區區長を拜命大正二年洪堀寮區區長を兼任す同九年福興庄長に擧げられ爾來信用組合長農産組合長赤十字社特別社員に列する等地方開發に盡瘁する事實に三十年に亘る同三十九年紳章佩用を許可され大正四年總督府より始政記念日に木盃を同年大禮記念章を同十年二月銀杯一箇を授けらる(臺中州彰化郡福興庄番社六二〇)

七之部

日淺寛

正五位勳四等、鐵道局長、大阪鐵道局長、愛媛縣在籍

父 善太郎 嘉永三、一生、愛媛、菅嘉市二男  
妻 房 惠 明三一、三生、香川、竹内英雄妹  
男 洋 大八、五生

君は愛媛縣人日淺善太郎の四男にして明治二十一年四月十七日を以て生る大正三年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試験に合格す鐵道院參事補同副參事鐵道省事務官を経て大正十一年英米各國に留學し同十四年歸朝後鐵道局參事札幌鐵道局運輸課長を命ぜられ次いで門司鐵道局運輸課長となり昭和二年鐵道書記官に任じ鐵道省運輸局旅客課長となり通信書記官を兼任し郵務局に勤務せし同七年鐵道省運輸局長に任ぜられ同九年鐵道局長に任じ大阪鐵道局長を命ぜられ今日に至る家族は尙長女裕子(大一〇、一生)兄章(明八、九生、現戸主)同妻クラ(同九、一生)愛媛、山本三平妹)及其子女あり甥雅男(同三二、三生)兄章二男同妻フミエ(同四〇、九生)愛媛、富永丈八三女)は共に分家せり(大阪府住吉區松崎町二ノ六五鐵道官舎)

日沖政吉

横濱正金銀行支店長、三重縣在籍

妻 マサ 明三四、六生、兵庫、柴田亨一妹  
男 隆 大一二、一〇生

君は三重縣人日沖甚三郎の長男にして明治十八年三月四日を以て生れ同二十九年家督を相續す同四十二年東京高等商業學校を卒業し横濱正金銀行に入り青島支店副支店長を経て現時リオ・デ・ジヤネイロ支店支店長たり家族は尙二男(大一一、五生)長女登子(昭二、一〇生)あり(留守宅)名古屋市中區米野町野裏五四)參照 米錢高作太郎の項

日置秀雄

安田銀行營業部長兼預金課長  
鳥取縣在籍

養父 秀藏 慶應元、一生、現戸主  
妻 なを 明二二、三生、養父秀藏長女  
男 達雄 明四一、三生  
女 美津子 明四三、七生  
女 孝子 大元、一生

君は鳥取縣人樺吉太郎の三男にして明治十八年三月を以て生れ同四十年當主秀藏の養子となる安田銀行小舟町支店長を経て現時本店營業部長兼預金課長たり養妹よし(明二七、一生)は鳥取縣人福本長藏養子常一に同(同二一、一〇生)は同縣人矢田長藏長男清一に同(同二、一〇生)は分家せりA一二〇(東京市澁谷區上智町五六)

日置保彦

日本棉花各務取締役、秘露棉花、朝鮮棉花各務取締役、岡山縣土族

君は岡山縣人河中等區の三男同野田虎男の弟にして明治十六年三月を以て生れ先代勝の養子となり大正六年家督を相續す明治四十年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し直ちに日本棉花會社に入り翌四十二年孟買に出張し爾來秘露棉花朝鮮棉花各務取締役たり二女小波(明四〇、一生)は奈良縣人岡島美行に嫁せり(大阪府住吉區帝塚山西五ノ二九)參照 池田明篤、野田虎男の項

日垣太市郎

日垣太市郎商店社長、金屬直輪出入商、大阪府在籍

妻 ちう 明四、一生、兵庫、辰見なを三  
母 春 明三九、四生、大阪、後藤市藏長  
女 女 明三九、四生、大阪、後藤市藏長

君は大阪府人先代太市郎の長男にして明治三十四年三月を以て生れ大正十四年家督を相續し前名常太郎を改め養父す登金直輪出入商を営み日垣太市郎商店社長たり旅行登山を趣味とす家族は尙長女幸子(昭四、四生)三女和子(同八、四生)妹芳子(大二、四生)あり姉い

日笠祐太郎

岡山縣多額納稅者、岡山電氣軌道社長、岡山合同貯蓄銀行、東山土地各務取締役、岡山縣在籍

妻 百勝 明三八、八生  
男 三郎彦 明四一、一生  
女 三枝子 大二、一生

君は岡山縣人日笠哲夫の長男にして明治十四年三月を以て生れ前名祐一郎を改め大正十四年家督を相續す明治四十一年京都帝國大學法科大學政治學科を卒業し直に安田銀行に入り同行協賛役たりしも辭して現時岡山電氣軌道會社社長の外前記銀行會社の重役たり直接國稅三千四百三十八圓を納め岡山縣多額納稅者に列す家族は尙四男浩之(大七、一生)あり弟有二(明二四、四生)は分家し同弟三(同三三、四生)は岡山縣人松原花の養子となり叔母小延(同三、四生)は同縣人有松勘吉に嫁せり(岡山縣兒島郡藤戸町)

日暮忠

從四位勳四等、家主、東京府土族

妻 忠 嘉永三、一生、茨城、土、奥如  
母 南 明一七、二生、東京、寺内篤三郎  
女 清子 大四、九生

君は東京府土族日暮忠誠の長男にして明治七年十月五日を以て生れ大正六年家督を相續す明治二十九年大日本水産會水産傳習所を卒業す家主にして藝に水産講習

所在外研究生として獨逸伊各國に出張を命ぜられ歸朝後同所技師となり後同所教授となり次で同所所長を命ぜられ昭和七年退官す家族は尙四男秀雄(同一一、一、一)...

日暮 豐年 正五位勳三等、海軍少將、海軍水雷學校長、東京府人在籍...

日高 鏡一 正五位勳四等、海軍造兵少將、海軍工廠造兵部長、東京府人在籍...

日高 三郎 宮崎商工會議所所長、宮崎縣多額納税者、日向中央銀行、宮崎農工銀行監査役、實業並肥料商、酢醱造業、宮崎縣在籍...

日高 鏡一 正五位勳四等、海軍造兵少將、海軍工廠造兵部長、東京府人在籍...

日高 三郎 宮崎商工會議所所長、宮崎縣多額納税者、日向中央銀行、宮崎農工銀行監査役、實業並肥料商、酢醱造業、宮崎縣在籍...

君は宮崎縣人日高三郎の長男にして明治十七年三月九日を以て生れ先代三郎の養子となり同四十二年家督を相續し前名光來を改め眞名す夙に専修大學を卒業し質業並肥料商及酢醱造業を営み日向中央銀行取締役たる外前記銀行會社の重役にして推されて宮崎商工會議所會頭たり宮崎縣多額納税者に列し直接國稅三千九百七十四を納む家族は尙三男信輔(大九、七、生、四男禮四郎(同一、一、一)生)あり長女美佐(同一、一、一)生、東京家政學院出身)は地方警視神崎廣に嫁せり(宮崎市上野町二ノ一四七・一四三)

日高 信六郎 從五位勳六等、外務書記官、大臣官房人事課長、福岡縣在籍...

日高 捨吉 醫學博士、醫師、宮崎縣在籍...

日高 實容 文久三、八生、現戸主、從三位勳二等、退職檢事、鹿兒島縣土族...

日高 實容 文久三、八生、現戸主、從三位勳二等、退職檢事、鹿兒島縣土族...

參照 日暮見仁の項

日高 莊輔 東京府華族、鹿兒島、士、坂元純...

日高 丈夫 大東水電運代表取締役、大東水電運社長、鹿兒島縣土族...

日高 只一 早稻田大學教授、文學部文學科教授主任、廣島縣在籍...

日高 只一 早稻田大學教授、文學部文學科教授主任、廣島縣在籍...

女 千鶴子 大六、一〇生、日本女大附屬高女在籍...

日高 直次 辯護士、宮崎縣在籍...

日高 直次 辯護士、宮崎縣在籍...

日高 直次 辯護士、宮崎縣在籍...

日高 直次 辯護士、宮崎縣在籍...

日高 實容 文久三、八生、現戸主、從三位勳二等、退職檢事、鹿兒島縣土族...

日高 實容 文久三、八生、現戸主、從三位勳二等、退職檢事、鹿兒島縣土族...

日高 實容 文久三、八生、現戸主、從三位勳二等、退職檢事、鹿兒島縣土族...

日高 實容 文久三、八生、現戸主、從三位勳二等、退職檢事、鹿兒島縣土族...

日向源之助 日東製粉、東京製粉各取締役、武藏精米精製監査役、東部製粉共販組合常務理事、埼玉縣在籍...

男 誠一 大六、二生、美智子 大六、二生...

日野 國康 横濱火災海上保險取締役兼大阪支店長、大阪府在籍...

日野 國康 横濱火災海上保險取締役兼大阪支店長、大阪府在籍...

日野 資純 齋公卿家...

日野 資純 齋公卿家...

に嫁せり(神奈川県鎌倉郡鎌倉町二階堂三二五)
参照ニ子爵吉野純郎、子爵三島通徳、男爵伊東院松
治、實吉雅郎、伯爵野村順徳、各希一寮土
方久教、山田直矢の項

日野虎之助 瑞鳳書院、書道教授、地主
君は愛媛縣人日野大助の二男にして明治十九年八月
二十日を以て生れ大正六年分れて一家を創立す地主
にして傍ら瑞鳳書院を開き書道教授たりA三七七(東
京市京橋區寶町二ノ六ノ一二電報一七三三)

日野直次郎 東華紡績監査役
兵庫縣在籍
明二〇、一生、大阪、吉田眞二妹
妻 静江 大阪府立大手前高女出身

日野易造 廣島縣多額納稅者、廣島縣農工銀
行取締役、山縣屋、酒造業
廣島縣在籍
明二、五生、廣島、山田吉左衛門
母 トヨ 長女
妻 トミ 明二五、二生、廣島、保田二吉姉
女 駒吉 大二、六生

日野西資博 舊三位勳二等、子爵、宮中顧問官
廣三郎、一室、子爵島尾敬光伯爵
妻 廣子 明三三、二生、從五位
男 重忠 明三三、二生、從五位
女 清子 明三九、二生、長男資忠妻、子爵
清岡長吉長女

正六年家督を相続す同四年京都帝國大學法科大學政治
學科を卒業し祖業を継ぎ酒造業を営み山縣屋と稱し傍
ら前記銀行の重役にして縣下の多額納稅者に列し直接
國稅三千四百十圓を納むに各種の公共事業を起し郷
黨の爲を盡す所多し昭和四年産業視察の爲歐米に遊ぶ
讀書に興味を有す家族は尙二男可吉(大四、一〇生)三
男泰吉(同八、一一生)四男蕃(同二、一一生)長女壽子
(同四、八生)弟俊夫(明三七、一一生)甥暢夫(六一五、
一〇生)妹壽子(長男)あり弟鴻藏(明二一、八生)三女
銀行取締役、法學士(同三、同二、一一生)近衛師
團法務官、法學士)は東京府人津村ユキエの夫とな
り同彰造(同二七、一一生)盛岡高等農林學校出身は
島根縣人伊藤スエの養子となり妹壽子(同三〇、五生)
は同縣人佐々田精一に嫁せり(廣島縣高田郡甲立町電
三三三)

日野勝治 電氣化學工業常務取締役、東京市
各區監査役、東京府士族
妻 一乃 明二九、三生、東京、今泉一妹
女 静子 大五、三生

日比欣二 藥種商
大阪府在籍
妻 ヤナ 文久三、二生、先々代忠左衛門長
女 ちか 明二五、六生、岐阜、小寺竹治郎
女 花子 大二、一生、大阪府立今宮中學出身

日比義三 從五位勳六等、農林技師、水産局
勳務、岐阜縣在籍
妻 イトコ 明二七、七生、愛知、水野榮次郎
女 敏彦 大一、二生、三子

日比野信一 從五位勳六等、臺北帝國大學教授
理農學部勳務、東京府在籍
妻 ひやく 元治元、一一生、千葉、土、赤尾
女 まさ 明一九、一〇生、千葉、吉田貞女

日比駒之助 名古屋探検所取締役
愛知縣在籍
妻 きみ 明一七、二生、愛知、伊藤直右
女 知恵子 明四三、一〇生、三重、伊藤その

日比野寛 正六位勳五等、教育家
愛知縣在籍
妻 ふさ 明一六、四生、愛知、山田常重三
女 千代子 大二、一一生

日比野襄 從五位勳六等、大藏事務官、理財
局勳務、愛知縣在籍
妻 のぶ 明三三、一一生、愛知、日比野寛長
女 昭二、一〇生

日比七右衛門 自轉車商
愛知縣在籍
妻 のぶ 明一八、七生、愛知、金森秋次郎

日比野信一 從五位勳六等、臺北帝國大學教授
理農學部勳務、東京府在籍
妻 ひやく 元治元、一一生、千葉、土、赤尾
女 まさ 明一九、一〇生、千葉、吉田貞女

日比野信一 從五位勳六等、臺北帝國大學教授
理農學部勳務、東京府在籍
妻 ひやく 元治元、一一生、千葉、土、赤尾
女 まさ 明一九、一〇生、千葉、吉田貞女

日比得三 第一銀行總大崎支店長代理
神奈川県在籍

日比野信一 從五位勳六等、臺北帝國大學教授
理農學部勳務、東京府在籍
妻 ひやく 元治元、一一生、千葉、土、赤尾
女 まさ 明一九、一〇生、千葉、吉田貞女

日比野信一 從五位勳六等、臺北帝國大學教授
理農學部勳務、東京府在籍
妻 ひやく 元治元、一一生、千葉、土、赤尾
女 まさ 明一九、一〇生、千葉、吉田貞女

たり家族は尙弟義男(明二七、四生)同妻富(同三六、三生、茨城、大澤金太郎)弟士朗(同三六、四生)あり...

日比野正治 正五位勳三等、海軍少將、軍令部出仕、愛知県在籍...

日比野芳太郎 岩田常商店監査役、大阪三品取引所取引員、大阪府在籍...

日比谷平吉 日比谷銀行取締役、日比谷商店取締役、東京府在籍...

日比野正治 正五位勳三等、海軍少將、軍令部出仕、愛知県在籍...

日比谷一郎 富士瓦斯紡績社員、東京府在籍...

日比谷平吉 日比谷銀行取締役、日比谷商店取締役、東京府在籍...

日比谷平吉 日比谷銀行取締役、日比谷商店取締役、東京府在籍...

村岩吉の項

日比谷孝太郎 日比谷銀行取締役、東京府在籍...

日比谷平吉 日比谷銀行取締役、日比谷商店取締役、東京府在籍...

日比谷祐藏 日比谷銀行取締役、東京府在籍...

日比谷平吉 日比谷銀行取締役、日比谷商店取締役、東京府在籍...

比佐昌平 正五位、衆議院議員(福島縣選出)...

肥後俊彦 正四位勳三等、生絲検査所技師、神戸生絲検査所長、東京府在籍...

日比谷平吉 日比谷銀行取締役、日比谷商店取締役、東京府在籍...

日吉平吉 厚昌織造取締役、藤田織造取締役、山坂織造取締役...

肥後俊彦 正四位勳三等、生絲検査所技師、神戸生絲検査所長、東京府在籍...

肥田 音市 醫學博士、北里研究所理事及部長、東京府立第一、二、三、養父強哉三女、明四〇、五生、法政大學經濟學部出身

肥田 昌三 虎屋信託會社社員、計理士、大阪府在籍、現戸主、君は大阪府人肥田昌三の長男にして明治三十九年九月

肥田 誠三 虎屋信託會社事務取締役、虎屋信託會社事務取締役、大阪府在籍、君は大阪府人肥田誠三の長男にして明治三十九年九月

肥田 友七 虎友、金藏業、大阪府在籍、養子 誠治 大〇、二生、分家養子賢藏長男

肥田 増雄 虎屋信託會社事務取締役、とらや、大阪府在籍、妻 シツ 明二八、一〇生、大阪、根津松之助

肥田 彌一郎 虎屋信託、虎屋各務取締役、大阪府在籍、妻 猶あい 明一三、一生、大阪、森與三郎二男

肥田 友七 虎友、金藏業、大阪府在籍、養子 誠治 大〇、二生、分家養子賢藏長男

肥田 玄次郎 電氣協會書記長、東京府在籍、妻 次郎二女、明二一、六生、石川、土谷鐵

肥田 昌三 虎屋信託會社社員、計理士、大阪府在籍、現戸主、君は大阪府人肥田昌三の長男にして明治三十九年九月

肥田 誠三 虎屋信託會社事務取締役、虎屋信託會社事務取締役、大阪府在籍、君は大阪府人肥田誠三の長男にして明治三十九年九月

肥田 友七 虎友、金藏業、大阪府在籍、養子 誠治 大〇、二生、分家養子賢藏長男

肥田 増雄 虎屋信託會社事務取締役、とらや、大阪府在籍、妻 シツ 明二八、一〇生、大阪、根津松之助

肥田 彌一郎 虎屋信託、虎屋各務取締役、大阪府在籍、妻 猶あい 明一三、一生、大阪、森與三郎二男

肥田 友七 虎友、金藏業、大阪府在籍、養子 誠治 大〇、二生、分家養子賢藏長男

肥田 丈夫 正四位勳三等、電氣試験所技師兼通信技師、東京府在籍、妻 恒夫 明四〇、一生、府立第三高女校同

肥田 達治郎 家主、大阪府在籍、妻 春榮 明三二、三生、和歌山、中村龜之助

肥田 達治郎 家主、大阪府在籍、妻 春榮 明三二、三生、和歌山、中村龜之助

肥田 達治郎 家主、大阪府在籍、妻 春榮 明三二、三生、和歌山、中村龜之助

肥田 達治郎 家主、大阪府在籍、妻 春榮 明三二、三生、和歌山、中村龜之助

肥田 達治郎 家主、大阪府在籍、妻 春榮 明三二、三生、和歌山、中村龜之助

肥田 達治郎 家主、大阪府在籍、妻 春榮 明三二、三生、和歌山、中村龜之助

肥田 彌一郎 虎屋信託、虎屋各務取締役、大阪府在籍、妻 猶あい 明一三、一生、大阪、森與三郎二男

肥田 伊惣二 吉田町長、秩父銀行理事、秩父自勤車取締役、埼玉縣在籍、妻 みね 文久元、一生、神奈川、宮川伊三

樋口 一成 醫學博士、慈恵會醫科大學講師、樋口病院院長、醫師、東京府在籍、妻 せい 明二二、七生、岩手、高平小五郎



ヒ之部 樋口

在學)同爲之(大八、四生、東京府立第三高女在學)同不(同二、三、生、日本女子大附屬女高在學)弟伊素(同二、四、七、生)同治郎(昭三、一、生)ありA三六九(東京市芝區西久保城山町八電芝六三三)

樋口喜三郎 長崎縣在籍 妻 慶應二、七生、兵庫、山月松太郎 養子 要吉 明二九、二生、兵庫、中戸梅太郎 明四三、一、生、養子要吉妻、兵 千代竹 明四三、一、生、養子要吉妻、兵 君は兵庫縣人先代喜兵衛の長男にして元治元年九月二日を以て生れ明治二十二年家督を相續す魚喜と稱し魚間屋業を營む(神戸市港東區古渡町四ノ一八電渡川二四六)

樋口元周 新潟縣在籍 妻 明三三、七生、福岡、田中圭三四 女 周 大七、一、生、學習院高等科在學 君は新潟縣人先代元周の二男にして明治十六年九月三日を以て生れ大正三年家督を相續し前名周造を改め醫名才京都帝國大學醫學科大學出身にして陸軍二等軍醫に任じ果して三等軍醫正となり退職し醫を開設す家族は尙二女(大九、三、生、女子學習院在學)三女(二、同二、一、生、同上校在學)四女(新一、四、一、生、同上校在學)あり妹エツ(明一九、五、生)は分家し同トメ(同三一、三、生)は新潟縣人谷寬一郎に嫁せりA四七九(東京市赤坂區青山町六ノ一)一電青山(四八八)

樋口巧 地家主 妻 明一六、三、生、兵庫、辰馬與平妹 明三六、八、生、兵庫、樋口市右衛門長女 君は兵庫縣人柏木鎮治の三男にして明治三十三年二月十一日を以て生れ昭和六年先代ひでの入夫となり家督を相續す地主として知らる家族は尙長女伊久子(昭

六、四生)二女アツ(同八、一、生)あり養妹あや(明三九、一、生)は分家し同リツ(同四一、四、生)は秋田縣人岡原正吉二男岡原に嫁せりA一〇二六(兵庫縣武庫郡鳴尾村小松)

樋口佐平 從五位勳六等、檢事、橫須賀區裁 判所檢事、徳島縣在籍 妻 龍三 六一、一、〇生 君は徳島縣人樋口峯藏の二男にして明治十八年三月を以て生れ大正二年兄仁平より分れて一家を創立す同年東京帝國大學法科大學法科を卒業し同六年判事に任じ爾來根室區、釧路區、同地方中津區、大分地方、同區佐伯區各裁判所判事に任じ同九年檢事に轉じ廣島地方、同地方木更津區各裁判所檢事を經て現時横須賀區裁判所檢事たり家族は尙二男博明(六一、三、三、生)あり(横須賀市横須賀區裁判所内)

樋口信貴 銅鐵商 妻 明四三、九、生、東京、和井田樹吉 君は東京府人樋口俊雄の二男にして明治三十五年八月七日を以て生れ後分れて一家を創立す銅鐵商を營む家族は尙長女佐代子(昭六、七、生)ありA七二二三B七一(東京市京橋區西八丁堀四ノ六電京橋四五〇)

樋口清太郎 樋口商店取締役、家主 妻 明四〇、一、二、生、現戸主 君は大阪府人樋口勇吉の長男にして明治三十三年十月二十一日を以て生る早稲田大學商科を卒業す家主にして傍ら樋口商店取締役たり家族は尙長女久子(昭四、九、生)ありA一六九(大阪府北區堂島北町三一電南四〇三三)

(※印は姻族關係)

樋口誠康 從二位勳二等、子爵 妻 明三六、一、〇生、正五位 君は大阪府人樋口勇吉の長男にして明治三十三年十月二十一日を以て生る早稲田大學商科を卒業す家主にして傍ら樋口商店取締役たり家族は尙長女久子(昭四、九、生)ありA一六九(大阪府北區堂島北町三一電南四〇三三)

樋口典常 正五位勳四等、鐵道政務次官、衆議院議員、福岡縣選出、福岡縣在籍 妻 明二六、二、生、大阪、大和辰之助 君は福岡縣人樋口恒右衛門の三男にして明治元年一月を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す同二十三年東京法學院法律科を卒業し衆議院議員に當選する事四回同年内閣成立と共に鐵道政務次官に任ぜられ關稅調査會委員被仰付早より日支親善提携に志す所あり同縣會議員臺灣總督府評議會員に擧げられし事あり家族は尙二女正子(大九、七、生)二男常民(同二、一、三、生)三男常久(同二、一、三、八、生)四男常敬(同二、一、五、七、生)三女和子(昭三、六、生)五男常道(同五、四、生)孫澄子(同二、五、生)長男常彌(長女)同一女あり長女ヤス(明三三、六、生)

樋口孝 正五位勳六等、臺南州立農業國民學校、臺南各學堂、福島縣在籍 妻 明元、二、生、現戸主 君は福島縣人樋口元吉の長男にして明治十九年十一月を以て生る大正三年東北帝國大學農科大學農林學科を卒業し同大學副手となり爾來熊本縣立球磨農業學校教諭を経て臺灣總督府公立實業學校教諭に轉じ嘉義農林學校教諭に任じ同十五年同校長兼教諭に任ぜられし昭和六年退職自樂園農場經營中の昭和九年臺南州立農業國民學校臺南創設と共に各學堂を囑託せられ青年指導に當る大正十年支那及香港に出張す家族は尙二男晋夫(六一、〇、九、年)長女ケイ子(同二、一、三、一、生)二女嘉子(昭二二、二、一、生)あり

樋口寅吉 愛知縣在籍 妻 大一、〇、二、生、京都、河野治一郎 君は京都府人樋口清三郎の三男にして明治二十三年五月十五日を以て生れ大正八年兄勇治郎より分れて一家を創立すおふく軒と稱し菓子商を營むA四七五B二三〇(名古屋市中區富澤町四ノ二電東四三〇七)

樋口長市 從四位勳三等、東京警視學校校長、東京府在籍 妻 明一三、三、生、大阪、七、三、枝守 君は長野縣人樋口海藏の長男にして明治四年十一月を以て生れ昭和五年家督を相續す明治三十二年東京高等師範學校を卒業し大阪東京各師範學校教諭東京高等師範學校教授に任じ大正八年歐米各國に留學し現に東京警視學校校長兼東京高等師範學校教授たり家族は尙六男季雄(大七、一、生)明昌(大四、四、生)亡利(二、男)あり長女ゆき子(明三九、七、生)は岐阜縣人經濟學士田中啓一に嫁し弟宇八(明七、一、生)同妻しうえ(同二、九、生)長野、高山元次郎(五女)は其子女を伴ひ分家せりA一三〇(東京市豊島區雜司ヶ谷町二ノ四八電牛込五二二)

樋口貞三 大阪府在籍、家主 妻 明一三、一、〇生、大阪、山田末吉 君は大阪府人藤井龜三郎の弟にして明治二十九年八月二十七日を以て生れ先代伊之助の養子となり昭和三年家督を相續す家主にして現時大阪府會議員たり家族は尙二男昭三(昭三、三、生)長女喜久子(昭五、一、生)ありA七一一(大阪府港區四條通二ノ二電西一七二七)

樋口貞四郎 勳七等、栃木縣多額納稅者、芳賀病院、事務取締役、常務銀行、取締役、農商務省無盡蔵監査役、肥料商 妻 明一八、三、生、塚田孝一郎二女 君は栃木縣人樋口利十郎の三男にして明治六年三月を以て生れ同二十九年兄徳太郎の跡を承け家督を相續す肥料商を營み傍ら前記銀行會社の重役にして栃木縣多額納稅者に列す眞岡銀行頭取眞岡町會議員に擧げ

樋口半六 甲府商工會議所副頭、山梨縣多額納稅者、甲府合同運送社長、富士木村興業取締役、甲府中央販賣利用組合理事、組合長、運送業 妻 明三三、五、生、亡長男文惠妻、山梨、佐野徳太郎妹 君は甲府縣人樋口利十郎の三男にして明治六年三月を以て生れ同二十九年兄徳太郎の跡を承け家督を相續す肥料商を營み傍ら前記銀行會社の重役にして栃木縣多額納稅者に列す眞岡銀行頭取眞岡町會議員に擧げ

ヒ之部 樋口

(※印は姻族關係)

ヒ之部 樋(口)

千代 明四〇、六生、三男由惠妻、靜岡河原源次郎三女...

樋口松之助 大阪府多額納税者、難波屋、製菓業、大阪府在籍...

(※印は姻族關係)

ヒ二

養子 純 八田重一弟、四生、長女たか夫、鳥取...

樋口良助 正五位勳四等、判事、函館地方裁判所長、千葉縣在籍...

樋口六左衛門 大阪商會自動車取締役、日本動産火災保險監視役、大阪府在籍...

樋口安三郎 小西新兵衛商店取締役、東京府在籍...

樋口實 三菱愛知所課長、山梨縣在籍...

ヒ之部 樋(下、爪、山)

樋口實 山梨縣人樋口龜藏の三男にして明治二十一年十月を以て生る...

樋口勇吉 樋口商店社長、日本工業監査役、大阪府在籍...

樋下龜次郎

大阪府在籍、慶應元、一〇生、大阪、上川庄右衛門二女...

樋爪讓太郎

樋爪商會社長、日本海電氣、國産肥料各取締役、朝鮮合同炭鐵製造業役員、樋爪代表社員...

樋山良廣

從五位勳五等、檢事、熊本地方裁判所檢事兼同區裁判所檢事、奈良縣士族...

樋常之助

美術印刷、わんや書店各取締役、京都府在籍...

樋山錦光

直輸出商、東京府在籍...

尾藤知勝

正四位勳二等功五級、陸軍中將、東京府士族...

東乙彦

正四位勳二等、陸軍中將、朝香宮附別當、山口縣在籍...

ヒ之部 樋(下、爪、山)

樋、尾、東

(※印は姻族關係)

ヒ二

に派遣せられ同十二年豫備役付現に朝香宮附別當たり家族は尙孫昭子(昭三、九生、養子義胤長女)あり(東京市澁谷區千駄ヶ谷二ノ三七四雲山六九〇五) 參照 男 男爵關壽壽、上原三雄滋青木都之輔(佐々木 興一の項)

東 龜五郎 從四位勳三等、公證人 三重縣在籍

妻 美 喜 明二四、五生、東京、平尾知房六女 男 正 晴 明四一、九生 女 千 鶴 明四四、一二生 男 重 晴 大三、八生

君は三重縣人先代政治の長男にして明治二年二月十七日を以て生れ同三十三年家督を相続す同三十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し同三十四年判事に任じ爾來大阪府同地方官各裁判所判事東京控訴院判事横濱地方裁判所部長甲府前橋靜岡各地方裁判所長大審院判事廣島神戸各地方裁判所長に歴補し後退官し公證人となり今日に及ぶ家族は尙三男利晴(大一一、八生)四男季晴(昭三、一〇生)あり長女イヨ(明三六、三三)は廣島縣人天野顯(二女まき(同三八、一〇生)は同縣人天野顯に妹なつ(同一二、五生)は三重縣人長井七郎右衛門長男清一郎に嫁し弟勝三郎(同一〇、一〇生)同妻まきの(同一二、六生、大瀧慶次郎長女)は其四子女を伴ひ分家せりA五二四(東京市日本橋區室町一ノ一八電日本橋一四八一) 住友銀行經理課長 和歌山縣在籍

東 義 一 和歌山縣在籍

君は和歌山縣人東常助の二男にして明治二十一年八月を以て生れ大正八年分れて一家を創立す先是明治四十四年神戸高等商業學校を卒業し住友銀行に入り同行支店長たりしも現時本店經理課長たり家族は尙二女美枝子(大一一、一〇生)三女千恵子(昭二、九生)あり(兵庫縣武庫郡御影町郡家下山田六九電御影三六九〇) 東 禎五郎 東渡部會計事務所、計理士 長崎縣在籍 妻 コウ 明二九、五生、東京、天部三郎長女 男 恒 人 明二八、六生

婦 美和子 明三七、一二生、長男恒人妻、東女 フチ 明四四、七生 君は長崎縣人先代太郎兵衛の三男にして慶應元年七月十七日を以て生れ明治二十二年分れて一家を創立す計理士にして東渡部會計事務所主たり家族は尙孫正恒(昭二、九生、長男恒人長男)同和子(同四、一〇生)同長女ありA一〇七(東京市品川區大井出石町五〇五四電大森四五) 東 忠 雄 三井銀行藤岡支店長 山形縣士族 母 その 安政四、五生、山形、香坂維一長女 妻 とし 明一九、五生、宮城、阿部新三郎 男 忠 良 大三、一二生、慶大經濟學部在學 女 道 子 大八、八生

東 尚 胤 正五位勳五等、姫路高等學校教授 埼玉縣在籍

君は山形縣士族東忠雄の二男にして明治十七年二月を以て生れ同三十九年家督を相続す同四十三年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し現時三井銀行藤岡支店長たり家族は尙五女佐喜子(大一一、四生)三男忠彦(同一五、四生)あり長女尚(明四二、七生)は秋田縣人三井銀行員藤田隆治に嫁し弟洋治郎(同二四、二生)は福島縣人遠藤春枝の夫となり同忠起(同二四、二生)は分家し同忠平(同三、一〇生)は靜岡縣人竹下富士男姉としての婿養子となりA七八五(福岡市荒砥二番町一六五電一〇七三) 參照 加加一吉の項

東 園 基文 從五位、男爵 舊公卿家

内務省に入り佐賀縣西松浦郡老同本集同安八各郡長に歴任し大正十三年大垣市長に就任し今日に至る家族は尙孫保子(昭四、八生、二男辰雄長女)あり(大垣市北切石四一三電二六八) 東 園 基文 從五位、男爵 舊公卿家 妻 榮子 明元、一〇生、久通宮朝融王御伯母 當家は右大臣藤原頼宗の支裔左大臣園基任の二男左近衛權中將基教の後より基教分家して一家を樹て東園と稱すそれより九世を経て先々代基榮に至り明治十七年子爵を授けられ長男久通宮中顧問官に任ぜらる先代基光は其長男にして夙に東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し滋賀縣知事長岡縣知事長岡縣知事長岡縣知事長岡縣知事等に歴任し野に下り白山水力灌漑電氣太白山川電力各會社等に選ばれ貴族院議員に五選せらる君は伯爵伊達宗宗の弟にして明治四十四年一月を以て生れ昭和九年先代基光の死跡を相続し同年九月襲爵被仰付養叔父愛三郎(明一七、二生)は岡山縣士族伊木靈の養子となり後忠愛と改名し男爵を授けられ養叔母愛子(同二、一〇生)は同縣人櫻井彌二養子亦男に養父叔母(文久二、一〇生)は男爵淺野守夫に嫁せり(東京市麹町區一番町四電九段三七) 參照 久通宮家、伯爵伊達宗宗、男爵淺野守夫、男爵伊木忠愛、侯爵久通宮久侯爵伊達宗宗、侯爵上野正雄、侯爵小笠原長幹、侯爵大谷光暢、侯爵三條西實義、侯爵酒井忠忠、侯爵東伏見邦英、侯爵堀田正恒、侯爵松浦隆隆、侯爵壬生基義、侯爵相馬孟胤、侯爵竹内維斌、男爵伊達宗經の項

君は先代遊西の四男にして明治六年三月を以て生れ同十七年家督を相続す夙に學問教授に任ぜられしが辭して日本銀行に入り大正五年明治貯蓄銀行に轉じ後日本貯蓄銀行の創立合併せらるる、引續き同行取締役兼支配人となり現時名古屋市民信用組合理事たり家族は尙二男千助(大八、二生)あり長女周子(明三八、二生)は大阪府人林文雄に二女宏子(同四〇、八生)は大分縣人和田龜治長男太郎に三女輪子(同四三、一〇生)は兵庫縣人判事兒島謙二に嫁せり(名古屋市中區櫻井町二ノ三電兩五五〇) 參照 南條金雄、和田龜治の項

東 伏見 邦英 從四位勳一等、男爵 久通宮家御一門

君は故大勳位久通宮邦彦の第三王子皇后陛下の御弟君にして久通宮朝融王殿下侯爵久通邦久の御弟なり明治四十三年五月十六日を以て生れ昭和六年爵位を尤され臣籍に降下し東伏見の家號を賜り華族に列し伯爵を授けらる同年學習院高等科を卒業し京都帝國大學文學部に入學し同九年卒業せらる。古美術研究に造詣深く「寶雲抄」の著書あり(東京市澁谷區常盤松町一〇一電青山二二四〇) 參照 久通宮家、侯爵久通邦久、侯爵大谷光暢、侯爵三條西實義、侯爵酒井忠忠、侯爵伊達宗宗、侯爵上野正雄、侯爵小笠原長幹、侯爵大谷光暢、侯爵三條西實義、侯爵酒井忠忠、侯爵東伏見邦英、侯爵堀田正恒、侯爵松浦隆隆、侯爵壬生基義、侯爵相馬孟胤、侯爵竹内維斌、男爵伊達宗經の項

東 野十治郎 名古屋市民信用組合監事 石川縣士族

當家は代々加賀大聖寺藩に仕へ重職に上りし家柄なり 東 野十治郎 名古屋市民信用組合監事 石川縣士族 妻 うめ 明一、三三、群馬、士、南條金 男 道 治 明三五、三三、同志社大學出身 女 孝 子 大五、一一、金城女子專門學校出身 女 景 子 大四、一一、金城女子專門學校出身

東 坊城 政長 從四位、子爵 舊公卿家

當家は菅原氏の支流參議五條爲經の二男治部卿茂長の後なり茂長別に一家を立て東坊城と稱すそれより十七世を経て先代徳長に至り明治十七年子爵を授けられ御歌所參院臨時編纂部委員等に歴任し貴族院議員に當選すること二回に及べり君は其男にして明治三十五年三月四日を以て生れ大正十一年家督を相続し襲爵被仰付應義善普通部を経て米國市俄古大學に學ぶ家族は尙弟光長(明三六、五生)妹英子(同四四、二生)文化學院出身(弟元長(大三、八生)あり姉敏子(明三二、七生)は東京府人細川力藏に妹宣子(同四〇、八生)三輪田高



を以て生れ昭和六年別れ一家を創立す明治四十二年...

久永 健吉 米井商店 妻 多賀 明三、一生、東京、廣川則修二女...

久野 諺雄 電業社 妻 多賀 明三、一生、東京、廣川則修二女...

久野 脩三 醫學博士、東京醫學專門學校名譽...

久松 定謨 從二位勳三等、伯爵、陸軍中將...

久野 春之助 山口縣多額納稅者、關門汽船、山...

久野 昌信 東京府在籍 妻 柳 明二、六、二生、東京、小池靖一...

久松 勝親 從三位、子爵 妻 從三位、子爵...

久松 定志 東京府在籍 妻 則子 明二、四、一、一生、東京、侯爵貴族...

久本 順造 前廣新港倉庫社長 妻 順一 安政四、三、生、現戸主...

久松 定秋 正五位、子爵、東京合同運送會社...

久松 隆 正三位勳一等功五級、陸軍大將...

久松 精一 正五位勳六等、山口高等商業學校...

久松 庄五郎 大阪府在籍 妻 松子 明四、一、生、大阪、高野幸助三...

久松 隆 正三位勳一等功五級、陸軍大將...

久松 定謨 從二位勳三等、伯爵、陸軍中將...

久松 定志 東京府在籍 妻 則子 明二、四、一、一生、東京、侯爵貴族...

久本 順造 前廣新港倉庫社長 妻 順一 安政四、三、生、現戸主...

久松 隆 正三位勳一等功五級、陸軍大將...

久松 精一 正五位勳六等、山口高等商業學校...

久松 庄五郎 大阪府在籍 妻 松子 明四、一、生、大阪、高野幸助三...

久松 隆 正三位勳一等功五級、陸軍大將...

久松 精一 正五位勳六等、山口高等商業學校...

久松 庄五郎 大阪府在籍 妻 松子 明四、一、生、大阪、高野幸助三...

久松 隆 正三位勳一等功五級、陸軍大將...

久松 精一 正五位勳六等、山口高等商業學校...

久松 庄五郎 大阪府在籍 妻 松子 明四、一、生、大阪、高野幸助三...

**妻** 豐子 明三一、三三、兵庫、士、増田均  
 君は兵庫縣土族菱川九郎の長男にして明治十九年二月一日を以て生れ大正七年家督を相続す明治四十四年關西學院神學科を卒業し米國に留學し華盛頓大學文科及市俄古大學を卒業しパチエラー・オヴ・ディビニチーのスター・オヴ・アーツ、パチエラー・オヴ・ディビニチーの稱號を得て歸朝し大正九年山口高等商業學校教授に任じ今日に至る家族は尙弟侃一(明三一、四三、醫學博士)同妻侃(同三九、一三、大阪、河邊貞吉長女)及其子女あり(山口市東白石)

菱谷 正一

**妻** トラ 明六、一〇、生、大阪、富士原藤八  
 君は大阪府人先代庄太郎の長男にして明治三十五年十一月十八日を以て生れ大正七年家督を相続す地主たりA三九一(大阪府西淀川區海老江二ノ一二二)

菱谷 政吉

**妻** しか 明四、一、生、大阪、井口政吉長女  
 君は大阪府人田中庄五郎の二男にして慶應三年五月二日を以て生れ先代菱谷代治の養子となり明治十七年家督を相続す地主たり家族は尙孫政種(大一一、九三、二男種次郎長男)同種郎(同一五、九三、同二男)同政行(昭四、九三、同三男)あり三男政之助(明三九、六三)は大阪府人井口はるの養子となりA五三三(大阪府北區登屋町二ノ二四電堀川七九〇)

土方 雄武

**妻** 正五位、子爵 舊縣野澤  
 當家は源經三世大和守頼親七世土方太郎季治の後胤河内守雄久の後なり雄久初め北島氏に仕へ尾州大山四萬五千石を領す北島氏亡びて一時封を失ひしも關ヶ原の役徳川氏に屬し新一萬石を賜ふれより十三世を経て先代雄志に至る世々勢州野澤藩主たり雄志明治十七年子爵を授けらる工部省御用掛同屬官臺灣總督府

**妻** 明三一、三三、兵庫、士、増田均  
 君は兵庫縣土族菱川九郎の長男にして明治十九年二月一日を以て生れ大正七年家督を相続す明治四十四年關西學院神學科を卒業し米國に留學し華盛頓大學文科及市俄古大學を卒業しパチエラー・オヴ・ディビニチーのスター・オヴ・アーツ、パチエラー・オヴ・ディビニチーの稱號を得て歸朝し大正九年山口高等商業學校教授に任じ今日に至る家族は尙弟侃一(明三一、四三、醫學博士)同妻侃(同三九、一三、大阪、河邊貞吉長女)及其子女あり(山口市東白石)

關西書院同府屬等に歴任し貴族院議員に擧げらる君は東京府土族土方久徵の二男にして明治三十八年八月一日を以て生れ伯父雄志の養子となり前名武彦を改め大正十四年家督を相続し同十五年襲爵仰付らる養姉紗子(明二二、四三)は東京府人土屋友次郎に嫁せり(東京市澁谷區千駄ヶ谷四ノ七六三電青山二九一)  
 參照土方久徵家系圖中市藏の項

究の爲英白兩國に留學す歸朝後検査役調査役秘書役國債局長營業局長倫敦及紐育兩代理店監督役等を経て同四十四年理事の職に就く大正七年日本興業銀行總裁に就任し同十五年再び日本銀行に入りて副總裁となり現時總裁として名あり又推されて東京商工會議所顧問たり昭和九年貴族院議員に勅選せらるるに日佛銀行副總裁日本郵船會社取締役等に擧げらるる釣魚及書畫等に趣味あり家族は尙五男久誠(大六、二二)五女瑛子(大九、四三)孫陽子(昭八、七三)長男久雄(長女)あり長女美穂子(明三〇、一〇)は大阪府人田中市藏に二女稚子(同三七、三三)は岡山縣人難波幸一弟勝二に三女達子(同四〇、一一)生、精華高女出身)は子爵相馬孟胤弟正胤に嫁し二男武彦(同三八、八三)は子爵土方雄志の養子となり雄武と改名して襲爵し目下英國に留學中なりA四二一七四(東京市澁谷區千駄ヶ谷四ノ七六三電青山二九一)  
 參照土方久徵家系圖中市藏の項

土方 久徵

**妻** 正五位勳二等、貴族院議員、日本銀行總裁、東京商工會議所顧問  
 當家は舊伊勢野澤藩主子爵土方雄志の分家に於て旗本の士として一石を食む先代久巳は文武に達し幕末たり君は其二男にして明治三年九月十四日を以て生れ同十四年家督を相続す同二十八年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し日本銀行に入り同三十年銀行業務研究

秀島 英五郎

**妻** 明三、一、生、三菱重工業會社  
 君は佐賀縣人秀島貴一郎の四男同一郎の弟にして元治元年一月一日を以て生れ明治三十八年分れて一家を創立す祖先是肥前岸城主波多三河守の客分秀島備後守より出て三河守豐公三韓の役後忌諱に觸れ滅亡するや歸農し連綿今日に至り夙に青山學院に學び大正二十年東京專門學校を卒業し翌年三菱合資會社に入り長崎造船所勤務となり履外國人クレブス氏の書記及庶務課長を経て大正七年三菱合資會社秘書役に擧げられ昭和四年退職す家族は尙孫瑛一(昭二、四三)長男義人(長男)同千鶴子(同三、一〇)生、同長女、同二男見二(同七、一一)生、同二男、あり長女ヒデ(明二六、一一)生、長崎高女出身)は宮城縣人村上英信に二女文子(同三四、七三)生、出身校同上)は熊本縣人瀬田慎吾弟工學士稻生に三女武(同三七、三三)生、府立第三高女出身)は大坂毛織會社監査役法學士芝川榮三に四女兼(同三九、一一)生、青山女學院出身)は富山縣人小野田甚四郎長男友吉に五女和歌(同四三、三三)生、府立第三高女出身)は長野縣人工學士吉川清一に嫁せりA五八六(東京市澁谷區芝川榮三、村上英信、山本開誠の項)

秀島 雄次郎

**妻** 明三〇、九、生、福岡、内村局長女  
 君は秀島雄次郎の四男にして明治四年九月二十九日を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同三十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業す同年獨逸に留學歸朝後辯護士たり同四十一年檢察事に任じ熊本地方裁判所檢察官たり同四十二年各區裁判所檢察官長時檢察院檢察官等に歴任し後辭す現時公證人にして秀島公證役場

人見 織之助

**妻** 京府在籍  
 君は京府人先代佐助の二男にして明治十三年十月八日を以て生れ大正元年家督を相続す石村商を營む家族は尙弟猪之助(明二〇、一一)生、あり同力松(同一七、一一)生、同妻ヨシ(同二〇、一一)生、大阪、福井竹藏二女)は其二女を伴ひ分家せりA二〇八六B二七四(大阪府東區材木町七九電東一六二六)

熊取 谷熊次郎

**妻** 明二〇、八、生、大阪、高松吉吉長女  
 君は大阪府人先代佐助の二男にして明治十三年十月八日を以て生れ大正元年家督を相続す石村商を營む家族は尙弟猪之助(明二〇、一一)生、あり同力松(同一七、一一)生、同妻ヨシ(同二〇、一一)生、大阪、福井竹藏二女)は其二女を伴ひ分家せりA二〇八六B二七四(大阪府東區材木町七九電東一六二六)

土方 寧

**妻** 明八、一〇、生、兵庫、小寺謙吉姉  
 君は高知縣土族土方直行の長男にして安政六年十二月を以て生れ先代痴助の養子となり後家督を相続す明治十五年東京帝國大學法學部を卒業し同大學教授に任じ同二十年英國に留學を命ぜられミッドルテンブルを卒業パリストル・アット・ロウの學位を受く歸朝後法科大學教授に進み同二十四年法學博士の學位を授けらる同三十九年帝國大學士院議員仰付られ同四十四年歐米各國に差遣せられ同四十四年法科大學長となり大正七年之を辭し同十四年退官し現時東京帝國大學名譽教授たる外中央大學創立者の一人にして同大學教授を兼ね同十一年貴族院議員に勅選せられ尙帝國大學士院議員たり又疊に四十年以上の勸業教育功勞者として表彰せらる(東京市麹町區三番町六ノ一七電九段四〇五)  
 參照土方久徵家系圖中市藏の項

土方 久徵

**妻** 明三、一、生、三菱重工業會社  
 君は佐賀縣人秀島貴一郎の四男同一郎の弟にして元治元年一月一日を以て生れ明治三十八年分れて一家を創立す祖先是肥前岸城主波多三河守の客分秀島備後守より出て三河守豐公三韓の役後忌諱に觸れ滅亡するや歸農し連綿今日に至り夙に青山學院に學び大正二十年東京專門學校を卒業し翌年三菱合資會社に入り長崎造船所勤務となり履外國人クレブス氏の書記及庶務課長を経て大正七年三菱合資會社秘書役に擧げられ昭和四年退職す家族は尙孫瑛一(昭二、四三)長男義人(長男)同千鶴子(同三、一〇)生、同長女、同二男見二(同七、一一)生、同二男、あり長女ヒデ(明二六、一一)生、長崎高女出身)は宮城縣人村上英信に二女文子(同三四、七三)生、出身校同上)は熊本縣人瀬田慎吾弟工學士稻生に三女武(同三七、三三)生、府立第三高女出身)は大坂毛織會社監査役法學士芝川榮三に四女兼(同三九、一一)生、青山女學院出身)は富山縣人小野田甚四郎長男友吉に五女和歌(同四三、三三)生、府立第三高女出身)は長野縣人工學士吉川清一に嫁せりA五八六(東京市澁谷區芝川榮三、村上英信、山本開誠の項)

土方 久徵

**妻** 明三、一、生、三菱重工業會社  
 君は佐賀縣人秀島貴一郎の四男同一郎の弟にして元治元年一月一日を以て生れ明治三十八年分れて一家を創立す祖先是肥前岸城主波多三河守の客分秀島備後守より出て三河守豐公三韓の役後忌諱に觸れ滅亡するや歸農し連綿今日に至り夙に青山學院に學び大正二十年東京專門學校を卒業し翌年三菱合資會社に入り長崎造船所勤務となり履外國人クレブス氏の書記及庶務課長を経て大正七年三菱合資會社秘書役に擧げられ昭和四年退職す家族は尙孫瑛一(昭二、四三)長男義人(長男)同千鶴子(同三、一〇)生、同長女、同二男見二(同七、一一)生、同二男、あり長女ヒデ(明二六、一一)生、長崎高女出身)は宮城縣人村上英信に二女文子(同三四、七三)生、出身校同上)は熊本縣人瀬田慎吾弟工學士稻生に三女武(同三七、三三)生、府立第三高女出身)は大坂毛織會社監査役法學士芝川榮三に四女兼(同三九、一一)生、青山女學院出身)は富山縣人小野田甚四郎長男友吉に五女和歌(同四三、三三)生、府立第三高女出身)は長野縣人工學士吉川清一に嫁せりA五八六(東京市澁谷區芝川榮三、村上英信、山本開誠の項)

秀村 得一

**妻** 明二〇、二、生、市川清直妹、福岡高女出身  
 君は福岡縣人秀村重成の三男にして明治十三年十二月四日を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す夙に支那に留學す各種會社鐵山炭坑等の經營に當り兼に山本合辦會社大鐵業公司各常務取締役萬朝報社長等に擧げられ現時前記各會社の重役に於て常に滿支間を往來し亞細亞通を以て知らる家族は尙三男選三(大一一、一一)生、あり(東京市麹町區平河町三ノ八電星館内)

人西 傳造

**妻** 明四三、八、生  
 君は兵庫縣人山本長吉の二男にして明治二年八月二十日を以て生れ先代佐兵衛の養子となり同三十年家督を相続す紅染業を營むA一一二二(大阪府北區龍田町三三電北三六三三)

人見 織之助

**妻** 京府在籍  
 君は京府人先代佐助の二男にして明治十三年十月八日を以て生れ大正元年家督を相続す石村商を營む家族は尙弟猪之助(明二〇、一一)生、あり同力松(同一七、一一)生、同妻ヨシ(同二〇、一一)生、大阪、福井竹藏二女)は其二女を伴ひ分家せりA二〇八六B二七四(大阪府東區材木町七九電東一六二六)

熊取 谷熊次郎

**妻** 明二〇、八、生、大阪、高松吉吉長女  
 君は大阪府人先代佐助の二男にして明治十三年十月八日を以て生れ大正元年家督を相続す石村商を營む家族は尙弟猪之助(明二〇、一一)生、あり同力松(同一七、一一)生、同妻ヨシ(同二〇、一一)生、大阪、福井竹藏二女)は其二女を伴ひ分家せりA二〇八六B二七四(大阪府東區材木町七九電東一六二六)



引續き西陣支店長となり次で五十八銀行仁川支店長に...

姫田市松

兵庫縣多額納税者、神戸取引所取引員、米穀商、兵庫縣在籍

養子 輝尾

明四〇、八生、兵庫、名田實藏二

百武源吾

從四位勳二等功五級、海軍中將、第四師團司令官、佐賀縣在籍

妻 多美

明四二、一一生

喜代

明四五、三生

女 綾

大二、九生

女 俊

大五、一一生

百武三郎

正三位勳一等功四級、海軍大將、佐賀縣士族

妻 伸

明一六、一一生、山口、李家頼

兵須久

前安田銀行常務取締役、東京府士族

妻 大

明五、二生、鳥取、士、中島時宜

平井市太郎

結核、神奈川縣在籍

妻 キヤウ

明一九、七生、神奈川、近藤普五

平井卯之助

家主、大阪府在籍

妻 かよ

明一三、一〇生、大阪、稻垣菊次

平井喜久松

正五位勳四等、鐵道省工務局長、東京府在籍

妻 タエ

明三〇、八生、東京、三原繁吉長

平井金三郎

正五位、醫學博士、長崎醫科大學教授、三重縣在籍

妻 敏太郎

慶應元、一〇生、尾戸主

兵藤嘉門

藤倉電線會社員、安改三、五生、栃木、藤倉貞吉二

妻 ヤス

明四〇、八生、岩手、八幡權吉四

兵藤藤吉

君は愛媛縣人兵頭實一郎の長男にして明治十一年八月を以て生れ大正四年家督を相続す...

妻 眞

大正三、一一生

女 眞

大正三、一一生

女 眞

大正三、一一生

女 眞

大正三、一一生

女 眞

大正三、一一生

女 眞

大正三、一一生

女 眞

大正三、一一生

女 眞

大正三、一一生

君は愛媛縣人兵頭實一郎の長男にして明治十一年八月を以て生れ大正四年家督を相続す...

君は三重縣人木場治兵衛の長男にして慶應元年十月を以て生れ先代久太郎の養子となり明治十四年家督を相続す...

君は故貴族院議員平井晴二郎の三男同文雄の弟にして明治十八年十一月二十二日を以て生れ昭和二年兄武雄方より分れて一家を創立す...

君は愛媛縣人兵頭實一郎の長男にして明治十一年八月を以て生れ大正四年家督を相続す...

君は愛媛縣人兵頭實一郎の長男にして明治十一年八月を以て生れ大正四年家督を相続す...

君は三重縣人木場治兵衛の長男にして慶應元年十月を以て生れ先代久太郎の養子となり明治十四年家督を相続す...

君は故貴族院議員平井晴二郎の三男同文雄の弟にして明治十八年十一月二十二日を以て生れ昭和二年兄武雄方より分れて一家を創立す...

君は愛媛縣人兵頭實一郎の長男にして明治十一年八月を以て生れ大正四年家督を相続す...







月二十二日を以て生れ忠辰の養子となり大正八年家督を相續す明治二十三年東京高等商業學校を卒業し韓政府仁川税關に勤務し次で兵庫縣立神戸商業學校校長となり後東京海上保險會社に入り現時前記諸會社の重役を兼ね又鐵道甲南學園(甲南高等學校)理事長に推され現に同校長に就任し兵庫縣教育會々頭文政審議會委員たり目下財團法人甲南病院理事長として其設立の衝に當れり家族は尙四男五女(大六、四生、孫壽二(昭六、七生、和歌山、佐伯顯二)ありA一四四五(兵庫縣武庫郡住吉村字新堂五三電影三三〇四)參照II 澤田節藏三澤廣岡三郎の項

平尾伊之吉

平尾鐵工所、鐵工業 大阪府在籍 妻 長女 明二、三、香川、富永彦次郎 男 正 明二、三、香川、富永彦次郎 女 美代子 大六、八生 君は香川縣人森惣太郎の長男にして明治元年七月二日を以て生れ先代伊惣八の養子となり家督を相續す平尾鐵工所と稱し鐵工業を營む家族は尙孫富美子(大一〇、二生、長男正長女)あり三男義雄(明三九、六生)は香川縣人森サダに長女高(同四五、一)は大阪府人柏木チヨに各養子となり養子サタ(同二三、一〇生、香川、兒島秋次女)は香川縣人森家を再興せりA一四六二(大阪府東區十二軒町九電東二六二七)

平尾勝治郎

鹽野義商店 鹽野義商店 大阪府在籍 妻 長女 明二、三、香川、富永彦次郎 男 正 明二、三、香川、富永彦次郎 女 美代子 大六、八生 君は大阪府人先代普吉の長男にして明治二十三年三月十八日を以て生れ昭和三年家督を相續す現時鹽野義商店

先代久晴の養子となり昭和九年家督を相續す家業を繼承し大東館と稱し旅館業を營む同市一流の旅館たり家族は尙二女久枝(大一〇、二生)三女菊江(同一、一)生)二男昭次(昭二、一)三男彦三郎(同三、一)生)あり養妹彌惠(明三四、六生)は東京府人山路省之助の養子となりA一三五九(二七、靜岡市紺屋町一〇八電六六)

平尾贊之輔

平尾贊平商店 東京府在籍 妻 長女 明二、三、香川、富永彦次郎 男 正 明二、三、香川、富永彦次郎 女 美代子 大六、八生 君は東京府人平尾贊平の長男にして同賞三郎の兄なり明治三十二年七月を以て生る大正十一年慶應義塾大學理財科を卒業し同十年歐米を視察す現時父を助けて平尾贊平商店副社長たり家族は尙長女久子(大一二、二)二女光子(同一五、九)三男貞三(昭五、九)生)ありA一六六七(東京市牛込區二十町町二五電牛込一〇〇四)

平尾贊平

平尾贊平商店 東京府在籍 妻 長女 明二、三、香川、富永彦次郎 男 正 明二、三、香川、富永彦次郎 女 美代子 大六、八生 君は東京府人平尾贊平の三男同賞三郎の弟にして明治三十七年八月八日を以て生れ同三十一家督を相續すと共に前名贊一を改む同二十六年慶應義塾を卒業し歐米に遊び同三十九年よりレイト化粧品料の製造を創め其發賣元として知られ現時平尾贊平商店社長たり古錢蒐集を趣味とし珍品多數を蔵せり家族は尙孫みさと(昭七、九)生)四男貴四男長女(同九、四)生)五男賢吾長女(同九、四)生)長女貴美(大二、九)九段精華高女出身)は東京府人富谷猛に嫁し養子し(明二五、一)生)靜岡、平尾潤造(四女)は分家して夫平尾三郎を以て同喜勢(同二七、六)生)東京、山田篤三(妹)は三重縣人味岡又八(二)男貞次郎に嫁し養子也(慶應元、一〇)生)は其妻二と共に分家し姉チヨウ(同三、五)生)は東京府人板倉安兵衛の母たりA三二四五(東京市牛込區二十町町二五電牛込三〇九)參照II 板倉安兵衛、戸澤民十郎、平尾贊二、平尾喜三郎、平尾贊之輔、平尾贊三郎、平尾太郎 増澤棟造の項

平尾贊三郎

正八位、平尾贊平商店 東京府在籍 妻 長女 明二、三、香川、富永彦次郎 男 正 明二、三、香川、富永彦次郎 女 美代子 大六、八生 君は東京府人平尾贊平の三男同賞三郎の弟にして明治三十七年八月八日を以て生れ同三十四年三月東京藥學專門學校を卒業し近衛歩兵第三聯隊に入營同十五年見習藥劑官を以て除隊す同年馬來及蘭嶼印度支那方面を視察後平尾贊平商店に勤務現時其取締役工場部長を擔當す趣味は才家族は尙二男光司(昭六、三)生)ありA二九〇七(東京市牛込區市谷臺町六電四谷一七三)參照II 佐藤茂兵衛、平尾贊二、平尾贊之輔、平尾贊平、平尾喜三郎の項

平尾壬午郎

正五位勳五等、貯金局書記官、貯金局業務課長、大分縣士族

參照II 平尾贊平、平尾贊二、平尾贊之輔、平尾贊三郎、平尾太郎の項

平尾喜三郎

貴族院議員、神戶縣多額納稅者、南陽酒造株式會社取締役、吳服雜貨商 神戶縣在籍 妻 長女 明二、三、香川、富永彦次郎 男 喜治良 明三三、四生 男 喜之助 明三九、一、二、三、四生 女 喜子 明三八、九生 女 喜子 大六、二生、生母、神戶、宮城

平尾源六

大東館、旅館業 靜岡縣在籍 妻 長女 明二、三、香川、富永彦次郎 男 正 明二、三、香川、富永彦次郎 女 美代子 大六、八生 君は沖繩縣人平尾喜八の長男にして明治六年十一月を以て生れ同十七年家督を相續す與服商を營む傍ら前記會社の重役にして直接國稅千三百五十三圓を納め縣下の多額納稅者に列す大正七年貴族院議員に互選せられ昭和七年再び當選す長女キキ(明二三、一)生)は大阪府人柴田タニの養子となり妹トミ(同二三、一〇)生)は同府人村上久三郎に同トク(同二七、一)生)は同府人高田三郎に同キキ(同二八、九)生)は同府人山口幸太郎弟幸三郎に同キキ(同二八、九)生)は其一男を伴ひ妹キキ(同二〇、一)生)は其二子を伴ひ各分家し弟次之助(同二〇、一)生)も亦分家せり(那覇市天妃町電八)

平尾太郎

平尾贊平商店 東京府在籍 妻 長女 明二、三、香川、富永彦次郎 男 正 明二、三、香川、富永彦次郎 女 美代子 大六、八生 君は靜岡縣人平尾潤造の孫にして明治二十一年九月十六日を以て生れ同四十五年分れて一家を創立す現時平尾贊平商店取締役支配人に分れて香雲堂代表社員を兼ねる家族は尙長女みち子(大一一、一)生)二男博(同一二、二)生)三男光男(同一四、九)生)四男義夫(昭二、一)生)ありA四一九(東京市荏原區中延一〇九三電荏原三三三九)參照II 平尾贊三郎、平尾贊平の項

平岡

從五位勳六等、農林書記官、米穀局經理課長、兵庫縣在籍 妻 長女 明二、三、香川、富永彦次郎 男 正 明二、三、香川、富永彦次郎 女 美代子 大六、八生 君は兵庫縣人平岡定太郎の長男にして明治二十七年十月十二日を以て生る東京開成中學第一高等學校を経て大正九年東京帝國大學法學部獨法科を卒業し農商務省に入り鐵山局工務局特許局農林省分務後農務局農林局山田局を経て現職に至る家族は尙長女美津子(昭三、二)生)二男千之(昭五、一)生)あり(東京市四谷









**男** 春生 明四一、一生、海軍大尉、海軍兵學校出身  
**女** 安江 大四、二生  
 君は鹿島縣土族田原篤行の四男にして明治十二年九月六日を以て生れ明治十五年平田家を相続す同三十四年海軍兵學校を卒業し日露日獨兩戰役に従軍し果敢して海軍大佐となり現時公費島津忠重家令薩摩興業會社取締役たり家族は尙二男萬壽雄(大八、二生)三男勳(同二、一生)六女きえ子(昭元、一生)四男清士(同六、一生)ありA二五四三(東京市杉並區阿佐ヶ谷三ノ五〇七電報二七二五)

**平田 讓衛** 日清生命保險監査役、辯護士  
 兵庫縣在籍  
**妻** 鶴集 明八、三生、高知、川田正靜長女  
**男** 秀樹 明二五、八生  
**女** 治子 明三〇、三生、長男秀樹妻、岡山高田勝吉二女

君は兵庫縣人平田讓五郎の長男にして元治元年三月を以て生れ大正四年家督を相続す明治二十一年東京帝國大學法科を卒業し東京專門學校講師學習院囑託日本法律學校講師大阪辯護士會長露濱銀行住友家各顧問に歴任す現時辯護士にして日清生命保險會社監査役たり家族は尙孫住子(昭二、七生、長男秀樹長女)ありA一六〇七(大阪市北區通上町八〇電北一〇一六)

**平田 佐矩** 平田製綢事務取締役、三重織布三重縣在籍  
**父** 佐次郎 安政六、九生、現戶主  
**母** はな 明二、三生、三重、士、吉田秀彌  
**妻** しま 明二八、四生、三重、小谷藤三  
**男** 佐三郎 大一一、八生  
**女** 佐三子 明二、八生

君は三重縣人平田佐次郎の三男にして明治二十八年九月を以て生れ現時前記各會社の重役たり家族は尙二男佐造(大一一、九生)長女美留子(同二五、八生)三男昭三(昭三、五生)弟佐雄(昭三、八生)同妻八重(同三三、五、一〇生、岐阜、金嶺嘉七妹)及其三子弟佐信(同三七、六生)同佐義(同三八、九生)同佐貞(同四二、五生)

及亡兄佐十郎の四子養叔母ひさ(慶應三、一生)三重加藤徳次郎姉あり妹あきを(明三〇、三生)は三重縣人横濱善後養子善賢に同あきを(同三四、一〇生)は同縣人鈴木藤兵衛に同善賢(同三六、一生)は愛知縣人長谷川吉三郎三男泰助に同富枝(同四一、一生)は三重縣人水谷好雄に同裕せり(三重縣三重郡富洲原町富田一色)

**平田 禎** 勳四等、鹿兒島縣多額納稅者、農業者、鹿兒島縣土族  
**妻** 天留 明二一、五生、鹿兒島、菊野新太郎  
**男** 太郎 明三四、一生

君は鹿兒島縣土族平田五郎の二男にして明治三十年十月を以て生れ同四十年家督を相続す同二十七年慶應義塾別科を卒業し郡會議員同議長縣會議員等に擧げられ同四十五年選ばれて衆議院議員となり立憲政友會に屬し日獨事件の功に依り勳四等に敘せらる農業者を旨直接國稅二千四百二十圓を納め縣下の多額納稅者に列す姉スマ(慶應二、五生)は鹿兒島縣土族平瀬勇市郎に嫁せり(鹿兒島縣肝煎郡鹿屋町電二八)

**平田 徳太郎** 正五位勳四等、理學博士、農林省林業試験場囑託、岩手縣在籍  
**妻** 梅香 明二二、五生、東京、士、高橋義明二二、女  
**男** 一郎 明四四、三生  
**女** とし 明四三、二生  
**男** 元秋 大元、一〇生  
**女** 英三 大三、一生

君は岩手縣土族平田徳の二男にして明治十三年八月を以て生れ同四十二年分れて一家を創立す同三十七年東京帝國大學理科大學實驗物理學科を卒業し中央氣象臺技手となり次で清國南京南洋江師範學堂に聘せられ歸朝後朝鮮製鐵所技師朝鮮總督府技師となり大正三年歐洲に出張を命ぜられ同四年製鐵所技師に補せられ山林技師を経て農林技師に任じ勳任官を以て待遇せらる瑞典ストツホルムに於ける林業試験國際會議に參列す大正三年理學博士の學位を授けられ昭和八年退官し現時林業試験場囑託たり(久留米市西町)

藥試驗場囑託たり(東京市大森區北千束町七一三)  
**平田 篤次郎** 芝浦製作所社長、東洋レリオン三井物産各種取締役、大日本セルロイド監査役、群馬縣在籍  
**妻** ナラエ 明一九、七生、京都、喜多川玄屋二女  
**男** 重雄 明三九、九生、米國コネル大學建築科出身

君は群馬縣土族平田健太郎の弟にして明治五年十月を以て生れ昭和四年分れて一家を創立す同二十六年慶應義塾正科を卒業し三井物産會社に入り同社木材部長小樽支店長等を経て現に同社取締役たる外芝浦製作所社長を兼ね前記諸會社の重役たり現に東洋棉花會社の監査役たりし事あり長女ミナ(明三七、五生、夕陽丘高女出身)は大坂府人慶大經濟部出身清水雅に嫁し二女ナツ(同四一、九生)は同府人武藏喜次郎に三男代三(同四四、八生、慶大在學)は岡山縣人三井物産社員友野欽一に各養子となれりA一九三六〇(東京市荏原區戸越二二八電報二〇一七)

**平田 豊次郎** 大和毛織監査役、農業者、新潟縣在籍  
**妻** ジョシ 明一一、六生、新潟、本間新作三女  
**男** 富彌 明三〇、九生、三男富彌妻、新潟  
**女** トキ 明三〇、九生、二宮孝順妹  
**男** ハツ 明四二、二生  
**女** ハツ 明四二、二生

君は新潟縣人玉木勝吉の二男にして文久元年一月を以て生れ明治四十一年祖父次八郎の後を承け家督を相続す農業者を營み傍ら大和毛織會社監査役に以て兼て新潟縣多額納稅者たり三女トキ(明三三、七生)は東京府人横井豊吉に四女ミキ(同三九、一一生)は福島縣人江川清三郎六男徳治に六女フキ(同四一、三生)は新潟縣人古山信一に七女美枝(同四三、八生)は福島縣人齋藤佐代吉に嫁し四男八次(同三五、七生)は分家し長女イト(同五五、生)も亦分家して新潟縣人山岸七郎二男重平を迎へ(五男平八(同三六、一生)は同縣人玉木ワツクリの死跡を相続せり(新潟縣東蒲原郡津川町電三六))

參照II宮孝順、本間新作、横井豊吉本間徳郎の項

**平田 春行** 地主、東京府在籍  
**妻** スミ 明一六、八生、東京、西郷濇次郎二女  
**男** 貞行 明三九、五生  
**女** 善行 明四二、一生

君は東京府人先代平田春行の二男にして明治十三年十月を以て生れ同十六年先代つやの後を承け家督を相続し前名一三を改め襲名す資産家にして地主たりA一三三七(東京市豊島區巢鴨一ノ八九電大塚一六四七)

**平田 文太郎** 紙文具商、兵庫縣在籍  
**妻** やく 明二一、一生、杉本又兵衛六女  
**男** 賢太郎 大七、二生  
**女** 登志子 大元、一生、松本とく私生子

君は兵庫縣人平田伴之介の二男にして明治十七年九月二十四日を以て生れ大正二年先代妹たつの後を承け家督を相続す紙文具商を營む家族は尙二男重雄(大一一、一生)あり二女ふく子(同二、四生)は同夫太郎(明四一、一〇生、廣島、風谷正身弟)及其一子と共に分家せりA六五九(神戸市葺合區小野町五ノ一八電葺合九一五)

**平田 萬五郎** 九州進進三務取締役、荒木製業本製酒各監査役、福岡縣在籍  
**妻** マッコ 明二〇、六生、福岡、高松紋太郎長女  
**男** 輝 明三八、一〇生、醫學士  
**女** 虎 明四〇、八生、醫師

君は福岡縣人平田寛平の長男にして明治十三年十一月を以て生れ同十七年家督を相続す現時前記諸會社の重役たり花ノ露商店事務取締役三藩銀行大川鐵道會社取締役たりしことあり家族は尙四男尙志(大六、一生)五男義人(同八、一生)三女常子(同九、八生)四女富貴代(同一一、二生)六女五子(同一二、一〇生)五女子代子(昭二、六生)あり長女壽子(明四二、一〇生)は福岡縣人島井安之助に姉タッコ(同一一、二生)

參照II島井安之助の項

**平田 實** 從五位勳六等、日本製鐵技師、福岡縣在籍  
**妻** 若枝 明三五、一生、福岡、木下利作二女  
**男** 健 大一一、一〇生

君は福岡縣人平田徳六の四男にして明治二十三年二月を以て生れ先代徳六の養子となり大正四年家督を相続す同六年東京帝國大學工科大学探査冶金學科を卒業し同七年製鐵所技師に任じ同十年技師に進み製鐵部第二製鐵所技師たりし昭和九年日本製鐵會社技師となり同社八幡製鐵所に勤務し今日に及ぶ茲に研究の爲海外に留學を命ぜらる家族は尙二男實男(大一一、一〇生)三男鐵夫(昭二、一一生)四男俊郎(同四、一〇生)弟兼男(明三二、七生)あり(八幡市高見町五ノ八製鐵所社宅)

參照II木下利作の項

**平田 保太郎** 京都商工會議所常議員、丹神百貨店社長、日本レリス取締役、京都府在籍  
**妻** ぶん 萬延元、一〇生、兵庫、士、辯護士田井與之助姉  
**男** 敬保 大六、四生  
**女** 多惠 大五、三生  
**女** 登子 大七、八生

君は舊宮津藩士平田敬信の長男にして明治十年七月を以て生れ夙に東京高等商業學校に學び森村組に入り輸出課長同助役となり後森村商會社支配人に擧げらる先是商店經營研究の爲米國に留まること三年後支那南洋に出張視察すること前後六日に及ぶ昭和五年丹神百貨店を創立し現時社長にして日本レリス會社重役を兼ね推されて京都商工會議所常議員たりし事あり家族は尙二女大坂大丸京都大丸各會社重役たりし事あり家族は尙二女

參照II大丸、一生)三女芳子(同一一、一生)あり弟信成(明一一、四生)同妻おます(同二四、八生)岡山、福島春太郎妹)は共に分家し妹ふみ(同二八、八生)は岡山縣人小野三郎に同花(同三七、三生)は京都府人若井英夫に嫁せりA四三六(京都市上京區小山堀池町二電上四九二七)

**平田 芳亮** 從五位勳六等、關東高等女學校長、富山縣在籍  
**妻** 峯子 明三三、八生、富山縣立富山高女出身  
**男** 俊夫 大一一、七生

君は富山縣人平田三四郎の四男にして明治二十一年九月十五日を以て生れ大正七年分れて一家を創立す明治四十五年東京高等師範學校本科數物化學部を卒業し直に神奈川縣師範學校教授兼訓導に任じ富山縣立富山中學校長野縣立飯田中學校和歌山縣立和歌山中學校關東中學校各教諭を経て昭和三年旅順第一中學校校長次で關東高等女學校校長に任じ旅順高等女學校校長に補し今日に及ぶ運動に趣味を有す家族は尙長女由紀子(大一一、三、八生)二女美智子(昭二、五生)三男邦夫(同四、六生)四男英夫(同六、二生)あり(旅順市常盤町官舎電二九五)

**平高 寅太郎** 昭和商會社長、東神土地興業事務取締役、鈴木商店、日本輪業各取締役、高知縣在籍  
**妻** 久 文久元、一〇生、高知、久常七姪姉  
**男** 彌之輔 明三五、三生、日本冶金會社員  
**女** 比佐喜 明三三、五生、長男彌之輔妻、堀吉吉五女

君は高知縣人平高庄三郎の長男にして明治十二年八月を以て生れ大正五年家督を相続す現時前記各會社の重役として知らる家族は尙三男健市(大五、七生、鐵路高校在學)四男利雄(同二〇、九生)五男具(同二二、一



平谷 敬藏 大阪府在籍 慶應二、九生、和歌山、孫野米太

平塚 嘉右衛門 森平組、寶塚温泉、平塚土地總管

平塚 常次郎 函館商工會議所顧問、樺太共同漁業

平塚 運吉 從五位勳五等、通信事務官、東京中央電話局長

平塚 定二郎 從三位勳二等、錦鶏間祇候、東京府在籍

平塚 直治 農學博士、札幌商工會議所顧問、帝國製糖取締役

平塚 英吉 從四位勳三等、農學博士、農林省農林事務所長

平塚 米次郎 從三位勳二等、錦鶏間祇候、東京府在籍

平塚 廣義 從三位勳二等、臺灣總督府總務長官、山形縣士族

平塚 房次郎 東京府在籍 妻 かね 明三、四生、東京、杉浦甚兵衛妹

平塚 米次郎 從三位勳二等、錦鶏間祇候、東京府在籍

平塚 直治 農學博士、札幌商工會議所顧問、帝國製糖取締役

平塚 義雄 東京府在籍 母 たけ 明一、九生、東京、猪飼友直二女

平塚 米次郎 從三位勳二等、錦鶏間祇候、東京府在籍

平塚 廣義 從三位勳二等、臺灣總督府總務長官、山形縣士族

平塚 房次郎 東京府在籍 妻 かね 明三、四生、東京、杉浦甚兵衛妹

平塚 米次郎 從三位勳二等、錦鶏間祇候、東京府在籍

平塚 直治 農學博士、札幌商工會議所顧問、帝國製糖取締役

平塚 義雄 東京府在籍 母 たけ 明一、九生、東京、猪飼友直二女

平塚 米次郎 從三位勳二等、錦鶏間祇候、東京府在籍

平塚 廣義 從三位勳二等、臺灣總督府總務長官、山形縣士族

平塚 義雄 東京府在籍 母 たけ 明一、九生、東京、猪飼友直二女

平塚 米次郎 從三位勳二等、錦鶏間祇候、東京府在籍

平塚 廣義 從三位勳二等、臺灣總督府總務長官、山形縣士族



平野

千葉株式取引所取引員

妻 清 明二五、一〇生、平野量平長女

君は千葉縣人島海才平の弟にして明治二十四年五月を以て生れ先代和平の養子となり大正五年家督を相続す...

平野 珪藏

横濱正金銀行巴里支店支配人

妻 三重子 明三三、三三、大阪、士、元精方

君は北越の名家平野安之允の後裔故海軍主計監平野爲信の長男にして明治十七年九月を以て生れ同四十年家督を相続す...

平野五兵衛

佐久鐵道取締役

妻 たつ 明一六、八生、長野、香掛清右

君は長野縣人先代五兵衛の長男にして元治元年五月二十五日を以て生れ明治二年家督を相続す...

平野 幸吉

日本觀光事務取締役

妻 柳 明二三、九生、東京、中井四郎養

君は福岡縣人先代幸吉の長男にして明治十三年十一月を以て生れ先代勝之助の養子となり大正十一年家督を相続す...

平野 幸太郎

若松市議員、坑木石炭商

妻 チヨノ 明一九、三三、平野彦藏長女

君は福岡縣人大庭孫六の七男にして明治十三年十一月を以て生れ先代勝之助の養子となり大正十一年家督を相続す...

平野 耕輔

正五位勳五等、陶磁器試験所技師

妻 みね 明一六、一三、東京、宮田市郎次

君は東京府人平野太郎治の二男にして明治四年六月十日を以て生れ後分れて一家を創立す...

平野 皓一

帝國物品館愛社社長

妻 千代 明一八、三三、東京、鈴木善藏三

君は東京府人平野茂七の二男にして明治十三年三月二十六日を以て生れ同四十年先代兄周次郎の後を承け...

平野 茂

正五位勳五等、東京工業試験所技師

妻 富美子 明三一、一〇生、北海道、水科七

君は東京府人平野貞次郎の長男にして明治二十四年十一月を以て生れ同四十四年家督を相続す...

平野 龍起

肥後米券社理事、鹿本鐵道監査役

妻 龍一 明九、一〇生、熊本、出田孝行姉

君は熊本縣人平野勝蔵の長男にして明治二十一年二月を以て生れ大正四年東京帝國大學法科を卒業す...

平野 丹治

從五位勳六等、検事、大垣區裁判

妻 とし 明三八、六生

君は愛知縣人にして明治二十四年七月を以て生れ大正八年京都帝國大學法學部法科を卒業す...

平野 忠兵衛

正五位勳五等、徳島高等工業學校教授

妻 勝子 明二六、二二、養父參郎長女

君は愛知縣人水野淺右衛門の二男にして明治二十一年三月三日を以て生れ後平野参郎の養子となる...

平野 長藏

東株代行取締役、東株共榮監査役

妻 ハツ子 明二二、一〇生、東京、岩井才助養

君は熊本縣人平野平八の二男にして明治四年七月を以て生れ同四十一年家督を相続す...

期實物取引員にして傍ら前記各會社の重役たり家族は...

平野 哲雄 長野縣生 農業者 妻 美鈴 明三、九生、長野、平澤松太郎...

平野 藤三 臺灣銀行在籍 妻 初枝 明三、一、生、東京、辻高俊長女...

平野 豐吉 肥前縣在籍 妻 豊太郎 明四、五、三、生、大阪、澤田源三郎...

平野 政吉 秋田縣多額納稅者、金融業 妻 静枝 明三、一、生、工學博士、原田...

平野 増吉 中央製鐵、加越鐵道各務取締役 妻 三子 明二、一、生、岐阜、日置善助...

平野 光雄 正五位、選信參典官、衆議院議員 妻 光枝 明二、六、四、生、静岡、笠井胤次郎...

平野 正雄 正四位勳三等、工學博士、京都帝國大學教授、工學部勤務...

君は兵庫縣人先代登吉の長男にして明治十三年四月十日...

平野 長克 正五位、男爵、奈良朝文化研究所 妻 増子 明一、一、生、子爵大關増輝姉...

平野 鍋吉 徳島縣多額納稅者、酒造業 妻 吉郎 明三、一、生、三男吉朗妻、徳島...

平野 又助 東京府在籍 妻 主藏 明四、二、五、生、岩手、吉田勢藏妹...

平野 文安 小樽新聞社取締役兼編輯局長 妻 良 明一、一、二、生、養父元彦長女...

平野 久保 正五位勳四等、商工技師兼工務指 妻 貞 明二、六、三、生、東京、齋藤正明姉...

平野 復男 日本絹織物社長、日本レイヨン、日 妻 静枝 明二、五、一、生、大阪、平野平兵衛...

平野 政吉 秋田縣多額納稅者、金融業 妻 静枝 明三、一、生、工學博士、原田...

平野 増吉 中央製鐵、加越鐵道各務取締役 妻 三子 明二、一、生、岐阜、日置善助...

平野 光雄 正五位、選信參典官、衆議院議員 妻 光枝 明二、六、四、生、静岡、笠井胤次郎...

平野 正雄 正四位勳三等、工學博士、京都帝國大學教授、工學部勤務...

平野 哲雄 長野縣生 農業者 妻 美鈴 明三、九、生、長野、平澤松太郎...

平野 藤三 臺灣銀行在籍 妻 初枝 明三、一、生、東京、辻高俊長女...

平野 豐吉 肥前縣在籍 妻 豊太郎 明四、五、三、生、大阪、澤田源三郎...

七之部 平(野、場、林)

(※印は姻族関係)

七五〇

茶精伊勢製茶東京荷造材各社重役たりし事あり又列國議會同盟會に參列す家族は尙四女他枝(大一一、八生)二男慶司(同一四、八生)姉まさ(明一一、二生)及其二男あり姪初枝(同三三、九生)姉まさ(長女)は静岡縣人長野良一郎に嫁せり(東京市芝區白金今里町九六電高輪11011)

平野 保助 上海商工會議所議員、三井銀行理事、上海支店長、岩手縣在籍 妻 トメ 元治元、三生、堀切又七長女

平野 勇造 益田農事取組役、建築技師 妻 なか 明一、八生、東京、益田克徳長

平野 兼吉 資産家、東京府在籍 妻 しげ 嘉永五、二生、東京、門倉久次郎

平野 俊吾 長野縣在籍 妻 まちか 安政五、二生、長野、宮坂彦之丞

平野 亮平 從四位勳三等、日本曹達工業取組役、東京府在籍 妻 かずえ 明二〇、一生、長野、藤原英太

平野 與次 正七位勳六等、東京洋家具社社長、東京府在籍 妻 功 明一三、七生、東京、士、鹽野谷

平野 利兵衛 酒造業、大阪府在籍 妻 菊枝 明二九、三三、奈良、高坂惣七二女

平野 鑛太郎 勳七等功七級、高島屋飯田惣取締役、東京府在籍 妻 さだ 嘉永五、三三、養祖父善兵衛長女

平野 重右衛門 伊勢屋、資産家、東京府在籍 妻 ふで 明一一、九生、埼玉、石田幸太郎

平野 淺次郎 東京府會議員、玉川水道興業取組役、東京府在籍 妻 とめ 明一四、四生、東京、西村平四郎

平野 高治 資産家、東京府在籍 妻 義也 大五、五生

平野 瀧藏 平又商店、海産物商、東京府在籍

平林 吉太郎 資産家、東京府在籍 妻 ふゆ 安政六、二生、東京、田中與三郎

平林 兼吉 資産家、東京府在籍 妻 しげ 嘉永五、二生、東京、門倉久次郎

七之部 平(林)

し吾学力行建築業を修得し歸朝後上海に於て建築事務所を設け支那方面に活躍せり現時益田農事會社取締役たり家族は尙孫浩(昭六、七生)二男徳造(昭七、八生)富美(昭二七、一〇生)は臺灣總督府交通總長堀田縣に二女ゆか(同三四、八生)跡見高女出身は東京府人原田耕三に三女ユミ(同三三、六生)出身同上は同府人三井物産社員松浦憲重郎に四女キヨ(同三九、一五生)三輪田高女出身は兵庫縣人小島豐俊二男豐大に彦次郎六男吉彦に六女ウタ(同四四、九生)佛英和高女出身は長野縣人山澤貞太郎長男道夫に嫁し長男義太郎(同三〇、三三、法學士)は母つとと共に分家せり(東京市本郷區駒込上富士前町一三三電大塚四二二六八)

平野 與次 正七位勳六等、東京洋家具社社長、東京府在籍 妻 功 明一三、七生、東京、士、鹽野谷

平野 利兵衛 酒造業、大阪府在籍 妻 菊枝 明二九、三三、奈良、高坂惣七二女

平野 鑛太郎 勳七等功七級、高島屋飯田惣取締役、東京府在籍 妻 さだ 嘉永五、三三、養祖父善兵衛長女

平野 重右衛門 伊勢屋、資産家、東京府在籍 妻 ふで 明一一、九生、埼玉、石田幸太郎

平野 淺次郎 東京府會議員、玉川水道興業取組役、東京府在籍 妻 とめ 明一四、四生、東京、西村平四郎

平野 高治 資産家、東京府在籍 妻 義也 大五、五生

平野 瀧藏 平又商店、海産物商、東京府在籍

平林 吉太郎 資産家、東京府在籍 妻 ふゆ 安政六、二生、東京、田中與三郎

(※印は姻族関係)

七五一

平野 亮平 從四位勳三等、日本曹達工業取組役、東京府在籍 妻 かずえ 明二〇、一生、長野、藤原英太

平野 與次 正七位勳六等、東京洋家具社社長、東京府在籍 妻 功 明一三、七生、東京、士、鹽野谷

平野 利兵衛 酒造業、大阪府在籍 妻 菊枝 明二九、三三、奈良、高坂惣七二女

平野 鑛太郎 勳七等功七級、高島屋飯田惣取締役、東京府在籍 妻 さだ 嘉永五、三三、養祖父善兵衛長女

平野 重右衛門 伊勢屋、資産家、東京府在籍 妻 ふで 明一一、九生、埼玉、石田幸太郎

平野 淺次郎 東京府會議員、玉川水道興業取組役、東京府在籍 妻 とめ 明一四、四生、東京、西村平四郎

平野 高治 資産家、東京府在籍 妻 義也 大五、五生

平野 瀧藏 平又商店、海産物商、東京府在籍

七之部 平(林)

七之部 平(林、原)

(※印は姻族関係)

七五二

母 はつ 嘉永四、一、二生、東京、安藤安五郎長女
妻 ミチ 明八、八生、東京、相原菊蔵妹
男 市宣 明四〇、一、生、四男市宣妻、東京、富岡金蔵二女

十六年二月二十二日を以て生れ大正十二年家督を相続す家主たり家族は尙弟茂(明四一、六生)ありA一二九二(神戸市神戸區下山手通八ノ七八電元町九六三)
參照||平林武の項

母 はつ 明元、八生、平林才治郎長女
妻 のぶ 明三一、五生、東京、月村源太郎
男 勝夫 大六、一、一、生

君は東京府人先代孫四郎の長男にして明治四年八月二十四日を以て生れ大正十一年家督を相続す平又商店と稱し海産物商を営む長女ハル(明三二、三、生)は神奈川縣人金子辰五郎に二女きみ(同三七、八生)は東京府人深美小一郎に四女なを(同四二、五生)は河原清道に嫁すA一四六三(東京市大森區山王一ノ二六二〇電大森三〇九二)

君は東京府人先代由蔵の長男にして明治十二年三月十一日を以て生れ同十四年家督を相続す地主にして推されて東京市大森區會議員たり家族は尙四男良三(大一一〇、四生)五男茂(同一一五、一、生)六女榮子(昭六、四生)あり長女ノブ(明三五、一〇生)は東京府人竹内雅太郎に妹くに(同二二、一〇生)は同府人直井直三郎に嫁し姉ミナ(同七、四生)は同府人平林半三郎の母たりA一二七六(東京市大森區新井宿三の一四〇五電大森一六九二)
參照||平林半三郎の項

君は東京府人平林治平の長男にして明治二十四年十二月十六日を以て生れ大正十一年家督を相続す金物商を営む傍ら東洋商會社代表取締役たり家族は尙長女菊江(大九、八生)二女八重子(同一一、三、生)二男秀夫(同一一四、五生)三男明(昭八、七生)あり弟孔治(明三五、一〇生)は分家せり(東京市大森區大森一ノ二六三電大森一二五四)

君は兵庫縣人平林由三郎の三男同徳男の叔父にして明治五年一月を以て生れ同四一、一、生兄徳太郎より分れて一家を創立す同三十一、一、生東京帝國大學理學部地質學科を卒業し大學院に入り爾來工科大学助教授農商務技術師兼山監督署技術師農工商省鑛山局技術師等に歴任し東京帝國大學教授に進み現時開地にあり農に南洋諸島來半島及米國に出張し大正八年工學博士の學位を受く家族は尙五男道夫(大五、一〇生)四女淑子(同九、三、生)あり長女澄子(明三三、五、生)は滋賀縣人西尾滋に嫁せりA二九四(東京市牛込區納戸町二七電牛込三三〇七)
參照||平林徳男の項

君は東京府人平林半三郎の三男にして明治三十五年五月十五日を以て生れ大正十五年家督を相続す昭和四年前名幸吉を改め襲名す資産家たり家族は尙妹ナヲ(明四一、六生)同カヲ(大三、五生)あり姉リ(明二〇、三、生)は東京府人金子周作弟政治に嫁せりA五七六(東京市大森區新井宿二ノ一四五五電大森二五七七)
參照||金子周作、平林豊次郎の項

君は東京府人平林甚左衛門の孫にして明治十六年五月十二日を以て生れ同三十六年分れて一家を創立す米粉製造業を営む資産家にして現に東京市方面委員に擧げられ牡丹町三四丁目町會會長第二次家屋税調査委員たり家族は尙七女保子(大一一、一、生)あり二女つる(明三九、八生)は秋田縣人石塚長一弟千里に三女梅(同四三、四生)は東京府人竹下清助長男清太郎に嫁し二男治平(大八、一、生)は東京府人田中林蔵の養子となれりA五三六六一五(東京市深川區牡丹町四ノ五電本所一四四一、五四四五)

君は山梨縣人平原傳八の三男にして明治二十年八月十二日を以て生れ大正三年兄長太郎より分れて一家を創立す現時東京株式取引所一般短期貨物取引員東京米穀商取引所第一第二二人稱正米部取引員たり家族は尙長女光子(大一一、一、生)四男照友(同四、九、生)二女保子(昭五、一、生)ありA五三〇七B九〇八(東京市日本橋區綱敷町一ノ一三電茅場町二八二二二八二)
參照||松浦儀兵衛、寺田喜平治、中井四郎の項

君は愛知縣人平松庄之助の四男にして元治元年十二月を以て生れ大正十三年明徳太郎より分れて一家を創立す扇屋支店と稱し吳服太物商を営み現に愛知縣多額納税者たり家族は尙孫ひさ(大一一、一〇生)養子友一(長女)ありA五七八〇B一〇六二(名古屋市中區鐵砲町二ノ二八電中三七四)

君は兵庫縣人藤坂熊次郎の二男平松末次郎の養弟同健一郎の養兄田村駒治郎の從兄にして明治三十年一月二十九日を以て生れ平松徳三郎の養子となり大正十二年分れて一家を創立す會社員たり家族は尙長女道子(大一一、一、生)二男二郎(昭四、六、生)二女澄子(同六、二、生)ありA三五四(兵庫縣武庫郡御影町城ノ前電二四一七)
參照||田村駒治郎、平松健一郎、平松末次郎、平松徳三郎の項

君は舊幕臣平原明照の三男にして明治十八年九月十一日を以て生れ同四十年九善株式會社に入社し各課長出張所長等を経て大正十四年前記現職に轉ず同業者間通信望あり現に推されて宮城縣書籍雜誌商組合長仙臺文具商組合顧問仙臺市商工聯合會相談役たり將棋を趣味とし初段の免許を有す家族は尙長女露子(大一一、三、六、生)二女葉子(同一一、五、三、生)ありA一三五(仙臺市片平町五八電四〇四〇)

君は岡山縣人平松初之助の二男にして明治十三年四月二十五日を以て生れ同三十九年分れて一家を創立す同三十六年早稲田大學法律科を卒業し後辯護士となり今日に至るA八六一(東京市麹町區内幸町一ノ五電銀座三三九〇)

君は岐阜縣人平松安次郎の三男にして慶應二年十月を以て生れ明治十六年家督を相続す現時大垣證券會社常務取締役たる外前記各會社の重役たり家族は尙孫美智(大一一、八、生)二男翠長女(昭三、三、生)ありA三三〇(大垣市外側町電一三〇)

君は佐賀縣士族平原兼論の長男にして明治十三年十一月二十九日を以て生れ同二十七年家督を相続す同四十年東京高等商船學校航海科を卒業し母校教授及教授に任じ大正二年甲種船長免許を受け爾來富山縣立商船學校校長航路標識管理所技師地方海員審判所審判官同理事官兼選信局技師等に歴任し函館長崎各海員審判所審判

君は大坂府人平松徳三郎の長男同末次郎同作三の養弟田村駒治郎の從兄にして明治三十六年十一月九日を以て生れる現時前記田村駒商店取締役たり家族は尙二男前(昭九、四生)ありA三一三(兵庫縣武庫郡住吉村電影三二四三八)
參照||住村竹造、田村駒治郎、平松作三、平松末次

君は岡山縣人平松淵之助の二男にして明治十五年四月二十九日を以て生れ大正十二年家督を相続す明治三十九年岡山縣師範學校を卒業し爾來小學校調導校長等を奉職し岡山縣郡視學同縣視學同縣兒島郡長兒島

七之部 平(原、松)

(※印は姻族関係)

七五三

平原桃三郎
正五位勳三等、海軍機務少佐、地方海員審判所審判官兼選信局技師、大坂地方海員審判所所長、佐賀縣士族

平松健一郎
田村駒商店取締役、兵庫縣在籍

平松俊太郎
正七位、倉敷市長、倉敷商工會議所顧問、岡山縣在籍

平松愛之助
愛知縣多額納税者、扇屋支店、吳服太物商、愛知縣在籍

平松作三
會社員、兵庫縣在籍

平松澤次郎
大垣證券會社常務取締役、全南殖産會社取締役、平松愛代表社員、岐阜縣在籍

平林徳男
兵庫縣在籍

平林半三郎
資産家、東京府在籍

平林米太郎
資産家、東京府在籍

平林茂吉
東洋商會代表取締役、金物商、東京府在籍

平林豊次郎
東京市大森區會議員、地主、東京府在籍

平林林平
東京市方面委員、製粉業、東京府在籍

平林重吉
東京株式取引所取引員、東京米穀商品取引所取引員、東京府在籍

平林三郎
東京府在籍

平林武
從三位勳二等、工學博士、前東京帝國大學教授、兵庫縣在籍

商船學校長事務取扱同校長等を経て昭和三年倉敷市助役...

平松甚太郎 平松商店社長、大垣毛織取締役、毛織輸入商...

平松時陽 從三位勳五等、子爵、陸軍騎兵大尉...

平松時陽 從三位勳五等、子爵、陸軍騎兵大尉、舊公卿家...

平松末次郎 田村駒商店監査役、兵庫縣在籍...

平松德三郎 田村駒商店監査役、兵庫縣在籍、新興毛織各取締役...

平松力松 神戶米穀市場日報、阪神穀肥各取締役...

平松力松 神戶米穀市場日報、阪神穀肥各取締役、米穀肥料商...

男彌三郎(同四〇、一一生)も亦各分家し六男六郎(大七、一一生)...

平松友嗣 火葬場經營主、兵庫縣在籍、慶應元、三生、兵庫、石川文次郎...

平松武兵衛 平松商店取締役、綿布織物業、京都府在籍...

平松力松 神戶米穀市場日報、阪神穀肥各取締役、米穀肥料商...

(大一二、一一生)三男才司(昭二、六生)ありA二一三八(神戸市兵庫區魚崎町電兵庫三三四三)

平山 鼎 正四位勳三等、日本勲業銀行取締役、佐賀縣在籍...

平山 午介 從六位勳五等、北千島大同漁業、北海道土地、大沼電機各取締役...

平山 信 正三位勳一等、理學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授...

○電高輪二四九九 君は東京府人平山金藏の二男にして明治四十五年七月一日を以て生れ...

平山 次郎 資産家、東京府在籍、明一八、一一生、男爵長興立吉叔母...

平山 繁 正五位勳三等功五級、陸軍少將、野戦重砲兵第一旅團長、福岡縣在籍...

平山 信 正三位勳一等、理學博士、帝國學士院會員、東京帝國大學名譽教授...

女 千枝 大五、四生、女子學院高等科在當家は代々舊幕府に仕へ大砲指圖役を勤む君は前海軍教授...

平山 慎英 正五位勳四等、判事、八日市場區裁判所支那部長、埼玉縣在籍...

平山 正祥 正五位勳四等、朝鮮總督府檢事、成興地方法院檢事正、佐賀縣士族...

君は佐賀縣土族平山貞次郎の長男にして明治九年十月...

君は宮城縣土族平山清次郎の長男にして明治七年十月...

平山成之助

千葉縣會議長、中村長、千葉縣醫師...

父 龜之助 萬延元、一一生
妻 セツ 明一六、七生、千葉、林久作二女

郎二男捷二に嫁し弟季(同三三、一一生)は千葉縣人川...

平山清次

正四位勳二等、理學博士、帝國學...

君は宮城縣土族平山清次郎の長男にして明治七年十月...

平山泰

從四位勳四等、東京市監査局長...

君は長野縣土族平山秀雄の五男にして故東北帝國大學...

參照 岩田成實、澤田敬義の項

平山武夫

大阪府在籍...

君は大阪府人先代榮太郎の長男にして明治二十四年十...

平山正

從四位勳三等、前大邱師範學校校長...

君は千葉縣人平山晋の二男にして明治五年十二月を以...

平山長一

熊本縣多額納稅者、農業...

君は熊本縣人平山五郎八の長男にして明治十一年三月...

平山寅次郎

臺灣製糖株式會社取締役...

君は廣島縣人木村豐平の長男にして明治三十三年十二月...

昌

明四二、一一生

君は廣島縣人木村豐平の長男にして明治三十三年十二月...

平山又三郎

青森縣多額納稅者、青森商業銀行...

君は青森縣人平山浪三郎の長男にして明治十五年二月...

省

一大四、一一生

君は東京府人平山英三の二男にして明治二十一年十一月...

平山茂八郎

別府市長...

君は大分縣人先代茂八郎の長男にして明治四年九月十...

蛭間

千代田組社員

竹村七左衛門に寄り安積良寛の門に學ぶ後幕臣平山家...

常次

東京府在籍

君は愛知縣人土藤寅次郎の弟にして明治二十六年十月...



三電園青山四〇〇八

多摩川砂利木村鐵道取締役、安藤重三郎、安藤重三郎、計...

弘岡道明

正四位勳二等、陸軍少將、日本文學士、陸軍省...

弘岡好忠

正五位勳三等功四級、陸軍少將、陸軍省...

弘岡道明

正四位勳二等、陸軍少將、日本文學士、陸軍省...

弘岡道明

正四位勳二等、陸軍少將、日本文學士、陸軍省...

弘岡道明

正四位勳二等、陸軍少將、日本文學士、陸軍省...

弘岡好忠

正五位勳三等功四級、陸軍少將、陸軍省...

弘岡道明

正四位勳二等、陸軍少將、日本文學士、陸軍省...

弘岡道明

正四位勳二等、陸軍少將、日本文學士、陸軍省...

弘岡道明

正四位勳二等、陸軍少將、日本文學士、陸軍省...

弘岡道明

正四位勳二等、陸軍少將、日本文學士、陸軍省...

弘世助太郎

正六位勳五等、大阪商工會議所...

弘岡道明

正四位勳二等、陸軍少將、日本文學士、陸軍省...

弘岡道明

正四位勳二等、陸軍少將、日本文學士、陸軍省...

弘岡道明

正四位勳二等、陸軍少將、日本文學士、陸軍省...

弘岡道明

正四位勳二等、陸軍少將、日本文學士、陸軍省...

七部之 弘、津、中、廣、井、海

(※印は姻族關係)

七五九



京市日黒區上目黒五ノ二四八八電青山三八〇八

廣島 外藏 三井生命保險監査役、三井倉會計課長、滋賀縣士族

廣瀨 一郎 正五位勳五等、鐵道技師、工務局

君は大分縣人廣瀨貞五郎の長男にして明治十九年四月三日を以て生れ昭和三年家督を相続す

廣瀨 敏太郎 共同火災保險監査役、高砂香科監査役、大日本火災再保險監査役、東京府士族

君は愛媛縣土族廣瀨坦の長男にして福岡五郎の兄なり明治十三年十月二十三日を以て生れ同四十二年家督を相続す

廣瀨 喜三郎 京都府在籍

君は京都府人藤井喜助の二男にして明治十年三月を以て生れ先代要蔵の養子となり同二十一年家督を相続す

廣瀨 敬治郎 横濱取引所取引員、山梨縣在籍

君は山梨縣人上野忠善の三男にして明治二十八年四月を以て生れ先代彌七の養子となり大正十四年家督を相続す

廣瀨 敬三 綿絲商、廣島縣在籍

君は廣島縣多額納稅者廣瀨恒太郎の三男にして大正十二年六月二十六日を以て生れ昭和八年家督を相続す

廣瀨 小三郎 香川縣參事會、志度町長、總社

君は香川縣人廣瀨喜平の二男にして明治四年十月を以て生れ同十四年兄七方より分れて一家を創立す

廣瀨 孝六郎 正七位、東京帝國大學助教授、工

君は東京府人廣瀨孝六郎の長男にして明治二十一年七月を以て生れ同三十八年十二月先代孝六の養子となり大正六年十月家督を相続す

妻 ツギコ 明三六、二生、養父次郎長女

君は新潟縣土族奥田教信の六男にして明治三十二年九月を以て生れ愛媛縣人廣瀨次郎の養子となり昭和七年家督を相続す

廣瀨 實光 名古屋商工會議所顧問、日本陶器

當家は代々舊高知藩士の家柄にして先代實榮分れて一家を創立し維新後陸軍に入り騎兵少佐に累進せし

廣瀨 次郎 正七位、廣瀨産業、毒製作所各務

君は舊幕臣河原徳立の二男にして百木三郎の實兄に當る明治六年五月を以て生れ大阪住友家總理事務廣瀨幸平の長男廣瀨正の養子となり昭和三年家督を相続す

廣瀨 壽助 從三位勳一等功四級、陸軍中將

君は廣島縣人廣瀨壽助の長男にして明治八年六月を以て生れ大正六年家督を相続す

廣瀨 祝二 王子製紙會社員、東京府在籍

君は岐阜縣人増田儀三郎の二男にして明治三十三年五月十三日を以て生れ大正十一年先代儀三郎の養子となり昭和五年家督を相続す

廣瀨 正一 正五位勳六等、會計檢査院檢査官

君は島根縣人廣瀨才市の長男にして明治二十七年九月二十六日を以て生れ昭和四年分れて一家を創立す

廣瀨 爲久
動四等、衆議院議員(岩手縣選出)
京濱電力常務取締役、關東電力
鐵道、東京電燈、原川電力、草津
取捨、信火水電、パグナルエ
ン、ヒレス各監査役、東京府在籍
明一七、二生、東京、土、吉田茂
姉、日本女大出身

廣瀨 誠一
從五位勳六等、鐵道技師、大臣官
君は東京府人にして明治二十七年一月を以て生る大正
八年東京帝國大學工學部應用化學科を卒業し同年鐵道
技師に任官同十一年鐵道技師に任ぜられ現時大臣官房
研究所に勤務す趣味として旅行讀書を好む(東京市杉
並區上荻窪町五六〇)

廣瀨 清兵衛
東京府多額納稅者、地主
東京府在籍
明四、七生、埼玉、増田三郎長
妻、きよ
女、明三八、九生、二男信太郎妻、東
男、信太郎、明四四、五生、二男信太郎妻、東
女、信太郎、明四四、五生、二男信太郎妻、東

廣瀨 高治
大日本セルロイド製糖取締役、乙宗
商店監査役、椰子油製糖業
大阪府在籍
明二七、三三
男、鶴造、明三三、三三、二男鶴造妻、滋賀
女、久吉、明三九、三九、一男

廣瀨 太次郎
東京府多額納稅者、白洋舎監査
役、廣瀨商會、和洋織物麻帆布商
東京府在籍
明四、二生、福井、廣瀨太次郎姉
妻、よき
男、明三三、三三、三女章子夫、福
女、明三三、三三、三女章子夫、福

廣瀨 高治
大日本セルロイド製糖取締役、乙宗
商店監査役、椰子油製糖業
大阪府在籍
明二七、三三
男、鶴造、明三三、三三、二男鶴造妻、滋賀
女、久吉、明三九、三九、一男

廣瀨 鐵五郎
空欄商
東京府在籍
慶應元、二生、養父久藏長女
妻、はる
男、啓二郎、明一、一、養子たみ夫、新潟
女、啓二子、明二、二、養子啓二郎妻、東
女、啓三子、明三、三、養子啓二郎長女

廣瀨 藤藏
從五位勳五等、地方技師、愛知縣
土木部勤務、大阪府在籍
明一五、一五、一、生、大阪、仁近治三
妻、とく
女、明三、三、市立第二高女出身
男、正夫、大八、三、縣立熱田中學在學

廣瀨 辰次
家主
大阪府在籍
慶應元、八生、兵庫、丸喜清五郎姉
妻、トク
男、明二二、九生、大阪、花畑仙太郎
女、明二二、九生、大阪、花畑仙太郎

廣瀨 徳次郎
中央製糖、北海道製糖各常務取締
役、十勝鐵道、南北商事各監査
兵庫縣土族
明二四、一、生、東京、内山邦久
妻、不二夫、明四四、三三
男、不二夫、明四四、三三
女、不二子、明二、四生

廣瀨 豊作
正五位勳六等、大藏書記官、大臣
官房勤務
石川縣在籍
明三三、八生、東京、藤田主計長
妻、道子
女、明三三、八生、東京、藤田主計長

廣瀨 徳次郎
中央製糖、北海道製糖各常務取締
役、十勝鐵道、南北商事各監査
兵庫縣土族
明二四、一、生、東京、内山邦久
妻、不二夫、明四四、三三
男、不二夫、明四四、三三
女、不二子、明二、四生

廣瀨 徳次郎
中央製糖、北海道製糖各常務取締
役、十勝鐵道、南北商事各監査
兵庫縣土族
明二四、一、生、東京、内山邦久
妻、不二夫、明四四、三三
男、不二夫、明四四、三三
女、不二子、明二、四生

廣瀨 徳次郎
中央製糖、北海道製糖各常務取締
役、十勝鐵道、南北商事各監査
兵庫縣土族
明二四、一、生、東京、内山邦久
妻、不二夫、明四四、三三
男、不二夫、明四四、三三
女、不二子、明二、四生

廣瀨 徳次郎
中央製糖、北海道製糖各常務取締
役、十勝鐵道、南北商事各監査
兵庫縣土族
明二四、一、生、東京、内山邦久
妻、不二夫、明四四、三三
男、不二夫、明四四、三三
女、不二子、明二、四生

廣瀨 徳次郎
中央製糖、北海道製糖各常務取締
役、十勝鐵道、南北商事各監査
兵庫縣土族
明二四、一、生、東京、内山邦久
妻、不二夫、明四四、三三
男、不二夫、明四四、三三
女、不二子、明二、四生

廣瀨 徳次郎
中央製糖、北海道製糖各常務取締
役、十勝鐵道、南北商事各監査
兵庫縣土族
明二四、一、生、東京、内山邦久
妻、不二夫、明四四、三三
男、不二夫、明四四、三三
女、不二子、明二、四生

廣瀨 徳次郎
中央製糖、北海道製糖各常務取締
役、十勝鐵道、南北商事各監査
兵庫縣土族
明二四、一、生、東京、内山邦久
妻、不二夫、明四四、三三
男、不二夫、明四四、三三
女、不二子、明二、四生

廣瀨 徳次郎
中央製糖、北海道製糖各常務取締
役、十勝鐵道、南北商事各監査
兵庫縣土族
明二四、一、生、東京、内山邦久
妻、不二夫、明四四、三三
男、不二夫、明四四、三三
女、不二子、明二、四生

廣瀨 徳次郎
中央製糖、北海道製糖各常務取締
役、十勝鐵道、南北商事各監査
兵庫縣土族
明二四、一、生、東京、内山邦久
妻、不二夫、明四四、三三
男、不二夫、明四四、三三
女、不二子、明二、四生

廣瀨 徳次郎
中央製糖、北海道製糖各常務取締
役、十勝鐵道、南北商事各監査
兵庫縣土族
明二四、一、生、東京、内山邦久
妻、不二夫、明四四、三三
男、不二夫、明四四、三三
女、不二子、明二、四生

廣瀨 徳次郎
中央製糖、北海道製糖各常務取締
役、十勝鐵道、南北商事各監査
兵庫縣土族
明二四、一、生、東京、内山邦久
妻、不二夫、明四四、三三
男、不二夫、明四四、三三
女、不二子、明二、四生

廣瀨 徳次郎
中央製糖、北海道製糖各常務取締
役、十勝鐵道、南北商事各監査
兵庫縣土族
明二四、一、生、東京、内山邦久
妻、不二夫、明四四、三三
男、不二夫、明四四、三三
女、不二子、明二、四生

廣瀨 徳次郎
中央製糖、北海道製糖各常務取締
役、十勝鐵道、南北商事各監査
兵庫縣土族
明二四、一、生、東京、内山邦久
妻、不二夫、明四四、三三
男、不二夫、明四四、三三
女、不二子、明二、四生



廣田 弘毅 從三位勳一等、外務大臣

廣田 長三郎 山三商店、織物商

廣田 規矩太郎 大津商工會議所顧問、滋賀銀行

廣田 茂一郎 吉田忠商店常務取締役

廣田 權三 昭和銀行東京支店長

廣田 規矩太郎 大津商工會議所顧問、滋賀銀行

廣田 忠隆 正三位勳三等、侯爵、貴族院議員

廣田 康 正五位勳四等、醫學博士、京城帝國大學教授

廣田 真光 從四位、伯爵、地方事務官、千葉縣知事

廣田利右衛門 池田實業銀行取締役、伊丹銀行

廣田 理太郎 勳六等、工學博士、東京帝國大學

廣田 規矩太郎 大津商工會議所顧問、滋賀銀行

廣田 規矩太郎 大津商工會議所顧問、滋賀銀行

廣田 規矩太郎 大津商工會議所顧問、滋賀銀行

廣田 規矩太郎 大津商工會議所顧問、滋賀銀行

廣田 真光 從四位、伯爵、地方事務官、千葉縣知事

廣田 規矩太郎 大津商工會議所顧問、滋賀銀行

廣田 忠隆 正三位勳三等、侯爵、貴族院議員

當家は御陽成天皇の同母弟三品智仁親王の男權中納言忠孝の後なり忠孝尾張大納言義直の養子となり後一家を興し源姓を賜ひ廣松と稱し千石を領す夫より世々清華の一として六代を経て一位朝一等忠禮にして明治十七年侯爵を授けらる先代忠朝は其長男にして陸軍騎兵大尉侍従たり君は忠朝の長男にして明治十七年十二月十一日を以て生れ同三十八年興行同四十二年東京帝國大學法科大學佛法科を卒業し内閣總理大臣官房事務書記となり文官高等試験に合格同四十四年逓信管理局書記に任じ爾來逓信局事務官補逓信局副事務官地方海員審判所審判官同理事官戰時船舶管理局事務官官船局長等に歴任し義に官命を以て伊弉佛獨來に出張被仰付後宮内省に轉じ現時皇后宮大夫榮侍從次長にして又貴族院議員たり家族は尙弟忠良(明三六、一)生)同妻由宇(同四一、六)生、男爵森村市左衛門二女、女子學習院出身)あり妹朝子(同二三、一)生)は伯爵大谷光暢叔父定藏に同席子(同二四、三)生)は同府人色部義明先代府男に嫁し弟忠康(同三一、七)生、經濟學士)は伯爵兒玉秀雄に叔父重禮(同二六、九)生)は栃木縣人横尾勝右衛門に各養子となれり(東京市麹町區下二番町七〇九段五六〇)

當家は代々神職の家柄なり君は熊本縣土族廣松次郎の長男にして明治十三年八月一日を以て生れる同三十九年廣島高等師範學校地歴部を卒業し直に福岡縣立中學明善校教諭となり同四十四年福岡縣立東筑中學教諭に轉じ大正二年臺灣總督府國語學校助教授となり爾來臺灣總督府國語學校教諭臺灣公立臺北女子高等普通學校教諭臺北第三高等女學校教諭等を経て同十四年臺灣第二高等女學校校長となり昭和八年現職に轉じ家族は尙弟朝清(明二四、八)生、熊本、光永太郎四男、現戶主、神職)同妻カカ(同三一、五)生)あり長女芳子(同四〇、一)生)は鳥取縣人木村萬壽夫に二女女子(同四二、二)生)は熊本縣人吉武武吉の養子となり姉妹萬は同縣人太江田立藏に同多賀は磯部芳太郎に妹フナヲ(同二六、四)生)は磯部芳太郎に同オシキは吉富保之に嫁せり(臺中市臺中第一中學校内電五七)

君は福岡縣人廣渡孝吉の長男にして明治十七年一月十八日を以て生れ大正十四年家督を相続す先是明治三十八年福岡縣師範學校同四十四年廣島高等師範學校本科博物學部大正九年同校德育專攻科を卒業し文學士たり其間小學訓導同校長福岡縣師範學校教諭兼生徒監廣島市視學同事務課長等に歴任し大正九年廣島高等工業學校教授に任ぜられ生徒監を兼ね同十三年英獨米各國に留學を命ぜられ歸朝後昭和三年同校生徒主事に補せられ同校教務課長並に庶務課長を兼ね家族は尙三男敬也(大四、二)生)あり(廣島市千田町三ノ九一八電五一九五)

廣部清一郎 玉川農園經營主  
父 清兵衛 慶應二、六生、現戶主  
妻 ゆう 明二八、八生、東京、千葉直五郎妹  
男 惣一郎 大六、一一生  
女 文子 大三、一一生  
君は東京府人廣部清兵衛の長男にして明治二十三年九月を以て生れる現時玉川農園を經營す義に廣部謙業昭和土地各會社重役たりしことあり家族は尙二女敏子(大一一、一)生)三女昌子(同二二、一〇)生)四女幾子(昭三、一)生)あり(東京府北多摩郡稲村大字鎌田)

廣松良臣 從五位勳五等、臺灣公立中學校校長  
妻 シノブ 明二〇、二生、熊本、宮村安太長  
男 建 臣 明四四、二生  
女 明子 明二〇、二生、熊本、宮村安太長  
當家は代々神職の家柄なり君は熊本縣土族廣松次郎の長男にして明治十三年八月一日を以て生れる同三十九年廣島高等師範學校地歴部を卒業し直に福岡縣立中學明善校教諭となり同四十四年福岡縣立東筑中學教諭に轉じ大正二年臺灣總督府國語學校助教授となり爾來臺灣總督府國語學校教諭臺灣公立臺北女子高等普通學校教諭臺北第三高等女學校教諭等を経て同十四年臺灣第二高等女學校校長となり昭和八年現職に轉じ家族は尙弟朝清(明二四、八)生、熊本、光永太郎四男、現戶主、神職)同妻カカ(同三一、五)生)あり長女芳子(同四〇、一)生)は鳥取縣人木村萬壽夫に二女女子(同四二、二)生)は熊本縣人吉武武吉の養子となり姉妹萬は同縣人太江田立藏に同多賀は磯部芳太郎に妹フナヲ(同二六、四)生)は磯部芳太郎に同オシキは吉富保之に嫁せり(臺中市臺中第一中學校内電五七)

廣渡純孝 正五位勳五等、廣島高等工業學校教授、生徒主事、福岡縣在籍  
君は東京府人廣渡孝吉の長男にして明治十七年一月十八日を以て生れ大正十四年家督を相続す先是明治三十八年福岡縣師範學校同四十四年廣島高等師範學校本科博物學部大正九年同校德育專攻科を卒業し文學士たり其間小學訓導同校長福岡縣師範學校教諭兼生徒監廣島市視學同事務課長等に歴任し大正九年廣島高等工業學校教授に任ぜられ生徒監を兼ね同十三年英獨米各國に留學を命ぜられ歸朝後昭和三年同校生徒主事に補せられ同校教務課長並に庶務課長を兼ね家族は尙三男敬也(大四、二)生)あり(廣島市千田町三ノ九一八電五一九五)

廣部清兵衛 廣部拓殖(代表社員)  
妻 トク 明二、九生、埼玉、橋本喜助妹  
廣部清一郎 玉川農園經營主  
父 清兵衛 慶應二、六生、現戶主  
妻 ゆう 明二八、八生、東京、千葉直五郎妹  
男 惣一郎 大六、一一生  
女 文子 大三、一一生  
君は東京府人廣部清兵衛の長男にして明治二十三年九月を以て生れる現時玉川農園を經營す義に廣部謙業昭和土地各會社重役たりしことあり家族は尙二女敏子(大一一、一)生)三女昌子(同二二、一〇)生)四女幾子(昭三、一)生)あり(東京府北多摩郡稲村大字鎌田)

廣松良臣 從五位勳五等、臺灣公立中學校校長  
妻 シノブ 明二〇、二生、熊本、宮村安太長  
男 建 臣 明四四、二生  
女 明子 明二〇、二生、熊本、宮村安太長  
當家は代々神職の家柄なり君は熊本縣土族廣松次郎の長男にして明治十三年八月一日を以て生れる同三十九年廣島高等師範學校地歴部を卒業し直に福岡縣立中學明善校教諭となり同四十四年福岡縣立東筑中學教諭に轉じ大正二年臺灣總督府國語學校助教授となり爾來臺灣總督府國語學校教諭臺灣公立臺北女子高等普通學校教諭臺北第三高等女學校教諭等を経て同十四年臺灣第二高等女學校校長となり昭和八年現職に轉じ家族は尙弟朝清(明二四、八)生、熊本、光永太郎四男、現戶主、神職)同妻カカ(同三一、五)生)あり長女芳子(同四〇、一)生)は鳥取縣人木村萬壽夫に二女女子(同四二、二)生)は熊本縣人吉武武吉の養子となり姉妹萬は同縣人太江田立藏に同多賀は磯部芳太郎に妹フナヲ(同二六、四)生)は磯部芳太郎に同オシキは吉富保之に嫁せり(臺中市臺中第一中學校内電五七)

廣渡純孝 正五位勳五等、廣島高等工業學校教授、生徒主事、福岡縣在籍  
君は東京府人廣渡孝吉の長男にして明治十七年一月十八日を以て生れ大正十四年家督を相続す先是明治三十八年福岡縣師範學校同四十四年廣島高等師範學校本科博物學部大正九年同校德育專攻科を卒業し文學士たり其間小學訓導同校長福岡縣師範學校教諭兼生徒監廣島市視學同事務課長等に歴任し大正九年廣島高等工業學校教授に任ぜられ生徒監を兼ね同十三年英獨米各國に留學を命ぜられ歸朝後昭和三年同校生徒主事に補せられ同校教務課長並に庶務課長を兼ね家族は尙三男敬也(大四、二)生)あり(廣島市千田町三ノ九一八電五一九五)

廣 植 從四位勳六等、華族、前朝鮮總督府中樞院參議  
君は京城府三清洞の出身にして明治十二年十一月を以て生れ同三十七年度支部財務官となり同年學部參書官に進み同三十八年領事官を経て同四十四年學務局第一課長となり同四十四年中樞院副參議に任ぜられ大正十四年四月朝鮮總督府中樞院參議に進みしも後辭して今日に至る(京城道高陽郡龍江面倉前里一九七)

廣 植 從五位勳五等、朝鮮總督府中樞院參議  
君は京城府の出身にして明治十五年七月を以て生れ侍從院分侍卿を経て後中樞院議官陸軍參領武官學校教官等に歴任せしが後轉じて實業界に入り東一銀行頭取に擧げられ朝鮮土地改良會社取締役を兼ねて今日に至る義に金融事業視察の爲米國に出張せしことあり趣味に撞球ゴルフ等あり(京城府寬洞洞一九八〇一電元化門四四七)

廣 丙 從五位勳五等、朝鮮總督府中樞院參議  
君は京城府益善洞の出身にして明治六年十二月を以て生れる同二十九年學部協辦となり後法學部宮内府の協辦

フ之部

不二門龍觀

從五位勳六等、廣濟高等商業學校教授、三重縣在籍  
父 龍 文久三、二生、現戸主  
母 たに 明元、八生、三重、廣田新治郎長  
妻 あや 明二七、一〇生、愛知、藤田八重  
男 勝 大三、二生

不破榮次郎

滋賀縣在籍  
繼母 フサ 文久二、四生、大阪、磯部佐兵衛  
妻 檜乃 明二五、六生、大阪、田畑利兵衛  
男 榮一 明四五、五生  
男 健次 大二、六生  
男 潤三 大三、九生  
女 康子 大六、一生  
女 孝子 大八、一生

君は滋賀縣人先代榮次郎の長男にして明治十九年九月を以て生れ同四十二年家督を相續す養産家としてしらる弟善三郎(明二六、六生)其妻子を伴ひ妹貞(同三二、二生)同夫小一郎(同二九、一〇生)は各分家せりA九七七(兵庫縣武庫郡住吉村中升東一五九〇)電御影三一二五)参照||不破小一郎不破善三郎の項

不破熊雄

三池窒素工業取締役會長、三井礦山東洋高麗工業各取締役、福岡縣在籍  
妻 シゲ 明一三、一〇生、山口、土、赤川  
男 文雄 大二、三生  
女 ナチ 明四〇、四生  
女 利枝 大八、一生

不破小一郎

丸永商店取締役  
滋賀縣在籍  
妻 貞 明三二、二生、養母フサ二女  
君は京都府人高田小三郎の長男にして不破榮次郎同善三郎の養弟に當る明治二十九年十月を以て生れ不破フサの養子となり昭和五年分れて一家を創立す現時丸永商店取締役たりA八六四〇(兵庫縣武庫郡住吉村畔倉電御影三三〇三)参照||不破善三郎の項

不破善三郎

丸永商店監査役  
滋賀縣在籍  
妻 成子 明三四、六生、大阪、十川兵之助  
男 善一 大一一〇、八生

不破福造

大阪株式取引所取引員  
大阪府在籍  
妻 千代 明三一、七生、兵庫、松本源七三  
男 盛康 大八三、一〇生  
女 康子 大八、七生

不破美太郎

正五位勳五等、福岡高等學校教授  
大阪府士族  
妻 ヨシ 明二一、二生、京都、稻原安之助  
男 輝夫 明四二、六生、三菱重工業技術師、工學士  
男 宏 大二、六生、東大工學部在學  
女 綾子 大五、四生、福岡高女出身、福岡女子專門學校在學

君は大阪府人士族不破正由の長男にして明治十六年九月を以て生れ同三十六年家督を相續す同四十年京都帝國大學理工科大學數學科を卒業し同四十三年大阪府同中學校教諭となり大正八年海軍教授に任じ同十一年福岡高等學校教授に任ぜられ今日に至る昭和三年英獨米に出張す姉ジヲ(明一一、四生)は大阪府人九河貞藏長男秀吉に嫁せり(福岡市荒戸三番丁)参照||不破小一郎不破善三郎の項

フ之部 不、布(施)

(※印は姻族關係)





**母** 明七、一、生、祖父吉兵衛長女  
**妻** 明二九、七、生、東京、大村五左衛門長女、東京女學館出身  
**女** 子 清 六七、八、生

君は千葉縣人深井榮之助の長男にして明治二十六年一月を以て生れ同四十二年家督を相続し前名安太郎を改め製糖社現に銚子製糖會社事務取締役にして深井商店代表社員たり家族は尙三男茂之助(六一、三、生)二女照子(同二、三、生)四男良三郎(同四、一、生)五男毅(同五、一、生)四女英子(昭二、九、生)あり妹銀(明九、一、生)は和歌山縣人田端耕造に嫁せり(銚子市)  
 ※陸軍實験隊遠山市郎兵衛深井吉兵衛深井吉兵衛深井吉兵衛深井吉兵衛の助の項  
 ※正一深井吉兵衛深井吉兵衛の助の項

**深井國太郎** 家主、建築請負業  
 東京府在籍  
 妻 明一五、三、生、新潟、深井綱五郎妹  
 男 重太郎 明三三、一、生  
 女 明四〇、九、生、二男重太郎妻、新

**深井景略** 日比谷銀行營業部長  
 群馬縣在籍  
 妻 明二三、七、生、群馬、大越末吉四  
 男 景重 大元、一〇、生

君は群馬縣人深井景略の長男にして同英五の男なり明治十三年八月を以て生れ大正二年家督を相続し明治三十九年専修大學理財科を卒業し日本興業銀行に入り大正十年ビルプロカー業を開業し同十二年更に日比谷銀行に入り現に同行營業部長たり家族は尙弟景二(明二六、四、生)同妻ト(同三〇、二、生)神奈川、梶倉倉吉長女)及其三子あり妹イツ(同二二、一、生)は茨城縣人久保

**深井三男** 東京モリスン紡織、東山農事各務  
 妻 明三三、一、生、先代女郎長女  
 男 次男 明四四、二、生  
 女 明三六、七、生、三重、井上小兵衛

君は三重縣人長吉太郎の三男にして明治十五年四月を以て生れ深井りての養子となり後家督を相続す同三十九年東京高等商業學校を卒業して三菱商會社に入り爾來門司若松各支店勤務若松支店副支店長門司支店長兼貨部長等に歴任し現に同社事務にして水産部長たりし

**深井省三** 住友銀行(深井支店)長  
 廣島縣在籍  
 妻 恒代 見長女  
 男 明三六、一、生、三重、稻垣喜人

君は廣島縣人にして明治二十六年五月を以て生れ大正二年住友銀行に入社し昭和七年深井支店長に就任して今日に至る(東京市麹町區永田町二ノ二七電燈座二六七五)

**深井豐吉** 家主  
 東京府在籍  
 妻 明一九、一、生、新潟、阿部喜久  
 女 明二九、二、生

君は新潟縣人深井豐吉の四男にして明治十七年二月を以て生れ同四十二年兄綱五郎より分れて一家を創立す家主たりA九〇九(東京市向島區吾妻町四一ノ八六)

**深井正男** 從五位勳五等、判事、名古屋控訴  
 妻 明三三、一、生、先代女郎長女  
 男 次男 明四四、二、生  
 女 明三六、七、生、三重、井上小兵衛

君は愛知縣人にして明治二十七年一月十六日を以て生れ大正六年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し司法官候補を経て同八年判事に任ぜられ名古屋岐阜富山各地方裁判所に歴任現時名古屋控訴院判事たり家族は尙妻じやう長男正敏(愛知縣立熱田中學校在學)二男正之三男正隆あり(名古屋市中區北山町二ノ六)

**深井安藏** 竹田組取締役、土木建築請負業  
 東京府在籍  
 妻 明二六、一、生、東京、島田清次  
 女 源藏 大三、三、生  
 男 依子 大三、九、生

君は新潟縣人深井政藏の長男にして同國太郎の兄なり明治六年十月を以て生れ大正四年家督を相続す土木建築請負業を營み竹田組取締役たり長女セン(明三四、二、生)は分家し二男光雄(昭二、一、生)は東京府人山浦利八の養子となりA三四七(東京市神田區淡路町二ノ七電燈田一九三五)  
 ※深井國太郎の項

**深井勇太郎** 昭和銀行小網町支店長  
 靜岡縣在籍  
 妻 明六、二、生、現戸主  
 男 孝男 明二七、一〇、生  
 女 孝子 明二七、一〇、生

君は靜岡縣人阿部美喜藏の四男にして明治二十一年五月を以て生れ同四十五年東京高等商業學校を卒業大正二年深井勇一郎の養子となる現時昭和銀行小網町支店長たり家族は尙二男博(大一〇、四、生)三男長生(同二、一、〇、生)四男萬里夫(同三、八、生)五男大和(昭二、二、生)あり(東京市大森區馬込町二ノ一五六電大森二三四七)

**深井龍雄** 正五位勳四等、鐵道局長、門司鐵  
 道局長、門司商工會議所顧問  
 熊本縣在籍  
 妻 優代 明三六、一〇、生、久留米高女出身  
 男 明三六、一〇、生、現戸主武雄の弟  
 女 明三六、一〇、生、現戸主武雄の弟

君は熊本縣人深井龍雄の三男にして現戸主武雄の弟なり明治二十年六月を以て生れ大正二年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試験に合格す同年鐵道院書記となり同副參事鐵道省事務官鐵道局參事門司鐵道局長鐵道局書記官鐵道局倉庫課長等に歴任し後鐵道局參事東京鐵道局庶務課長兼東京鐵道局教習所長となり昭和六年鐵道書記官に任ぜられ大正官房現業調査課長兼健康課長を命ぜられ次いで鐵道監督官に任じ同八年鐵道局長に任じ門司鐵道局長に補せられ今日に至る(大正八年支那に同十年英米に出張留學せり)家族尙長女萬里子(大一一、三、生、門司高女在學)二女和子(昭九、二、生)あり(門司市門司二八八ノ一電門七七)

**深尾榮四郎** 從五位、電信技師、電氣局技術課  
 妻 貞子 明三六、一〇、生、西田實藏二女  
 男 貞夫 大四五、五、生

君は明治三十二年五月を以て生れ大正十二年東京帝國大學工學部電氣工學科を卒業直ちに電信省に入り電氣局局員となり翌十三年五月電信技師に任じ現時電氣局技術課電氣試驗所勤務たり昭和八年電氣通信技術委員會專門委員を命ぜらるる家族は尙三男敬(昭六、一、生)あり(東京市杉並區西田町一ノ七八〇)

**深尾代治** 從五位勳六等、宮内省技師、内匠  
 妻 明三五、八、生、靜岡、赤堀作十長  
 女 掛川高女出身

君は東京府人今村四郎の二男にして明治二十三年十二月二十八日を以て生れ深尾家の養子となり家督を相続す大正四年東京帝國大學工學部土木工學科を卒業し同七年三重縣技師に任官同十年宮内省技師に轉じ内匠察勤務を命ぜらる昭和七年内匠察臨時帝室博物館造營課勤務を命ぜられ爾來今日に至る大弓に興味を有す家族は尙二男二郎(昭二、六、生)長女よし子(同九、七、生)あり(東京市世田谷區上馬町三ノ八九一電世田谷三三三五)

**深江市五郎** パーソン商會、自轉車商  
 福岡縣在籍  
 妻 明三六、一〇、生、二男英一妻、福岡  
 男 明三六、一〇、生、福岡、中野專造三女  
 女 明三六、一〇、生、福岡、中野專造三女

君は福岡縣人深江平藏の五男同清の叔父にして明治三年四月を以て生れ分れて一家を創立す現にパーソン商會と稱し自轉車商を營む家族は尙孫健一(昭二、一、一)

**深尾七郎** 工學博士、東京帝國大學工學部講  
 師、帝國火藥工業取締役兼技師  
 妻 重彦 明四三、七、生  
 男 正夫 大元、八、生  
 女 鬼喜衛 大元、八、生

君は滋賀縣人深尾長助の長男にして明治十四年一月を以て生れ大正六年家督を相続す又一商店と稱し洋傘商を營み併ら前記會社の重役たり家族は尙二男恭三(大正一〇、生)三男進雄(同八、一、生)四男清三(同二〇、一、生)長女ひさ子(同二四、二、生)三女みち子(昭三、九、生)ありA一〇三〇B二五三(大阪市東區淡路町四ノ二六電日本局三〇七)

**深尾貞** 國産肥料常務取締役、日本海電  
 氣小松電氣、第二國産肥料各務  
 取締役、メトロ電氣監査役  
 妻 美代 明二五、一、生、東京、士、遠藤  
 父 次郎 安政二、五、生  
 母 實郎 大二、一、生、東大工學部在學

君は東京府人今村四郎の二男にして明治二十三年十二月二十八日を以て生れ深尾家の養子となり家督を相続す大正四年東京帝國大學工學部土木工學科を卒業し同七年三重縣技師に任官同十年宮内省技師に轉じ内匠察勤務を命ぜらる昭和七年内匠察臨時帝室博物館造營課勤務を命ぜられ爾來今日に至る大弓に興味を有す家族は尙二男二郎(昭二、六、生)長女よし子(同九、七、生)あり(東京市世田谷區上馬町三ノ八九一電世田谷三三三五)





**深水 吉敬** 熊本縣多額納稅者、農業  
 君は熊本縣人深水長胤の長男にして明治二年五月を以て生れ同十四年家督を相続す同二十七年日本法律學校を卒業し京城漢城新聞京城日報主幹となり京城民間議員同商業會議所議員同副會頭及び日韓殖産會社取締役等に擧げられ現時熊本米穀取引所理事たり昭和三年以來衆議院議員に當選すること三回現に國民同盟に屬す妹セイ(明六、一一生)は熊本縣土族岡原徹範弟媳に同セツ(同二、一一生)は同縣土族小早川秀雄に嫁し弟靜(同八、一一生)同妻のぶ(同八、一一生)愛知、秋田伊左衛門(五女)は其子女を伴ひ分家せり(熊本市木戸組町四九電二三八四)

**深水 貞吉** 正四位勳二等、海軍主計中將  
 長崎縣在籍  
 妻 ユキ 明一、八生、長野、小秋元三八  
 男 正 策 明三三、九生  
 男 正 通 明四二、八生  
 男 正 朝 明四三、一一生  
 女 正 子 明四三、一一生

**深水 嘉重** 福島縣多額納稅者、吳服商  
 君は福島縣人深水正俊の長男にして明治十五年四月を以て生れ大正九年家督を相続す吳服商を營み福島縣

**深水 貞吉** 正四位勳二等、海軍主計中將  
 長崎縣在籍  
 妻 ユキ 明一、八生、長野、小秋元三八  
 男 正 策 明三三、九生  
 男 正 通 明四二、八生  
 男 正 朝 明四三、一一生  
 女 正 子 明四三、一一生

**深水 辰次郎** 秩父セメント採取取締役兼營業部長  
 日本陶業、日本煉瓦製造各取締役、建築材料商、愛知縣在籍  
 妻 千代 明二五、二生、東京、村井正利四  
 女 敬一 大五、一一生  
 男 敬子 大五、一一生

吹田 鉦三郎

青森商工會議所副會頭、青森縣多額納稅者、青森貯蓄銀行頭取、荒物雜貨商、青森縣在籍  
 妻 こと 明二六、一一生、青森、伊東順藏養子  
 妻 ナミ 明三二、一一生、養父鉦三郎長女  
 君は青森縣人西谷末吉の二男にして明治三十八年九月を以て生れ先代吹田鉦三郎の養子となり後家督を相続し前名久藏を改め鉦名す雜貨荒物商を營み傍ら前記銀行の頭取にして直接國稅二千六百九十一圓を納め青森縣多額納稅者に列す又推されて青森商工會議所副會頭たり兼に青森商業銀行及び金城會社監査役に擧げらるる家族は尙養妹イト(明四二、一〇生)同とみ(大三、九生)あり(青森市大町電二四〇)

吹原 莖彦

名古屋味噌味噌監査役、吹原味噌店代表社員、日本貯蓄銀行員、愛知縣在籍  
 妻 眞 安政三、八生、愛知、關戸内兄三女  
 妻 篤 明四一、四生、愛知、寺島彦一郎  
 男 洋 昭五、五生

吹譯 健吉

從四位勳四等、判事、五所川原區裁判所判事、島根縣在籍  
 妻 謙 明一九、五生、高知、柳田安太郎長  
 男 卓 郎 明三五、一一生、九州帝國大學醫學部出身  
 男 敏 郎 明三七、一一生、早大高等師範部英文科出身  
 女 幸 子 明四一、二生、實踐女學校家事科出身  
 女 次 子 明四三、七生、豊原高女出身  
 男 越 郎 明四五、七生  
 女 惠美子 大五、一〇生、眞岡高女出身

福井 菊三郎

紀伊國屋、毛皮商  
 妻 さく 明七、八生、東京、増田よふ三女  
 妻 キク 明二六、一一生、廣島、後藤朝太郎妹、市立吳高女出身  
 男 精 一 大七、七生

福井 菊三郎

勳三等、三井會社常務理事、東神倉庫取締役會會長、三井礦山、三井茶、芝浦製作所各取締役、拓殖製信託、東洋棉花、遠東汽船各監査役、東京府在籍  
 妻 なつ 明八、六生、故貴族院議員江原素六長女、静岡高女出身  
 妻 孝 一 明三〇、二生、三井物産會社員、商學士  
 男 園 子 明三六、七生、長男孝一妻、男爵小原謙太郎妹  
 女 美代子 明三九、一一生、神戸商大出身

君は東京府人吹譯健吉の五男にして慶應二年三月二日を以て生れ後先代むの養子となり明治十七年家督を相続す同十六年東京高等商業學校を卒業し三井物産會社に入り爾來果進してシンガポール支店支配人香港支店長本店營業部長大阪社理各支店長常務取締役等を經て大正七年三井會社理事に擧げられ次いで常務理事となり現時三井會社の重鎮にして知られられ功により勳三等旭日中綬章を賜はるる書畫及讀書を趣味とし特に陶磁器の造詣深く「日本陶磁器と國民性」の著書あり家族は尙孫東一(大一一、八生、長男孝一長男)同治子(同一一、一一生、同長女)あり二女菊(明三一、一一生)は三菱電機會社員工學士石黒九一に三女壽々(同三七、一一生)雙葉高女出身は島根縣人佐渡卓に四女千代子(同四四、四生、女子學習院高等科出身)は木村久壽彌太嗣子正彦に嫁し三男殿(同三五、六生)は分家し子爵九鬼隆輝三女忠子(明三八、三生)を迎(五男米夫(同四〇、七生、青山學院出身)も亦分家して磯野長藏三女春子を迎ふ(五一、一一生)(東京市赤坂區青山南町六ノ一六電青山一六七六)  
 參照 子爵九鬼隆輝、男爵小原謙太郎、石黒九一、木村久壽彌太、伯爵東郷德太郎、上野精一、高島長幸、中橋武一、長谷川義市、藤越重太郎、松方幸次郎の項



平野町一ノ二五

福井 準造

從五位勳四等、日本倉庫振取締役

福井 利一

明三三、一〇生、長男利一妻、醫學博士、森田資孝三女

福井 尚

明四四、一〇生、長男利一妻、醫學博士、森田資孝三女

福井 家

福井家は往時より神奈川縣下豊田村に土着し、舊幕時代には正組頭等を勤めたる家柄にして、先代直吉は自由黨に屬し、衆議院議員に當選する事二回又神奈川縣農工銀行頭取に擧げらるる君は其長男にして、明治四年九月を以て生れ、大正六年家督を相續す、明治二十四年慶應義塾を卒業し、實業界に入り、現時日本倉庫會社の取締役たり、重役にして、神奈川縣多額納税者たりし事又、神奈川縣農工銀行頭取に推され、衆議院議員に當選する事前後二回に及び、司法大臣秘書官に任ぜらるる君、及散策を趣味とす、長女八重(明三三、一〇生、神奈川縣立高女出身)は、元衆議院議員龍野周一郎長男自由兒の二女次女(同三五、八生、出身校同上)は、元衆議院議員木村清三郎長男清司の三女次女(同三七、五生、出身校同上)は、神奈川縣人比企野千代四に嫁テ、(同六、五生)は、元金澤醫學專門學校教授佐々木達同(同一〇、一〇、六生)は、元衆議院議員内山安兵衛に同マツ(同一九、一〇生)は、群馬縣人小林桂助に嫁し、弟卓爾(同二二、四生、早大出身)は、分家セリ、(神奈川縣中部豊田村) 參照||内山安兵衛、木村清三郎、龍野自由兒、森田資孝の項

福井 正太郎

福井商店取締役、取締役、文房具商

福井 庄次郎

油商

福井 清作

土木建築請負業

福井 清次郎

大日本電業監査役、錫物商

卒業し現時福井商店取締役にして前記會社の重役を兼ね、大阪鉛筆工業組合理事長大阪文具商同業組合長の職にあり、家業として文房具商を督む、家族は尙三女(女一〇、一〇、八生)三男春雄(同二、一〇、四生)あり、A五(五、大阪市東區平野町二ノ二七電本局六一七四) 參照||福井庄次郎の項

福井 庄次郎

福井商店社長、備前イノキ製造

妻 正太郎 明一〇、四生、大阪、東興吉妹

男 健三 明三三、四生、關西學院高等部出身、福井商店監査役

男 道子 明四五、七生、四男健三妻、大阪高田邊次郎三女

女 常太郎 明二三、三三、四女道子夫、京都比留田英三兄、福井商店取締役

女 池子 明三四、九生、養子常太郎妻

女 吉郎 明三三、二生、五女ヒロ夫、兵庫松尾平吉二男、早大出身

女 ヒロ 明三七、二生、養子吉郎妻、夕陽丘高女出身

女 カツ 明三、八、六生、相愛高女出身

君は大阪府人先代庄次郎の長男にして、萬延元年十一月を以て生れ、明治十五年家督を相續し、前名松太郎を改め、養子にナレ、及唐雜貨類商を督みし、及成し、斯業界の牛耳を執るに至り、大正十年營業を株式組織に改め、現に其社長たり、家族は尙孫喬一(大一、二、八生、養子常太郎長男)同恒子(同二、二、八生、同長女)同由紀子(昭四、八生、養子吉郎長女)あり、A五七二六(大阪市東區平野町二ノ甲一電本局四〇一九) 參照||福井正太郎の項

福井 庄次郎

京都市在籍

妻 つき 明七、七生、京都、河合榮松妹

男 孝次郎 明三三、一〇生

妻 地恵子 昭三三、四生、宮城、末永正姫

君は京都府人野村清太郎の二男にして、文久二年七月を以て生れ、先代庄次郎の長男にして、明治十五年家督を相續

弟竹松(明一三、一〇生)同妻トヨ(同二、一〇、八生)大阪、清水忠五郎(三女)及其八子女あり、A八〇七(七一〇)大阪市東區博愛町一ノ五三電船場二九三〇

稱し、石鹼商を督む、外日東石鹼會社監査役たり、家族は尙

福井 玉夫

正五位、理學博士、東京文理科大

妻 かほる 明三三、四生、宮城、末永正姫

男 奈美夫 大一五、九生

君は東京府人福井玉五郎の長男にして、明治二十四年九月を以て生れ、同三十二年先代祖父次郎の爵を承け、家督を相續す、大正六年東京高等師範學校博物學部及同九年東京帝國大學理學部動物學科を卒業し、第四師範高等學校教授を経て、昭和五年東京高等師範學校教授に轉じ、現に東京文理科大學教授を兼ね、尙附屬海軍實驗所長たり、家族は尙長女雪子(大一、二、一〇生)二女不二子(同二、一〇、一〇生)二男日出夫(昭三、四生)あり、(東京市小石川區原町二七) 參照||福井正太郎の項

福井 長吉

酒商

妻 信一 明三、一〇生、養子つじ夫、兵庫豊原順平弟

養子 信一 明三、一〇生、養子信一妻、兵庫廣瀨大藏三女

君は兵庫縣人福井彌兵衛の二男にして、明治四年十一月十七日を以て生れ、同三十二年兄福井庄次郎より分れて一家を創立す、酒商を督む、家族は尙孫靜子(大一、四、六生、養子信一長女)同政江(昭二、七生、同二女)同良次(同五、一〇生、同長男)あり、A四三六(七八七)西宮市本町三ノ一五電三三一

福井 哲之助

安田銀行福井支店長

妻 澄江 昭三〇、二生、大阪、都安右衛門

女 慶應二、一〇生、兵庫、西利平三

君は兵庫縣人福井好太郎の長男にして、明治二十二年一月を以て生れ、同三十二年家督を相續す、同三十三年安田銀行に入り、平澤仁川各支店長を経て、現時同福井支店

福井 英雄

洋品雜貨商

妻 ナカ 明一五、九生、福岡、武石清次郎妹

男 英一郎 明三八、九生

女 千鶴子 明四三、二生、長男英一郎妻、東京伊藤清四女

女 スミ 明四三、一〇生

女 淳子 明四三、一〇生

女 龍子 大五、三三

君は東京府人福井新助の五男にして、明治三十年七月二十一日を以て生れ、大正六年家督を相續す、同十一年慶應義塾理財科を卒業し、爾來實業商を督む、宮城屋と稱す、又推されて、東京市京橋區會議員たり、家族は尙長女佐喜(昭二、四生)二女世智(同三、一〇生)三女名雄子(同六、一二生)四女慶伊(同八、七生)あり、兄澄之助(明一八、九生)は、神奈川縣人金子善吉の死跡を相續し、姉セイ(同二五、三三、共立女子職業學校出身)は、東京府人鈴木金太郎長男吉太郎に嫁せり、A七八六(東京市京橋區淺町一ノ七ノ三電東橋二九一) 參照||福井正太郎の項

福井 英雄

洋品雜貨商

妻 ナカ 明一五、九生、福岡、武石清次郎妹

男 英一郎 明三八、九生

女 千鶴子 明四三、二生、長男英一郎妻、東京伊藤清四女

女 スミ 明四三、一〇生

女 淳子 明四三、一〇生

女 龍子 大五、三三

福井 竹松

日東石鹼監査役、花井花香舎、石鹼商、大阪府在籍

妻 なつ 明一六、六生、滋賀、寺田良之助

君は大阪府人先代大治郎の長男にして、元治元年十一月八日を以て生れ、明治十六年家督を相續す、花井花香舎と

福井 太七

金銀業

妻 ツナ子 明二四、五生、大阪、今津治助姉

女 大六、一〇生

君は大阪府人先代福井太七の三男にして、明治十九年三月二十一日を以て生れ、同四十四年家督を相續し、前名久藏を改め、鑛業を督む、A八三三(七二二、四四)(大阪府住吉區住吉町九三三ノ一二電或二六三七) 參照||福井正太郎の項

福井 太七

大阪府在籍

妻 ツナ子 明二四、五生、大阪、今津治助姉

女 大六、一〇生

君は大阪府人先代福井太七の三男にして、明治十九年三月二十一日を以て生れ、同四十四年家督を相續し、前名久藏を改め、鑛業を督む、A八三三(七二二、四四)(大阪府住吉區住吉町九三三ノ一二電或二六三七) 參照||福井正太郎の項

君は福岡縣人福井衛門の二男にして明治六年七月二十日...

福井 益造 正六位勳六等、松江商工會議所...

福井 稔 正五位勳五等、奈良女子高等師範...

福井 彌平 福井彌平商店代表取締役、湖東...

福井 彌助 大阪府在籍、井上藤次郎長...

福井 彌平 福井彌平商店代表取締役、湖東...

福井 彌助 大阪府在籍、井上藤次郎長...

君は福岡縣人福井衛門の二男にして明治六年七月二十日...

福井 彌助 大阪府在籍、井上藤次郎長...

福井 彌平 福井彌平商店代表取締役、湖東...

福井 彌助 大阪府在籍、井上藤次郎長...

福井 彌平 福井彌平商店代表取締役、湖東...

福井 彌助 大阪府在籍、井上藤次郎長...

福井 彌平 福井彌平商店代表取締役、湖東...

君は福岡縣人福井衛門の二男にして明治六年七月二十日...

福井 彌助 大阪府在籍、井上藤次郎長...

福井 彌平 福井彌平商店代表取締役、湖東...

福井 彌助 大阪府在籍、井上藤次郎長...

福井 彌平 福井彌平商店代表取締役、湖東...

福井 彌助 大阪府在籍、井上藤次郎長...

福井 彌平 福井彌平商店代表取締役、湖東...

君は福岡縣人福井衛門の二男にして明治六年七月二十日...

福井 憲由 日本興業銀行行務課長、貸付課長...

福井 憲由 日本興業銀行行務課長、貸付課長...

福井 憲由 日本興業銀行行務課長、貸付課長...

福井 憲由 日本興業銀行行務課長、貸付課長...

福井 憲由 日本興業銀行行務課長、貸付課長...

福井 憲由 日本興業銀行行務課長、貸付課長...

福井 憲由 日本興業銀行行務課長、貸付課長...

君は福岡縣人福井衛門の二男にして明治六年七月二十日...

福井 五郎 醫學博士、日本齒科醫學專門學校...

福井 五郎 醫學博士、日本齒科醫學專門學校...

福井 五郎 醫學博士、日本齒科醫學專門學校...

福井 五郎 醫學博士、日本齒科醫學專門學校...

福井 五郎 醫學博士、日本齒科醫學專門學校...

福井 五郎 醫學博士、日本齒科醫學專門學校...

福井 五郎 醫學博士、日本齒科醫學專門學校...

君は福岡縣人福井衛門の二男にして明治六年七月二十日...

福井 清一郎 東京府在籍、東京府主族...

福井 清一郎 東京府在籍、東京府主族...

福井 清一郎 東京府在籍、東京府主族...

福井 清一郎 東京府在籍、東京府主族...

福井 清一郎 東京府在籍、東京府主族...

福井 清一郎 東京府在籍、東京府主族...

福井 清一郎 東京府在籍、東京府主族...



參照 子爵相良顯綱、子爵吉地郎、瓜生泰泰伯爵... 眞田幸治子爵京極高量男爵島津久英...

福岡平右衛門 麻布銀行取締役、大和屋、呉服... 妻 明一六、九生、東京、宮澤善藏二...

福岡萬兵衛 大府在籍... 母 屋 壽 明九、一二生、大阪、森田利兵衛...

福岡安次 從四位勳三等、檢事、浦和地方裁... 妻 明一六、一二生、東京、白井孝義...

法科大學獨法科を卒業し同三十九年判事に任じ福岡神... 戸各地方裁判所判事を經て同四十二年判事に轉じ爾來...

福岡利三 東京温泉院主... 妻 明一八、五生、山口、宮川ノノ...

福川忠平 トキワ鉛工業代表取締役、林業... 妻 明一五、五生、静岡、中山曹一郎...

君は故福澤諭吉翁の四男にして同太郎の弟同桃介の... 養弟同吉の養叔父なり明治十六年七月二十四日を以...

府立第三高女出身)は静岡縣人杉村七太郎弟正に養子... 壽惠(同二四、九生、静岡、山田澄一姉)は前記中山...

福喜多靖之助 日本金網製糖取締役、王子製紙監... 妻 明一五、一五生、大阪、小島喜三郎...

福澤一太郎 慶應義塾社頭、交詢社理事... 妻 明一〇、一〇生、東京、大澤三之助...

君は故福澤諭吉翁の長男にして文久三年十月を以て生... れ明治二十七年家督を相続す父諭吉は舊中津藩士に...

福澤駒吉 矢作水力、昭和曹達、東海曹達、... 妻 明二九、三三、三三、東京、福澤一太郎...

福澤七五郎 寫眞通信社社長... 妻 明四一、三三、三三、東京、福澤一太郎...

福澤大四郎 日本自動車道社長、大日本自動... 妻 明四一、三三、三三、東京、福澤一太郎...

福澤彦三郎 魚津銀行取締役、入善銀行監... 妻 明三三、一五、一五、東京、馬屋原二郎...

君は富山縣人福澤助の長男にして明治八年七月を以... て生れ同十三年家督を相続す父に實業界に入り同三十...

福澤桃介 愛知電氣鐵道、昭和電力各種相談... 妻 明三三、一五、一五、東京、馬屋原二郎...

福澤義男 正路喜社監査役... 妻 明三三、一五、一五、東京、馬屋原二郎...

君は長野縣人福澤大郎の二男にして明治二十四年九... 月を以て生れ昭和四年始ち五方より分れて一家を創...

福島郁三 正四位勳三等、工學博士、元京都... 妻 明二六、八生、京都、岩田章子姉...

京區小山花ノ木町二七番西陣四一五〇

參照 福島昌の項

福島 一郎

大阪府在籍

君は大阪府人福島正吉の二男にして大正六年十一月を以て生れ同十四年家督を相続す家産家たり家族は尙妹綾子(大一一、一生)弟英次郎(同一三、一生)ありA七〇六(大阪市東區常盤町二ノ六一電東一四五五)

福島 市藏

東京市本所區議員、石鹼製造業

父 元次郎 元治元、六生、現戶主  
母 トロキ 慶應二、四生、東京、飯塚定四郎  
妻 トロキ 明三三、一生、東京、森田昌次郎  
男 喜一郎 大八、四生  
女 房子 大八、五生

福島 銳雄

從七位勳六等功五級、陸軍歩兵中尉、河合製器製作所顧問

君は東京府人福島元次郎の長男にして明治二十二年四月九日を以て生れる石鹼製造業を營み本所區會議員たり家族は尙二男俊雄(大一一、一生)妹富美(明四〇、一生)同(同四二、一生)同(同四四、一生)あり長女方子(大五、八生)は東京府人若山フミの養子となり妹は尙(明三一、四生)は同夫友吉(同二八、四生)千葉、關口善美(弟)と共に分家し弟安(同三三、七生)も亦分家し妹しげ(同三六、七生)は同府人太橋正雄に嫁せりA六六〇B一三一(東京市本所區江東橋三ノ五電本所四三五二)

福島 喜三

東京市本所區議員、石鹼製造業

君は東京府人福島元次郎の長男にして明治二十二年四月九日を以て生れる石鹼製造業を營み本所區會議員たり家族は尙二男俊雄(大一一、一生)妹富美(明四〇、一生)同(同四二、一生)同(同四四、一生)あり長女方子(大五、八生)は東京府人若山フミの養子となり妹は尙(明三一、四生)は同夫友吉(同二八、四生)千葉、關口善美(弟)と共に分家し弟安(同三三、七生)も亦分家し妹しげ(同三六、七生)は同府人太橋正雄に嫁せりA六六〇B一三一(東京市本所區江東橋三ノ五電本所四三五二)

福島 幸重

長野縣多額納税者、市岡屋商店社長、南信銀行、安藝電氣、池田鐵道各取締役、信濃鐵道監査役、酒造業、長野縣在籍

君は長野縣人福島廣吉の長男にして明治二十七年八月を以て生れ大正十年家督を相続す酒造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして直接納税五百三十二圓を納め縣下の多額納税者たり家族は尙二男忠雄(大一一、一生)長女祥子(明四四、五生)弟勝治(明四〇、一生)妹和恵(同四四、五生)あり同(同三七、一〇生)は長野縣人小池元男に嫁せり(長野縣北安曇郡大町電一〇)參照 上原一二郎の項

福島 四郎

從四位勳五等、男爵、陸軍歩兵中佐、東京府在籍

君は先代安正より家名を揚ぐ安正は舊松本藩士にして夙に蘭式兵學を學び後開成所大學南校に學び西南役征討軍團書記として従軍し明治十一年陸軍中尉に任じ累進して陸軍大尉に陞る先是獨逸公使館附武官となり同二十五年歸朝の際伯林を發し單騎西比利亞橫斷の壯舉を敢行し勇名を中外に宣揚せり後歐亞の各地を旅行し清國に派遣せらるる事十餘回日清の役には第一軍參謀官領地民政官として功四級に北清事變には臨時派遣軍司令官北清聯合軍參謀として功三級に日露役には大本營陸軍參謀滿洲軍參謀として帷帳に參じ功二級に敘せられ同四十年勳功に依り華族に列し男爵を授けらる後參謀次長兼東宮御用掛關東都督等となる君は安正の四男にして明治二十年八月十四日を以て生れ大正九年襲爵す明治四十二年陸軍歩兵少尉に任じ累進して同中佐に陞り昭和六年豫備役に編入せらる其間近衛歩兵第三聯隊附歩兵第一聯隊附等に歴補す本務の餘暇青少年社會教育に従事し大正十五年少年團教育研究の爲歐

福島 喜三

三井省考査課長兼調査部長、佐賀縣在籍

君は佐賀縣人福島喜平の六男にして明治十四年十月を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す明治三十七年東京高等商業學校を卒業し現時三井省考査課長兼調査課長にして兼に三井物産會社本店參事同社上海支店長たりし事あり其間上海共同租界參事會員上海萬國商業會議所委員に擧げらる家族は尙二男良雄(大四、七生)三男宏(同七、一〇生)四男新吾(同一〇、五生)あり(東京市品川區上大崎三ノ三六二電高輪二六七八)參照 杉村陽太郎 柴田雄次 杉村英三郎 柴田木康 道の項

福島 喜藏

相續稅審査、大阪市區教化各委員、大阪府在籍

君は兵庫縣人梶原重三郎の三男にして明治十一年六月を以て生れ先代喜藏の養子となり同十四年家督を相続し前名松太郎を改め襲名す夙に大阪高等商業學校を卒業し地家主にして現時前記の公職にあり兼に攝津紡織大阪土地運河外教會社の重役にして又大阪府會議員同區會議員學務委員等に推さる明治三十九年大阪信託會社を創立同四十四年イヅミヤ自動車會社を設立し近畿中國九州等各地の運輸業界に盡す所抄からず書畫日本音楽を趣味とす家族は尙四男四郎(大七、一〇生)天王寺中等在學)あり二女善美(明四二、六生)は大阪府人莊保藤次男龜太郎に嫁せりA二二九〇(大阪市東區豊後町二六電東三五三〇)

福島 吉之助

兵庫縣在籍

父 吉次郎 嘉永五、四生、現戶主  
母 ぎん 嘉永三、二生、兵庫、田中傳左衛門長女  
妻 ハツエ 明三二、一生、兵庫、久保佐藏長女

福島 治三郎

越前電氣、河野水電各取締役、福井縣在籍

君は福井縣人榮原治右衛門の二男にして明治十年五月を以て生れ福島文衛の養子となり大正五年榮原文右衛門方より分れて一家を創立す教育事業に盡すこと十有七年大正二年教育功勞者として文部大臣より獎選せらる福井紡織會社工場長たること多年現時前記各會社の重役たり(福井縣今立郡鯖江町電三四四)參照 福島文右衛門の項

福島 茂富

丸玉商店、丸玉商店北店、精養軒各取締役、大日本麥酒、日本製各製糖製作所各監査役、東京府在籍

君は東京府人須田宜の弟にして明治二十一年十一月を以て生れ先代りやらの養子となり大正十二年家督を相続す兼に日本麥酒會社監査役兼庶務課長にして現時前記各會社の重役たりA三一四(東京市麻布區市兵衛町二ノ六二電赤坂九〇九)參照 須田宜の項

福島 繁

福岡縣在籍

妻 カネ 明七、四生、福岡、西川恩三女  
養子 順三 明三八年生、東北帝大金屬研究所員、理學士

福島 弘次郎

日本光學工業、菱美電機商會、西村漁業各監査役、三菱重工業監査會計部長、東京府在籍

君は石川縣士族福島弘毅の長男にして明治十七年八月二十七日を以て生れ同三十九年家督を相続す同四十年東京高等商業學校を卒業し現時三菱重工業會社會計部長にして傍ら前記各會社の重役たり家族は尙四女長子(大一一、一〇生)三男宏三(昭三、一生)あり長女光子(大四、五生)は岐阜縣人杉山操治長男に嫁せりA九二九(東京市荏原區中延町一〇八一電荏原二八六〇)

福島 源之助

日本貯蓄銀行登壇支店長、大阪府在籍

君は大阪府人福島彌兵衛の五男にして明治十七年一月を以て生れ大正八年兄清吉方より分れて一家を創立す先是明治十四年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し近江銀行に入り大阪廣島各支店長となり同行の昭和銀行に合併するや永代橋支店長に擧げられしも現時日本貯蓄銀行登壇支店長たり(豊橋市旭町四番丁)

福島 幸三

長野縣多額納税者、市岡屋商店社長、南信銀行、安藝電氣、池田鐵道各取締役、信濃鐵道監査役、酒造業、長野縣在籍

君は長野縣人福島廣吉の長男にして明治二十七年八月を以て生れ大正十年家督を相続す酒造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして直接納税五百三十二圓を納め縣下の多額納税者たり家族は尙二男忠雄(大一一、一生)長女祥子(明四四、五生)弟勝治(明四〇、一生)妹和恵(同四四、五生)あり同(同三七、一〇生)は長野縣人小池元男に嫁せり(長野縣北安曇郡大町電一〇)參照 上原一二郎の項

福島 幸重

長野縣多額納税者、市岡屋商店社長、南信銀行、安藝電氣、池田鐵道各取締役、信濃鐵道監査役、酒造業、長野縣在籍

君は長野縣人福島廣吉の長男にして明治二十七年八月を以て生れ大正十年家督を相続す酒造業を營み傍ら前記銀行會社の重役にして直接納税五百三十二圓を納め縣下の多額納税者たり家族は尙二男忠雄(大一一、一生)長女祥子(明四四、五生)弟勝治(明四〇、一生)妹和恵(同四四、五生)あり同(同三七、一〇生)は長野縣人小池元男に嫁せり(長野縣北安曇郡大町電一〇)參照 上原一二郎の項

**福島 繁三** 正五位勳五等、大日本聯合青年團常任理事、東京府在籍  
 妻 ソノ 女 二六、六生、東京、福島尙徳長  
 男 尙道 大四、七生

君は栃木縣人阿久津倫齋の二男にして明治二十一年十月を以て生れ後先代ソノ入夫となり家督を相続す大正三年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し北海道廳に任ぜられ爾來宮城縣加美郡長鹿兒島長野京都各府縣學務部長滋賀香川各縣警察部長青森縣内務部長を経て埼玉縣知事に任ぜられ昭和八年官を辭し現時前記の職に在り家族は尙三男英夫(六七、九生)長女智子(同〇、六生)四男彬(同二三、八生)三女高子(昭二、八生)五男和夫(同五、九生)あり二女一子(大五一、三〇九電九四六)

**福島 繁太郎** 永代企業取締役、日本ニキヤツトバイブ監査役、東京府在籍  
 妻 多 慶子 明三三、五生、東京、士、莊清次郎四女  
 女 慶子 明三三、五生、東京、士、莊清次郎四女

君は東京株式界に雄飛せる先代浪藏の長男にして明治二十八年三月を以て生れ大正八年家督を相続す同十年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し一時母校に止り副手たりしが後佛國及英國に遊學し同十四年歸朝す兼に福島同族會社取締役として遺業を繼承せしが現時前記各會社の重役たり家族は尙長女葉子(大九、六生)あり姉慶子(明二三、一〇生、東京府立第二高女出身)は高知縣士族松本正雄弟工士壽に嫁す(同三六、二生、東京女大社會學科出身)は前記東京府立第二高女出身)は同夫檢三(同二三、一〇生)に従ひ分家し弟耕治(同三〇、一〇生)も亦分家せり(同四四二、東京市神田區駿河臺一ノ五電神田六三八)

**福島 梅岡** 明一八、四生、京都、田中泰輔長女  
 妻 梅岡 女 明四三、五生  
 女 よし子 大二、九生

君は滋賀縣人福島謙次郎の長男にして明治十二年一月を以て生れ大正三年家督を相続す明治三十七年京都帝國大學醫學科大學を卒業し醫師にして現に福島外科病院を經營す長女文子(明四〇、二生)は大坂府人森野源次郎長男靜郎に嫁し弟都三(同二五、二生)は分家せり(同九六四、京都市下京區新町北小路上ル電下一四八五)

參照 福島郁三家當藏の項

**福島 貞藏** 七十七銀行、東洋及物各務監査役  
 父 貞藏五郎 元治元、一生、現戶主  
 妻 貞藏 明三六、七生、北海道、士、石田康妹  
 女 貞藏 昭三、一〇生

君は宮城縣人福島貞五郎の二男にして明治二十三年八月を以て生れる現時前記各銀行會社の重役たり父貞五郎は現に仙臺市會議員同商工會議所常議員等に推され又宮城銀行取締役外數會社の重役に擧げらるる家族は尙弟章吾(明三九、二生)妹たか(同四二、二生)あり長女仁子(大六、四生)は宮城縣人太田孝三に兄善藏(明一七、四生)は同縣士族遠藤たか(同二六、二生)に嫁す(同二六、七生)は伯母福島まきに各養子となり同三(同三一、五生)は群馬縣人庭球選手清水善造に嫁し弟雄治(同三六、九生)は分家せり(仙臺市東土樋町二八九電四二四)

參照 佐藤長太郎、清水善造、石田福六の項

**福島 文右衛門** 勳四等、福井縣多額納稅者、鯖浦電氣鐵道社長、福井縣在籍  
 男 健次郎 明四〇、六生

君は福井縣人先代文右衛門の長男にして明治六年八月を以て生れ同三十八年家督を相続し前名文治を改め現に現時前記會社の重役にして直接國稅千二百六十四圓を納め福井縣多額納稅者たり兼に貴族院議員に擧げられ福井縣農工銀行頭取の外越前電氣會社重役日本勸業銀行福井縣顧問たり二女ひさ子(明三六、九生)は東京府人白崎得男に嫁し庶子裕(大五、一〇生、福井、齊藤のぶ)は分家し妹しげ(明一〇、六生)同夫治三郎(同一〇、五生、福井、桑原治右衛門弟)は其子女を伴ひ弟惠治(同二七、八生)同妻さく(同二九、五生、福井、春日健治妹)も亦其子女を伴ひ各分家せり(福井縣今立郡鯖江町電一五)

參照 福島治三郎の項

**福島 政雄** 正五位勳四等、文學博士、廣島文理大學教授、熊本縣士族  
 妻 農 婦 明三一年生  
 女 順枝 大八一年生

君は熊本縣人にして明治二十二年二月を以て生れる同四十五年東京帝國大學文科大學哲學科を卒業し直ちに文部省に入り大正七年第二高等學校教授に任じ次で廣島

**福島 昌** 福島外科病院、醫師  
 母 まさ 安政三、五生、滋賀、松山佐平治長女

高等師範學校教授に轉じ同十四年獨英米各國へ留學を命ぜらる歸朝後昭和四年廣島文理大學教授となり現在に至る同八年文學博士の學位を授けらるる家族は尙三女直(大一四年生)二男昭雄(昭三年生)四女聰子(同六年生)三男邦男(同八年生)あり(廣島市吉島本町四〇六)

**福島 松太郎** 洋品雜貨商  
 祖母 まつ 安政元、八生、埼玉、奈良兵藏妹  
 母 きく 明一五、七生、茨城、早川喜代之助妹  
 妻 喜代子 明四三、六生、茨城、川島芳三郎二女  
 男 秀郎 昭七、一生

君は東京府人福島吉次郎の二男にして明治三十七年八月三十日を以て生れ昭和四年家督を相続す洋品雜貨商を營む家族は尙弟昌次郎(大二、二生)同三郎(同五、九生)同義正(同九、七生)あり(同三〇四B、一〇〇、東京市澁谷區上通三ノ二七電青山四四七)

**福島 彌兵衛** 福島屋、金融業  
 君は東京府人福島彌兵衛の三男にして大正三年二月二日を以て生れ先代福島彌兵衛の養子となり昭和二年家督を相続す福島屋と稱し金融業を營みて知らる(同七三九五B三八五、東京市本所區練馬一ノ六電本所五七八〇)

**福島 力太郎** 龜清樓、割烹業  
 妻 たつ 明三三、二生、東京、吉田大喜造三女  
 養子 フジ 明三二、二生、東京、緒實德松五女

君は東京府人福島政吉の長男にして明治十年二月を以て生れ大正八年家督を相続す割烹業を營み龜清樓の名で知らるる弟孝吉(明二〇、二生)は同妻せり(同二四、一二生、京都、中川元治郎妹)を伴ひ分家せり(同八一八〇B三二九、東京市淺草區下平右衛門町二三電圓淺草四〇〇〇)

**福島 松男** 大正製糖株式會社取締役、千代田機械製糖株式會社取締役  
 妻 貞子 明二四、八生、東京、増島文次郎長女  
 男 道夫 大四、二生

君は舊肥前佐賀藩主鍋島家譜代の臣福島九成の庶子にして明治十八年三月七日を以て生れ同二十七年分れて一家を創立す同三十八年東京高等工業學校應用化學科を卒業し機組日本皮革會社日韓瓦斯會社各勤務を経て同四十五年明治製糖株式會社創立に當り入りて技師長となり後同社取締役に擧げられし現時大正製糖株式會社代表取締役たる傍ら千代田機械製糖株式會社取締役たり弟九一(明二一、七生)は分家し同士郎(同二四、四生、東京高工出身)同妻とし(同二九、一一生、東京、高野辰藏四女)は其一男二女を伴ひ弟圭二(同二六、二生)同妻結城(同二八、九生、東京、小林莞爾妹)は其二男四女を伴ひ各分家し妹ヤエ(同二七、一〇生)は長野縣人小澤馬太郎三男清三に嫁せり(東京市向島區吾嬬町七ノ一七)

參照 一七條於苑吉の項

**福島 安次郎** 姫路商工會議所會頭、福島兄弟商店代表社員、兵庫縣在籍  
 妻 はま 明九、三生、兵庫、谷田治兵衛二女  
 養子 文子 明四一、七生、兵庫、瀧岡林藏長女

君は兵庫縣人廣瀬藤兵衛の長男にして明治十二年五月四日を以て生れ先代藤兵衛の養子となり大正三年家督を相続す現時前記會社の重役にして姫路商工會議所會頭所得稅調査委員兵庫縣料理業聯合會長等に擧げられ兼に日本製氷會社重役にして兵庫縣多額納稅者に列す(姫路市西魚町九電一〇三)

**福住 九藏** 富士箱根自動車、箱根ホテル各務取締役、福住旅館、温泉旅館業  
 妻 澄子 明二〇、二生、養父九藏長女  
 養子 俊次 明二三、六生、養子西子夫、神奈川、矢野時一郎弟  
 養子 西子 明三〇、五生、養子俊次妻、養父九藏四女

君は神奈川縣人加藤宗兵衛の二男にして明治十四年五月を以て生れ先代九藏の養子となり大正七年家督を相続し養父福住旅館と稱し温泉旅館業を營み傍ら前記會社の重役に任ぜられ神奈川縣多額納稅者に列す家族は尙孫正太郎(大五一、一〇生、養子俊次長男)同修治(昭四、二生、同二男)養叔母サト(元治元、二生)あり養妹ユキ(明二三、二生)は愛知縣人向坂喜平二男清助に同嫁し(同二三、一〇生)は神奈川縣人矢野一郎に養叔母リヤウ(同二、五生)は同縣人川本靜右衛門長男悦郎に同嫁し(同七、一〇生)は同縣人猪熊元之助に嫁

せり(神奈川県足柄下郡湯本町電二三八)

福田 あい 家主 大阪府在籍

養子 吉兵衛 明一四、三三、兵庫、生駒治兵衛

福田 環二 福田桑商事務取締役、京阪デ

福田 浅次郎 福田桑商事務、元永堂、美術骨董茶

君は京都府人福田元永の三男にして見島嘉助の實弟

福田 一 覺 從四位勳三等、判事、松山地方裁

母 せん 安政二、八生、岡山、栗井鹿六長

君は岡山縣人福田康五郎の長男にして明治八年二月を

福田市十郎 津反物商 京都市在籍

君は京都府人先代市十郎の長男にして明治四十四年二

母 ノブ 長女 明一四、三三、大阪、松村茂三郎

福田 岩松 鐵道商 大阪府在籍

君は大阪府人福田鐵之助の長男にして明治三十八年一

福田 卯助 乾物商 愛知縣在籍

君は愛知縣人先代卯助の二男にして明治二十六年十一

男 啓二 明二三、一三、正六位勳五等、

福田 英助 都新聞、兩野工業各社社長、横濱取

君は愛知縣土族福田實の長男にして安政三年十月を

福田 嘉五郎 大仁同醫院、醫師 東京府在籍

君は鹿兒島縣人福田富人の二男にして明治五年十一月

福田 關次郎 衆議院議員(京都府選出)、製菓業

父 彦 弘化元、一〇生

君は山口縣人福田彦蔵の三男にして明治十五年三月を

福田 喜平 福田商店、織物商 東京府在籍

君は群馬縣人福田盛三郎の三男にして明治十二年九月

福田 喜三郎 昭和銀行検査課主事 東京府在籍

妻 絹子 明三〇、六三、淺岡太三郎二女

君は京都府人福田萬七の弟にして明治二十二年一月を

福田 金次郎 北陸鐵道社長、大盛社取締役 東京府在籍

君は富山縣人福田萬七の弟にして明治十一年四月を以

九、六生)二女赤子(同一五、三生)あり長女赤子(明四二、三生)は東京府入秋田文英に嫁せり(東京市品川區南品川三ノ一二三電高輪六九一〇)

福田 熊治郎 大和染料専務取締役 奈良縣在籍

妻 ハル 明二五、二生、宮城、阿部多四郎 二女 大三、一二生、滿鐵幼稚園勤務、東京府女師附屬幼稚園習身出身

福田 象藏 地主 東京府在籍

妻 加代 明一〇、〇生、埼玉、野口直三 男 榮次郎 明二八、八生、明治藥專在學 女 シヅ 明三八、一〇生、青山女學院高等女學部出身

參照|| 福田堪二、福田篤治郎の項 福田 製装雄 從四位勳三等功四級、陸軍中將、臺灣守備隊司令官、佐賀縣在籍

福田 繼治郎 岐阜縣多額納税者、濃飛農工銀行 監事、岐阜縣在籍

參照|| 河村富政、矢橋龍吉の項 福田 賢二 醫師 栃木縣在籍

君は和歌山縣小林徳三郎の三男にして明治十六年八月五日を以て生れ同三十八年福田守二の養子となる風

君は和歌山縣小林徳三郎の三男にして明治十六年八月五日を以て生れ同三十八年福田守二の養子となる風

六六八(大阪市西區本田町二ノ五九電西三〇二八) 福田 顯四郎 滿洲水産社長、大連取引所信託

君は佐賀縣土族福田連の長男にして慶應元年四月二十四日を以て生れ明治八年祖父時中の後を承け家督を相

福田 孝三 地主 東京府在籍

君は和歌山縣人先代勝平の庶子にして昭和六年二月九日を以て生れ同七年家督を相続す資産家たり家族は尙

君は千葉縣土族福田毅太郎の長男にして明治二十年十一月を以て生れ大正十三年家督を相続す明治四十三年

君は和歌山縣人福田定吉の弟にして明治九年七月十八日を以て生れ大正八年分れて一家を創立す大津屋と稱し

君は京都府人先代福田重助の二男にして明治十四年六月を以て生れ昭和七年家督を相続し前名千治郎を改め

君は東京府人先代甚五兵衛の長男にして明治三年十月を以て生れ同三十九年家督を相続し前名藤太郎を改め

福田 俊 黒部川電力専務取締役、日本拓 業取締役、和歌山縣在籍

君は東京府人先代甚五兵衛の長男にして明治三年十月を以て生れ同三十九年家督を相続し前名藤太郎を改め

治三十五年二月を以て生る大正十五年東京帝國大學工學部電氣工學科を卒業し現時同大學助教授にして工學部に勤務す父忠之丞は夙に帝國大學に學び日々精進に...

福田 節造

住友銀行藤道頓堀支店長 妻 節子 明三、一、一、生

福田 代造

栃木縣多額納税者、下毛肥料、鹿沼工業各社取締役、鹿沼運輸、大沼運輸各社取締役、鹿沼倉庫、鹿沼五合庫、鹿沼農業倉庫組合長、佐津屋、鹿沼商會、鹿沼在籍

東四四三

福田 庸雄

從四位勳三等、商工省鐵道局長兼臨時產業局理事官、社會局委員、熊本縣在籍

福田 鈞夫

日本貯蓄銀行藤道支店長 妻 まち 明一、一、九、生、愛知、鈴木つな 妻 菊枝 明四、八、一、一、生

福田 貞助

從四位勳三等功四級、海軍少將、野村生命保險顧問、山口縣在籍

君は栃木縣人先代代造の長男にして明治十年六月を以て生れ大正七年家督を相続し前名長造を改め義名す佐渡縣と稱し肥料商を営む傍ら前記銀行會社の重役にし...

福田 台三

福田又商店代表取締役、南大阪土地、日本強磁鐵各種取銷商、福田商店代表取締役、金物商

福田 爲造

正四位勳三等、長岡高等工業學校校長、長岡商工會議所顧問

福田 篤治郎

福田桑商事事務取締役 妻 美津 明二、二、二、生、養父兼長女

福田 敏夫

兵庫縣在籍 妻 やく 慶應元、二、生、兵庫、大崎卯平二

君は京都市人福田常七の長男にして明治九年十二月十日を以て生れ同十六年家督を相続す...

福田 恒次郎

京都市在籍 妻 キキ 明一七、八、生、京都、河村重次郎

福田 常太郎

從四位勳三等、陸軍三等軍醫、地方技師、愛知縣警務部衛生課長

福田 豊市

從五位勳五等、判事、廣島地方裁判所部長、島根縣在籍

福田 虎龜

正五位勳四等、衆議院議員(山梨縣選出)、辯護士、熊本縣在籍

大倉土木會社に入り同社参事を經て現時前記諸會社の重役たり家族は尚妹ミイ(明二六、七生)あり(東京市芝區高輪南町二八電高輪二一九一)

福田直治郎 黒川商店取締役 大阪府在籍 妻 長女 嘉永元、五生、大阪、的場三郎

福田彦助 從三位勳一等功四級、陸軍中將 山口縣士族 妻 ヤス

君は山口縣土族福田善助の長男にして明治八年十一月五日を以て生れ同九年家督を相續す同二十年陸軍士官學校を卒業し同三十年陸軍少將に任じ大正十四年陸軍中將に昇進す其間陸軍大學校を卒業し爾來陸軍省出任軍参謀官副官陸軍省人事課課長参謀本部參謀兼軍事参謀官副官陸軍省附武官補佐官歩兵第三十七聯隊大隊長歩兵第三十八聯隊附若松聯隊司令部官參謀本部附步兵第六聯隊長歩兵第六旅團長第十五師團司令部附下關要塞司令官第六師團長等に歴補し歐洲戰爭中露軍に従軍し又前後三回西伯利亞に出張昭和三年臨時山東派遣第六師團長として濟南事變に従軍す現時豫備役編入仰付けらる繪畫に趣味を有す家族は尙三男寛雄(大八、三生)あり(萩市梅屋町七二電二二五)

福田秀五郎 三井信託監査役、三信建物監査役、東京府在籍

君は豊松江藩士福田八十助の五男同節雄の叔父にして明治五年七月二十一日を以て生れ同三十五年分れて一家を創立す同三十二年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し三井銀行に入り神戸支店長本店營業部預金出納計算各係長となり同四十年銀行制度視察の爲歐洲各國へ派遣せられ同四十二年歸朝後長崎支店長本部秘書課長監査課長等を經て現時三井信託會社常任監査役にして前記會社の重役を兼ぬ家族は尙四女百合子(六一、七生)三男昭夫(昭二、七生)孫米子(昭七、一〇生)長男一雄(長女)あり長女秀子(昭四〇、八生)香蘭(女學校出身)は法學博士仁井田益太郎長男秀穂(昭二二)女文子(昭四二、一〇生)雙葉高女出身(昭四三)三男昭三(昭四二、一〇生)昭四(昭四二、一〇生)昭五(昭四二、一〇生)昭六(昭四二、一〇生)昭七(昭四二、一〇生)昭八(昭四二、一〇生)昭九(昭四二、一〇生)昭十(昭四二、一〇生)昭十一(昭四二、一〇生)昭十二(昭四二、一〇生)昭十三(昭四二、一〇生)昭十四(昭四二、一〇生)昭十五(昭四二、一〇生)昭十六(昭四二、一〇生)昭十七(昭四二、一〇生)昭十八(昭四二、一〇生)昭十九(昭四二、一〇生)昭二十(昭四二、一〇生)昭二十一(昭四二、一〇生)昭二十二(昭四二、一〇生)昭二十三(昭四二、一〇生)昭二十四(昭四二、一〇生)昭二十五(昭四二、一〇生)昭二十六(昭四二、一〇生)昭二十七(昭四二、一〇生)昭二十八(昭四二、一〇生)昭二十九(昭四二、一〇生)昭三十(昭四二、一〇生)昭三十一(昭四二、一〇生)昭三十二(昭四二、一〇生)昭三十三(昭四二、一〇生)昭三十四(昭四二、一〇生)昭三十五(昭四二、一〇生)昭三十六(昭四二、一〇生)昭三十七(昭四二、一〇生)昭三十八(昭四二、一〇生)昭三十九(昭四二、一〇生)昭四十(昭四二、一〇生)昭四十一(昭四二、一〇生)昭四十二(昭四二、一〇生)昭四十三(昭四二、一〇生)昭四十四(昭四二、一〇生)昭四十五(昭四二、一〇生)昭四十六(昭四二、一〇生)昭四十七(昭四二、一〇生)昭四十八(昭四二、一〇生)昭四十九(昭四二、一〇生)昭五十(昭四二、一〇生)昭五十一(昭四二、一〇生)昭五十二(昭四二、一〇生)昭五十三(昭四二、一〇生)昭五十四(昭四二、一〇生)昭五十五(昭四二、一〇生)昭五十六(昭四二、一〇生)昭五十七(昭四二、一〇生)昭五十八(昭四二、一〇生)昭五十九(昭四二、一〇生)昭六十(昭四二、一〇生)昭六十一(昭四二、一〇生)昭六十二(昭四二、一〇生)昭六十三(昭四二、一〇生)昭六十四(昭四二、一〇生)昭六十五(昭四二、一〇生)昭六十六(昭四二、一〇生)昭六十七(昭四二、一〇生)昭六十八(昭四二、一〇生)昭六十九(昭四二、一〇生)昭七十(昭四二、一〇生)昭七十一(昭四二、一〇生)昭七十二(昭四二、一〇生)昭七十三(昭四二、一〇生)昭七十四(昭四二、一〇生)昭七十五(昭四二、一〇生)昭七十六(昭四二、一〇生)昭七十七(昭四二、一〇生)昭七十八(昭四二、一〇生)昭七十九(昭四二、一〇生)昭八十(昭四二、一〇生)昭八十一(昭四二、一〇生)昭八十二(昭四二、一〇生)昭八十三(昭四二、一〇生)昭八十四(昭四二、一〇生)昭八十五(昭四二、一〇生)昭八十六(昭四二、一〇生)昭八十七(昭四二、一〇生)昭八十八(昭四二、一〇生)昭八十九(昭四二、一〇生)昭九十(昭四二、一〇生)昭九十一(昭四二、一〇生)昭九十二(昭四二、一〇生)昭九十三(昭四二、一〇生)昭九十四(昭四二、一〇生)昭九十五(昭四二、一〇生)昭九十六(昭四二、一〇生)昭九十七(昭四二、一〇生)昭九十八(昭四二、一〇生)昭九十九(昭四二、一〇生)昭一百(昭四二、一〇生)

福田總佐雄 地主 妻 明三、一〇生、東京、田中平兵衛

君は兵庫縣人福田謙之助の長男にして明治十三年三月を以て生れ同三十七年家督を相續す同三十九年東京帝國大學工科大学造船學科を卒業し三菱造船會社参事たりしが現時前記各學校の講師たり妹キヨ(昭一九、八生)は東京府人松野廣長男陸軍少將維繼に嫁せり(東京市芝區白金今里町八四電高輪八五八) 參照山梨縣之過の項

福田平兵衛 大政府在籍 妻 明一、八、五生、大阪、田淵彌三平

君は大阪府人先代平兵衛の長男にして明治十四年十一月を以て生れ同三十五年家督を相續し前名平太郎を改め現名平兵衛を稱す家族は尙三男忠三郎(昭四五、一〇生)四女弘子(昭三一、一〇生)あり長女瑞子(昭三八、一〇生)は大阪府人藤田隆之丞に嫁せり(昭二八、八八)一六二(大阪府西區北堀江御池通四ノ二八電新町二五七〇)

福田立五 妻 昭二、一〇生、京都、依田廣太郎

君は栃木縣人福田彦四郎の四男にして明治十二年四月二十七日を以て生れ大正十五年兄順太郎より分れて一家を創立す明治三十九年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し現時前記會社の重役にして三菱倉庫支配人たり家族は尙三女英子(大一一、八生)あり妹ハナ(昭二二、四生)は東京府人間庭秀夫に嫁せり(昭一八、五五)東京市麻布區宮村町七一電赤坂八〇五)

福田直治郎 黒川商店取締役 大阪府在籍 妻 長女 嘉永元、五生、大阪、的場三郎

福田彦助 從三位勳一等功四級、陸軍中將 山口縣士族 妻 ヤス

君は山口縣土族福田善助の長男にして明治八年十一月五日を以て生れ同九年家督を相續す同二十年陸軍士官學校を卒業し同三十年陸軍少將に任じ大正十四年陸軍中將に昇進す其間陸軍大學校を卒業し爾來陸軍省出任軍参謀官副官陸軍省人事課課長参謀本部參謀兼軍事参謀官副官陸軍省附武官補佐官歩兵第三十七聯隊大隊長歩兵第三十八聯隊附若松聯隊司令部官參謀本部附步兵第六聯隊長歩兵第六旅團長第十五師團司令部附下關要塞司令官第六師團長等に歴補し歐洲戰爭中露軍に従軍し又前後三回西伯利亞に出張昭和三年臨時山東派遣第六師團長として濟南事變に従軍す現時豫備役編入仰付けらる繪畫に趣味を有す家族は尙三男寛雄(大八、三生)あり(萩市梅屋町七二電二二五)

福田政之助 大阪三品取引所監査役 大政府在籍

君は和歌山縣人福田安治郎の五男にして明治二十三年十一月を以て生れ大正四年兄廣治より分れて一家を創立す同六年東京帝國大學理科大學植物學科を卒業し廣島高等師範學校教授を経て大正九年佐賀高等學校教授に任ぜられ現在に至る家族は尙二男健次郎(昭一一、三三)三男浩(昭一四、四六)六生(昭一八、三三)あり(佐賀市赤松町)

福田兵五郎 正五位勳六等、佐賀高等學校教授 三重縣在籍 妻 千枝

君は東京府人並木勝喜の二男にして明治八年八月を以て生れ同十三年東京府人並木氏を再興す同三十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し同四十二年東京府鐵道管理局技師に任じ獨逸各國に留學して大正七年熊本高等工業學校教授となり同九年更に英米瑞各國に留學して電氣學を專攻す歸朝後神戸高等工業學校教授に任じ昭和五年東京工業大學教授に任ぜられ今日に至る先は大正十二年工學博士の學位を受く家族は尙三女慶子(昭一四、一〇生)四女松子(昭一八、六生)五女良子(昭一五、一二生)あり二女ユリ子(昭一八、六生)は廣島縣人望月隆二郎に嫁せり(東京市大森區田園調布三ノ六七八)

福田豊 東京電燈營業部次長 東京府在籍 妻 豊太

君は三重縣人福田爲吉の弟にして明治十七年十二月を以て生れ大正十五年分れて一家を創立す明治四十二年東京帝國大學工科大学電氣工學科を卒業し東京電燈會社に入り理事監査課長に就き現に同會社營業部次長たり現時東京電氣工作所取締役東京電力會社理事に就任

福田 妻 昭二、一〇生、京都、依田廣太郎

君は兵庫縣人福田謙之助の長男にして明治十三年三月を以て生れ同三十七年家督を相續す同三十九年東京帝國大學工科大学造船學科を卒業し三菱造船會社参事たりしが現時前記各學校の講師たり妹キヨ(昭一九、八生)は東京府人松野廣長男陸軍少將維繼に嫁せり(東京市芝區白金今里町八四電高輪八五八) 參照山梨縣之過の項

福田 妻 昭二、一〇生、京都、依田廣太郎

君は三井信託會社の重役を兼ぬ家族は尙四女百合子(六一、七生)三男昭夫(昭二、七生)孫米子(昭七、一〇生)長男一雄(長女)あり長女秀子(昭四〇、八生)香蘭(女學校出身)は法學博士仁井田益太郎長男秀穂(昭二二)女文子(昭四二、一〇生)雙葉高女出身(昭四三)三男昭三(昭四二、一〇生)昭四(昭四二、一〇生)昭五(昭四二、一〇生)昭六(昭四二、一〇生)昭七(昭四二、一〇生)昭八(昭四二、一〇生)昭九(昭四二、一〇生)昭十(昭四二、一〇生)昭十一(昭四二、一〇生)昭十二(昭四二、一〇生)昭十三(昭四二、一〇生)昭十四(昭四二、一〇生)昭十五(昭四二、一〇生)昭十六(昭四二、一〇生)昭十七(昭四二、一〇生)昭十八(昭四二、一〇生)昭十九(昭四二、一〇生)昭二十(昭四二、一〇生)昭二十一(昭四二、一〇生)昭二十二(昭四二、一〇生)昭二十三(昭四二、一〇生)昭二十四(昭四二、一〇生)昭二十五(昭四二、一〇生)昭二十六(昭四二、一〇生)昭二十七(昭四二、一〇生)昭二十八(昭四二、一〇生)昭二十九(昭四二、一〇生)昭三十(昭四二、一〇生)昭三十一(昭四二、一〇生)昭三十二(昭四二、一〇生)昭三十三(昭四二、一〇生)昭三十四(昭四二、一〇生)昭三十五(昭四二、一〇生)昭三十六(昭四二、一〇生)昭三十七(昭四二、一〇生)昭三十八(昭四二、一〇生)昭三十九(昭四二、一〇生)昭四十(昭四二、一〇生)昭四十一(昭四二、一〇生)昭四十二(昭四二、一〇生)昭四十三(昭四二、一〇生)昭四十四(昭四二、一〇生)昭四十五(昭四二、一〇生)昭四十六(昭四二、一〇生)昭四十七(昭四二、一〇生)昭四十八(昭四二、一〇生)昭四十九(昭四二、一〇生)昭五十(昭四二、一〇生)昭五十一(昭四二、一〇生)昭五十二(昭四二、一〇生)昭五十三(昭四二、一〇生)昭五十四(昭四二、一〇生)昭五十五(昭四二、一〇生)昭五十六(昭四二、一〇生)昭五十七(昭四二、一〇生)昭五十八(昭四二、一〇生)昭五十九(昭四二、一〇生)昭六十(昭四二、一〇生)昭六十一(昭四二、一〇生)昭六十二(昭四二、一〇生)昭六十三(昭四二、一〇生)昭六十四(昭四二、一〇生)昭六十五(昭四二、一〇生)昭六十六(昭四二、一〇生)昭六十七(昭四二、一〇生)昭六十八(昭四二、一〇生)昭六十九(昭四二、一〇生)昭七十(昭四二、一〇生)昭七十一(昭四二、一〇生)昭七十二(昭四二、一〇生)昭七十三(昭四二、一〇生)昭七十四(昭四二、一〇生)昭七十五(昭四二、一〇生)昭七十六(昭四二、一〇生)昭七十七(昭四二、一〇生)昭七十八(昭四二、一〇生)昭七十九(昭四二、一〇生)昭八十(昭四二、一〇生)昭八十一(昭四二、一〇生)昭八十二(昭四二、一〇生)昭八十三(昭四二、一〇生)昭八十四(昭四二、一〇生)昭八十五(昭四二、一〇生)昭八十六(昭四二、一〇生)昭八十七(昭四二、一〇生)昭八十八(昭四二、一〇生)昭八十九(昭四二、一〇生)昭九十(昭四二、一〇生)昭九十一(昭四二、一〇生)昭九十二(昭四二、一〇生)昭九十三(昭四二、一〇生)昭九十四(昭四二、一〇生)昭九十五(昭四二、一〇生)昭九十六(昭四二、一〇生)昭九十七(昭四二、一〇生)昭九十八(昭四二、一〇生)昭九十九(昭四二、一〇生)昭一百(昭四二、一〇生)

福田正俊 關西日々新聞社、明石合同運送、明石養魚場各務社長、明石住宅經理、兵庫縣在籍 妻 健一 明四〇、三三

君は兵庫縣明石市の人先代加古忠兵衛の長男にして明治三年七月を以て生れ同十九年舊明石藩主松平家直屬の長壽院住職福田東洲の養嗣子となり家督を相續す夙に操觚界に入り關西日々新聞を創刊し三十有餘年間社長として之を經營し傍ら前記各會社の社長にして實業界に活躍す兼に美濃毎日新聞社長として大正十二年明石市選出兵庫縣議員に舉げられ所得稅調査委員同九年以來四期間引續き當選昭和五年家屋稅調査委員に推され又明石研究會長として市政の爲に盡す處多し家族は尙二男正靖(六一、一〇生)あり(明石市弓町一四六ノ七電六六七五)

福田正巳 從四位勳三等、洛東再整理事務取締役、共同貿易相包越取締役、京都府士族 妻 美和 昭二、二生、京都、士、添田達恒

君は京都府士族福田正方の長男にして慶應元年三月を以て生れ明治三十五年家督を相續す同二十三年明治法律學校を卒業し判檢事任用試験に及第檢事に任じ神戸大阪和歌山各地方裁判所檢事大阪長崎廣島各控訴院檢事松山地方裁判所檢事正等に歴補す退官後公證人となり後實業界に轉じ現時前記各會社の重役たり家族は尙三男幸子(大一一、三三)三男正材(昭二〇、九生)は和歌山縣人村上宏に二女(昭二四、一〇生)は京都府人足立泰藏長男醫學博士貫に三男雄藏(昭三五、三三)は分家せり(京都市上京區新町寺ノ門上京電西陣三〇六五)

**福田 良平** 家主 大阪府在籍  
母 正 義 大六、七生、府立今宮中学校在學  
君は大阪府人福田常藏の四男にして明治三十年一月二十日を生れ、昭和二年家督を相続し、成器商業學校を卒業し、家主にして資産家として知らる。家族は尙長女和子(大九、四生、市立西華高女在學)、二女里子(同一、九生)、二男常久(昭三、二生)あり。A九〇一(大阪府西區新町南一ノ七三)

**福田 亮一** 織物問屋業 愛知縣在籍  
妻 けい 明二、六、一、生、愛知、山村勘次郎  
男 亮 吉 大二、三生  
君は岐阜縣人先代十郎の二男にして明治十五年九月四日を生れ、同三十一年家督を相続す。手廣く織物問屋業を営み、人に知らる。家族は尙二男重亮(大六、三生)長女は子(大一〇、五生)二女あつ(同一三、一、生)三女きみ(同一五、七生)二男博亮(昭三、一〇生)あり。A九八二(名古屋西區下長者町二ノ一〇電本局一七五四)

**福田 六次郎** 大阪府多額納稅者、金融業 大阪府在籍  
妻 吉之助 明八、一、二、生、長女あひ、夫、大阪府六兵衛弟  
女 あい 明一、一、七、生、養子吉之助之妻、明三〇、七、生、養子吉之助之妻、三十四銀行員、經濟學士  
孫 貞太郎 明三六、五、生、孫貞太郎妻、兵庫波部本太郎二女  
孫妻 和榮 明三六、五、生、孫貞太郎妻、兵庫波部本太郎二女

孫 欣二 明三九、一、二、生、養子吉之助二男、大學生、一〇生、孫欣二妻、東京、上野景福妹  
孫妻 智子 元治元、四生、宮城、佐々木吉治二女、明二六、一、生、仙臺市長滋谷徳三郎二女、東京府立第二高女出身

**福武 豊造** 岡山縣多額納稅者、日本眞田、東山合同貯蓄銀行監査役、岡山縣在籍  
妻 魚子 明一六、一、生、先代豊太郎長女、明三七、九、生、不動貯金銀行員、慶大出身  
男 憲夫 明三三、一、生、兵庫、高島仁左衛門長女、姫路高女出身  
女 常子 明四四、七、生、早大在學、明四四、七、生、山陽高女出身

**福地 久吉** 勲六等功六級、大日本製氷、舞鶴製氷、近江製氷、但馬製氷、福知山製氷、若狹製氷、神繩製氷、山

**福地 言一郎** 三共會社員 東京府在籍  
母 葛 明一六、一〇、生、長崎、福地達雄長女

當家の先々代源一郎は櫻痴と號し、夙に蘭語を學び、天保六年横濱に出で開港の時より職を外國方に奉じ、其通辯翻譯に従ひ、文久二年歐洲に赴き、初めて新聞紙に著目し、倫敦巴里の諸名家に會して、其之が研究に努む。歸朝後、條野傳平廣岡幸助西田傳助の三氏と謀り、同三年「江湖新聞」を創刊せり。之本邦に於ける新聞紙の嚆矢にして、後東京日日新聞社長に就任、編輯の論陣を張りて、一世を矚目せしむ。又歌舞伎座を創立し、自ら劇作の筆を執る等、梨園に貢獻する所、尙先代信世は其長男にして、夙に東京帝國大學理學科地質學科を出で、古河鑛業會社技師となり、傍ら大原鑛業會社重役にして、財界に重きをなせり。君は信世の長男にして、明治四十四年三月を以て生れ、昭和九年家督を相続す。同七年東京帝國大學醫學部藥學科を卒業し、現に三共會社員たり。伯母むめ(文久二、一〇生)は西成市の母たり。東京市世田谷區野澤町一ノ四五電世田谷二二八

**福地 劍吉** 正五位勳三等、判事、大阪控訴院部長、三重縣在籍  
母 けい 萬延元、六生、片岡安右衛門二女  
妻 フミ 明二四、四生、北海道、士、足立、三妹、札幌高女出身  
男 比古太 大四、九生  
君は三重縣人福地太八郎の長男にして、明治十六年一月を以て生れ、大正九年家督を相続す。明治四十四年京都帝國大學法科大學獨法科を卒業し、同四十四年判事に任ぜらる。爾來山形地方同區札幌地方各裁判所判事、同前名古屋各控訴院判事、名古屋地方裁判所長、時控訴院各部長、及徳島地方裁判所長等に歴補し、現時大阪控訴院部長たり。其間北海道帝國大學の講師を兼ね、大正十五年歐米各國へ出張を命ぜらる。妹なを(明二七、四生)は岡山縣人佐藤太郎に嫁せり。(兵庫縣武庫郡精道村蘆屋) 參照 足立三、佐藤太郎の項

**福地 孫市** 正五位勳五等、判事、旭川地方裁判所部長、佐賀縣士族  
妻 キン 明一九、一、二、生、佐賀、士、野田、傳三郎長女  
男 種徳 大二、七、生  
女 登起 明四四、一、二、生  
君は佐賀縣人木下茂七の三男にして、明治九年八月を以て生れ、先代イソの養子となり、大正十三年家督を相続す。明治三十三年東京法學院を卒業し、大正元年判事、登用試験及辯護士試験に合格。同三年判事に任ぜられ、爾來松江區各裁判所判事、宮崎區各裁判所判事、宮崎地方裁判所判事、柳河區裁判所判事に歴補。現時旭川地方裁判所部長たり。(旭川市旭川地方裁判所内)

**福地 彌兵衛** 大黒屋大瀧、寄物商 東京府在籍  
妻 ハナ 明八、四生、東京、飯田三太郎長女

**福地 由廉** 正七位勳五等、宇治山田市市長 三重縣在籍  
妻 リウ 明一、二、生、佐賀、梶原俊平長女  
女 みや子 明四一、二、生、奈良女高師出身  
君は佐賀縣人先代由助の長男にして、明治三年三月を以て生れ、同三十三年家督を相続す。夙に所定の學業を修め、同二十三年裁判所書記に任ぜられ、會計検査院、佐賀縣廳を経て、同四十年佐賀縣三養基郡長に選む。後同縣神戶郡長三重縣河藝郡長等に歴任。同十四年三重縣内務部地方課長に轉じ、大正二年宇治山田市市長に就任し、一期に退任。松阪長井家の總務となり、家業の綿布貿易商を監視す。大正十五年再度神戶市長に迎へられ、現在に及ぶ二女みゆき(明四三、一、一、生)は東京府人麻生慶次郎長男博一に嫁せり。A一一八(宇治山田市本町電六五四)

**福地 國松** 大津商工會議所顧問、近江信託取組役、滋賀縣在籍  
妻 すて 明二五、一、生  
男 治一郎 明三六、二、生、長男治一郎妻、佐賀、池田確二妹  
女 八重子 賀、池田確二妹  
男 康三郎 明三七、一、生  
男 誠四郎 明四二、一、生  
君は滋賀縣人福地すゑの兄にして、明治二年五月二十六日を生れ、先代治郎右衛門の養子となり、家督を相続す。現時近江信託會社取組役に推されて、大津商工會議所顧問たり。家族は尙孫ハル(大一一五、四生、長男治一郎長女)同信(昭三、七生、同長男)あり。長女てい(明三一、八生)は滋賀縣人堀名一郎に嫁せり。三女みき(同四〇、七生)は同縣人川津庄兵衛長男正次に嫁せり。三女みき(同四〇、七生)は同縣人西川清藏に二男津二太郎(同二七、八生)は叔母すゑに各養子となれり。(大津市太間町六電五六〇) 參照 池田確二の項

**福地 惣治** 正五位勳四等、長崎稅關長、長崎商工會議所顧問、宮城縣在籍

**福地 只七** 農務商 福岡縣在籍  
妻 ヌタ 元治元、一〇生、福岡、梅津幸藏四女  
男 勳兵衛 明一八、二、生、養父只七長女、明三九、一、二、生  
女 憲護 明二九、三、生、二女セツ夫、福岡有吉徳太郎二男  
男 孝助 明四五、六、生、養子憲護妻



女 レイ 大八、三生
君は福岡縣人播磨九助の三男にして明治十四年八月一日を以て生れ先代只七の養子となり同三十八年家督相繼と共に前名綱吉を改め興名す履物商を営む家族は尙孫千鶴(大一〇、八生、養子憲護長女)同降介(昭二、三生、同長男)同榮(同五、三生、同二男)ありA四九〇B八七(福岡市大學通五〇電一八二八)

福富 忠男 正五位勲四等、北海道帝國大學教授、工學部勲務、東京府士族
妻 梅子 明二四、五生、東京、伊藤道夫姉
君は東京府士族福富正綱の長男にして明治二十六年一月を以て生れ同三十二年家督を相續す大正七年東京帝國大學理科大學地質學科を卒業し鐵務技術手兼農商務技手となり更に農商務技師兼鐵務技術師を経て同十四年現職に轉じ傍ら鐵道省北海道廳の囑託たり茲に歐美各國に留學す家族は尙長女明子あり(札幌市北三條西七丁目電四一八三)

福留 並喜 大飯市理事、土木部長
高知縣在籍
妻 暉 明一九、三生、高知、北岡是哉長男

福中佐太郎 大飯陶業、日電證券、日本電力各社取締役、大阪府在籍
父 眞三郎 安政二、一生
母 サト 元治元、三生、大阪、石田勝次郎

君は高知縣人福留氏次の長男にして明治十三年四月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治三十七年京都帝國大學理工學科を卒業し大阪府理事となり港灣部長を経て現時土木部長たり家族は尙二男秀夫(大四、四生)三男義夫(同九、七生)二女雙子(昭二、七生)弟元徳(明二、四生)及び其一子ありA二三三(大阪府港区八條通二ノ一三電西三三三三三〇)

國大學工科大学電氣工學科を卒業し現時而記會社の重役たり兼に神戸有馬電氣鐵道飛彈索運搬箱積登山鐵道各會社の重役たりし事あり家族は尙長女佐和(昭四、一生)あり妹須磨子(明三八、二生)は京都府人大久保吉郎弟達郎に嫁せりA八一五一(西宮市森具二五四電西宮四六六)

福永吉之助 正四位勲二等功四級、海軍主計中將、貴族院議員、鹿兒島縣士族
妻 吉雄 明一七、二生
女 フチ 明二三、五生、長男吉雄妻、東京市來政方長女
孫 喜久 大三、一生、長男吉雄長女

君は鹿兒島縣士族福永直之助の二男にして安政三年十二月を以て生れ明治二年分れて一家を創立す同四年海軍主計生徒となり同十六年海軍少主計に任じ同十八年海軍主計中將に昇進し後退役後復其間海軍省經理課第二課課長須賀海軍經理部長海軍經理局經理部長等に歴補し日清役北清事務功あり勲三等に叙し日露役の勲功により功四級勳章を賜はり明治四十五年貴族院に依り勲二等旭日重光章を賜はり明治四十五年貴族院議員に勲選せられ現在に至る家族は尙孫吉太郎(大六、七生、長男吉雄長男)同英雄(同二、六生、同二男)同花子(同二、九生、同三女)あり二女茂(明三一、五生)は東京府人白石研吉に嫁せりA二二六(東京市赤坂區青山南町四ノ二電青山三三六八)

福永佐和吉 鴻池租務取締役兼東京支店長
新澤縣在籍
妻 幸 明四四、八生
女 正 大三、二生

君は新潟縣人福永彌平の三男にして明治十七年九月を以て生れ昭和四年兄弟次郎方より分れて一家を創立す明治四十一年東京帝國大學工學科建築學科を卒業し現時鴻池租務取締役兼東京支店長たり(東京市澁谷區青葉町一五電青山二二五)

愛子(同四、三生)三女知以子(昭八、四生)妹とく(明四、八生)ありA五五六(東京市澁谷區千駄ヶ谷町四ノ六〇七)

福永良造 神島土地地租社長、不二嶺山麓取締役、海外貿易監督、鐵物業
大阪府在籍
妻 正造 明二四、五生、先々代かね養子、大阪、八木千之助長女、梅田高女

君は和歌山縣人福永誠太郎の弟にして明治二十年六月二十六日を以て生れ先代ヨネの入夫となり大正元年家督を相續す明治四十二年京都帝國大學理工學科を卒業し鐵物業を営み傍ら神島土地地會社社長たるの外前記會社の重役たりA六三九〇(大阪府北區堂島船大工町二一電北三三八)

參照 八木千之助家津傳一郎の項

福西新右衛門 從六位、檢事、奈良區裁判所兼奈良地方裁判所檢事、大阪府在籍
妻 喜代子 明四一、九生、大阪、木村種次郎長女

君は大阪府人福西新之助の長男にして明治三十六年八月を以て生れ昭和八年家督を相續す現時奈良區裁判所兼奈良地方裁判所檢事たり家族は尙弟正八(明三九、一生、齒科醫)同信(同四、四生、大阪高等醫專出身)妹マズ子(大元、八生)同ヒサ子(同四、九生)弟英三郎(同七、九生)ありA一四七八(大阪府此花區中江町八七電福島六九七)

福野兼松 家主
大阪府在籍
妻 ベン 明一三、七生、大阪、佐々木重吉

君は岐阜縣人福野幸太郎の二男にして明治五年二月七日を以て生れ同三十二年兄弟太郎方より分れて一家を創立す家主たり長女ヨネ(明三三、二生)同夫力(同三三、二生)あり

福永淳三 濠洲及棉帆布卸商
妻 さつ 明四、一生、滋賀、名坂佐治兵衛姉
母 公一 大九、一生

當家の先代豊三郎は滋賀縣高田朝日野村の出にして後同村長滋賀縣會議員に擧げられ八幡銀行常務監査役に推される君は其長男にして明治二十五年四月を以て生れ昭和七年家督を相續す大正四年東京高等商業學校を卒業し直ちに日本ベイント會社に入り營業部長となりしも同十五年辭して濠洲商會社に入社し總經理兼濠洲支店に營業所を設け家族は尙長女富貴(大一一、一生)二男昭二(昭二、六生)三男令三(同三、一生)及妹やす(明四二、二生)あり同せつ(同二六、八生)は滋賀縣人向井平三郎に同あい(同二八、八生)は群馬縣人佐藤新吉に同ひき(同二九、一生)は滋賀縣人野邑謙藏弟拾吉に同きん(同三二、一生)は同縣人梅原治郎兵衛に同あ(同三三、六生)は京都府人吉居佐助に同弘三(同三八、一生)は長崎縣人古川正壽に同全三(同四〇、八生)は三重縣人福永友三郎に各養子となれりA七〇〇B二六九(名古屋市中區東區長久寺町三電東三三八四)

參照 吉居佐助の項

福永鐵之助 三次製紙所、吉倉造各社社長、昭和大信、昭和土地各代表取締役
妻 ヌキ 明二二、二生、廣島、久杖與三
女 正一郎 明四二、五生
女 民 明四一、一生

君は廣島縣人先代鐵之助の長男にして明治十八年三月を以て生れ同三十九年家督を相續し前名正一郎を改め現時前記銀行會社の重役たり家族は尙二男善次郎(大四、三生)四女信(同九、八生)あり弟鐵治(明二〇、七生)は廣島縣人佐久間サチの入夫となり同吉三郎(同二八、四生)は男爵金子有道の養子となり妹シナ

三、六生、大阪、佐々木豊藏弟)は其一子に伴ひ分家し三女秋子(同三九、一生)も亦分家す庶子シナ(同三三、一生、生母、岐阜、高田ひさの)は其生母の養子となれりA九八九(大阪府港区市岡元町三ノ一九電西六五七六)

福羽眞城 正四位勲三等功五級、子爵、陸軍少將
妻 孝子 明二八、二生、伯爵龜井茲常妹

當家は先々代美静より顯る美静は舊石州津和野藩士にして夙に國學を修め維新後神祇官判事神祇大輔教部大輔參事院議官元老院議官貴族院議員等に歴任し明治二十年特旨を以て華族に列し子爵を授けらる嗣子逸人其後を承け内苑頭式部官主理官大膳頭官中顧問官等に歴任し農學博士の學位を受く君は逸人の長男にして明治四十二年四月二十九日を以て生れ大正二十年襲爵す夙に陸軍に入り騎兵大佐に累進昭和五年豫備役に關入せらる其間騎兵第一聯隊長近衛師團司令部附等に歴補す家族は尙孫忠(昭八、九生、養子邦長長男)弟發三(明二、八生)同妻光子(同三一、一生、子爵戶田忠雄二女)及其一男三女あり姉サチ(同九、五生)は醫學博士北川乙次郎に嫁し弟道(同二五、六生)は分家せりA二二二二(東京市淀橋區角管三ノ一八五電四谷三三)

參照 伯爵龜井茲常、子爵富田宜實、子爵戶田忠雄、養子爵太田登義、男爵金子有道、男爵龜井津備の項

福原邦樹 從三位、男爵
東京府華族
妻 貞子 明二六、二生、愛媛、手塚太郎

當家は先代實より家名を擡ぐ實は舊山口藩士にして戊辰の役軍功を擡て明治四年陸軍大佐に任じ西南の役に從軍し陸軍少將に陞る後元老院議官神祇院知事貴族院議員等に歴任し同三十三年華族に列し男爵を授けらる君其後を享く君實は故子爵毛利元敏の三男にして子爵

福永政治郎 勳六等、高瀬農場社長、釜山日報社取締役、高瀬宅代表社員
滋賀縣在籍
妻 くに 門元、一生、滋賀、川島久右衛門

君は滋賀縣人福永善右衛門の長男にして元治元年一月五日を以て生れ明治十年家督を相續す夙に實業界に入り現時高瀬合名會社代表社員たるの外前記會社の重役たり家族は尙孫治子(大九、三生、長男善太郎長女)同順子(同三一、九生、同二女)同啓男(昭二、一生、同長男)同康子(同四、四生、同三女)同節子(同三、一生、養子常治郎長女)あり弟豊治郎(明一五、一生)は滋賀縣人高瀬政太郎の養子となり同三郎(同二、一生)は其妻婦幾(同二、一生、滋賀、久保惣兵衛妹)に伴ひ分家せり(釜山府本町二ノ二)

參照 池田耕三、小川榮太郎の項

福永彌吉 地主
東京府在籍
母 みね 明四、一生、東京、瀧沼重兵衛二

君は東京府人福永作次郎の長男にして明治二十五年七月二十一日を以て生れ昭和二年家督を相續す地主にして養濟家たり家族は尙長女みち子(大一一、一生)二女

**毛利元雄**乃木元智の弟なり明治十六年四月四日を以て生れ先代實の養子となり同三十八年家督を相続し現時仰けらるる家族は尙二男芳樹(大一〇、六生)二女嘉美子(同一二、一生)三男輝樹(昭四、一〇生)あり養子(明六、一生)は神奈川縣入田中平八に同文(同九、七生)は東京府士族兒玉準植に嫁せり(山口縣長府町)

**福原 信三** 館山病院、養生堂各務部長、帝國生命保險取締役、後藤風雲堂専任相談役、福原信三代表社員  
東京府在籍  
妻 ヤウ 明三三、六生、東京、桑原吉蔵養子

**福原拾治郎** 神崎委託、滋賀織布各務取締役、江州商事監査役、神崎倉庫代表社員、倉庫業、滋賀縣在籍  
妻 まさ 明二七、五生、滋賀、福原吉太郎  
男 正 夫 大四五、四生  
女 香代 大四五、一生

**福原 俊丸** 從三位勳三等、男爵、貴族院議員、警備部顧問、横濱共立倉庫社長、朝鮮鐵道、茨城鐵道、小野田セメント製造各務取締役  
妻 つる 明二〇、一生、東京、士、兒玉如忠養妹、東京女學館出身  
女 香代 大四五、一生

**福原 信** 君は千葉縣人福原有信の三男にして同信同義の兄なり明治十六年七月二十五日を以て生れ大正十五年明和より分れて一家を創立す明治三十九年千葉醫學專門學校藥學科を卒業し渡米して紐育コロムビア大學に學び化粧品學製藥學等を研究し在七年大正二年歸朝す現時養生堂を經營して店務を總攬する傍ら前記病院社長及各會社の重役たりA二八四(東京市品川區上大崎長者九二七八の三號電話高輪四八四)

**福原 基彦** 從五位、男爵、陸軍歩少尉、近衛歩兵第二聯隊附、東京府華族  
妻 キヤ 明二二、〇生、男爵山中秀二郎  
母 ヤク 明二二、〇生、山中秀二郎

**福原 信和** 福原信三の長男にして故貴族院議員同僚二郎の兄同吉野の伯父なり應應三年二月二十四日を以て生れ明治二十九年家督を相続す同二十年陸軍士官學校を卒業し同二十九年陸軍歩少尉に任じ大正七年陸軍中將に擢進す其間陸軍士官學校教官參謀本部各員近衛第十二各師團參謀歩兵第六十八聯隊長第十六師團參謀長歩兵第二十六旅團長獨立守備隊司令官等に歴補す日清日露兩役に出征し功第三級金鵄勳章を賜り同八年豫備役編入仰付けらるる義に榮名町長三重縣參事會長たりし事あり家族は尙孫義高(昭四、五生、長男養雄(長男)一五生)同三、八生、石川直記長男豊記に嫁し弟正奇(同五、一生、海軍少將)は出で、中村家を継げり(三重縣桑名郡長島村)

**福原 信義** 資生堂監査役、福原宅無限責任社員、東京府在籍  
妻 愛子 明四二、九生  
男 義春 昭六、三生  
女 鶴子 明四五、四生、慶應義塾出身

**福原 吉野** 臺灣銀行員  
妻 たま 明一六、九生、東京、岡本谷五郎  
母 長女 明一六、九生

**福原 八郎** 南米拓殖社長  
妻 シツ 明一四、七生、養父信藏長女  
男 信夫 明三九、四生、慶應義塾出身  
女 春子 大四五、五生

**福原 芳次** 大福汽船取締役會長、堂島ビルディング監査役、兵庫縣在籍  
妻 のぶ 明六、五生、兵庫、飯田清兵衛三男  
男 清 明三四、一生、長男清妻、兵庫、高井藤助四女  
女 綾子 明三三、三三、三三、三三、三三

**福原 佳哉** 從三位勳一等功四級、陸軍中將  
妻 みち 明二〇、七生、男爵同春雄姉  
男 俊一 明四四、〇生  
女 多喜子 明四四、〇生

**福原 信** 君は千葉縣人福原有信の五男にして同信三同信辰の弟なり明治三十九年九月を以て生れ大正十五年明和より分れて一家を創立す正則中學校の出身にして現時前記各會社の重役たりA二七四二(東京市品川區上大崎長者九二五三電話高輪三一五四)

**福原 信** 君は千葉縣人福原有信の三男にして同信同義の兄なり明治十六年七月二十五日を以て生れ大正十五年明和より分れて一家を創立す明治三十九年千葉醫學專門學校藥學科を卒業し渡米して紐育コロムビア大學に學び化粧品學製藥學等を研究し在七年大正二年歸朝す現時養生堂を經營して店務を總攬する傍ら前記病院社長及各會社の重役たりA二八四(東京市品川區上大崎長者九二七八の三號電話高輪四八四)

**福原 佳哉** 從三位勳一等功四級、陸軍中將  
妻 みち 明二〇、七生、男爵同春雄姉  
男 俊一 明四四、〇生  
女 多喜子 明四四、〇生

部附關東軍參謀長等に歴補し大正十二年陸軍中將に任... 福見 貞治

君は鳥取縣人福見利起の二男にして明治二十年三月を... 福水 寛次郎

君は福岡縣人福本嘉三郎の長男にして明治七年一月二... 福本 貞喜

君は福岡縣人福本嘉三郎の長男にして明治七年一月二... 福本 常太郎

正五位勳四等、鳥根縣知事... 福邑 正樹

君は大阪府人福邑富市の三男にして明治二十年六月を... 福室 郷次

君は東京府人福室芳太郎の二男にして明治二十六年一... 福室 米蔵

君は東京府人福室常太郎の長男にして明治十五年十... 福本 又兵衛

君は大阪府人福本又兵衛の長男にして明治二十七年十... 福本 實

君は和歌山縣人福本長太郎の三男にして明治二十年十... 福本 林作

君は東京府人清水孫七の五男にして明治十八年十二月... 福本 兼五郎

君は大阪府人福本兼五郎の長男にして明治十八年十二月... 福本 幸次郎

君は東京府人福本善吉の二男にして明治十三年四月十... 福本 善吉

君は東京府人福本善吉の二男にして明治十三年四月十... 福本 元之助

君は大阪府人福本元之助の長男にして明治二十七年十... 福本 元之助

君は東京府人福本元之助の長男にして明治二十七年十... 福本 元之助

フ之部 福(谷、家、安、山)

(※印は姻族關係)

フ四〇

福谷 榮七
福谷商店事務取締役、大日本セ
ロファン取締役、東海殖産株式

福谷藤一
福谷商店事務取締役、砂糖問屋
業、愛知縣在籍

福谷藤太良
福谷商店事務取締役、東海殖産株式
谷殖産各社長、豊川魚問屋

福谷 元次
豊橋教育會長、愛知縣在籍

福家 靖
大阪三品取引所取引員
大阪府在籍

福山 福太郎
文洋社、印刷製本業
大阪府在籍

福安 實次
鋼鐵管製造業
鳥取縣在籍

福山金太郎
惠比壽運送事務所取締役
東京府在籍

福山庄太郎
信託業
大阪府在籍

妻 懸重 明七、八生、大阪、伊藤幾久雄養母
君は大正府人先代五平治の長男にして明治九年十一月

福山甚三郎
正八位、陸軍歩兵少尉、北海道多
額納税者、鐵道山住宅地社社長

福山善治郎
住友信託東京支店長
東京府在籍

妻 芳野 明三、五生、福島、野口尚一妹
君は北海道入福山桑藏の二男にして同甚三郎の從弟な

兵衛町一ノ三電赤坂一五三三
參照川福山甚三郎の項

妻 貞 明三、三生、香川、佐々木幹次
君は香川縣士族福山太助の長男にして明治二十六年

伏原 宣義
從四位、子爵、殿掌
舊公卿家

伏島 興雄
東京府在籍
醫學博士

福山 福太郎
文洋社、印刷製本業
大阪府在籍

伏原 佐一
一家主
大阪府在籍

伏原 宣義
從四位、子爵、殿掌
舊公卿家

藤 加惠
大阪府在籍
大正一七、二生、奈良、谷信藏妹

フ之部 福(山) 伏、藤

(※印は姻族關係)

フ四一

繼母 トモ 文久二、一〇生、福岡、兒島久四郎母  
 妻 スエ 明二三、八生、福岡、川邊精五郎  
 男 岩 雄 明四四、五生  
 君は福岡縣人藤金作の長男にして明治十七年一月を以て生れ大正十五年家督を相続す現時渡邊鐵工所取締役たる外前記銀行の重役にして直接國稅千六圓を納め縣下の多額納稅者に列す父金作は夙に實業界に入り又衆議院議員に擧げられしことありA一〇五(福岡縣精屋郡篠栗町五〇七七七七七)

藤十郎 勸七等功七級、福岡縣參事會、藤十郎代表取締役、農業者  
 妻 ツル 明一五、二生、福岡、中尾茂平長  
 男 正 明四〇、二生  
 女 豐子 大六、二生  
 女 フミ子 大六、二生  
 君は福岡縣人藤茂八郎の二男にして明治十二年六月一日を以て生れ大正八年家督を相続す農業者を嘗み傍ら藤十郎代表取締役にして推されて福岡縣參事會員たり家族は尙弟右衛門(明一四、二生)同妻英(同二二、三、生、東京、士、有田福則五女)及其二子あり長女志津枝(同四一、一、生)は福岡縣人梅原一夫に姉(三郎)(同八、九生)は同縣人藤六右衛門に嫁し妻弟龍三(同二五、六生)同妻キヨ(同三二、四生)福岡、黒瀬嘉造妹)は共に分家せり(福岡縣精屋郡篠栗町電二九)

藤正純 前福岡縣勸業局長  
 妻 遊江 明二一、二生、兵庫、水澤郁太郎  
 女 純 明四三、二生  
 女 貞子 大二、二生、三輪田高女出身、家政學院修業  
 女 節子 大二、二生、三輪田高女出身、家政學院修業  
 女 輝子 大三、五生、跡見女學校出身、家政學院本科出身

藤井伊一 山形縣多額納稅者、農業者  
 妻 タカ 明八、七生、京都、小笹庄三郎長  
 女 明 京都市在籍  
 君は京都府人先代久次郎の長男にして明治四十四年四月二十六日を以て生れ大正十一年家督を相続す藤井大九と稱し農業者を嘗み家族は尙姉千代子(明四一、六生)同夫正三(同三四、一、生、岐阜、山田初次郎三男)及妹喜美子(同四四、四生)弟啓市(大二、六生)同照三(同三、九生)ありA一八七B三七七六(京都市下京區四條通寺町東入電本局三七七八)

當家は大阪府藤原縣足谷の後裔藤原實盛より出づ其二十世の孫實元寛永年中島原の役に従ひ九州へ下り後六十餘年佐那藤原に歸農し藤原と稱せしが祖父兼助修して藤と改む君は先考銀兵衛の四男にして明治元年五月二十九日を以て生れ同三十一一年分れて一家を創立す同十九年家を大坂に上り後東京に出で同二十五九年慶應義塾を卒業するや藤原謙吉先生の推挽にて三井銀行に入り尋いで神戸支店に移る同二十九年鐘淵紡績會社に轉じ住道支店及東京本店工場を整理復活工場經營に一流の手腕を發揮す同四十年取締役に選ばれ大正十年常務取締役に就任後取締役を経て取締役監督に推されたるを以て歐米各國商業視察を志し職を辭し在職三十有餘年終始謙和に措き經營同社今日の大を致すの實に君が貢獻に負ふ處甚大なり又私財を投じ社會公益に寄與し郷黨の爲めに盡す處不尠也君は其の惠澤を謝し其の風格を後世に貽さむと銅像を建立す夫人遊江江貞淑にして内助の功多ク又社會公益に寄與せる功績顯著なるの故を以て夫君と共に勳定の紺綬章を下賜せらるる趣味は撞球園基にあり家族は尙四男孝(大五、三、生、慶大農科在學)五男博(同六、七、生、慶應義塾普通部在學)あり長女君子(明三三、三、生、御茶の水高女出身)は大分縣人水之江公明弟政彦に二女花子(同三八、六、生、跡見女學校出身)三井物産會社員大内英三に嫁せり(東京市本郷區弓町一ノ六電小石川二三五九)

藤井伊右衛門 長野縣多額納稅者、酒造業者  
 妻 昌 明三〇、五生、長野、藤井名左衛門長男  
 女 昌 明三〇、五生、長野、藤井名左衛門長男  
 女 昌 明三〇、五生、長野、藤井名左衛門長男  
 君は長野縣人藤井昌隆の長男にして明治二十三年二月を以て生れ大正十五年家督を相続し前名邦太郎を改め姓名す酒造業を嘗み縣下の多額納稅者に列し直接國稅三千八百七十一圓を納む家族は尙二女ちか(大六、一〇生)三女よし(同一〇、五生)妹つじ(明二六、一、生)同夫吉造(同二二、二、生、長野、中山明孝弟)及其子女弟登(同三六、二、生)同妻のぶ(中山明孝弟)長野、藤井名左衛門(二女)及其一子あり妹富貴(同三一、一〇生)は長野縣人鹽入松三郎に嫁せり(長野市西之門町九四一)  
 參照I鹽入松三郎の項

藤井亥之助 家主  
 妻 しのぶ 文久二、九生、大阪、梶山東作妹  
 女 アヤ 明二七、一、生、大阪、森田利助長

男 雪雄 大四、一生  
 女 昌子 大五、一、生  
 男は大阪府人藤井三右衛門の二男にして明治十六年一月を以て生れ同四十五年家督を相続す同四十二年東京外國語學校朝鮮語科を卒業す家主たり家族は尙二男民雄(大八、九生)あり弟孝一(明三二、二、生)は大阪府人西田兼之助の養子となれりA九七〇(大阪市東區谷町二ノ三二)  
 參照I藤井浦庄次郎の項

藤井市之助 京都府在籍、取締役  
 妻 カツ 明七、八生、養父右衛門長女  
 男 俊一 明三三、八生  
 男 誠二 明四二、八生  
 男 祐三 大三、五生  
 君は京都府人伊藤庄兵衛の叔父にして明治八年九月九日を以て生れ同二十一年同府人藤井利右衛門の養子となり大正五年分れて一家を創立す現時京都信託會社取締役たり家族は尙孫市郎(明七、二、男俊一長男)同泰子(同八、八、生、同長女)あり長女ミツ(明三九、一〇生)は大阪府人黒川與兵衛に嫁せりA三八七(京都市東區本町一ノ一電祇園三三八三)  
 參照I伊藤庄兵衛、黒川與兵衛、藤井利右衛門の項

藤井乙男 從三位勳二等、文學博士、帝國學士院會員、京都帝國大學名譽教授  
 妻 ハツ 明九、七生、神奈川、松口榮造三  
 男 源一 明三六、一、生  
 女 妙子 大五、三、生  
 女 三春 大五、三、生  
 君は兵庫縣人藤井市郎の二男にして明治元年七月を以て生れ同二十六年兄光太郎より分れて一家を創立す同二十七年帝國大學文學科を卒業し第四第八各高等學校教授に歴任同四十四年京都帝國大學教授に任じ昭和三年退官後名譽教授となり同五年學士院會員に列し現在に至る明治四十五年文學博士の學位を受く二女マツ(明三〇、九、生)は岡山縣人黒住正夫に三女サハ(同三一、一、生)は愛知縣人海部二郎に四女ト(同三四、三、生)は新潟縣人楠弘岡に六女京(同四三、三、生)は長崎縣人馬場正男に嫁せり(京都市上京區大宮田尻町五三電西陣五七三〇)

藤井かなよ 家主  
 夫 定治郎 兵庫縣在籍  
 男 實雄 明四二、七、生  
 男 嘉市郎 明四四、一〇、生  
 女 かね子 大八、一、生  
 君は兵庫縣人藤井左門の五女にして明治十四年十一月二十三日を以て生れ同三十二年先代より承り(安政元、七、生)は分家し長女千代枝(明三四、五、生)は奈良

藤人吉田又一郎に嫁せりA一三三三(神戸市中山手通一ノ四六ノ一電掛二一〇五)

藤井 兼誼 正五位、子爵 舊公卿家

兼誼はな 門一九、三三、京都、井上文右衛門... 兼誼はな 門一九、三三、京都、井上文右衛門... 兼誼はな 門一九、三三、京都、井上文右衛門...

藤井寛太郎

藤井寛太郎 從六位勲六等、不興業社長、不興業社社長、不興業社社長... 藤井寛太郎 從六位勲六等、不興業社長、不興業社社長、不興業社社長...

藤井勘三郎 材木商 東京府在籍

藤井勘三郎 材木商 東京府在籍... 藤井勘三郎 材木商 東京府在籍... 藤井勘三郎 材木商 東京府在籍...

藤井吉兵衛

藤井吉兵衛 陶器商 大阪府在籍... 藤井吉兵衛 陶器商 大阪府在籍... 藤井吉兵衛 陶器商 大阪府在籍...

藤井清胤

藤井清胤 千代田火災保險東京支店長... 藤井清胤 千代田火災保險東京支店長... 藤井清胤 千代田火災保險東京支店長...

藤井健一

藤井健一 從四位勲三等、検事、新潟地方裁判所検事... 藤井健一 從四位勲三等、検事、新潟地方裁判所検事... 藤井健一 從四位勲三等、検事、新潟地方裁判所検事...

藤井金五郎

藤井金五郎 地主 東京府在籍... 藤井金五郎 地主 東京府在籍... 藤井金五郎 地主 東京府在籍...

藤井啓一 農議院議員(山口縣選出)、下關商工會議所議員、辯護士

藤井啓一 農議院議員(山口縣選出)、下關商工會議所議員、辯護士... 藤井啓一 農議院議員(山口縣選出)、下關商工會議所議員、辯護士...

藤井啓之助

藤井啓之助 正五位勲三等、大使館参事官、米國在勤、群馬縣在籍... 藤井啓之助 正五位勲三等、大使館参事官、米國在勤、群馬縣在籍... 藤井啓之助 正五位勲三等、大使館参事官、米國在勤、群馬縣在籍...

藤井啓之助

藤井啓之助 正五位勲三等、大使館参事官、米國在勤、群馬縣在籍... 藤井啓之助 正五位勲三等、大使館参事官、米國在勤、群馬縣在籍... 藤井啓之助 正五位勲三等、大使館参事官、米國在勤、群馬縣在籍...

藤井啓之助

藤井啓之助 正五位勲三等、大使館参事官、米國在勤、群馬縣在籍... 藤井啓之助 正五位勲三等、大使館参事官、米國在勤、群馬縣在籍... 藤井啓之助 正五位勲三等、大使館参事官、米國在勤、群馬縣在籍...

藤井慶三

藤井慶三 從五位、男爵、公使館二等書記官 瑞典國在勤、東京府在籍、フィンランド國在勤、東京府在籍... 藤井慶三 從五位、男爵、公使館二等書記官 瑞典國在勤、東京府在籍、フィンランド國在勤、東京府在籍...

藤井健次郎

藤井健次郎 從三位勲三等、理學博士、東京帝國大學名譽教授、石川縣士族... 藤井健次郎 從三位勲三等、理學博士、東京帝國大學名譽教授、石川縣士族... 藤井健次郎 從三位勲三等、理學博士、東京帝國大學名譽教授、石川縣士族...

藤井源次郎

藤井源次郎 京都府多額納税者、地主 京都府在籍、安政五、七生、京都、西村仁右衛門... 藤井源次郎 京都府多額納税者、地主 京都府在籍、安政五、七生、京都、西村仁右衛門...

藤井光藏

藤井光藏 日本光學工業取締役、淺野セメント理事兼技術部長、日本セメント顧問、大阪帝國大學工學部講師、東京府在籍... 藤井光藏 日本光學工業取締役、淺野セメント理事兼技術部長、日本セメント顧問、大阪帝國大學工學部講師、東京府在籍...

藤井光藏

藤井光藏 日本光學工業取締役、淺野セメント理事兼技術部長、日本セメント顧問、大阪帝國大學工學部講師、東京府在籍... 藤井光藏 日本光學工業取締役、淺野セメント理事兼技術部長、日本セメント顧問、大阪帝國大學工學部講師、東京府在籍...

トに關する論文を發表したる外研究に關する著述多し
家族は尙四男修(大六、一〇生)五男明(同八、五生)あり

藤井 厚二 正五位勳四等、工學博士、京都帝國大學教授、工學部勤務

君は廣島縣人にして明治二十一年十二月を以て生る大
正二年東京帝國大學工學部建築學科を卒業し同八年

藤井 佐七 勳六等功六級、富山商工會議所顧問、大阪府在籍

君は其祖を越中國守佐々成政の家老職たる泉家に發し
舊富山藩の御用商人たりし先代安兵衛の二男にして明

藤井 佐七 勳六等功六級、富山商工會議所顧問、大阪府在籍

君は京都府人藤井佐助の三男にして明治十九年十二月
を以て生れ同四十二年兄佐兵衛の後を承け家督を相続

藤井 佐七 勳六等功六級、富山商工會議所顧問、大阪府在籍

君は京都府人藤井佐助の三男にして明治十九年十二月
を以て生れ同四十二年兄佐兵衛の後を承け家督を相続

府下の多額納税者に列し直接國稅二千五百圓を納む家
族は尙亡兄佐兵衛妻ナヲ(明三、六生、京都、青山市

藤井 しげ 地主、兵庫縣在籍

君は兵庫縣人先代又兵衛の長女にして明治二年十一月
四日を以て生れ昭和五年家督を相続す地主たり家族は

藤井 茂太 從三位勳一等功二級、陸軍中將

君は兵庫縣人藤井義興の四男にして萬延元年九月を
以て生れ明治三十四年兄方より分れて一家を創立す

藤井 滋吉 西脇商業銀行(現取組)、日本化學學

君は京都府人藤井新七の長男にして明治二十四年五月
を以て生る同四十二年京都府立第三中學校を卒業して

藤井 眞次郎 京都府多額納税者、京都取引所取

君は京都府人藤井新七の長男にして明治二十四年五月
を以て生る同四十二年京都府立第三中學校を卒業して

男 昇平 大元、八生
女 勢三 大元、八生

藤井 靜英 從四位、醫學博士、醫師

君は山口縣人藤井藤左衛門の二男にして明治十四年七
月を以て生れ同四十二年前名與七を改む同四十四年東

藤井 七兵衛 酒類商、東京府在籍

君は山口縣人藤井藤左衛門の二男にして明治十四年七
月を以て生れ同四十二年前名與七を改む同四十四年東

藤井 甚七 大阪府在籍

君は兵庫縣人藤井新七の長男にして明治二十四年五月
を以て生る同四十二年京都府立第三中學校を卒業して

藤井 甚七 大阪府在籍

君は兵庫縣人藤井新七の長男にして明治二十四年五月
を以て生る同四十二年京都府立第三中學校を卒業して

藤井 甚七 大阪府在籍

君は兵庫縣人藤井新七の長男にして明治二十四年五月
を以て生る同四十二年京都府立第三中學校を卒業して

藤井 甚七 大阪府在籍

君は兵庫縣人藤井新七の長男にして明治二十四年五月
を以て生る同四十二年京都府立第三中學校を卒業して

藤井 甚七 大阪府在籍

君は兵庫縣人藤井新七の長男にして明治二十四年五月
を以て生る同四十二年京都府立第三中學校を卒業して

藤井 甚七 大阪府在籍

君は兵庫縣人藤井新七の長男にして明治二十四年五月
を以て生る同四十二年京都府立第三中學校を卒業して

藤井 甚七 大阪府在籍

君は兵庫縣人藤井新七の長男にして明治二十四年五月
を以て生る同四十二年京都府立第三中學校を卒業して

藤井 甚七 大阪府在籍

酒類問屋會社取締役たりし事あり家族は尙五男澄之助
(大一一、一〇生)六男九二夫(同一一、九生)二女茂

藤井 順太郎 岐阜商工會議所理事

君は岐阜縣人藤井喜平の長男にして明治二年三月を以
て生れ同三十七年分れて一家を創立す現時岐阜商工會

藤井 庄介 醬油醸造業、兵庫縣在籍

君は兵庫縣人藤井庄介の長男にして明治五年二月二十
四日を以て生れ明治二十八年家督を相続し同三十六年

藤井 庄介 醬油醸造業、兵庫縣在籍

君は大阪府人中元伊三郎の二男にして明治二十八年一
月三十日を以て生れ先代庄藏の養子となり昭和五年家

藤井 庄藏 綿布商、大阪府在籍

君は大阪府人中元伊三郎の二男にして明治二十八年一
月三十日を以て生れ先代庄藏の養子となり昭和五年家

生ありA二六七二B六三四(大阪府東區安土町四ノ四
六電本町八八二)

藤井 眞次郎 京都府多額納税者、京都取引所取

君は京都府人藤井新七の長男にして明治二十四年五月
を以て生る同四十二年京都府立第三中學校を卒業して

藤井 眞次郎 京都府多額納税者、京都取引所取

君は京都府人藤井新七の長男にして明治二十四年五月
を以て生る同四十二年京都府立第三中學校を卒業して

藤井 眞次郎 京都府多額納税者、京都取引所取

君は兵庫縣人藤井新七の長男にして明治二十四年五月
を以て生る同四十二年京都府立第三中學校を卒業して

藤井 眞次郎 京都府多額納税者、京都取引所取

君は兵庫縣人藤井新七の長男にして明治二十四年五月
を以て生る同四十二年京都府立第三中學校を卒業して

藤井 眞次郎 京都府多額納税者、京都取引所取

君は兵庫縣人藤井新七の長男にして明治二十四年五月
を以て生る同四十二年京都府立第三中學校を卒業して

藤井 眞次郎 京都府多額納税者、京都取引所取

藤井末吉 藤井代表社員 兵庫縣在籍 妻 ちよ 明一七、六生、兵庫、高島もと女 養子 ヒサヨ 明四一、七生、兵庫、富田幸吉二

藤井清兵衛 大庭屋、大阪不動無盡、白濱ホテ、各社社長、奈良瓦葺取締役、理想郷住宅相模、高師濱土地、經營所主、大阪府在籍 妻 タネ 明二二、二生、大阪、竹田勤兵衛 男 潤一 六一四、二生

藤井善三郎 藤井商店取締役、藤井商店名代表社員、京都府在籍 妻 あさ 明三一、一生、京都、林藤助二女 男 英一 大七、七生

藤井善治郎 共同毛織、朝日毛織、各種監査役、羅紗商、滋賀縣在籍 妻 とり 明三〇、二生、大阪、荒堀萬治郎 男 正太郎 大四、八生

藤井善七 藤井商店取締役、京都府在籍 妻 茂 登 明二六、七生、京都、上田太七二 男 泰三 大九、五生 女 とよ 大二、一生

藤井善助 藤井商店取締役、藤井商店名代表社員、京都府在籍 妻 しづ 明四三、七生 男 惠美子 明四三、七生

藤井正 京都府在籍 妻 タカ 明二一、二生、京都、徳島新之助 男 澄子 大九、一〇生 女 治 大九、一〇生

藤井達也 正五位、衆議院議員(青森縣選出) 京都府在籍 妻 マサ子 明三八、四生、宮崎、大藪憲二郎 養子 慶太 大四、二生、兄慶作三男、立教中

藤井忠兵衛 勳七等、兵庫縣多額納税者、神戸商工會議所議員、酒造業、兵庫縣在籍 妻 しを 明八一、一生、兵庫、松田虎三妹 養子 つるよ 明八一、一生、弟善三郎長女

藤井善治郎 共同毛織、朝日毛織、各種監査役、羅紗商、滋賀縣在籍 妻 とり 明三〇、二生、大阪、荒堀萬治郎 男 正太郎 大四、八生

藤井善七 藤井商店取締役、京都府在籍 妻 茂 登 明二六、七生、京都、上田太七二 男 泰三 大九、五生 女 とよ 大二、一生

藤井善助 藤井商店取締役、藤井商店名代表社員、京都府在籍 妻 しづ 明四三、七生 男 惠美子 明四三、七生

藤井正 京都府在籍 妻 タカ 明二一、二生、京都、徳島新之助 男 澄子 大九、一〇生 女 治 大九、一〇生

藤井達也 正五位、衆議院議員(青森縣選出) 京都府在籍 妻 マサ子 明三八、四生、宮崎、大藪憲二郎 養子 慶太 大四、二生、兄慶作三男、立教中

藤井忠兵衛 勳七等、兵庫縣多額納税者、神戸商工會議所議員、酒造業、兵庫縣在籍 妻 しを 明八一、一生、兵庫、松田虎三妹 養子 つるよ 明八一、一生、弟善三郎長女

藤井忠兵衛 勳七等、兵庫縣多額納税者、神戸商工會議所議員、酒造業、兵庫縣在籍 妻 しを 明八一、一生、兵庫、松田虎三妹 養子 つるよ 明八一、一生、弟善三郎長女

藤井善治郎 共同毛織、朝日毛織、各種監査役、羅紗商、滋賀縣在籍 妻 とり 明三〇、二生、大阪、荒堀萬治郎 男 正太郎 大四、八生

藤井善七 藤井商店取締役、京都府在籍 妻 茂 登 明二六、七生、京都、上田太七二 男 泰三 大九、五生 女 とよ 大二、一生

藤井善助 藤井商店取締役、藤井商店名代表社員、京都府在籍 妻 しづ 明四三、七生 男 惠美子 明四三、七生

藤井正 京都府在籍 妻 タカ 明二一、二生、京都、徳島新之助 男 澄子 大九、一〇生 女 治 大九、一〇生

藤井達也 正五位、衆議院議員(青森縣選出) 京都府在籍 妻 マサ子 明三八、四生、宮崎、大藪憲二郎 養子 慶太 大四、二生、兄慶作三男、立教中

藤井忠兵衛 勳七等、兵庫縣多額納税者、神戸商工會議所議員、酒造業、兵庫縣在籍 妻 しを 明八一、一生、兵庫、松田虎三妹 養子 つるよ 明八一、一生、弟善三郎長女

藤井忠兵衛 勳七等、兵庫縣多額納税者、神戸商工會議所議員、酒造業、兵庫縣在籍 妻 しを 明八一、一生、兵庫、松田虎三妹 養子 つるよ 明八一、一生、弟善三郎長女



國稅一萬千八百五十三圓を納むに日本綿布播磨鐵道山陽鐵道各社及多可銀行西陽商業銀行等の重役に擧げられ又多可郡會議員兵庫縣會議員同參事會同副議長等に選ばれ大正十三年衆議院議員に當選す家族は尙弟三郎(明一、六生)同妻(同二〇、一一生、一〇生)は大阪府人相原タネの八女となれり(神戸市神戸區加納町二ノ一〇電話合七六九)

**藤井長次郎** 伊勢屋、煉乳洋酒食品商  
東京府在籍  
妻 キ 明一、一一生、東京、金田平吉  
男 長一郎 明四一、一〇生  
女 子代子 明三九、六生

君は東京府人先代長次郎の長男にして明治九年十二月を以て生れ同十五年家督を相續し前名平次郎を改め號名才風に家業を繼承し洋酒食品商を營み後煉乳製造販賣の有利なるを以て之に着手し伊勢屋と稱しして今日の基礎を成せり義に藤井煉乳會社取締役たりしあり家族は尙三男三女(大五、一一生)同妻(同七、二生)四女(同九、九生)あり(三七八七)神奈川縣鎌倉郡鎌倉町長谷二九三電話長谷二四五(營業所)東京市日本橋區室町四ノ二電話日本橋八三七

**藤井つね** 小當盤、旅館業  
大阪府在籍  
妻 太 大 一〇、五生、大阪、船木幸三長男  
君は大阪府人藤井武之吉の長女にして明治十七年七月四日を以て生れ大正七年兄利一方より分れて一家を創立す小當盤と稱し旅館業を營む家族は尙妹とく(明三、二生)あり(四八二二)大阪府北區渡辺町九電北一三三三

**藤井輝雄** 中外商業新報社社監査役、三井會計課次長、東京府士族  
妻 竹 明一九、四生、鳥取、土、米村政彦叔母  
男 國男 明四四、五生、三井生命保險會社

女 禮 大 四、一〇生、東京女學館出身  
君は鳥取縣士族大森雪治の二男にして明治十四年七月二十九日を以て生れ先代直嗣の養子となり同十八年家督を相續す慶應義塾に學び轉じて同三十八年專修大學理財科を卒業し三井合名會社に入り現時同會計課次長にして傍ら中外商業新報社監査役たり家族は尙三男三女(大九、八生)四女(同二、四生)あり長女(明四二、四生、雙葉高女出身)は田中傳太郎長男(三六五七)と嫁せり(九〇八)東京市澁谷區大山町一九電話青山三六五七

**藤井照千代** 堺商工會議所議員、花屋敷温泉土地產社長、播磨鐵道專務取締役、實業  
大阪府在籍  
妻 シ ナ 明元、四生、奈良、巽菊松長女  
男 照 成 明三四、一一生  
女 綾 子 明三七、六生、長男照成妻、大阪

君は大阪府人藤井信造の三男にして明治三年四月二十一日を以て生れ同十八年兄信成方より分れて一家を創立す實業を營み傍ら花屋敷温泉土地會社社長たる外前記會社の重役を兼ね推されて堺商工會議所議員たり義に阪神商事播磨電氣鐵道山陽興業等各會社の重役たりし事あり(三〇二二)三〇二二(堺市榮橋通二ノ一電一六八八)

**藤井藤三郎** 地主  
東京府在籍  
妻 慶三郎 明二八、一一生  
男 健 三 明三八、一〇生  
君は東京府人藤井藤三郎の長男にして明治元年十一月六日を以て生れ同三十八年家督を相續し前名鶴三郎を改む地主たり家族は尙孫(大五一、二生)長男(慶三郎長女)同(明四一、五生、同長男)同(同五、一〇生、同二男)あり(四三四)東京市澁谷區

婿ヶ谷原町八〇〇)  
**藤井得三郎** 藤井得三郎商店代表取締役、龍角散本舖、藥劑師、東京府在籍  
男 正太郎 明一五、一一生、醫學士  
女 正子 明二五、三生、長男正太郎妻、兵庫、士、神矢肅一三女  
孫 正雄 大 三、二生、長男正太郎長男  
孫 正美 大 四、一一生、長男正太郎二女  
孫 惠美 大 七、七生、長男正太郎三女

藤井家は代々秋田縣大曲町に在せる舊家に於て先代正亭治風に蘭學を修め秋田藩主佐竹義亮に仕へ其の典醫となり維新後東京に出て醫を業とせり君は其長男にして安政五年六月を以て生れ明治二十六年家督を相續す幼にして父に従ひ投藥調合の任に當り同二十年頃呼吸器病妙藥を創製して發賣す即ち龍角散として世に知らるゝもの之なり爾來益々發展し今日の盛大を見るに至る家族は尙孫重雄(大九、八生、長男正太郎二男)同(同夫米次郎(同二〇、一一生、愛知、小林忠兵衛二男)は共に分家し孫登美(同四五、三生、長男正太郎長女)は其養子となれり(八八〇)東京市神田區豐島町三〇電話花八〇五)

**藤井徳次郎** 吳服商  
東京府在籍  
妻 ト ミ 明一八、二生、京都、田中吉兵衛  
君は京都府人梅津茂兵衛の三男にして明治十八年七月十六日を以て生れ同四十七年先代トミの八女となり家督を相續す吳服商を營む(一七六七)一五二二(京都市中京區新町通六角下電本局五五〇四)

**藤井利譽** 正五位勳四等、前東京市教育局長  
福島縣士族  
妻 ト モ 嘉永三、一一生、福島、士、北郷保定長女  
男 健太郎 明四二、一一生  
君は福島縣士族藤井利一の長男にして明治五年十二月

二日を以て生れ同三十七年家督を相續す同三十四年東京高等師範學校文科教育科を卒業し福島縣各縣師範學校教授東京女子高等師範學校教授兼附屬小學校主任に歴任し大正五年米英瑞各國に留學し歸朝後東京女子高等師範學校附屬高等女學校主任に擧げられ同十三年勸任官を以て待遇せられ東京市視學課長に轉ず後學務課長となり同十四年東京市主事に任じ教育局學務課長兼視學課長を経て教育局長の職に在りしが昭和九年三月之を辭す家族は尙二女恒子(大九、七生)五男(同二、三、三、三、三)三女和子(昭三、八生)の外弟(同二、一、一、一、一)同妻(同二、一、一、一、一)同妻サマ(同四、一、一)及其一子あり長女ヨシ(同三、五、七生)は東京府人内村達次郎三男醫學士ヨシ三に嫁し四男大造(大元、九生)は福島縣士族工學士實弟太田利行に弟五郎(同三、一、二生、仙臺醫學專門學校出身)は同縣士族村上幹當に各養子となり妹シツ(同一九、一〇生)は山形縣士族矢島二郎に嫁せり(四三三六)東京市本郷區駒込上富土前町一四二電大塚六四四〇)

**藤井留三郎** 藤井商店監査役、吳服商  
京都府在籍  
妻 ハル 明二五、二生、京都、長岡五兵衛  
男 晴 一 大 八、七生  
女 晴 一 大 六、二生

君は滋賀縣人平田孫太郎の四男にして藤井善七同善三郎の養兄同善兵衛の養弟なり明治十八年七月を以て生れ先代善七の養子となり大正三年分れて一家を創立す吳服商を營み藤井商店監査役たり(一四一三)京都市中京區油小路通姉小路上電本局四四一〇)

**藤井友吉** 正五位勳五等、朝鮮總督府忠清南道大田中學校校長兼教諭  
福岡縣在籍  
妻 ト メ 安政二、二生、福岡、占部徳次郎  
男 彰 明四四、一一生

君は福岡縣人藤井忠次の三男にして明治十五年二月一日を以て生れ同四十二年家督を相續す朝鮮總督府全羅北道郡山中學校校長兼教諭を経て現時大田中學校校長兼教諭たり家族は尙三男三女(大五、一一生)あり養兄榮次郎(明六、六生、福岡、大塚駒吉弟)同妻(同六、一、二生、先代忠次長女)は分家せり(朝鮮忠清南道大田中學校内)

**藤井直一** 横濱正金銀行員  
山口縣士族  
妻 榮子 明三三、九生、山口、新山敏介養妹、學習院女學部出身  
男 亮 一 大 一〇、二生  
女 輝 子 大 八、一〇生、聖心女學院在學

君は山口縣士族藤井與一郎の長男にして明治十六年五月二十日を以て生れ大正十三年家督を相續す東京高等商業學校を卒業し現時横濱正金銀行員たり家族は尙二男(大一一、六生)あり(二八五)東京市日暮區三田四八電高輪七四三三)

**藤井彦四郎** 京都商工會議所常議員、藤井商店社長、共同毛織日本タックス工業各系取締役、五光商會監査役  
滋賀縣在籍  
妻 ヤ ナ 明一三、三生、滋賀、小堀九郎兵衛五女

君は滋賀縣人藤井善助の弟にして明治九年九月二十九日を以て生れ同十年分れて一家を創立し前名義松を改む風に縁商を營み人造絹絲を初めて本邦に輸入す大正七年歐亞通商會社を起し其社長となり後之を藤井商店と改め引續き社長に推され今日に至り傍ら前記會社の重役たる外現時京都商工會議所常議員等を兼ね又義に農商務省勸業員として歐米各國の絹業を視察す家族は尙四男恒次郎(大一一、一一生)孫壽一(昭三、一一生、長男正次郎長男)同(同四、九生、養子榮之助長女)あり(一六一五)一五二二(京都市上京區鹿ヶ谷橋谷町一電上五一三)

**藤井彦兵衛** 藤井本店、鷺商  
大阪府在籍  
妻 し ろ 明一二、三生、大阪、阪上寅藏長  
男 善 夫 明四〇、五生  
男 泰 次 明四四、一一生

君は大阪府人先代彦兵衛の長男にして明治四年十一月十六日を以て生れ同三十七年家督を相續し前名種吉を改め號名才藤井本店と稱し鷺商を營む家族は尙三男武雄(大四、三生)二女(同九、八生)三女(同九、八生)あり長女秀子(明四二、一一生)は大阪府人小林次郎兵衛長男治夫に嫁し妹コウ(同一三、三生)は其二女を伴ひ分家せり(四五二四)一八二八(大阪府西區南堀江上通一ノ二七電櫻川八三一)

**藤井 福三郎** 大阪府在籍  
 君は大阪府人先代補治郎の二男にして明治十七年十月五日を以て生れ同十九年家督を相続す同年大阪醫科大學を卒業し後醫學博士の學位を授けらるる現に家業の小兒鍼術を開業す長女年子(明四四、二生)は富山縣人清水源助長男源一郎に嫁せりA六五八(大阪府西區西長堀北通一ノ二〇電新町三五八)

**藤井 福松** 土木建築請負業  
 君は京都府人藤井仙之助の長男にして明治二十年四月三日を以て生れ大正十年家督を相続す土木建築請負業を營む家族は尙庶子修(大一一、三生、生母、滋賀、吉田、小西眞治郎長女)は共に其三女を伴ひ姉(同二七、一〇生)は其二女を伴ひ弟繁藏(同三一、八生)同妻セイ(同三三、三三、新瀧、神林庄三三女)も亦共に分家せりA三二九B一八九(京都市左區東區田口島屋町三七電上三六三)

**藤井 正雄** 從五位勳六等、工業試験所技師、大阪工業試験所勤務、廣島縣在籍  
 君は明治二十四年十月十四日を以て生る大正五年東京帝國大學農科大學を卒業し同七年特許局技師に任じ特許局技師を経て昭和元年工業試験所技師に任じ現時大阪工業試験所勤務たり家族は尙長女聖子(大一一〇、八生、梅花高女在學)あり(大阪府豊能郡池田町神田八一〇)

**藤井 房吉** 京都生魚専務取締役  
 君は京都府人藤井平吉の長男にして明治九年四月十二日を以て生れ同十八年家督を相続す京都生魚會社事務取締役たり弟嘉治郎(明一一、三三)同妻お(同二〇、一一生、京都、田村竹次郎長女)は共に其二女を伴ひ分家せりA六三四(京都市伏見區深草開上口町二二一電福園三六七〇)

**藤井 文治郎** 海産物商  
 君は兵庫縣人清原市兵衛の二男にして明治十五年四月二十日を以て生れ先代みづの養子となり家督を相続す現に海産物商を營む家族は尙三男榮一(大五、八生)ありA四〇九B一九八(神戸市淡路區古海道四ノ六ノ一電湊三九九)

**藤井 眞透** 正五位勳五等、工學博士、内務技師、土木試験所勤務、宮崎縣在籍  
 君は宮崎縣人藤井眞澄の二男にして明治二十二年一月一日を以て生れ昭和八年家督を相続す大正三年東京帝國大學工學科大學を卒業し大阪府土木技師となり同五年兵庫縣技師同六年明治神宮造幣局技師に任じ同十二年東京帝國大學工學部講師となり同十三年現職に轉ず昭和五年歐米各國に同九年南洋洲に各出

張を命ぜらるる家族は尙三男治美(大一一〇、一〇生)長女み(同一一三、六生)二女みち(同一一四、八生)三女みほ(同一一三、一〇生)四男治史(同五、一一生)あり(京都市淀橋區戸塚町三ノ三三二電午込三三二)

**藤井 眞澄** 東京府士族  
 君は東京府士族藤井眞照の長男にして明治十九年六月を以て生れ昭和二年家督を相続す明治三十九年米國イーストマン商業學校を卒へ更にアルフレッド大學に於て經濟學を修め同四十三年歸朝し久しく東洋汽船會社に奉職せり妻産家たり姉みつ(明一一、一〇生)は京都府士族山田七五郎に嫁せりA一三三四(京都市芝區高輪南町三〇電高輪一五四三)

**藤井 眞信** 從三位勳三等、大藏大臣  
 君は徳島縣人藤井市三郎の四男にして明治十八年一月を以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文官高等試験に合格す直に大藏省に入り専賣局書記大藏省稅務監督官補を経て同四十五年歐米各國出張を命ぜられ歸朝後稅務官より大藏省書記官に任じ爾來主稅局經理課長大藏省參事官大藏大臣秘書官主稅局國稅課長營繕管理課長東京府稅務監督局長大藏省主稅局長兼鹽課長等を経て昭和四年以來主計局長たりし昭和九年五月大藏次官に任ぜられ次で同七月岡田内閣の成立に際し推されて大藏大臣に親任せらるる家族は尙二男眞行(昭八、四生)兄眞三(昭八、一〇生、現戶主)同妻ハギノ(同二七、九生、徳島、阿部新吉三女)及其子女あり(京都市豊島區駒込五ノ九七四電大塚五一五一)

**藤井 眞義** 徳島縣在籍  
 君は徳島縣人藤井市三郎の四男にして明治十八年一月を以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文官高等試験に合格す直に大藏省に入り専賣局書記大藏省稅務監督官補を経て同四十五年歐米各國出張を命ぜられ歸朝後稅務官より大藏省書記官に任じ爾來主稅局經理課長大藏省參事官大藏大臣秘書官主稅局國稅課長營繕管理課長東京府稅務監督局長大藏省主稅局長兼鹽課長等を経て昭和四年以來主計局長たりし昭和九年五月大藏次官に任ぜられ次で同七月岡田内閣の成立に際し推されて大藏大臣に親任せらるる家族は尙二男眞行(昭八、四生)兄眞三(昭八、一〇生、現戶主)同妻ハギノ(同二七、九生、徳島、阿部新吉三女)及其子女あり(京都市豊島區駒込五ノ九七四電大塚五一五一)

**藤井 雅太郎** 從四位勳五等、元判事、公證人、奈良縣在籍  
 君は奈良縣人藤井平治の長男にして明治七年二月六日を以て生れ同四十二年家督を相続す同四十年關西大學專門部法律學科を卒業し辯護士試験に及第し大正六年検事に任じ爾來名古屋地方裁判所上野區岸和田區各裁判所判事に任じ大阪府裁判所判事に任じ現時大阪府裁判所判事となり昭和九年四月大阪府裁判所判事長に補せられ同月退職同時に公證人を命ぜられ現在に及ぶ家族は尙孫雅子(昭二、一〇生、長男雅一長女)孫健一(同六、二生、同長男)あり長女タガ(明三一、一一、一〇生)は大阪府人藤井豐次郎の養子となり(京都市中京區竹屋町通富小路東入電上三三三三)

**藤井 正雄** 從五位勳六等、工業試験所技師、大阪工業試験所勤務、廣島縣在籍  
 君は明治二十四年十月十四日を以て生る大正五年東京帝國大學農科大學を卒業し同七年特許局技師に任じ特許局技師を経て昭和元年工業試験所技師に任じ現時大阪工業試験所勤務たり家族は尙長女聖子(大一一〇、八生、梅花高女在學)あり(大阪府豊能郡池田町神田八一〇)

**藤井 滿彦** 大阪商工會議所議員、大同酸養液社長、日本帽子社取締役、關西漂白工場主、貿易商、大阪府在籍  
 君は岐阜縣人藤井忠の六男にして明治十五年十月十四日を以て生れ先代ききの養子となり大正十五年家督を相続す貿易商にして關西漂白工場を経営し大同酸養液社長日本帽子社取締役大阪商工會議所議員たり家族は尙長女さか(大一一、八生)二女ら(昭二、七生)二男潤三(昭九、四生)孫美津子(同四、八生)養子實長女(同昌子)同六、一一生、同二女ありA四九七一B四五一(大阪府西區本田三番町二電西三三三三)

**藤井 裕之** 大分、八生、平尾貫一長女、大分第一高女出身  
 君は大分府人藤井仙之助の長男にして明治二十年四月三日を以て生れ大正十年家督を相続す土木建築請負業を營む家族は尙庶子修(大一一、三生、生母、滋賀、吉田、小西眞治郎長女)は共に其三女を伴ひ姉(同二七、一〇生)は其二女を伴ひ弟繁藏(同三一、八生)同妻セイ(同三三、三三、新瀧、神林庄三三女)も亦共に分家せりA三二九B一八九(京都市左區東區田口島屋町三七電上三六三)

**藤井 益吉** 著述業  
 君は廣島縣人にして明治二十四年七月を以て生る大正三年法政大學を卒業し同五年判事登用試験に合格す直に司法官候補となり同七年判事に任ぜられ東京久留米小倉福岡岡山津山各地方及び區裁判所判事を歴任し現時前記の官職にあり家族は尙長女郁美(大一一、二生、高等女學校在學)あり(岡山市岡山區裁判所内)

**藤井 眞義** 徳島縣在籍  
 君は徳島縣人藤井市三郎の四男にして明治十八年一月を以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文官高等試験に合格す直に大藏省に入り専賣局書記大藏省稅務監督官補を経て同四十五年歐米各國出張を命ぜられ歸朝後稅務官より大藏省書記官に任じ爾來主稅局經理課長大藏省參事官大藏大臣秘書官主稅局國稅課長營繕管理課長東京府稅務監督局長大藏省主稅局長兼鹽課長等を経て昭和四年以來主計局長たりし昭和九年五月大藏次官に任ぜられ次で同七月岡田内閣の成立に際し推されて大藏大臣に親任せらるる家族は尙二男眞行(昭八、四生)兄眞三(昭八、一〇生、現戶主)同妻ハギノ(同二七、九生、徳島、阿部新吉三女)及其子女あり(京都市豊島區駒込五ノ九七四電大塚五一五一)

**藤井 眞澄** 東京府士族  
 君は東京府士族藤井眞照の長男にして明治十九年六月を以て生れ昭和二年家督を相続す明治三十九年米國イーストマン商業學校を卒へ更にアルフレッド大學に於て經濟學を修め同四十三年歸朝し久しく東洋汽船會社に奉職せり妻産家たり姉みつ(明一一、一〇生)は京都府士族山田七五郎に嫁せりA一三三四(京都市芝區高輪南町三〇電高輪一五四三)

**藤井 眞信** 從三位勳三等、大藏大臣  
 君は徳島縣人藤井市三郎の四男にして明治十八年一月を以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文官高等試験に合格す直に大藏省に入り専賣局書記大藏省稅務監督官補を経て同四十五年歐米各國出張を命ぜられ歸朝後稅務官より大藏省書記官に任じ爾來主稅局經理課長大藏省參事官大藏大臣秘書官主稅局國稅課長營繕管理課長東京府稅務監督局長大藏省主稅局長兼鹽課長等を経て昭和四年以來主計局長たりし昭和九年五月大藏次官に任ぜられ次で同七月岡田内閣の成立に際し推されて大藏大臣に親任せらるる家族は尙二男眞行(昭八、四生)兄眞三(昭八、一〇生、現戶主)同妻ハギノ(同二七、九生、徳島、阿部新吉三女)及其子女あり(京都市豊島區駒込五ノ九七四電大塚五一五一)

**藤井 眞義** 徳島縣在籍  
 君は徳島縣人藤井市三郎の四男にして明治十八年一月を以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文官高等試験に合格す直に大藏省に入り専賣局書記大藏省稅務監督官補を経て同四十五年歐米各國出張を命ぜられ歸朝後稅務官より大藏省書記官に任じ爾來主稅局經理課長大藏省參事官大藏大臣秘書官主稅局國稅課長營繕管理課長東京府稅務監督局長大藏省主稅局長兼鹽課長等を経て昭和四年以來主計局長たりし昭和九年五月大藏次官に任ぜられ次で同七月岡田内閣の成立に際し推されて大藏大臣に親任せらるる家族は尙二男眞行(昭八、四生)兄眞三(昭八、一〇生、現戶主)同妻ハギノ(同二七、九生、徳島、阿部新吉三女)及其子女あり(京都市豊島區駒込五ノ九七四電大塚五一五一)

**藤井 眞澄** 東京府士族  
 君は東京府士族藤井眞照の長男にして明治十九年六月を以て生れ昭和二年家督を相続す明治三十九年米國イーストマン商業學校を卒へ更にアルフレッド大學に於て經濟學を修め同四十三年歸朝し久しく東洋汽船會社に奉職せり妻産家たり姉みつ(明一一、一〇生)は京都府士族山田七五郎に嫁せりA一三三四(京都市芝區高輪南町三〇電高輪一五四三)

**藤井 眞信** 從三位勳三等、大藏大臣  
 君は徳島縣人藤井市三郎の四男にして明治十八年一月を以て生る同四十二年東京帝國大學法科大學法律學科を卒業し文官高等試験に合格す直に大藏省に入り専賣局書記大藏省稅務監督官補を経て同四十五年歐米各國出張を命ぜられ歸朝後稅務官より大藏省書記官に任じ爾來主稅局經理課長大藏省參事官大藏大臣秘書官主稅局國稅課長營繕管理課長東京府稅務監督局長大藏省主稅局長兼鹽課長等を経て昭和四年以來主計局長たりし昭和九年五月大藏次官に任ぜられ次で同七月岡田内閣の成立に際し推されて大藏大臣に親任せらるる家族は尙二男眞行(昭八、四生)兄眞三(昭八、一〇生、現戶主)同妻ハギノ(同二七、九生、徳島、阿部新吉三女)及其子女あり(京都市豊島區駒込五ノ九七四電大塚五一五一)

(富山市西田地方町官舎電話二〇五)

藤井米次郎

藤井米次郎 藤井米次郎商店事務取締役、小  
林大藥房監査役、東京府在籍  
妻 千代 明二、八生、東京、藤井得三郎  
長女  
養子 藤之助 明三、一、養子登美夫  
養子 登美 明四、三、養子勝之助、養  
弟正之助長女

藤井龍藏

藤井龍藏 日本光學工業取締役  
妻 豐 明一、二、東京、土、金木成實妹  
男 明四、二、二生

藤井林右衛門

藤井林右衛門 不二家代表社員、洋菓子商  
妻 誠司 明四、一、一、生、岐阜、大谷駒四  
男 啓三 大三、一、一、生  
男 啓三 大三、一、一、生  
君は愛知縣人岩田林七の四男にして明治十八年十一月  
十六日を以て生れ先代善嗣の養子となり昭和二年家督  
を相続す不二家と稱し洋菓子商を営み傍ら不二家合名

會社代表社員たり東京に於ては銀座新宿に横濱に於て  
は伊勢佐木町に店舗を設け居るは尙四男總一郎(大五、  
五生)五男五郎(同七、一、生)六男和郎(同八、三、生)あ  
り長女すみ(明四、二、一、生)は神奈川縣人西初雄に  
二女美恵(同四、三、一、生)は兵庫縣人原田榮一に嫁せ  
りA三〇〇〇B二二四(東京市京橋區銀座六ノ二ノ四  
電話二〇三八)

藤井和三郎

藤井和三郎 藤井商店代表取締役、桃井商事  
妻 世津 明三、七、養父甚長衛長女  
男 利子 大五、一〇、生、甲南高女出身  
女 利子 大五、一〇、生、甲南高女出身  
君は大阪府人荒内彌一郎の四男にして明治十六年八月  
を以て生れ大阪府人藤井甚長衛の養子となり後分家す  
現時藤井商店代表取締役桃井商事代表取締役たり家族  
は尙二女房(大九、二、生、甲南高女在學)ありA三〇  
〇〇B二二四(大阪府西區立賣場北通一ノ一三電新  
町五七二)

藤江忠二郎

藤江忠二郎 從五位勳六等、判事、東京控訴院  
妻 かね 明一〇、三、生、静岡、戸塚猛姉  
男 謙 大八、九、生  
君は静岡縣人石川平作の二男にして明治二十七年一月  
一日を以て生れ先代善重の養子となり大正十年家督を  
相続す同八年東京帝國大學法學部英法科を卒業し司法  
官試験を経て同十一年判事に任じ東京地方裁判所判事  
となり昭和五年東京地方裁判所部長同六年東京控訴院  
判事に補せられ現在に至る家族は尙二男(大一〇、  
五生)あり(東京府北多摩郡武蔵野町吉祥寺一七二〇)

藤江陳太郎

藤江陳太郎 從五位勳六等、前東京府學務部  
妻 豊吉 明一四、一、生、現戶主  
父 豊吉 明一四、一、生、現戶主  
母 和也 昭四、一、生

藤江元亨

藤江元亨 三和銀行藤岡支店長  
妻 眞子 明二、八、四生  
男 眞子 大八、六、生、福岡高商在學  
女 眞子 大八、六、生、筑紫高女在學  
君は東京府土族藤江三郎の長男にして明治二十九年六  
月を以て生れ大正元年慶應義塾大學理財科を卒業し山  
口銀行本店に入り堺和歌山久留米各支店長を経て昭和  
七年藤岡支店長となり昭和八年山口鴻池三十四銀行の  
合併成りて三和銀行と改稱せらるるも引續き其藤岡支  
店長たり家族は尙二男(大一一、二、生)弟憲造(富  
岡徴兵保險會社員、外國語學校出身)あり(福岡市地行  
西町電一八六)

藤枝雅脩

藤枝雅脩 從四位、男爵  
妻 眞子 明三、三、生、東京、中村吉助長女  
男 眞子 大一一、二、生  
當家は先代雅之の立つところなり雅之は正二位飛鳥  
非雅典の第二子にして初め得度して南都興福寺中清淨  
院の住職となる明治元年復節して堂上の格を賜ひ同八  
年華族に列し同十七年男爵を授けらるる春日神社司官其  
良縣出仕殿掌貴族院議員御歌所參儀等に歷任す君は  
五男にして伯爵飛鳥井雅信の從兄なり明治二十三年十  
月十九日を以て生れ大正十一年襲爵仰付けられ前名脩  
を改む同五年明治大學法科を卒業す運動家にして會て

藤岡郊二

藤岡郊二 錦華人組取締役兼技師長  
妻 波子 大六、四生  
女 波子 大六、四生  
君は岡山縣人藤岡信道の二男にして明治十七年二月八  
日を以て生れる同四十二年東京帝國大學工科大学電氣科  
を卒業し現時前記會社の重役たり家族は尙兄朴三(明  
一一、一、生、現戶主)同妻トシ(同四、一〇、生、岡  
山、宮本武彦長女)あり弟三(同二〇、一、生)は岡山  
縣人藤岡一郎の養子となれりA四一一(大阪府市吉區  
阪南町西一ノ三三)

藤岡淨吉

藤岡淨吉 松島炭礦取締役會社、三井鐵山  
妻 眞子 明三、三、生、東京、美術學校出身  
男 眞子 明三、三、生、長男一妻、東京、  
大橋光吉二女  
明三、六、一〇、生、早大出身、北海  
道炭礦汽船會社員  
明四、三、八、生、次男次郎妻、小山  
田信勝妹、三輪田女學校出身  
藤岡家は金澤市土着の町家にして石川縣勸業試験所の  
陶磁器部を引受け九谷燒の製造販賣を業とせり君は先  
代外次郎の二男にして明治六年四月を以て生れ同十三  
年家督を相続す同三十年東京帝國大學工科大学探礦冶  
金科を卒業し直に三井鐵山會社に入り三池炭礦に勤務  
せしが明治三十九年歐米に出張鐵山を視察すに職數  
年にして同社經營の松島炭礦會社取締役に擧げられ更  
に三井鐵山會社事務取締役の外前記各會社の重役たり書畫骨  
董釣魚特に陶磁器に興味を有す家族は尙孫澤(昭四、四  
八、一、生、長男)同建二(同八、三、生、同二男)同仁吉(同  
八、一、生、二男)次郎長男あり長女加壽(明三、四、八  
八、一、生、跡見女學校出身)は福岡縣人高島基江弟法學士得  
之に二女(同三、九、九、生、東京府立第三高女出身)は  
大阪府土族西崎傳一郎長男工學士鐵夫に三女喜代(同

藤岡親美

藤岡親美 從五位、男爵  
妻 眞子 明三、三、生、東京、美術學校出身  
男 眞子 明三、三、生、長男一妻、東京、  
大橋光吉二女  
明三、六、一〇、生、早大出身、北海  
道炭礦汽船會社員  
明四、三、八、生、次男次郎妻、小山  
田信勝妹、三輪田女學校出身  
藤岡家は金澤市土着の町家にして石川縣勸業試験所の  
陶磁器部を引受け九谷燒の製造販賣を業とせり君は先  
代外次郎の二男にして明治六年四月を以て生れ同十三  
年家督を相続す同三十年東京帝國大學工科大学探礦冶  
金科を卒業し直に三井鐵山會社に入り三池炭礦に勤務  
せしが明治三十九年歐米に出張鐵山を視察すに職數  
年にして同社經營の松島炭礦會社取締役に擧げられ更  
に三井鐵山會社事務取締役の外前記各會社の重役たり書畫骨  
董釣魚特に陶磁器に興味を有す家族は尙孫澤(昭四、四  
八、一、生、長男)同建二(同八、三、生、同二男)同仁吉(同  
八、一、生、二男)次郎長男あり長女加壽(明三、四、八  
八、一、生、跡見女學校出身)は福岡縣人高島基江弟法學士得  
之に二女(同三、九、九、生、東京府立第三高女出身)は  
大阪府土族西崎傳一郎長男工學士鐵夫に三女喜代(同

藤岡圭助

藤岡圭助 勳七等、大同電氣取締役  
妻 眞子 明三、三、生、東京、士、長富直  
男 眞子 明三、三、生、東京、士、長富直  
女 眞子 明三、三、生、東京、士、長富直  
君は故工學博士藤岡市助の長男にして明治十七年八月  
を以て生れ大正七年家督を相続す夙に實業界に入り現  
時大同電氣會社取締役にして兼に帝國聯合電球三保會  
各會社の重役たりし事あり又會て歐米各國を巡遊する  
事二回に及ぶ妹米子(明二三、七、生)は山口縣土族法學  
士栗屋謙に同千代子(明二五、一、生)は同縣土族法學  
士戸川政治に同喜代子(明二七、四、生)は故理學博士中  
村精男二男工學士孫一に嫁せりA二二二〇(東京市麻  
布區東町二四電電話三〇三〇)

藤岡勝二

藤岡勝二 正三位勳二等、文學博士、東京帝  
妻 眞子 明一、六、一〇、生、子爵土屋直直妹  
男 眞子 明四、二、一〇、生  
男 眞子 明四、三、一〇、生  
君は廣島縣人藤岡法雲の長男にして明治五年八月を以  
て生れ同二十八年家督を相続す同三十年東京帝國大學  
文科大學傳言學科を卒業し大學院に入る同三十四年首  
語學研究の爲獨逸に留學し同三十八年同文科大學助教  
授に任ぜられ同四十四年同大學教授に進み文學部に勤  
務し同四十五年文學博士の學位を授けらる昭和八年之  
が職を退き同大學名譽教授の稱號を受く先是明治四十

四二、一、一、跡見女學校出身)は東京府土庫小原直長男法學士靜雄に姉きみ(元治元、九生)は石川縣人...

藤岡聰之助

大阪堂島米穀取引所取引員、和歌山縣在籍、安政四、三生、和歌山、藤岡太右衛門長女、母ヨネ、門三二、二生、和歌山、藤岡太右衛門三女、和歌枝、明三六、九生、奈良、村井貞次郎、妻、和歌枝、明三六、九生、奈良、村井貞次郎、男、壯太郎、大一一、一、一、生。

君は和歌山縣人藤岡ヨネの長男にして明治二十四年八月を以て生れ大正九年祖母タキの後を受けて家督を相続す現時大阪堂島米穀取引所取引員たり家族は尙二男靖二郎(昭二、三生)長女千恵(同五、二生)ありA三六四七B八八五(大阪府北區堂島濱通一ノ一〇三電北二九九)

藤岡大英

從三位勳二等、退職検事、滋賀縣在籍、明一五、一、二、生、東京、筑城治姉、妻、明子、靜岡高女出身、男、英、明三六、四生、北海道釧路在勤、男、和、社務、明四〇、一〇生、東京地下鐵道會社勤務、法學士、女、武、明四三、七生、明大商科在學、女、益、明四四、六生。

阪九龜倉奈良神戶各裁判所検事及宮城控訴院天津浦和秋田岐阜旭川函館山口各地方裁判所検事正に歷補して本年五月定年に依り退職となる家族は尙四男晴男(大六、六生、山口高校在學)五男知男(同九、五生、明治中學在學)あり長女千代子(明三四、五生)は靜岡縣人佐々木林藏四男義助に二女己代子(同三八、三、三)長野縣人丸山温良に三女幸子(同四一、一、二生)は宮城縣人鈴木正男に嫁せり(東京市中野區鷺宮四ノ四三二)

藤岡繼平

從四位勳四等、文部省圖書監修官、圖書局編輯課長、愛媛縣在籍、明二一、五、生、愛媛、倉頭鶴太郎、妻、ソノ子、二女、養子均一、鳥、池田顯吉、男、芳、明四〇、五、生、養子均一、妻、女、均、明四〇、五、生、養子均一、妻。

藤岡貞次郎

富士洋紙店應務取締役、西肥板紙、洋紙合同販賣各務取締役、大阪府在籍、明七、九、生、香川、多田トク私生、妻、ヤエ、明三七、二、生、二男繁妻、大阪、男、繁、明四二、二、生、長女しづ夫、滋賀、女、千代、明四二、二、生、女、良之助、明四四、二、生、中條菊治郎、男、明三、二、生、養子良之助長女、女、しづ、明三一、一、一、生、養子良之助長女。

(同九、二生、同二女)ありA六〇六(大阪市天王寺區上本町八ノ五電南五〇〇四) 參照食満藤吉、中條菊治郎妻、徳島市長 藤岡直兵衛 從六位勳六等、徳島市長、徳島縣在籍、明四四、五、生、徳島、田岡嘉八長、妻、マツ、二女、大一一、一〇生、男、興人、大一一、一〇生、女、喜代子、大八、八、生。

藤岡長敏

從五位勳六等、北海道廳長、警察部長、奈良縣在籍、明三五、一、一、生、東京、織田萬二女、妻、長世、大一一、一、一、生、男、長、明三二、一、一、生、君は奈良縣人藤岡長二の三男同長和の弟にして明治二十七年八月十九日生れ大正十一年分れて一家を創立す大正九年京都帝國大學法學部法科を卒業し京都府屬となり同年文官高等試験に合格す爾來警視廳警視地方警視廳警視廳廣島縣警視廳島根縣警視廳各縣警視廳各警視廳長を経て昭和七年北海道廳長に任じ警視廳長に補せられ今日に及ぶ昭和三年歐米各國に出張す家族は尙長女小苗(大一一、一、一、生)あり(札幌市北海道廳警察部内) 參照織田萬、藤岡長和の項

君は先々々代藤掛與左衛門(玄瀧)より顯る支瀨上野國より出で日本橋に於いて林業の業を営み後發展して同屋業に轉じ處を成す君は東京府人町田徳之助の弟にして若林徳之助の從兄なり明治九年十二月八日を以て生れ同三十四年先代兄の入つたなり家督を相続し前名信之助を改め眞名す乃に慶應義塾に學び後日登壇店と稱し絲物商を営み尙藤掛商店取締役會長東京株式取引所取引員たり兼に東京人達東京總商會社の重役たりし事あり嘗て人造絲研究の爲め歐米諸國を巡遊す家族は尙孫信子(大一一、一、一、生、養子十一郎長女)同英之助(昭四、八、生、同長男)同綾子(同六一、二、二、生、同二女)同千代子(同七一、一、一、生、同三女)あり四女歌(明四一、七、生、日本橋高女出身)は東京府人河合半衛長男喜一郎に嫁せり(東京府日本橋區大傳馬町三ノ一ノ二電漫花三三一、二、六四一) 參照白井博之、町田徳之助、若林徳之助、遠藤隆平、見込近藤利兵衛、杉田敬一郎、津野木草之の項

君は奈良縣多額納稅者藤岡長二郎の長男同長敏の兄にして明治二十一年五月十三日を以て生れ昭和八年家督を相続す明治四十四年文官高等試験に合格し大正三年東京帝國大學法科大學を卒業し愛知縣同縣顧問郡長和歌山縣理事官兵庫縣事務官石川縣警察部長長野縣各縣書記官警視廳長島縣書記官内務省長官に歴補し兵庫縣書記官警視廳長内務省長官京都府書記官内務省長官を経て昭和八年佐賀縣知事に任ぜらるる家族は尙伯父長一郎(嘉永元、七、生)あり姉ヤチ(明一一、三、五、生)は奈良縣人北尾九郎右衛門(同五一、一、一、生)は同縣人富和宜長男成美に同清水(同八一、一、一、生)は和歌山縣人前田半十郎長男規矩十郎に妹(同二二、一〇生)は同縣人梅田八藏長男善一に同綾子(同三〇、三、三、生)は大阪府人越井三三長男善一に同英子(同三三、八、八、生)は和歌山縣人高橋克己に同裕子(同三七、二、二、生)奈良高女師附高女出身)は奈良縣人河合庄九郎長男庄司に嫁し弟長衛(同二五、一〇生、工學士)は兵庫縣人石井兵造に養子となり同長敏(同二七、八、八、生、法學士)は同妻二葉(同三三、一、一、生、法學博士織田萬二女)及其一子を伴ひ同長正(同三二、七、七、生、醫學博士)同妻保榮(同三七、一〇生、京都、能勢清左衛門二女)は各分家せり(佐賀市松原町官舎) 參照石井兵造、藤岡長敏の項

藤岡兵一

從四位勳三等、名古屋市政助、東京府士族、明二六、二、二、生、男爵、木越孝八妹、妻、アイ、明二六、二、二、生、男爵、木越孝八妹、女、賢、大五、一〇生、君は石川縣土族藤岡明郎の長男にして明治十八年四月二日を以て生れ同三十三年家督を相続す同四十二年東京帝國大學法科大學政治科を卒業し文官高等試験に合格直に岐阜縣屬となる爾來岐阜縣事務官補山口縣事務官同縣理事官靜岡縣理事官鳥取縣馬宮城廣島各縣書記官(警視部長)内務省警備内務書記官等に歴任し高知栃木鳥取各縣知事關東廳警務局長を経て官を辭し現時名古屋市長に任ぜらるる家族は尙三女知子(大一一、一〇生)二男英次(昭三、七、七、生)あり(名古屋市中區徳川町一ノ三九電中三九) 參照白井博之、木越孝八の項

藤岡光長

正五位勳四等、林學博士、東京帝國大學教授兼林業試驗所長、愛媛縣在籍、明二七、一〇生、千葉、磯野教長女、妻、和夫、昭四、一、生、男、和夫、昭四、一、生、女、美枝子、大七、二、生、女、品子、大七、二、生、君は愛媛縣人藤岡隆太郎の長男にして明治十八年二月十二日を以て生れ昭和三年家督を相続す明治四十二年東京帝國大學農學部林學科を卒業し山形林手同技師を経て九州帝國大學助教授に進み森林利用學研究の爲め滿洲二ヶ年來英佛獨瑞四各國に留學し歸朝後同大學教授兼林業試驗所技師東京帝國大學教授に任じ現時東京帝國大學教授兼林業試驗所所長たり大正二年林學博士學位を受く昭和二年南洋諸島海峽殖民地英領印度等を視察す(東京市目黒區下目黒一ノ一三四電重輪三八八九) 參照白井博之、町田徳之助、若林徳之助、遠藤隆平、見込近藤利兵衛、杉田敬一郎、津野木草之の項

藤岡茂太郎

內外ビルヂング取締役支配人、香川縣在籍、明二二、五、生、香川、三浦教善妹、妻、達世、高松高女出身、君は香川縣人藤岡展造の長男にして明治二十年五月十五日を以て生れ同四十三年家督を相続す乃に上京して専修大學に學び郷里に於て家業海運業に従事せしが後實業界に投じ卓越せる手腕を發揮し鐵橋の飛躍を試みるころあり内外ビルヂングの創立に參與し支配人となり現に其取締役支配人として經營の權を膺り闊熟せる手腕徳望を稱せらる趣味として琴古流尺八を能くす(東京市中野區宮里町一六電中野二九〇〇) 參照藤掛與左衛門、藤岡光長、藤岡貞次郎、藤岡長敏、藤岡長和の項

藤川靖

正五位勳六等、逓信書記官兼逓信監察官、選信大臣秘書官、大臣官房秘書課長、東京府在籍、明三五、三、三、生、東京、田中敬信三、妻、子、大一一、四、六、生、君は神奈川縣人河野虎吉の三男にして明治二十五年七月三十日を以て生れ藤川豊次郎の養子となり昭和三年

家督を相續す大正五年文官高等試験に合格翌年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し爲替貯金局書記通信事務官補兼鐵道船料金澤郵便局長通信局事務官廣島通信局長古屋通信局長東京通信局長局長に補せられ昭和四年通信局長を命ぜられ通信局長に補せられ昭和九年官房秘書課長を命ぜられ通信監察官を兼任す義に佛國に在留す家族は尙養妹末子(明治三三、五生)あり養父豊次郎(嘉永五、一〇生)繼母き(元治元、一生、東京、木村甚勇妹)は分家せりA一四四(東京市麹町區永田町二ノ六七電報七〇七)

**藤川利三郎** 正四位勳三等、朝鮮京南鐵道、貞光電力各社取締役、香川縣士族  
 妻 慶應二、七生、香川、士、瀧守水  
 繼母 テル 姉  
 妻 ウタヨ 明一八、一生、養父文造長女  
 男 正夫 六一、八生  
 女 千代子 大五、一生  
 君は愛媛縣人片山半三の二男にして明治十二年二月十日を以て生れ先代文造の養子となり大正七年家督を相續す明治三十六年東京帝國大學法科大學を卒業し朝鮮總督府書記官度支部稅務課長平北道長官等に歴任し朝鮮總督府度支部稅務課長平北道長官等に歴任し各會社の重役たり義に廣信託高松電燈各會社取締役たりしことあり家族は尙五女和子(大九、一生)あり長女ヤス(明三九、一生)は秋田縣人小山田義孝弟四郎に三女綾子(同四五、三生)は廣島縣人山本新太郎に嫁せり(高松市濱ノ丁二七電報三九一)

**藤川類藏** 盛道商行、江戸堀土地建物、臺灣監査役、取締役、東邦人壽、大阪府在籍  
 妻 イソ 明九、一生、香川、高谷政吉二女  
 男 重五郎 明三九、一〇生  
 女 ミチ子 明四三、一生、樟葉高女出身  
 君は徳島縣人藤川慶太の弟にして明治二年四月を以て生れ大正三年分れて一家を創立す夙に臺灣に渡り雜貨商を營み次第に産を擴げ臺灣總督府の用達となり明治三十八年南滿洲營口及大連奉天と大阪に店舗を設け東西相呼應して努力し大正十年各支店と共に株式組織に改め現に其取締役たり貿易商を營み前記會社の重役を

兼ねて金瓜石鐵山會社監査役たりしことあり園藝に趣味を有すA三四三八(大阪市東區谷町五ノ七電報七一九)

**藤木重次郎** 内外新聞用達社、大阪日日新聞社、毎日新聞社、各社社長たり家族は尙孫完子(昭四、六生、京都府)高明長女(昭四、一五、京都市上京區加茂堀出町北三電報上七七五)

**藤木經明** 從五位勳六等、工業試驗所技師、東京工業試驗所勤務、早稻田大學講師、京都府在籍  
 妻 登喜子 明三四、九生、東京、大坪正  
 君は明治二十八年八月十三日を以て生れ大正八年東京帝國大學工科大学應用化學科を卒業し直に工業試驗所技師に同十年同技師に任じ現時東京工業試驗所勤務たり家族は尙長女千恵子(昭四、八生)あり(京都市濠洲區原宿二ノ一七〇ノ四電報青山八二二)

**藤倉五一** 東京府在籍  
 妻 初子 明三六、三生、宮崎、河野巖男長女、雙葉高女出身  
 男 吉治 大二、六生、山崎高女出身  
 女 田島 大六、六生、山崎高女出身  
 君は東京府人藤倉五郎兵衛の長男にして明治二十一年一月を以て生れ同二十三年家督を相續す義に米國に留學し同四十年歸朝爾來自適の生活に就き家主たりA一六四一(東京市赤坂區新坂町六七電報青山三三三〇)

君は宮城縣人内ヶ崎豐一郎の弟にして明治二十年二月を以て生れ先代三郎助の養子となり大正十五年家督を相續し前名龍次郎を改め龍名才進業を繼承して藤崎吳服店を主宰せしも現時前記會社の重役たり家族は尙三男邦三郎(大一一、二生、養妹英子(明四二、九生)ありA一五五三(東京市四谷區鹽町一ノ二九電報四三〇五九)

**藤崎彌熊** 熊本縣多額納稅者、地主、九州學院公民科講師、熊本縣士族  
 妻 アサ 女 安政五、一生、熊本、江上安太長  
 男 正彌 昭八、二生  
 君は熊本縣士族藤崎彌一郎の二男にして明治三十五年五月を以て生れ大正七年家督を相續す昭和二年慶應義塾大學法學部政治科を卒業し同三年劍橋大學に學び在留二年半にして歸朝す後九州學院講師を嘱託せられ現在に及ぶ地主たり縣下の多額納稅者にして直接國稅千五百四十八圓を納む讀書を趣味とす家族は尙長女俊子(昭六、二生)あり(熊本縣津島郡浦村七八八)

**藤澤幾之輔** 正四位勳一等、樞密顧問官、宮城縣士族  
 妻 田島 萬延元、一生、宮城、士、中村  
 養子 通 明三三、二生  
 君は舊仙臺藩士藤澤景翼の長男にして安政六年七月を以て生れ明治十五年家督を相續す夙に法律學を修め同十三年狀師となり仙臺に法律事務所を開く後仙臺市會議員市參事市會議長宮城縣會議員同常置議員同議長となり衆議院議員に當選すること十三回昭和五年衆議院議長となり同六年之を辭し貴族院議員に勅選せられ同九年六月樞密顧問官に任ぜられ東北政界の重鎮にして嘗て憲政會及民政黨に於て總務乃至顧問に擧げらる又通信内務各參政官に任ぜられ大正十五年商工大臣に親任せらる二女たけし(明一九、三生)は富山縣人河合八十八弟義連に嫁れつ(同二五、五生)は宮城縣人矢野道也に嫁し同ひとし(同六、一生)は同縣人後藤藤人

四郎の養母たり(東京市中野區上ノ原町二五電中野二一四五)

**藤澤幹二** 醫學博士、市立小倉病院長、福岡縣士族  
 父 錫 嘉永五、四生  
 母 ナカ 安政五、一生、福岡、白水惣十郎二女  
 妻 ハルヨ 明二六、四生、福岡、塚本安次長女  
 男 研 大六、二生  
 女 美智子 大四、一生  
 君は福岡縣人藤澤錫の長男にして明治十四年十月を以て生れ大正十五年家督を相續す明治十四年京都帝國大學醫學部醫學科を卒業し大正八年醫學博士の學位を授與せられ現時小倉病院長たり家族は尙二男和夫(大八、二生)四女紀代子(同三一、二生)六女敦子(同五一、九生)弟隆(明二九、六生)及其二子あり(小倉市銀治町九九電六五四)

**藤澤周次** 正四位勳三等、學務院教授、中等科長、東京府士族  
 君は舊幕臣藤澤親の二男にして現戸主親雄の叔父なり明治八年四月を以て生れ同三十四年東京帝國大學文部省大學英文科を卒業し現時學務院教授にして中等科長たり(東京市杉並區阿佐ヶ谷二ノ五四九電報一七一九)

**藤澤進** 産業組合中央金庫理事、宮城縣士族  
 妻 幾之輔 安政六、二生、現戸主  
 養子 龍 明一六、四生、養父幾之輔長女  
 養子 鐵 明三六、二生、福島、淺芳藏四男  
 君は宮城縣士族藤山均の四男にして明治十三年十一月を以て生れ同三十八年藤澤幾之輔の養子となる同四十四年東京帝國大學法科大學政治學科を卒業し文官高等試験に合格大藏省に入り司稅官事務官稅務監督官に歴任し産業組合中央金庫理事兼稅務投資課長を経て現時理事たりA九九一(東京市中野區上ノ原二五電中野二一四五)

參照藤澤幾之輔後藤藤人四郎矢野道也の項

**藤澤威雄** 從五位勳六等、資源局技師、東京府在籍  
 妻 宣子 明三八、六生、東京、伊達知次郎  
 君は貴族院議員故藤澤利喜太郎の二男にして明治二十八年一月五日を以て生れ後分れて一家を創立す大正八年東京帝國大學工科大学造兵學科を卒業し現時資源局技師たり家族は尙長女葉子(昭四、八生)あり(神奈川縣三浦郡逗子町久木西小路一〇)

**藤澤親雄** 東京府在籍、出版業  
 妻 屋壽 明五、二生、東京、士、天谷永紀  
 妻 みつ 明三〇、三生、東京、小林昇太郎  
 男 壽吾 大一一、四生  
 當家は舊幕臣時代新編奉行の配下にあり舊幕臣にして先代利喜太郎は明治十五年東京大學理學部物理學科を卒業し數學研究の爲英國に留學を命ぜられ同逸ストラブルヒ大學を卒業す歸朝後東京帝國大學教授に任じ同二十四年理學博士の學位を授與され爾來三十餘年教育界に終始し本邦數學界の權威たり著書數種あり義に貴族院議員に列し又帝國大學士會會員たり君は其長男にして同周次の甥なり明治二十六年九月を以て生れ昭和八年家督を相續す大正六年東京帝國大學法科大學法律科を卒業し東京府士族にして出版業を營む家族は尙二男喜雄(昭三、一〇生)三男憲治(同六、三生)弟秀雄(明四三、九生)あり同威雄(同二八、一生、工學士)叔父茂樹(同二四、五生、工學士、法學士)は各分家し同威(同二二、一〇生、工學士)は亦其妻千代(同二三、一生、東京、士、山中讓三三女)及其子女を伴ひ分家し妹いさ(同三三、七生)は東京府士族五代龍作二男法學士信厚に同きよ(同三八、五生、御茶の水高女出身)は故貴族院議員左右田喜一郎弟理學士徳郎に叔母たり(慶應三、三生)は工學博士南部珠香に同ソノ(明三、五生、一ッ橋官立高女出身)は理學博士

**藤澤友吉** 藤澤友吉商店社長、日本樟腦採取役、藥種商、大阪府在籍  
 妻 すな 明三五、二生、滋賀、前川理平四女  
 男 友吉郎 昭三、七生  
 君は大阪府人中田幾助の四男にして明治二十八年七月二十八日を以て生れ同年先代友吉の養子となり昭和七年家督を相續し前名友吉之助を改め龍名才進業を營む藤澤友吉商店社長日本樟腦會社取締役たり家族は尙長女芳子(大一一、二生)二女晴子(同二三、七生)三女富子(同二一、一〇生)ありA二一五五二(大阪市東區道修町二ノ一電本局一〇八〇)

**藤島信太郎** 正五位勳五等、營林局技師、高知縣林局計課課長、東京府在籍  
 妻 啓八 文久三、一〇生、現戸主  
 男 啓八 大六、一生、千葉、井上磐雄  
 君は東京府人藤島啓八の長男にして明治二十二年一月八日を以て生れ大正三年東京帝國大學農科大學林學科を卒業し山林技師同技師營林局技師を経て同十四年農林技師兼營林局技師に任じ山林局及東京營林局に勤務す昭和七年營林局技師に専任せられ現に高知營林局計課課長たり義に東京帝國大學農學部講師を嘱託せられ其の間に「更新論的造林學」の著あり家族は尙弟友治郎(明三二、五生)同妻初瀨(同三五、三生)小野寺徳次郎(長女)及其子女弟澤三(同三六、一生)あり姉テウ(同二八、二生)は東京府人相子朋太郎に嫁つ(同二六、一生)は大阪府人河添又治に嫁せり(高知市西弘小路高知營林局内電二〇九〇)

### 藤島 武二

從四位勳三等、帝國美術院會員、東京美術學校教授、洋畫家、東京府士族、  
妻 幸一、明三五、一生、  
男 明三九、一〇生、農學博士、田田咲吉

君は鹿見島藤島孝右衛門の三男にして慶應三年九月十八日を以て生れ明治十二年兄清の後を承け家督を相續す凡に川端玉章に就て圓山派繪畫を學び傍ら東京佛語學校に通學し佛語を修業次で中九精十郎松岡壽山本芳翠等に就き洋畫を修む同二十九年東京美術學校助教授に任じ同三十八年美術研究の爲佛伊兩國に留學す同四十五年同校教授に進み現時帝國美術院會員に擧げらるるに帝國美術院美術展覽會審査員たり二女由利(明三六、九生)は東京府人井原家吉弟大輔に妹ツル(同七、四生)は鹿見島藤島孝長に嫁せり(東京府本郷區駒込町一三番地大塚五一〇七)

### 藤島 範平

工學博士、三重縣在籍、  
男 敏男、明二九、七生、  
婦 孝子、明四二、一生、長男敏男妻、東京川原五郎長女、跡見女學校出身、  
男 良平、明三六、三生、三井物產會社社員、  
婦 英子、明四四、九生、三男良平妻、東京小貫慶治長女、  
男 昌平、明三七、九生、山形女子師範教諭、文學士、  
女 千代、明四五、六生、雙葉高女出身

君は三重縣土族山内俊徳の二男にして明治四年八月十五日を以て生れ先代萬治郎の養子となり同十三年家督を相續す後明治二十七年東京帝國大學工科大学造船學科を卒業し日本郵船會社に入り保船課長參事船務部調査主任を経て大正七年取締役に擧げられ後工務部長を兼ね同十二年之を辭し横濱船渠會社社長となり次で横濱新港倉庫社長東京回漕會社取締役に就任後商業會議所常議員に推されし昭和元年前記の職を辭し閑地に就けり先是大正八年工學博士の學位を受く讀書撞球ゴルフ釣魚に趣味あり長女信(明四一、四生)は東京府人佐々木一造に嫁し養兄榮治郎(明三三、九生、三重、服部不

二郎弟)は同妻ます(同二、二生、養父萬治郎長女)と共に其一女を伴ひ分家せり八三六(東京市小石川區龍崎町二五六番地大塚一三六〇)

### 藤瀨 新一郎

正七位、理學博士、東北帝國大學教授、理學部勸務、東京府在籍、  
母 明一〇、九生、靜岡、士、富永鴻、  
妻 孝子、明三九、一生、伯爵林博太郎二女、  
男 政友、明三九、一生、五生

君は東京府人藤瀨政次郎の長男にして明治三十二年七月を以て生れ昭和二年家督を相續す亡父政次郎に商法講習所を卒業し三井物產會社東洋綿花會社の事務取締役外務會社の重役として實業界の重鎮たり君は大正十二年東北帝國大學理學部化學科を卒業し現同大學教授にして理學部勸務に化學博士の學位を受け獨逸に留學し理學研究所員たりし事あり家族は尙弟清(明三九、六生、經濟學士)同五郎(同四一、一〇生、同上)あり六二〇(仙臺市良覺院丁三六) 參照||伯爵林博太郎、富永鴻、同爵田武彦の項

### 藤瀨 宗一郎

十八銀行、長崎興業、長崎紡織、長崎製絲、長崎無煙炭採取、長崎電氣軌道各社監査役、藤瀨吳服店代表社員、長崎縣在籍、  
妻 明三六、三生、長崎、相馬藤作長女、  
男 英二、明三六、四生、  
婦 孝子、明三一、一生、長男英二妻、長崎井手キヨ子長女

君は長崎縣人藤瀨英作の長男にして萬延元年一月二十五日を以て生れ明治二年家督を相續す吳服商を営み長崎取引所理事にして傍ら前記銀行會社の重役を兼ね又日本赤十字社長崎支部商議員長崎商工會常議員たり家族は尙弟等一(明四五、四生、長男英二妻)同四女(同四一、一〇生、同三女)同三女(同四二、一〇生、同五女)同正妻(同七、三生、同四男)同敏行(同六、

### 藤瀨 兵三郎

藤瀨商店取締役、吳服卸商、東京府在籍、  
妻 明一四、一生、兵庫、坂田勝三

君は京都府人先代兵三郎の二男にして明治三十八年九月六日を以て生れ大正十一年家督を相續し前名和治郎を改め襲名す吳服卸商を営み現に藤瀨商店取締役たり家族は尙弟三郎(明三九、一生)同妻テ(同四三、七生、京都、鳥居新(兵衛二女)あり妹久子(同四一、一〇生)同夫武治郎(同三一、九生、東京、村田市太郎弟)は共に分家せりA一三三(京都市上京區出雲路內河原町四三ノ一電西陣三二四)

### 藤瀨 彌一郎

公證人、東京府士族、  
妻 明一、三生、茨城、山本豪太郎

君は北海道土族藤瀨眞の長男にして明治元年四月を以て生れ明治三十年家督を相續す公證人たり家族は尙孫宣久(昭二、一〇生、二男義暢長男)同(同八、八生、同長女)弟君三(明一六、二生)同妻タ(同二六、一〇生、東京、羽坂喜(一〇女)及其三男四女あり長女壽江(同三九、三生)は靜岡縣人宮崎英一に嫁せりA九七五(東京市豊島區池袋三ノ一四〇番地大塚一七七) 參照||藤瀨彌二郎、竹山正男、濠澤田教義の項

### 藤田 伊奈介

藤田豆粕製造會社代表取締役、東京府在籍、  
妻 明三一、一生、長男英二妻、長崎井手キヨ子長女

君は大阪府人阪上彦太郎の二男にして明治七年三月十日を以て生れ同三十六年先代重の夫となり家督を相續す現時藤田豆粕製造會社代表取締役にして傍ら前記銀行會社の重役を兼ね又日本赤十字社長崎支部商議員長崎商工會常議員たり家族は尙弟等一(明四五、四生、長男英二妻)同四女(同四一、一〇生、同三女)同三女(同四二、一〇生、同五女)同正妻(同七、三生、同四男)同敏行(同六、

### 藤田 猪太郎

正五位勳四等、新潟高等學校教授、  
妻 明一九、二生、千葉、信太能太

君は愛知縣人藤田龜太郎の弟にして明治十四年五月十日を以て生れ同二十六年分れて一家を創立す同三十九年東京帝國大學工科大学造船學科を卒業し大正二年千葉縣立鏡子商業學校教諭となり同八年新潟高等學校教授に任ぜられ現時其職にあり兼に同校生徒主事を兼ねしことあり闊基に興味を有す(新潟市關屋町一〇ノ二電二七六七)

### 藤田 慎治郎

正五位勳四等、千葉縣書記官、内務部長、岡山縣在籍、  
妻 天以、次郎二女、愛媛縣松山高女、米國マサチューセッツ州ハイスクール及スマスケレット出身、  
男 雄篤、大五、七生、  
女 純子、大八、一生

君は岡山縣人藤田賢平の二男にして明治十六年三月十三日を以て生れ大正八年兄弟分れて一家を創立す明治四十四年東京帝國大學法科大学英法科を卒業し翌四十五年文官高等試験に合格岐阜縣津奈川縣屬同僚倉前長同縣理事官兵庫縣理事官同視學官秋田縣警察部長同縣事務官兼參事官警務局長同視學官同縣警察官練習所長内務局事務課長廣島縣事務局長鹿兒島縣內務部長栃木縣內務部長に歴任し一時休職の後昭和七年六月千葉縣書記官に任じ内務部長に補せらるるに關東廳在任中大正十一年より一ヶ年間歐米各國に出張を命ぜられ警察行政及社會事業を研究し著書として「歐米の警察と社會事業」とあり趣味として劍道乘馬あり特に劍道は昭和九年大日本武德會長として五段を允許せらるる家族は尙三女節枝(大二三、一〇生)あり(東京

### 京市目黒區下目黒二ノ四二六

參照||加地利夫、濠澤本賢輔、濠澤本才輔の項

### 藤田 榮三郎

丸ト、雄結商、京都府在籍、  
妻 明四、三生、滋賀、鉤井七三女、  
男 榮三、明三二、四生、京都、藤田政次郎

君は滋賀縣人藤田榮三郎の長男にして明治二十七年十一月九日を以て生れ藤田政次郎の養子となり昭和七年家督を相續す丸トと稱し雄結商を営む家族は尙養妹マキ(昭二七、二〇生)ありA八〇B一一(京都市下京區朱雀正會町一五電下二九九六)

### 藤田 榮介

從四位勳三等、特命全權公使、ルーマニア國駐劄、鹿兒島縣在籍、  
妻 明二六、一〇生、熊本、平原清藏

君は鹿兒島縣人藤田徳平の長男にして明治十四年四月を以て生れ昭和九年家督を相續す明治四十四年東京帝國大學法科大学法科を卒業し文官高等試験に合格す爾來領事官補公使館三等書記官領事官公使館二等書記官臺灣總督府事務官外務省書記官總領事等に歴任し其間安東牛莊西班牙吉林廈門廣東各地在勤情報部第一課長濟南青島各地在勤を命ぜらる昭和五年特命全權公使に任じルーマニア國駐劄を命ぜられユーゴスラヴィア國領事官に任ぜられ今日、及ぶ家族は尙弟三(昭二五、七生)同妻タ(同三五、八生、鹿兒島、有馬カノ長女)弟實(昭三二、一〇生、同妻百合(昭四〇、七生、鹿兒島、岡積利兵衛三女)及子女あり(ルーマニア國日本公使館内)

### 藤田 簡吉

新瀨縣多額納稅者、新瀨米穀株式會社取締役、新瀨貯蓄銀行、新瀨電力、愛隣社各取締役、第四銀行、新瀨運輸、新瀨倉庫各取締役、新瀨縣在籍、  
妻 ヤイ、明九、二生、新潟、伊藤一郎妹

(※印は姻族關係)

7之部 藤田

(寮印は姻族關係)

7六二

妻 かめよ 明二六、一、二生、岡山、辻井仙太  
妻 愛 明三九、一、五生、弟養長男  
妻 子 明三九、一、五生  
君は兵庫縣人藤田松蔵の長男にして明治九年八月を以て生れ同四十二年家督を相続す現時南滿洲會社社長の外前記各會社の重役を兼ね家族は尙弟養(明一七、一生)同妻モト(同二八、一生、長崎、木谷龜次郎妹)及其子女あり(奉天奉平町二)

藤田謙一 正五位勳四等、臨時産業管理局第一部長、大阪府在籍  
妻 慶應元、二生、奈良、西本宗作長  
妻 好子 明三八、七生、東京、村上直次郎  
妻 久 昭三一、一、一生  
君は大阪府人藤田仙助の三男にして明治二十六年七月十日を以て生れ同四十年分れて一家を創立す大正五年文官高等試験に合格翌六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し農商務局となり爾來山林事務官農商務事務官官工事務官書記官商務局取引課長大臣官房統計課長に歴任し昭和九年臨時産業管理局事務官同第一部長に任ぜらる大正十四年歐米各國に出張す(一四二(東京市杉並區堀之内)ノ二三八電中野四五七九)参照II村上直次郎の項

藤田之助 正五位勳四等、臨時産業管理局第一部長、大阪府在籍  
妻 慶應元、二生、奈良、西本宗作長  
妻 好子 明三八、七生、東京、村上直次郎  
妻 久 昭三一、一、一生  
君は大阪府人藤田仙助の三男にして明治二十六年七月十日を以て生れ同四十年分れて一家を創立す大正五年文官高等試験に合格翌六年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し農商務局となり爾來山林事務官農商務事務官官工事務官書記官商務局取引課長大臣官房統計課長に歴任し昭和九年臨時産業管理局事務官同第一部長に任ぜらる大正十四年歐米各國に出張す(一四二(東京市杉並區堀之内)ノ二三八電中野四五七九)参照II村上直次郎の項

藤田敬二 正五位勳五等、鐵道技師、大臣官房研究所勤務、大阪府土族  
妻 美 昭三一、一、一生、群馬、鹽谷次郎  
君は舊岸和田藩士藤田守の二男にして明治十七年九月五日を以て生れ先代忠平の養子となり同三十二年家督を相続す同四十四年東京帝國大學工科大学機械工學科を卒業し鐵道院技師となり北海道鐵道管理局東京鐵道管理局を経て本省運輸局運輸課に轉じ現に鐵道技師にして大臣官房研究所勤務し鐵道車輛に關する試験室の主任技師たり家族は尙長女はつ(昭六、一生)あり養兄周吉(明三、一〇生、大阪、小川佐登衛四男、日本ポトランドセメント同業會事務理事)は大坂府土族小林徳の入夫となり養姉マサ(同一四、六生、大坂、木村直次郎の項)

藤田小五郎 醫學博士、醫師  
妻 和歌乃 明二四、二生、大阪、伊藤政姉  
妻 美 昭三一、一、一生、群馬、鹽谷次郎  
君は先代四郎は風に東京帝國大學法科大學を卒業し官界に入り後貴族院議員に勲遷せられ錦鶏閣祇候たりし人なり君は其長男にして明治二十六年六月を以て生れ昭和九年家督を相続す大正六年大阪醫科大學を卒業し更に京都帝國大學醫學部研究科に學び同二年醫學博士の學位を授與せらる同三年財團法人弘濟病院外科部長に就任し同九年之を辭す現に外科醫師たり家族は尙二女西子(大一〇、二生)三女秀子(同一、一、一生)庶子龍五郎(昭三、一二生、生母、三重、巽教)同閉吉(同七電高輪五五)

藤田治右衛門 兵庫縣多額納稅者、濱坂銀行頭取、阪神工業會取締役、鋼屋商店金物商、兵庫縣在籍  
妻 安政二、一生、兵庫、岩間治兵衛  
妻 直 昭四一、一、一生、長女みち夫、兵庫  
妻 直 昭四一、一、一生、長女みち夫、兵庫  
君は兵庫縣人藤田幸治郎の二男にして明治十一年三月五日を以て生れ同三十四年先代フサの入夫となり家督を相続す濱坂銀行頭取を兼ね家族は尙六男謙三(大九、九生)七男猛(同一四、五生)孫初枝(同一三、一〇生)養子光平(長女)同安(同一五、一〇生)同長男(同和子)昭三(一生)同二女(同實)同四、八生、同二男(同憲紀子)同四、一生、長男正造長女(同せつ子)同八、二生、養子光平三女あり養妹ふみ(明二五、一〇生)は兵庫縣人藤田榮之祐五男五郎に嫁せりA九九五B三六七(大阪府西區江戶堀南通二ノ二一電土佐堀一〇四六)

藤田茂尙 從五位勳五等、地方技師、千葉縣警察部衛生課長、同縣立袖ヶ浦病院長、新潟縣在籍  
妻 志 昭二六、三、一生、成女高女出身  
妻 繁 昭二六、三、一生、成女高女出身  
君は新潟縣人にして明治十八年六月二十二日を以て生れる同四十二年千葉醫學專門學校を卒業し翌年新潟縣警察に任じ爾來秋田縣技師青森廣島千葉各縣警察醫を経て大正十年地方技師に進み現に前記の職に在り家族は尙三女延子(大一一、七生)三男尙信(同一五、二生)四男昭禮(昭三、九生)あり(千葉市寒川一四〇電一二六九)

藤田信三郎 藤田信商店社長、大島織布會社取締役、大阪府在籍  
妻 信之祐 明三一、三、一生  
妻 信之祐 明三一、三、一生  
君は奈良縣人藤田信三郎の弟にして明治三年四月を以て生れ大阪府人藤田末治郎の養子となり同三十年分れて一家を創立す綿布商藤田信商店社長及大島織布會社取締役たり家族は尙六男藤夫(明四五、五生)孫信昭(大一一、七生)長男信之祐(昭二、二生)同三男(同一四、二生)同二男(同邦昭)昭二、二生、同三男(同一四、二生)同三女(同一四、二生)は分家せりA四八七(大阪府東區南本町一ノ三電船場一〇七六)

藤田眞一 大阪府在籍  
妻 直 昭二二、一、一生、大阪、廣岡修造  
妻 直 昭二二、一、一生、大阪、廣岡修造  
君は奈良縣人藤田眞一(昭二二、一、一生)にして明治二十八年四月二十八日を以て生れ先代治の入夫となり大正十三年家督を相続す家主たり家族は尙二男節也(大一一、一〇生)長女惠美(昭五、一生)ありA三八〇(堺市甲斐町四ノ六)

藤田若水 衆議院議員(廣島縣選出)、辯護士  
妻 明一七、一、一生、愛媛、加藤俊夫姉  
妻 明一七、一、一生、愛媛、加藤俊夫姉  
君は愛媛縣東條の漢學者藤田若水(明一七、一、一生)にして明治九年十二月を以て生れ同三十二年兄又太郎方より分れて一家を創立す早稲田大學法學部を卒業し廣島市に辯護士を開業す曾て廣島辯護士會會長廣島市會議員廣島縣會議員同參事會同支部會議員同縣會議員に當選する事四回立憲政黨に屬し現時同黨會計監督たり二女賀也子(明三五、八生)廣島縣立高女出身は京都府人工學士新文夫に三女薫子(同三八、五生)廣島縣立第一高女專攻科出身は廣島縣人醫學士入澤一郎に四女光子(同四〇、四生)出身同上は兵庫縣人中野利三郎に五女重子(同四二、二生)日本女大出身は廣島縣人實業家久保謙一長男三郎(早大出身)に六女淑子(同四四、一生)廣島高女出身は島根縣人住友電線會社員外山一郎長男西學院高等部出身堅夫に嫁せり(廣島市小町一〇電二五一)

藤田信太郎 藤田分工場代表社員、藤田農林部部長、鐵工業、栃木縣在籍  
妻 明一三、三、一生、養父光藏三女  
妻 明一三、三、一生、養父光藏三女  
君は福井縣人藤田久四郎の二男にして明治九年四月を以て生れ先代光藏の養子となり大正二年家督を相続す鐵工業を營み藤田分工場代表社員にして藤田農林部部長たり家族は尙六男守文(大一一、〇生)京華中學在學あり長女喜久(明三三、三、一生)京華高女出身は埼玉縣人第一銀行宇都宮支店長法學士野口勝太郎に二女清(同三三、一二生)東京府立第一高女出身は東京府人

藤田精一 資産家  
妻 慶應三、一二生、静岡、望月謹八  
妻 慶應三、一二生、静岡、望月謹八  
君は東京府人岡野敬胤の五男にして大正三年二月を以て生れ先代英次郎の養子となり昭和九年家督を相続す資産家たり家族は尙養兄英二(明三五、四生)静岡、大養篤平弟(同妻八重(同三七、一〇生)静岡、望月謹八(五女)及其二女あり養兄周造(同一三、一、一生)愛知、中川文一弟(同妻藤重(同二九、一生)東京、小倉敏晴妹)は其二男を伴ひ分家せりA一一五三(東京市赤坂區水川町三四電青山六七八二)参照II望月乙彦(望月軍四郎)望月孝(望月直作)の項

藤田若水 衆議院議員(廣島縣選出)、辯護士  
妻 明一七、一、一生、愛媛、加藤俊夫姉  
妻 明一七、一、一生、愛媛、加藤俊夫姉  
君は愛媛縣東條の漢學者藤田若水(明一七、一、一生)にして明治九年十二月を以て生れ同三十二年兄又太郎方より分れて一家を創立す早稲田大學法學部を卒業し廣島市に辯護士を開業す曾て廣島辯護士會會長廣島市會議員廣島縣會議員同參事會同支部會議員同縣會議員に當選する事四回立憲政黨に屬し現時同黨會計監督たり二女賀也子(明三五、八生)廣島縣立高女出身は京都府人工學士新文夫に三女薫子(同三八、五生)廣島縣立第一高女專攻科出身は廣島縣人醫學士入澤一郎に四女光子(同四〇、四生)出身同上は兵庫縣人中野利三郎に五女重子(同四二、二生)日本女大出身は廣島縣人實業家久保謙一長男三郎(早大出身)に六女淑子(同四四、一生)廣島高女出身は島根縣人住友電線會社員外山一郎長男西學院高等部出身堅夫に嫁せり(廣島市小町一〇電二五一)

藤田信太郎 藤田分工場代表社員、藤田農林部部長、鐵工業、栃木縣在籍  
妻 明一三、三、一生、養父光藏三女  
妻 明一三、三、一生、養父光藏三女  
君は福井縣人藤田久四郎の二男にして明治九年四月を以て生れ先代光藏の養子となり大正二年家督を相続す鐵工業を營み藤田分工場代表社員にして藤田農林部部長たり家族は尙六男守文(大一一、〇生)京華中學在學あり長女喜久(明三三、三、一生)京華高女出身は埼玉縣人第一銀行宇都宮支店長法學士野口勝太郎に二女清(同三三、一二生)東京府立第一高女出身は東京府人

藤田精一 資産家  
妻 慶應三、一二生、静岡、望月謹八  
妻 慶應三、一二生、静岡、望月謹八  
君は東京府人岡野敬胤の五男にして大正三年二月を以て生れ先代英次郎の養子となり昭和九年家督を相続す資産家たり家族は尙養兄英二(明三五、四生)静岡、大養篤平弟(同妻八重(同三七、一〇生)静岡、望月謹八(五女)及其二女あり養兄周造(同一三、一、一生)愛知、中川文一弟(同妻藤重(同二九、一生)東京、小倉敏晴妹)は其二男を伴ひ分家せりA一一五三(東京市赤坂區水川町三四電青山六七八二)参照II望月乙彦(望月軍四郎)望月孝(望月直作)の項

藤田若水 衆議院議員(廣島縣選出)、辯護士  
妻 明一七、一、一生、愛媛、加藤俊夫姉  
妻 明一七、一、一生、愛媛、加藤俊夫姉  
君は愛媛縣東條の漢學者藤田若水(明一七、一、一生)にして明治九年十二月を以て生れ同三十二年兄又太郎方より分れて一家を創立す早稲田大學法學部を卒業し廣島市に辯護士を開業す曾て廣島辯護士會會長廣島市會議員廣島縣會議員同參事會同支部會議員同縣會議員に當選する事四回立憲政黨に屬し現時同黨會計監督たり二女賀也子(明三五、八生)廣島縣立高女出身は京都府人工學士新文夫に三女薫子(同三八、五生)廣島縣立第一高女專攻科出身は廣島縣人醫學士入澤一郎に四女光子(同四〇、四生)出身同上は兵庫縣人中野利三郎に五女重子(同四二、二生)日本女大出身は廣島縣人實業家久保謙一長男三郎(早大出身)に六女淑子(同四四、一生)廣島高女出身は島根縣人住友電線會社員外山一郎長男西學院高等部出身堅夫に嫁せり(廣島市小町一〇電二五一)

藤田信太郎 藤田分工場代表社員、藤田農林部部長、鐵工業、栃木縣在籍  
妻 明一三、三、一生、養父光藏三女  
妻 明一三、三、一生、養父光藏三女  
君は福井縣人藤田久四郎の二男にして明治九年四月を以て生れ先代光藏の養子となり大正二年家督を相続す鐵工業を營み藤田分工場代表社員にして藤田農林部部長たり家族は尙六男守文(大一一、〇生)京華中學在學あり長女喜久(明三三、三、一生)京華高女出身は埼玉縣人第一銀行宇都宮支店長法學士野口勝太郎に二女清(同三三、一二生)東京府立第一高女出身は東京府人

藤田精一 資産家  
妻 慶應三、一二生、静岡、望月謹八  
妻 慶應三、一二生、静岡、望月謹八  
君は東京府人岡野敬胤の五男にして大正三年二月を以て生れ先代英次郎の養子となり昭和九年家督を相続す資産家たり家族は尙養兄英二(明三五、四生)静岡、大養篤平弟(同妻八重(同三七、一〇生)静岡、望月謹八(五女)及其二女あり養兄周造(同一三、一、一生)愛知、中川文一弟(同妻藤重(同二九、一生)東京、小倉敏晴妹)は其二男を伴ひ分家せりA一一五三(東京市赤坂區水川町三四電青山六七八二)参照II望月乙彦(望月軍四郎)望月孝(望月直作)の項

7之部 藤田

(寮印は姻族關係)

7六三

りA五三三(東京市大森區新井宿六ノ六〇六電大森一七九三)

藤田善助 菓子製造問屋業

妻 ヨネ 明四、一、生、香川、明石ツル姉  
男 勝 明三七、四、生  
喜代子 明四五、一、生、二男勝治妻、大阪村井吉松三女

君は大阪府人先代善助の長男にして明治四年九月二日を以て生れ大正六年家督を相続し前名善吉を改め親名才製菓業を営む父善助(弘化三、二生)は繼母カキ(安政五、三生)と共に大阪府人藤田善夫の家籍に入り二女トヨ(明三一、一〇生)は大阪府人中西吉三郎に三女富美子(明四一、一〇生)は兵庫縣人福田増次郎長男道三郎に嫁し養妹エイ(明二二、一、生、大阪、中島武右衛門二女)は父善助の養子となりA二四六B一五七(大阪府南區大賣寺町東之町四五電南三〇八・五二五七)

藤田善兵衛 菓子商

母 キク 慶應二、九、生、藤田善左衛門長女  
妻 はる 明二四、七、生、大阪、貴島嘉藏妹  
男 清太郎 明四三、一、二、生  
女 美奈子 明六、五、生

君は大阪府人先代善兵衛の長男にして明治十八年七月二十七日を以て生れ大正十年家督を相続し親名善一を改む種子商たり家族は尙妹田鶴江(明四五、一、生)同安江(大二、一、生)弟眞彦(同一〇、三生)ありA五二四(大阪府西區本町通一ノ三電西二六九〇)

藤田宗兵衛 酒類商

母 タメ 明二一、四、生、大阪、阿部徳次郎

君は大阪府人先代宗三郎の長男にして明治四十二年十一月二十一日を以て生れ昭和二年家督を相続す淡宗と稱し酒類商を営む家族は尙妹田鶴江(明四五、一、生)同安江(大二、一、生)弟眞彦(同一〇、三生)ありA五二四(大阪府西區本町通一ノ三電西二六九〇)

藤田太兵衛 川崎第百銀行検査役

妻 信子 明二二、四、生、京都、青木伸英二女  
男 政平 明四、一、二、生

君は兵庫縣人新谷鶴松の四男にして明治二十一年三月を以て生れ先代房治郎の養子となり昭和二年家督を相続す明治四十二年山口高等商業學校を卒業し川崎第百銀行に入り神戸支店長を経て現時検査役たり家族は尙二男博二(大七、七、生)三男信生(同一四、二、生)あり長女シゲ子(明四二、一〇生)は新潟縣人小竹兼三の養子となりA一〇〇(東京市澁谷區千駄ヶ谷二ノ四二二)

藤田嗣章 監、東京府士族

男 嗣章 明一八、三、生  
男 嗣治 明一九、一、一、生、洋畫家、佛國サロン會員

君は舊駿州田中藩士藤田嗣昭の長男にして安政元年一月を以て生れ後家督を相続す明治十年陸軍少監補に任じ大正元年陸軍少監に累進す日清の役には熊本陸軍豫備病院長より臺灣兵站軍醫部長臺灣軍醫部長第五師團軍醫部長に轉じ後韓國駐劄軍醫部長に轉補し等て明治四十三年朝鮮總督府醫院長に任ぜられ大正三年順に依り官を免ぜられ現時附地にあり養に勤一等に彼し功三級金鷲勳章を賜ふ長女キキ(明一一、一、一、生)は東京府士族藤田養子信之に二女ヤサ(同一三、八、生)は陸軍少監藤田中村純野に三女ひろ(同一九、一、一、生)は陸軍三等軍醫正藤田博士田原鐵雄に嫁り(慶應三、二生)は岡山縣士族山上兼善弟正夫に嫁せりA三九二(東京市澁谷區百人町一ノ三〇電四谷六八一)

藤田嗣雄 從四位勳三等、前陸軍教授、東京府士族

父 嗣章 安政元、一、生、現戸主  
妻 モト 明二八、一〇、生、伯爵兒玉秀雄妹  
女 のぶ子 明四五、三、生、東京女高師附屬高女出身

君は東京府士族藤田嗣章の長男にして明治十八年三月を以て生れ同四十二年東京帝國大學法政學科を卒業し文官高等試験に合格朝鮮總督府補同府税關

藤田徳三郎 美濃屋、新炭商

妻 あや 明二九、一〇、生、岐阜、高倉助次

君は岐阜縣人藤田利七の長男にして明治十四年二月二日を以て生れ先代徳三郎の養子となり大正七年家督を相続と共に前名利一を改め親名美濃屋と稱し新炭商を営む家族は尙妹藤江(大三、一〇、生)ありA九八二(東京市城東區龜戸町一ノ二七電龜戸田四三)

藤田徳治郎 岡山縣多額納稅者、服地洋反物商

妻 きし 明一六、一、生、岡山、保田高治郎

君は岡山縣人藤田仙助の長男にして明治十二年一月を以て生れ同三十九年家督を相続す服地洋反物商を営み直接國稅八百三十二圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙孫元子(大一一、一、生、長男千壽男長女同百合子(同一三、一〇、生、同二女)あり(津山市宮脇町電六二一))

藤田敏彦 正四位勳二等、醫學博士、東北帝國大學教授、醫學部勳務、鳥取縣士族

妻 八重 明一八、八、生、東京、中村昌惠長

君は鳥取縣士族藤田謙造の長男にして橋田邦彦の兄なり明治十年十月を以て生れ同三十六年家督を相続す同三十八年東京帝國大學醫學部を卒業す同四十年同逸に留學し同四十三年新潟醫學專門學校教授に任じ大正三年醫學博士の學位を受け同六年東北帝國大學教授に任ぜられ同十一年より二年間醫學部長を勤め昭和八年より學生主事を兼任す家族は尙二男尙明(大一一、一、生)

藤田直市 從五位勳六等、醫學博士、東京帝國大學助教授、醫學部勳務、兵庫縣在籍

妻 スエ 明三〇、四、生、兵庫、大供善定養

君は兵庫縣人藤田松次郎の三男にして明治十八年三月を以て生れ大正四年兄恒方より分れて一家を創立す先是明治四十五年東京帝國大學醫學部を卒業し富山縣立醫學專門學校教授たりしも大正九年東京帝國大學助教授に任ぜられ昭和二年獨逸各國に留學を命ぜらるる同年醫學博士の學位を授けられ同四年歸朝現に同大學醫學部助務たり家族は尙二男松彌(大一一、一、三、生)あり(東京市牛込區喜久井町三四)

藤田八郎 從五位勳六等、判事、東京控訴院

妻 君子 明四〇、七、生

君は三重縣人吉田徳善の八男にして明治二十五年八月を以て生れ先代徳三郎の養子となり大正十三年家督を相続す同六年東京帝國大學法政學科を卒業し同八年判事に任ぜられ爾來東京地方同區裁判所判事東京京都各地方裁判所部長及東京控訴院判事等に歴補し現時東京控訴院部長たり兼に歐米各國(出張趣味に觀劇ゴルフあり)家族は尙長女文子(大九、一二、生)あり(東京市品川區五反田町六ノ一九一電高輪五〇五七)

藤田彦三郎 藤田鐵業採取取締役、藤田組無限責任社員、大阪府在籍

妻 實子 明二七、五、生、男爵鶴殿家勝妹

君は男爵藤田平太郎の弟にして明治十五年十二月二十日を以て生れ大正九年分れて一家を創立す現時前記各會社の重役にして兼に梅田製鋼所原銀行藤田銀行南洋殖産會社及富貴生命保險會社各重役たりし事あり家族は尙長女千重(明四〇、一〇、生)は東京府人東北帝國大學工學部助教授松平正壽に嫁せり(仙臺市北七番丁六六電二〇一一)

て一家を創立す砂糖商を営み大阪砂糖取引所監査役を勤め又前記田屋商店の取締役たり兼に第六十五銀行浪速倉庫會社田屋商店等の重役たりし事ありA七三四(大阪府南區安堂寺通二ノ八電船場四八九)

藤田輝雄 藤田支社社長、加奈陀サン生命保險

父 増吉 文久元、三生、現戸主  
母 チカ 慶應二、三生、香川、田尾淺五郎  
妻 チエ 明二三、一、二、生、長崎、日下部義  
男 博之 大八、一〇、生  
女 貞子 大七、八、生

君は香川縣人藤田増吉の長男にして明治二十年十月二十日を以て生れ實業界に入り現時藤田合名會社代表社員にして加奈陀サン生命保險會社東京支店代表たり家族は尙三女聰子(大一一〇、五、生)二男信之(同一三、七、生)四女惠美子(同一五、二、生)五女敬子(明四、四、生)妹ヒサオ(明三一、七、生)弟靜雄(同三三、三、生)同妻靜(同四三、七、生)新湯、海軍少將廣田積長女あり弟慶雄(同二三、七、生)同妻靜(同二七、二、生、香川、田尾卯兵衛長女)叔父米次郎(同二五、三、生)同妻繁(同二九、八、生、香川、田川秋治二女)は各其子女を伴ひ分家せりA四五一(東京市澁谷區下落合一ノ二四七電大塚一一四)

藤田輝三 從七位、陸軍歩兵中尉、臺灣商工銀行取締役、山口縣在籍

妻 政子 明三五、一、生、山口、西島米藏妹  
女 ユリ子 大七、四、生

君は山口縣人藤田平太郎の二男にして明治二十一年三月二十五日を以て生れ大正十一年分れて一家を創立す下關商業學校の出身にして臺灣銀行員嘉義銀行本店支配人臺灣商工銀行本店支配人心得等を経て現時同行取締役たり兼に軍籍に在り陸軍歩兵中尉に任ぜらるる家族は尙四男善道(大一一、一、生)五男昭三(昭三、三、生)三女華子(同五、四、生)あり(臺南市壽町二ノ四電四七〇)



7之部 藤(田)

族は向二男孝彦ありA一〇七八(大阪市北區網島町三五號東三三七三)
參照||男爵鶴岡家跡、男爵藤田平太郎の項

藤田 尚徳 正四位勳二等功四級、海軍中將、
吳鎮守府司令長官、東京府在籍
妻 明二四、三三、東京、西川晋長女
男 博 明四四、七三
女 明子 大八、一三

君は青森縣人藤田貞固の弟にして明治十三年十月三十日
を以て生れ大正十三年分れて一家を創立す明治三十
四年海軍兵學校を卒業し海軍少尉に任じ大正十四年少
將に累進す其間海軍省總務部部長海軍省人事
局長等に歴補し海軍中將に陞進し横須賀工廠長艦政本
部長兼海軍省會議員海軍次官將官會議員を経て昭和九年
吳鎮守府司令長官に補せらるる家族は向三男旭(大七、
七三)あり(吳鎮守府司令長官々命八)

藤田平太郎 正四位勳二等、男爵、合名會社社長
田組社長、藤田銀行取締役、南定
炭礦社長、藤田鐵業取締役
大阪府在籍
妻 安政二、九生、京都、木邑平兵衛
女 三女 明一五、五五、伯耆芳川寛治姉
三女 明四三、七三、分家弟次郎長男

當家は先代傳三郎より家名を揚傳三郎は長州萩の人
にして幕末尊攘の大義を唱へ國事に奔走し維新後身を
實業界に投じ大阪の地を以て明治六年藤田組を創立し
て各種の事業を起し遂に一代にして巨産を積む其間幾
多の會社に關係し又公共事業に盡すこと尠からず
同十四年特旨を以て華族に列し男爵を授けらるる君は
其長男にして明治二十二年十月七日を以て生れ同四十五年
襲爵す夙に慶應義塾に學び同二十一年英國に留學し滯
留十年嶺南學を専攻し歸朝後藤田組副社長の任に就き
又大阪商船日本火災保險北濱銀行日韓瓦斯川炭礦株
銀行富士生命保險等各銀行會社の重役に擧げられ現時
藤田組社長として関西實業界の重鎮たり兼に貴族院議
員に推さるる弟徳次郎(明一三、一三)同彦三郎(同二
五、一三)は各其妻子を伴ひ分家し養姉あつ(同元、

(捺印は姻族關係)

八生)は中橋武一先代故商工大臣徳五郎に嫁せりA二
一三三(東京市小石川區口蓋町四一電報牛込二〇九)
參照||伯爵芳川寛治、中橋武一、藤田彦三郎の項

藤田政治郎 棉花輸出商
大阪府在籍
妻 ミツ 明二五、三三、京都、大橋宗三郎妹
男 太 大六、三三
女 芳子 大七、六三

藤田家は古くより備前國島に住し舊幕時代藩の御用達
を勤めたる家柄なり先代助七分家し大阪に出で獨立砂
糖問屋を経営し産を成す君は其二男藤田毅の養兄なり
明治十七年二月を以て生れ大正十五年家督を相続す對
支輸出入仲立代理業を營み泰東洋行を設立し其社長と
して對支貿易の爲に盡すも現に棉花輸出商たり
家族は向二男千太郎(大一〇、一〇)三男長門(同二、
二)長女萬里子(同二、二)四男陸奥(昭二、一
一)妹ミチ(明二二、七三、清水谷高女出身)あり弟
助三郎(同二七、一三)は分家せりA九六二八B一二
九六(大阪府南區安堂寺橋通二ノ八電報場四六一七)
參照||藤田毅の項

藤田政輔 戸畑物産取締役會長
東京府在籍
妻 文 明七、一三、京都、子爵梅溪通虎
女 芳子 大七、六三

君は山口縣人鮎川義介の弟にして明治二十二年二月を
以て生れ大正六年先代文の養子となり同九年家督を相
續す先是同四年京都帝國大學理科大學化學科を卒業し
同八年東京藤田合名會社を創立し自ら其社長となる同
十一年藤田研究所を設け専ら創製の研究をなす同年より
約一ヶ年に亘り歐美各地を漫遊し世界大戰後の工業
界を視察せしめて原料の現狀を調査し歸朝後同十三年
不二染料株式會社を創立自ら社長兼技師長となりて優
良染料の製造を企圖す昭和九年不二染料の戸畑物産に
合併と同時に前記戸畑物産取締役會長となる家族
は向三女式子(大一〇、一三)四女充子(同二、一四)は

7六六

あり(東京市赤坂區丹後町七七電報青山四〇四七)
參照||子爵梅溪通虎、鮎川義介藤田生誠之妻島太
市米村久壽彌太米久原房之助米近藤眞一の
項

藤田益三 從四位勳三等、海軍造船少將、浦
賀船渠取締役、東京府士族
妻 タカ 明一六、三三、東京、士、野崎勝
男 襄治 明四四、一一

君は東京府士族藤田俊助の三男にして明治六年六月を
以て生れ同三十二年東京帝國大學工科大学造船學科を
卒業し直ちに海軍造船中技士に任じ累進して大正九年
造船少將に陞任佐世保海軍工廠造船部長に補せらるる現
時退官し前記會社の重役たり家族は向三男八(慶應三、
一一)生、現戸主同妻(明一四、七三、愛知、士、
阿部眞一郎)及び其の一男二女あり弟武志(同九、五
生)は分家し同寛五郎は牧家を相続し俊高と稱し妹千
代(同二五、一〇)は新潟縣士族中野野村に嫁し妹千
代(同二五、一〇)は横田計衛長男政敏に嫁
せりA二〇三(東京市世田谷區太子堂三三一電報世田谷
二二四三)
參照||中根勳爾の項

藤田松太郎 藤田商事代表取締役、機寸商
兵庫縣在籍
妻 タケ 明一四、一〇、北海道、牧野茂
女 修三 明三六、一三、孫房子夫、兵庫、
日田勇作叔父
男 房子 明四四、六三、養子修三妻、亡長
男 登長 明四四、六三、養子修三妻、亡長

君は兵庫縣人藤田嘉兵衛の長男にして安政六年八月を
以て生れ明治十二年家督を相続す機寸商を營み傍ら藤
田商事代表取締役たり均一マーケット藤田住
宅漢川土地建物各會社の重役たりし事あり家族は向會
孫武彦(昭五、四生、養子修三男)同節子(昭七、一三
同長女)あり長女(明一三、九生)は分家父嘉兵衛
の死跡を相続し二女あき(同二六、六三)は兵庫縣人赤
堀威長男透に三女あや(同二五、一一)生は同縣人金
林直衛に四女増江(同二八、一一)生は同縣人北田廣吉

長男健造に孫文子(大二、九生、亡長男登二女)は同縣
人井上吉之助に嫁し二男八郎(明三三、一三)は同縣
人藤田重子に嫁し孫道子(大五、一三)は亡長男
登三女)は宮城縣人中島れいの養子となれりA一六八
三B一〇六(神戸市神戶區江川町八九電報長五七七)

藤田 讓 明治生命保險事務取締役、大井
川興業取締役、岡山縣在籍
妻 リヨ 明一〇、七三、新潟、森川秀英妹
男 謙一 明三二、七三、立大商科出身
女 テル子 明三八、三三、長男謙一妻、茨城
男 謙次 明三九、一三、慶大法學部出身
女 久 明三六、一〇、二男謙次妻、東
京、岡見清致孫
男 信雄 明四一、七三
男 義雄 明四三、四三

君は岡山縣人藤田甚兵衛の三男にして元治元年十二月
を以て生れ明治三十二年兄要治郎方より分れて一家を
創立し前名浦次郎を改む始め慶應義塾に學び尋いで米
國に航し桑港太平洋學校に學び在米五年歸朝後直に明
治生命保險會社に入り名古屋支店長に進み克く同社と
終始し現時事務取締役の職にあり長女美(明三九、一〇
生)は東京府人鶴見祐輔弟意に二女美惠(同三六、一〇
生)跡見女學校出身)は同府人岡本敏行二男敏男に嫁
せりA五三三(東京市淀橋區下落合一ノ四一七電報大
塚四三九)
參照||麻生義一郎、岡見清致、鶴見祐輔小室俊夫
の項

藤田 義雄 從五位勳五等、横濱高等商業學校
囑託、愛媛縣士族
妻 とま 明一五、三三、大阪、奥村常藏妹
男 馨 大六、六三

君は愛媛縣士族藤田基興の二男にして明治七年八月を
以て生れ大正六年家督を相続す明治三十一年東京高等
商業學校を卒業し横濱高等商業學校教授たりし昭和
八年退官して現時同校囑託たり家族は向養子久子(大
一、二〇)生、東京、松村明敏長女)あり(横濱市中區
南大田町横濱高等商業學校内)

藤田米太郎 伊萬里銀行取締役
佐賀縣士族
父 與兵衛 嘉永五、一三、現戸主
母 ヒサ 安政五、三三、佐賀、稻富儀左衛
門長女
妻 マツエ 明二八、一三、佐賀、草場猪之吉
長女
男 謙吉 大五、五三
女 靜子 大六、七三

君は佐賀縣士族藤田與兵衛の二男にして明治二十二年
九月を以て生れ同十四年長崎醫學專門學校本科を卒
業現時伊萬里銀行取締役たり家族は向二男幸次郎(大
八、九生)三女澄子(同二、二)三男昇(同二、
九生)姉ツエ(明一四、四生)あり同チ(同二、
一)生は佐賀縣人松尾熊助に同チ(同二、一)生は
同縣士族野口惠助長男一助に同チ(同二、一)生は
同縣士族深川文三男忠吉に嫁し弟榮次郎(同二、三、八
生)同妻ハル(同二、六、四生、長崎、永田龜太郎三女)
は其一女を伴ひ分家し弟秀次郎(同二、五、五生)同向吉
(同三、一、四生)は共に長崎縣人西脇金三郎の養子とな
れり(佐賀縣西松浦郡伊萬里町電一五)
參照||米田進の項

藤田 聯藏 岡山縣多額納稅者、岡山縣農工銀
行、岡山電氣軌道各取締役、中
國鐵道監査役、農業、岡山縣在籍
妻 ムラ 明五、五三、廣島、丹下靜一妹
男 正藏 昭三、一〇生

君は岡山縣人藤田林藏の長男にして同卯助の甥なり明
治三十年八月を以て生れ大正十四年家督を相続す同十
一年明治大學政治經濟科を卒業し現時前記銀行
會社の重役にして直接國稅四千四百圓を納め縣下の多
額納稅者に列す兼に山陽銀行取締役に擧げらるる家族は
向弟剛平(明三四、六三)あり妹萬壽野(同三三、一〇
生)は分家せり(岡山縣吉備郡足守町)

藤武 喜助 鹿兒島縣多額納稅者、鹿兒島朝日
新聞社長、鹿兒島商弘銀行、
鹿兒島貯蓄銀行、鹿兒島製糖各取締
役、洋酒雜貨商、鹿兒島縣在籍

(捺印は姻族關係)
7六七

を以て生れ先代直七の養子となり同二十一年家督を相續す米穀商を営み傍ら藤谷商店代表社員たり藤谷に...

藤谷 爲寛

男 爲 隆 明三、五生、正五位  
男 治 雄 明四、二生

當家は權大納言冷泉爲滿の二男權中納言爲賢の後なり爲賢別一家を立て藤谷と稱す夫より九世を経て先代...

藤塚 熊雄

男 恒 雄 明三、一一生  
男 千代子 明四、一一生  
女 愛 子 明三、四生

君は大阪府土族藤塚伯致の長男にして明治六年八月二十二日を以て生れ同三十三年家督を相續す金物商を...

八生(同重武(同三、三生)は各分家し二女幸子(同四〇、一生)は前記弟久次に二男忠二良(同四二、八生)は...

藤塚 芳太郎

妻 キ ヌ 明二〇、九生、大阪、小川喜兵衛  
男 忠 作 明四、九生

君は大阪府人藤塚七兵衛の二男にして明治十六年四月二十一日を以て生れ同三十九年家督を相續す本かどや...

藤塚 鄰

妻 さ た 明一六、四生、宮城、小川則要長  
男 明 直 明四、五生、高知高校在學

君は宮城縣人佐々木篤太郎の二男にして明治十二年六月を以て生れ先代を以て生れ同三十三年家督を...

藤永 誠治郎

妻 と み 二元女、三生、京都、成田庄兵衛  
母 マ サ 明二五、一一生、京都、田中松之助

君は京都府人藤永龍名の長男にして明治十六年十一月を以て生れ同四十四年家督を相續す現時前記各會社の重役たり(東京市世田谷區若林町一七)

男 誠 一 六七、七生  
女 初子 大七、一一生  
女 貞子 大五、八生

藤永 義之

妻 ロ ク 嘉永二、八生、長崎、士、吉富瀨  
女 惠美子 明四、二生

君は長崎縣土族藤永原七の長男にして明治三年九月を以て生れ同三十二年家督を相續す藤永藥品商會と稱し...

藤波 收

妻 登 美 明三、九生、富山、佐藤助九郎  
男 支 治 大九、五生

君は大分縣人藤波久文の六男同正の弟にして明治二十一年二月を以て生れ昭和二年分れて一家を創立す明治...

藤波 茂時

妻 奈 保子 元治元、三生、男爵千家尊統叔母  
母 道 忠 大五、三生、學醫院高等科在學

君は京都府人藤波龍名の長男にして明治十六年十一月を以て生れ同四十四年家督を相續す現時前記各會社の重役たり(東京市世田谷區若林町一七)

藤波 龍世

妻 靜 子 長女  
男 正 夫 大五、九生、陸軍士官學校在學

君は大分縣人藤波久文の五男にして同收の兄なり明治十四年八月十八日を以て生れ同四十二年陸軍二等軍醫...

藤波 正

妻 靜 子 長女  
男 正 夫 大五、九生、陸軍士官學校在學

君は大分縣人藤波久文の五男にして同收の兄なり明治十四年八月十八日を以て生れ同四十二年陸軍二等軍醫...

藤波 龍世

妻 靜 子 長女  
男 正 夫 大五、九生、陸軍士官學校在學

君は大分縣人藤波久文の五男にして同收の兄なり明治十四年八月十八日を以て生れ同四十二年陸軍二等軍醫...

藤波 美子

妻 光 夫 大五、六生  
男 光 夫 大五、六生

君は東京府人藤波龍名の長男にして明治二十四年三月二十日を以て生れ大正三年家督を相續す劇場道具貨...

藤波 三郎

妻 の ぶ 明三、五、四生、東京、河田定治郎  
男 光 夫 大五、六生

君は東京府人藤波龍名の長男にして明治二十四年三月二十日を以て生れ大正三年家督を相續す劇場道具貨...

藤波 鑑

妻 小 枝子 明四、三、二生、長男修一妻、法學  
男 修 一 明三、七、二生、京都帝國大學醫學部講師、醫學士

君は愛知縣土族藤波浪萬得の長男にして明治三十一年一月を以て生れ同二十三年家督を相續す同二十八年東京帝國大學醫學科を卒業し高等試験合格同四十三年北海道...

藤波 剛一

妻 カズ 高見四女  
男 剛 一 醫學博士、慶應義塾大學教授、醫學部勤務、愛知縣在籍、明二、一〇生、故文學博士物集

君は愛知縣人藤波浪萬得の四男にして明治十三年六月を以て生れ大正七年兄鑑方より分れて一家を創立す明治...

藤波 庄平

妻 靜 子 明二、八、四生、山口、松田協輔長  
男 莊 一郎 大六、五生

君は栃木縣人若田部友造の三男にして明治十六年二月十七日を以て生れ藤波友次郎の養子となり大正三年分...

藤根 壽吉

妻 靜 子 明二、八、四生、山口、松田協輔長  
男 莊 一郎 大六、五生

君は栃木縣人若田部友造の三男にして明治十六年二月十七日を以て生れ藤波友次郎の養子となり大正三年分...

**妻** 八重 明二〇、七生、東京、河原崎謙吉  
 明四三、四生  
 君は兵庫縣土庫野田傳七の五男にして明治九年八月を以て生れ先代義道の養子となり同十一年家督を相続す同三十三年京都帝國大學理工科大學士工學科を卒業し第五高等學校教授鐵道技師等に歷任し日露戰役中野鐵道提理部第四軌道長として出征南滿洲鐵道會社創立と共に同社に入り累進して理事たりしが任期満了後昭和七年陸軍省の招聘に應じ國務院國道局長に就任し同年十二月辭任す家族は尙二男次郎(大六、四生)四女吉(同一四、一一生)あり長女壽(明四一、五生)は茨城縣人石井銀彌弟三に嫁せり(静岡市西草深町二五) 參照||石井銀彌の項

**藤野晋次郎**

京都府多額納稅者、京都倉庫監査役、つちや、京都取引所取引員、京都府在籍  
 妻 よね 明一九、八生、京都、原太三郎三女  
 男 市造 明四〇、一一生  
 養子 千代 大八、一一生、京都、原太三郎孫  
 君は京都府人野野七右衛門の二男にして明治十七年一月を以て生れ同四十年先代ひさの入夫となり家督を相続すつちやと稱し京都取引所證券取引員にして京都府多額納稅者に列すA二五六二B五二二(京都市下京區油小路通綾小路下ル電本局二七五〇) 參照||原太三郎の項

**藤野勝太郎**

興運汽船、平和土地興業各務取締役、豊田紡織廠、壽毛社各務監査役、藤野愛無限責任社員、大阪府在籍  
 母 つゆ 明一〇、一一生  
 妻 淑子 明三九、一一生、東京、斯波孝四郎長女  
 男 浩一郎 昭五、七生  
 君は大阪府人藤野龜之助の長男にして明治三十六年八月を以て生れ大正九年家督を相続す先代龜之助は三井物産會社大阪支店長として大阪財界一方の雄たりし人

なり君は大正十三年大阪高等商業學校を卒業し直ちに商業研究の爲渡米し翌春歸朝す現時藤野合資會社無限責任社員にして又前記各會社の重役たり家族は尙弟平次郎(明三八、一一生)同妻梅(同四一、一一生)岡山、原田安次(二女)及其一子弟和(同四三、一一生)あり姉清子(同三三、三生)夕陽丘高女出身は大阪府人法學士小畑忠良に同嫁し(同三四、九生)は高知縣人津村榮樹四男宏に妹桃(同四一、六生)は山口縣人金子幸夫に嫁せりA八八七一(大阪府天王寺區小宮町一電天王寺三九一〇) 參照||小畑忠良、斯波孝四郎、藤野つゆ、藤野平次郎の項

**藤野 幹**

從五位、明治製糖常務取締役、臺灣倉庫監査役、廣島縣士族、東京、天野謙爾妹、學部出身  
 妻 銀子 明二七、四生、東京、天野謙爾妹  
 男 篤 大一二、一一生  
 女 美知子 大七、二生

**藤野 三**

伊藤忠商事取締役、滋賀縣在籍  
 妻 ゆう 明二九、一〇生、滋賀、芳竹良造妹、大津高女出身  
 男 弘 大一〇、七生  
 女 幸子 大八、一一生

君は滋賀縣人藤野宗次郎の四男にして明治二十一年十一月を以て生れ大正六年分れて一家を創立す明治四十年滋賀縣立商業學校を卒業し實業界に入り現時伊藤忠商事會社取締役たりA一七九四(兵庫縣武庫郡精道村蘆屋大枘八三二電蘆屋三三〇四)

**藤野外次郎**

大塚商店監査役、滋賀縣在籍  
 妻 ヲク 明九、九生、養父吉右衛門養子、現戶主  
 男 義 大二、六生

**藤野辰次郎**

藤野謙助所務社長、櫻井水産會社表取締役、綿製造販賣業、滋賀縣在籍  
 妻 七賀 明二三、一一生、大阪、小笠平五郎二女  
 男 眞作 大七、二生、武藏高校在學  
 君は大阪帝國大學醫學部博士小澤修造の弟にして明治十九年十二月を以て生れ先代とく養子となり同四十四年家督を相続し前名啓三を改め眞作と同年東京高等商業學校政務部を卒業し北海道根室千島に於て星印製糖立員北寄貝製糖等の漁業及び綿の製造販賣を業とし藤野謙助社長にして前記會社の重役たり家族は尙長女安佐子(大一〇、三生)二女佳子(同一九、九生)三男周作(同一四、九生)三女眞佐子(昭四、九生)あり養子益子(明四一、五生)は滋賀縣人杉原裕二に嫁せりA四七二(京都市品川區五反田六ノ一九一電高輪三六四四)店舖同市日本橋區南茅場町二ノ一三ノ三電茅場町一六二五二〇三八)

**藤野つゆ**

平和土地興業取締役、豊田紡織監査役、藤野愛無限責任社員、大阪府在籍  
 妻 勝太郎 明三六、八生、現戶主  
 男 平次郎 明三八、二生

**藤野奈良吉** 家主、東京府在籍  
 妻 キン 慶應三、七生、神奈川、大川戶熊三郎三女  
 男 宗一 明三五、一一生  
 女 静子 明四〇、八生、長男宗一妻、東京河原秋五郎四女  
 男 征次郎 明三三、三生  
 男 幸三郎 明四〇、一一生  
 君は東京府人藤野武次郎の二男にして慶應元年二月を以て生れ明治二十年分れて一家を創立す家主たり家族は尙孫宗吉(昭四、五生)長男宗一(長男)同芳英(同八、二生)同長女ありA一三二〇(東京市淺草區向柳町一ノ二六電淺草五二九七)

**藤野文彌**

東京電燈會社課長、滋賀縣在籍  
 妻 やそ 明六、九生、滋賀、北川久三郎三女  
 養子 貞雄 明四二、二生、二女孝子夫、東京、士、渡部文三郎三男、日本興業銀行勤務、法學士  
 行動務、法學士  
 女 孝子 明四四、七生、養子貞雄妻、三輪田高女出身

**藤野平次郎**

平和土地興業代表取締役、豊田自動車織機、興運汽船各務監査役、藤野愛社員、大阪府在籍  
 母 つゆ 明一〇、一一生

**藤野正年** 日本染色會社取締役、鬼怒川水力電氣監査役、東京府在籍  
 妻 モト 明一三、二生、福島、渡邊禮五郎長女  
 養子 まさ 大八、一〇生、福島、醫學博士赤津誠内長女  
 君は愛知縣土庫藤野義廣の四男にして明治四年一月二日を以て生れ同四十年兄正富より分れて一家を創立す兄に實業界に入り現時前記各會社の重役にして義廣の關西土地興業原安商會日本製糖各會社の重役たりし事あり大正六年衆議院議員に當選せりA六六九(東京市豊島區池袋三ノ一四五二電大塚二四八〇) 參照||赤津誠内長女、渡邊禮五郎の項

**藤野茂八**

藤野茂八商店代表取締役、大里屋モスリ洋反物卸商、東京府在籍  
 妻 菊枝 明二〇、八生、鳥取、土、奥田操妹、女子學院出身  
 男 忠 明四二、三生、慶大経済學部在學  
 男 彦 明四五、三生、慶大経済學部在學  
 男 正彦 大二、一一生、慶大経済學部在學  
 君は東京府人先代茂八の二男にして明治十八年六月十七日を以て生れ同三十四年家督を相続し共に前名清次郎を改め眞作と名に慶應義塾特科を卒業大里屋と稱し洋反物卸商を営み昭和五年營業を株式に改組し現に其代表取締役にして義に東京モスリ洋反物會社重役たり家族は尙四男清彦(大一〇、五生)二女佐智子(同一三、九生)あり長女きよ子(明四〇、九生)聖心女子學院出身は山口縣人長谷川庚一に嫁し姉タミ(同五、二生)は同夫常七(同八、一一生)千葉、關藤助三男と共に其三子

**藤野隆三**

櫻井水産會社取締役、兵衛縣在籍  
 妻 静子 清夫長女  
 明四〇、八生、二男誠、東京、莊司市太郎三女  
 君は京都府人藤野多五郎の三男にして明治四年八月を以て生れ同三十六年兄幾太郎より分れて一家を創立す同二十八年東京帝國大學工學科大學機械工學科を卒業し古河鐵業會社に入り技師として足尾銅山に在職する事二十年大正六年轉じて三井鐵山會社に入り本店技師たりしが昭和三年其職を辭し目下留置鐵道會社取締役たり義に釜石鐵山會社取締役を推さる家族は尙孫子(昭三、一一生)二男誠長女(同四、一一生)同(二女)同保子(同七、二生)同三女(同一一、一一生)七生(は男野野節の母たり)A一四四(東京市四谷區北伊賀町一三電四谷五〇一〇)

**藤原市太郎**

家主、大阪府在籍  
 妻 いま 明八、六生、兵庫、山中義平長女  
 明三四、一一生、大阪、那須甚之助長女、市岡高女出身  
 男 初太郎 大四、一一生  
 君は大阪府人藤原市松の長男にして明治三十五年四月二十一日を以て生れ昭和六年家督を相続す家主たり家

族は向二男安次郎(六一五、九生)弟新太郎(同二、三生)...

藤原英三郎

正四位勳二等功五級、海軍中將、相模運糧船長、八洲商會代表...

藤原兼松

九藤興服店、吳服商、兵庫縣在籍...

藤原喜藏

從四位勳三等、朝鮮總督府平安南道知事、岩手縣在籍...

藤原末作

從五位勳五等、検事、天津地方裁判所兼同區裁判所検事...

藤原莊兵衛

大阪府在籍、大正三〇、三三、三九、四一、四三、四七、五〇、五三、五七、六〇、六三、六七、七〇、七三、七七、八〇、八三、八七、九〇、九三、九七、一〇〇...

君は岩手縣人藤原金藏の長男にして明治二十一年一月を以て生れ大正八年家督を相続す...

藤原教悦郎

從四位勳三等、醫學博士、九州帝國大學教授、醫學部勤務...

藤原多民治

君は京都府人藤原長七の三男にして明治二十一年六月十二日を以て生れ大正十四年兄三吉方より分れて一家を創立し...

藤原銀次郎

君は長野縣人藤原茂兵衛の三男にして明治二年六月十七日を以て生れ同二十六年兄福榮方より分れて一家を創立す...

藤原九十郎

君は長野縣人野原徳藏の長男にして明治二十六年一月を以て生れ大正二年藤原六助の養子となる...

藤原咲平

從四位勳三等、醫學博士、大阪府立衛生試験所長、大阪府技師、長崎縣在籍...

藤原常吉

君は京都府人藤原五兵衛の二男にして明治十五年八月十一日を以て生れ同四十五年家督を相続す...

藤原正

君は山形縣人藤原謙圓の長男にして明治十七年一月を以て生れ先代謙安の養子となり...

藤原竹次郎

鳥根縣議員、鳥根縣多額納稅者、鳥根貯蓄銀行取締役、農業...

を營み傍ら藤原常吉商店代表取締役... 藤原三郎... 藤原俊雄... 藤原政男...

り歸朝後青山學院及青山女學院の教師となり次で三井銀行に入り長崎神戸各支店に勤務... 藤原留吉... 藤原義江...

各國に留學し同四十四年東北帝國大學教授に轉じ更に同大學評議員を兼ね... 藤原由太郎... 藤原雪生...

君は京都府多額納税者、絲物商... 藤原利三郎... 藤原力松... 藤原林平...

君は富山縣人藤原謙平の二男にして明治十六年二月六日を以て生れ... 藤原直樹... 藤原直... 藤原太一...

家を創立す先是明治三十七年東京高等商業學校を卒業し朝鮮銀行に入り... 藤原雪生... 藤原輪一郎...

君は山形縣人藤原重喜の長男にして明治四年八月十九日を以て生れ... 藤原力松... 藤原林平... 藤原泰一...

君は新潟縣人藤原伊三郎の二男にして明治十四年四月二十三日を以て生れ... 藤原太一... 藤原敏...

君は山形縣人藤原泰一の長男にして明治五年七月二十日を以て生れ... 藤原輪一郎... 藤原敏...

**藤見 睦治** 正六位勲六等、岩手縣女子師範學校長、靜岡縣在籍  
 母 慶應元年生  
 妻 シゲ 明一六年生  
 男 忠 夫 明四〇年生、中央大學出身  
 女 和 子 大正二年生、神奈川縣女子師範學校出身  
 女 文 子 大正五年生、群馬縣立前橋高等女學校出身

君は靜岡縣人にして明治十五年四月を以て生れ大正十四年家督を相続す明治十五年東京高等師範學校本科博物科を卒業朝鮮京城高等女學校京城中學校平壤高等女學校に奉職大正九年神奈川縣女子師範學校教諭に任じ神奈川縣視察福島各師範學校教諭を経て昭和四年群馬縣女子師範學校校長となり同九年岩手縣女子師範學校校長に任じ現在に至る家族は尙女治子(大正二年生)あり(盛岡市仁王大澤川原小路)

續と共に前名孝壽を改む藤村壽榮堂と稱し貴眞青本舖として普く知らる京都太秦に工場を設け製菓に従事し又東京に支店を設置す現に京都製菓同業組合長たり家族は尙長女福美(大正一、八生)二男壽(同二、一)三男三郎(同三、五、一)二生ありA七九四B二七〇(京都市中京區東洞院三條下ル三文字町二〇八電本局五四〇九)

**藤村 英** 從五位勲六等、朝鮮總督府判事、平壤地方法院部長、高知縣在籍  
 妻 美 子 明三〇、七生、長野、佐々木四方  
 男 英 一 大九、一、二生

君は高知縣人藤村翠の長男にして明治二十七年十二月を以て生れ大正三年三月旗願第一中學校卒業次で同六年中央大學法律專門部正科を卒業し同年判事任用試験に合格同九年判事に任じ爾來京城地方法院同審判部各判事京城地方法院判事海州地方法院判事長平審判部判事判事に歴補し現に平壤地方法院部長たり家族は尙長女苑子(大正一、〇生)二男昌男(昭二、一)三男光昭(昭三、九)二女惠美(昭四、一〇)生あり弟蕙(昭二、九、一)生は高知縣人田村鑿馬の養子となり大阪市船場小學校訓導たり趣味として尺八ゴルフを好む著述に「司法警察官實務提要」(上下)「民法總論」「刑法總論」及「刑法各論」等あり(平壤府南町平壤地方法院内)

**藤村 作** 正四位勲三等、文學博士、東洋大學々長、東京帝國大學教授、文學部勤務、東京府在籍  
 妻 スエ 雄三女  
 男 明 三 七、二生、東京、士、荒島正  
 女 ちとせ 明四一、六生  
 女 ふみ子 大元、一、一生

君は福岡縣人藤村順善の二男にして明治八年五月を以て生れ大正七年兄榮太郎より分れて一家を創立す明治三十四年東京帝國大學文學科大學文學科を卒業し爾來第七高等學校造士館廣島高等師範學校各教授東京帝國大學文學科大學助教授に歴任し大正八年文學博士の學位を受け同十一年東京帝國大學文學部教授となり昭和九年六月東洋大學々長に任じ現在に至る江戶文學の造詣深く「新辭林」其の他の名著あり家族は尙三男苑(大七、五生)四女えい子(同二、〇、五生)あり長女宮子(昭四、〇、三生)府立第三高女出身)は東京府人近藤忠義に嫁せりA五〇〇(東京市澁谷區幡ヶ谷本町一ノ二七電四谷六七〇五)

**藤村 伊兵衛** 藤村壽榮堂、貴眞青本舖、賣藥製菓業、京都府在籍  
 妻 エミ 明三五、五生、京都、松井阪男長  
 男 一 大正一〇、七生

當家は武田勝頼の孫藤三の子甲斐國大藤村に住し藤村姓を名乗り代々庄屋を勤む末高松府に移り代々伊兵衛と稱し九代の後君に至る君は先代伊兵衛の二男にして明治二十九年九月十八日を以て生れ同三十八年家督相

**藤村 兼次郎** 三誠懲事、二幸懲監査役、東京府在籍  
 妻 菊 子 明三一、三生、東京、笹川純一、二女  
 男 和 男 大正一〇、一、一生

君は藤井支助の四男にして明治二十三年六月を以て生れ先代喜七の養子となり大正十年家督を相続す同十三年明治大學を卒業す現に三越懲事たる傍ら前記會社の監査役にして資産家を以て知らる居常公共事業に貢献する所から家族は尙二男喜彦(大正二、一、一生)長女幸子(同二、四、七生)三男尙男(昭二、九、九生)五男忠男(昭七、二、生)ありA三五四九(東京市芝區下高輪町五五電高輪一四九)

**藤村 新太郎** 昭和電業社取締役、日進工業所主、東京府在籍  
 妻 とめ 明三、八生、長野、士、福津秀之助  
 妻 高 子 明三七、六生、東京、士、黒田清  
 男 早 苗 大正一五、三生

當家の先代藤村義苗は夙に東京高等商業學校を卒業し實業界に入り明治三十七年萬歳生命保險會社を創立其社長となり在職二十年之を辭す後國華火災保險會社取締役其他數社の重役に擧げらる君は其長男にして明治二十七年三月を以て生れ昭和九年家督を相続す大正九年早稲田大學理工科を卒業し三菱造船會社社長時造船所に入りしが後之を辭し日進工業所を經營し傍ら前記會社の重役たり家族は尙二男尙男(昭二、一、〇生)三男明苗(昭四、二、生)四男尙苗(昭五、四、生)弟造酒三郎(昭三、〇、五生)東洋棉花會社員、商學士(同妻英子)同三九、三生、大阪、川畑敬太郎(二女)及其三子弟慶四郎(同

**藤村 三郎** 家主、大阪府在籍  
 妻 ウノ 明一三、一〇生、大阪、米村定七  
 妻 徳三郎 明二四、六生、大阪、重光興三郎  
 妻 明三〇、一、生、鎌倉、徳三郎妻、京  
 妻 コマ 明三〇、一、生、鎌倉、長次郎二女

君は大阪府人先代藤三郎の長男にして明治三年九月九日を以て生れ同九年家督を相続す家主たり家族は尙妹エン(明七、四生)姉いく(慶應三、四生)ありA四三一(大阪市東區伏見町五ノ四一電本局二五三)

**藤村 寅一** 正五位勲四等、判事、三次區裁判所監督判事兼廣島地方裁判所三次支部々長、山口縣在籍  
 妻 キヨ 明二、八生、山口、士、桑原爲  
 男 俊 子 明四〇、一、一生  
 女 芳 子 明四五、三生  
 女 照 子 大正四、五生

君は山口縣人藤村辰之助の二男にして明治十一年八月を以て生れ同二十七年家督を相続す同三十五年東京法學院を卒業し辯護士試験に合格同四一年判事に任ぜられ爾來赤岡關西條大村小倉各區關西地方小倉支部及徳山船木各區裁判所判事益田區裁判所判事等を経て現時前記官職に在り兄淳一(嘉永四、一〇生)は其妻フサ(同六、一、一生、山口、西村庄太郎(二女)を伴ひ分家せり(廣島縣雙三郎三次町三次區裁判所内)

**藤村 元張** 醫學博士、藤村病院院長、醫師、京都府在籍  
 妻 はる 文久二、一、生、京都、片岡孫次郎  
 妻 玉 江 明一七、六生、大阪、士、萩谷秀  
 妻 隆 明四一、一、生、工學士  
 妻 鈴 大正三、九生、兵庫、瀬戸榮造長女

君は京都府人藤村隆吉の長男にして明治十五年十月を以て生れ大正十二年家督を相続す明治三十六年大阪醫科大學を卒業し大正十年醫學博士の學位を受く醫を業とし現に藤村病院院長たり二男彬(昭四、一、生)第七高女出身)は母の生家萩谷義則の家系を繼ぎ姉多津(同三、四、生)は京都府人高木克敏に嫁せり(西宮市森具連七八二一電西宮二二九)

**藤村 伊兵衛** 藤村壽榮堂、貴眞青本舖、賣藥製菓業、京都府在籍  
 妻 エミ 明三五、五生、京都、松井阪男長  
 男 一 大正一〇、七生

當家は武田勝頼の孫藤三の子甲斐國大藤村に住し藤村姓を名乗り代々庄屋を勤む末高松府に移り代々伊兵衛と稱し九代の後君に至る君は先代伊兵衛の二男にして明治二十九年九月十八日を以て生れ同三十八年家督相

**藤村 松雄** 京都府多額納稅者、岩井商店支配人兼秘書、京都府在籍  
 妻 ハル 萬延元、一、生、京都、酒井長市長女

君は京都府人藤村松雄の長男にして明治十五年八月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す船具塗料商を營み藤村本商店代表社員たり家族は尙四男芳治(昭四、五、七生)孫庄治(昭四、一、生)長男藤茂(昭一、八、七生)は大阪府人野呂克藏長男芳藏に嫁せりA二〇八

**藤村 伊八** 船具塗料商、大阪府在籍  
 妻 はな 明一五、二生、兵庫、管金平長女  
 妻 藤茂一 明三四、四生  
 妻 俊 明三七、六生、長男藤茂一妻、大阪、木村三郎三女

君は兵庫縣人藤本與平の三男にして明治五年八月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す船具塗料商を營み藤村本商店代表社員たり家族は尙四男芳治(昭四、五、七生)孫庄治(昭四、一、生)長男藤茂(昭一、八、七生)は大阪府人野呂克藏長男芳藏に嫁せりA二〇八

**藤村 豐太郎** 増田製粉所専務取締役、青島製粉取締役、神奈川縣在籍  
 妻 なか 明二一、一、生、兵庫、岩本勝治姉  
 妻 政太郎 大正二、九生

君は神奈川縣人藤村又平の長男にして明治十五年三月を以て生れ大正十一年家督を相続す現時前記各會社の重役たり家族は尙二男光男(大八、三生)二女秀代(同二、〇、四生)妹シゲ(同二、〇、一、生)あり弟男(同二、五、一〇)生)は同妻たい(同三五、二生)神奈川、安藤利作長女)と共に一子を伴ひ分家せりA二四六二(神戸市澁區梅元町五六電二五七六)

**藤村 誠** 藤村屋、菓子商、東京府在籍  
 妻 ぶん 明二三、九生、東京、高橋良輔妹

藤村家は元加賀國に住し代々農を渡世とせし舊家なりしが先々代忠右衛門氏に江戸に轉住し菓子製造の技を學び小資を得て獨立菓子商を開業せり君は先代忠次郎の孫にして明治四十五年五月三日を以て生れ昭和八年家督を相続す祖業を承けて藤村屋と稱し菓子商を營む家族は尙弟康弘(大六、一、生)同忠申(同九、九生)同守正(同二、一、生)妹知子(昭二、六生)あり叔父徳次郎(昭二、四、生)梅月堂菓子商)は同妻ひで(同二、五、六生)東京、中村勝五郎妹)と共に其二男一女を伴ひ分家し叔母知恵(同二六、一〇生)跡見女學校出身)は分家大叔父泰三の死跡を相続し同(同三、〇、一、二生)は東京府人角取友八郎に養叔母稻(同二三、一〇生)東京拓殖よし長女)は同府人福井豊造に各嫁せりA一三三六B三〇八(東京市本郷區本郷四ノ一三電小石川二四五〇)中村勝五郎の項

**藤村 松雄** 京都府多額納稅者、岩井商店支配人兼秘書、京都府在籍  
 妻 ハル 萬延元、一、生、京都、酒井長市長女

君は京都府人藤村松雄の長男にして明治十五年八月を以て生れ同三十四年分れて一家を創立す船具塗料商を營み藤村本商店代表社員たり家族は尙四男芳治(昭四、五、七生)孫庄治(昭四、一、生)長男藤茂(昭一、八、七生)は大阪府人野呂克藏長男芳藏に嫁せりA二〇八

7之部 藤(本)

八(大阪府西區南堀江一番町二七電樓川三三四) 藤本 勝往

正四位勳三等、日本放送協會臨時建築部長、香川縣士族

君は香川縣士族藤本勝の長男にして明治十五年九月を以て生れ昭和三年家督を相続す

藤本 閑作

君は山口縣士族藤本寛平の長男にして慶應三年十一月を以て生れ明治十年家督を相続す

藤本 清次郎

君は東京府人藤本喜兵衛の長男にして明治三年十月を以て生れ同三十八年家督を相続す

(※印は姻族關係)

藤本 喜久雄

正五位勳三等、造船少將、海軍艦政本部出仕、海軍技術研究所出仕

君は石川縣平民藤本純吉の長男にして明治二十一年一月十二日を以て生れる

藤本 憲治

君は奈良縣人藤本信の長男にして明治十八年七月を以て生れる

藤本 幸太郎

正四位勳三等、商學博士、東京商科大学教授、文部省督學官

フ七八

藤本 修三

從五位勳六等、朝鮮總督府大邱稅務監督局長、新潟縣在籍

君は新潟縣人藤本新の二男にして明治二十八年十月を以て生れる

藤本 表馨

臺灣銀行臺東支店支配人、大阪府在籍

藤本 武平二

醫學博士、藤本内科醫院院長、醫師、東京府在籍

フ七九

藤本 萬治

正五位勳五等、文部省圖書監督官、山口縣在籍

君は山口縣人藤本要五郎の四男作田莊一の弟にして明治十六年九月を以て生れる

藤本 忠兵衛

大日本麥酒總務部購買課長兼營業部副課長、大阪府在籍

藤本 清兵衛

神島土地採取取締役、千代田木管務監督、大阪府在籍

7之部 藤(本)

八(大阪府西區南堀江一番町二七電樓川三三四) 藤本 忠兵衛

大日本麥酒總務部購買課長兼營業部副課長、大阪府在籍

君は山口縣人藤本忠兵衛の長男にして明治十五年九月を以て生れる

藤本 清兵衛

神島土地採取取締役、千代田木管務監督、大阪府在籍

藤本 清次郎

君は東京府人藤本喜兵衛の長男にして明治三年十月を以て生れる

(※印は姻族關係)

藤本 喜久雄

正五位勳三等、造船少將、海軍艦政本部出仕、海軍技術研究所出仕

君は石川縣平民藤本純吉の長男にして明治二十一年一月十二日を以て生れる

藤本 憲治

君は奈良縣人藤本信の長男にして明治十八年七月を以て生れる

藤本 幸太郎

正四位勳三等、商學博士、東京商科大学教授、文部省督學官

フ七八

藤本 修三

從五位勳六等、朝鮮總督府大邱稅務監督局長、新潟縣在籍

君は新潟縣人藤本新の二男にして明治二十八年十月を以て生れる

藤本 表馨

臺灣銀行臺東支店支配人、大阪府在籍

藤本 武平二

醫學博士、藤本内科醫院院長、醫師、東京府在籍

フ七九

藤本 萬治

正五位勳五等、文部省圖書監督官、山口縣在籍

君は山口縣人藤本要五郎の四男作田莊一の弟にして明治十六年九月を以て生れる

藤本 忠兵衛

大日本麥酒總務部購買課長兼營業部副課長、大阪府在籍

藤本 清兵衛

神島土地採取取締役、千代田木管務監督、大阪府在籍

一家を創立す明治四十二年東京帝國大學文科大學...

藤本龍造

大阪府在籍 郵便局長 大阪府在籍...

藤森勇

日本新聞社主 長野縣在籍...

藤森馨

信州銀行取締役 長野縣在籍...

參照 望月國俊の項 藤森成吉 著述業...

藤森正男

大阪府在籍 藤森源之助商店取締役...

藤森雄平

從五位、醫學博士、東京專賣病院...

藤安三之助

愛宕山鐵道事務取締役、比叡山...

君は岡山縣人藤森三郎の二男にして明治十七年十月...

藤森良藏

考へ方研究社、日土講習會講師、...

藤安三之助

君は長野縣人藤森良知の長男にして明治十五年七月...

藤安三之助

君は長野縣人藤森新吾の二男にして明治十九年五月...

子てる(明四二、八生、京都、古畑金藏孫)は大阪府人...

藤安新造

鹿兒島縣多額納稅者 鹿兒島縣在籍...

藤山九一

大日本製糖事務取締役、ナニハ...

藤山愛一郎

東京商工會議所常議員、大日本製...

君は佐賀縣人藤山德太郎の長男にして明治十二年十月...

藤山雷太

從五位勳三等、貴族院議員、千代...

藤安三之助

君は佐賀縣人藤山德太郎の長男にして明治十二年十月...

藤安三之助

君は佐賀縣人藤山德太郎の長男にして明治十二年十月...

一家を創立す同十三年長崎師範學校を卒業し更に慶...

二荒芳徳

從三位勳四等、伯爵、貴族院議員...

藤安三之助

君は北白川宮能久親王の王子芳之の樹つる處にし...

藤安三之助

君は貴族院議員藤山雷太の長男にして明治三十年五月...



**丘町二豊山二〇〇**  
 君は山崎直徳、侯爵伊達宗義、子爵丹羽長徳、  
 子爵一柳直徳、子爵本多猪一郎、土居剛吉郎  
 土居保太郎、長瀬伊達宗義、伯耆野原義  
 伯耆甘藷寺愛長、長瀬伊達宗義、伯耆野原義  
 光澤子爵保科正昭、子爵野原忠良、子爵野田  
 廣城、子爵伊達宗義、子爵三井壽太郎の項

**二井藤三郎**  
 從五位勳六等、專賣局參事、熊本  
 地方專賣局長、三重縣在籍  
 妻 玉江 明三、一、生、佐賀、相賀照郷  
 女 二女 明三、一、生、佐賀、相賀照郷

**二上兵治**  
 正三位勳一等、法學博士、貴族院  
 議員、行政裁判所長官、宮内省御  
 用掛、富山縣在籍  
 妻 英治 明三、一、生、富山、土、長谷川  
 女 和枝 大七、一、生、女子學智院出身

**二神駿吉**  
 君は愛媛縣城邊町の郷士二神深藏の二男にして明治元  
 年六月八日を以て生れ同三十八年家督を相續し昭和六  
 年退隱の上長男春三郎方より分れて一家を創立す明治  
 二十四年東京法學院を卒業し内閣通達東京モスリッ  
 織各會社を経て三井物産社に入り名古屋門司各支店  
 長石炭部部長を歴任し大正十年大日本人造肥料會社  
 理事取締役に就任し現時前記諸會社の重役を兼ね昭和  
 三年郷黨より推されて衆議院議員に當選す長女妙(明  
 三、二、四生)は東京府人須藤鏡一第三井物産會社員  
 治に二女節(同三、六、二生)は同會社員宇佐美俊治に三  
 女靜子(大、三、三、生)は横濱正金銀行宇佐美信郎に嫁  
 り三男武(明三、四、八、生、滿鐵社員、立教大學出身)を  
 同妻美子(同四、一、一、生、愛知、武市利一、二女)を  
 伴ひ分家せりA三三五六(東京市牛込區矢來町四一電  
 牛込四三六三)

**二川末吉**  
 三菱銀行參事、船場支店長  
 大阪府在籍  
 妻 慶應 五、生、大阪、上田虎之助  
 長女 アイ

**二見直三**  
 從五位勳六等、宮城縣書記官、内  
 務部長、岩手縣在籍  
 妻 嘉豫 明三、一、生、山口、香川小次  
 女 嘉豫 明三、一、生、山口、香川小次

**二見滿次郎**  
 京王電氣鐵道監督任職、京王  
 砂利運搬監督、東京府在籍  
 妻 明三、一、生、東京、平山貞藏長女  
 女 明三、一、生、東京、平山貞藏長女

**二村種藏**  
 名古屋海運監督取締役、浴場主  
 愛知縣在籍  
 妻 安政 三、一、生、愛知、眞下惣右衛  
 女 明一、八、一、生、愛知、吉田與三

**二森保司**  
 東京市東區會議員、地主  
 東京府在籍  
 妻 明三、一、生、岩手、源澤利文  
 女 明三、一、生、岩手、源澤利文

**淵上徹郎**  
 福岡縣多額納稅者、吳服商  
 福岡縣在籍  
 妻 文久 二、八、生、福岡、猪城仁三  
 女 文久 二、八、生、福岡、猪城仁三

**二子石官太郎**  
 正四位勳二等功三級、陸軍中將  
 東京府在籍  
 妻 廣子 明三、一、生、山梨、石原彦太  
 女 廣子 明三、一、生、山梨、石原彦太

**二村權二郎**  
 天満織物専務取締役  
 兵庫縣在籍  
 妻 衛三 明三、一、生、兵庫、竹ノ内久兵  
 女 衛三 明三、一、生、兵庫、竹ノ内久兵

**淵上徹郎**  
 君は福岡縣土族淵上久三郎の長男にして明治十五年二  
 月十四日を以て生れ昭和五年家督を相續す吳服商を營  
 み現に福岡縣多額納稅者に列す家族は尙二男尚志(大  
 六、三、生)四男龜之助(同三、一、五、生)五男禮藏(同三、  
 一、五、生)

**二見滿次郎**  
 君は東京府人二見彦平の二男にして明治元年四月十四  
 日を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す現時前記  
 會社の重役たり家族は尙孫津江(大、一、二、生、養子  
 確長女)同佳代(同三、二、生、同二女)同一雄(昭五、  
 八、生、同長男)あり二女ヨシ(明三、六、九、生)は長野縣  
 人堀房男に三女靜枝(同三、九、一、生)は東京府人樋口  
 日之吉に嫁せりA二七三(東京市澁谷區幡ヶ谷本町三  
 ノ五八三)

**二見直三**  
 君は岩手縣人二見直吉の長男にして明治二十一年十月  
 四日を以て生れ大正二年家督を相續す同四年東京帝國  
 大學法科大學を卒業し福井縣屬同警視同理事官山口縣  
 理事官地方事務官秋田縣書記官警務部長長分縣書記官  
 警察部長を経て昭和七年宮城縣書記官に任じ内務部長  
 に補せらるる家族は尙長女順子(昭八、一、生)あり(仙  
 臺市北一番丁電一〇三)

**二見滿次郎**  
 君は京王電氣鐵道監督任職、京王  
 砂利運搬監督、東京府在籍  
 妻 明三、一、生、東京、平山貞藏長女  
 女 明三、一、生、東京、平山貞藏長女

**二村種藏**  
 名古屋海運監督取締役、浴場主  
 愛知縣在籍  
 妻 安政 三、一、生、愛知、眞下惣右衛  
 女 明一、八、一、生、愛知、吉田與三

**二森保司**  
 東京市東區會議員、地主  
 東京府在籍  
 妻 明三、一、生、岩手、源澤利文  
 女 明三、一、生、岩手、源澤利文

**淵上徹郎**  
 福岡縣多額納稅者、吳服商  
 福岡縣在籍  
 妻 文久 二、八、生、福岡、猪城仁三  
 女 文久 二、八、生、福岡、猪城仁三

**二子石官太郎**  
 正四位勳二等功三級、陸軍中將  
 東京府在籍  
 妻 廣子 明三、一、生、山梨、石原彦太  
 女 廣子 明三、一、生、山梨、石原彦太

**二上兵治**  
 正三位勳一等、法學博士、貴族院  
 議員、行政裁判所長官、宮内省御  
 用掛、富山縣在籍  
 妻 英治 明三、一、生、富山、土、長谷川  
 女 和枝 大七、一、生、女子學智院出身

**二神駿吉**  
 君は愛媛縣城邊町の郷士二神深藏の二男にして明治元  
 年六月八日を以て生れ同三十八年家督を相續し昭和六  
 年退隱の上長男春三郎方より分れて一家を創立す明治  
 二十四年東京法學院を卒業し内閣通達東京モスリッ  
 織各會社を経て三井物産社に入り名古屋門司各支店  
 長石炭部部長を歴任し大正十年大日本人造肥料會社  
 理事取締役に就任し現時前記諸會社の重役を兼ね昭和  
 三年郷黨より推されて衆議院議員に當選す長女妙(明  
 三、二、四生)は東京府人須藤鏡一第三井物産會社員  
 治に二女節(同三、六、二生)は同會社員宇佐美俊治に三  
 女靜子(大、三、三、生)は横濱正金銀行宇佐美信郎に嫁  
 り三男武(明三、四、八、生、滿鐵社員、立教大學出身)を  
 同妻美子(同四、一、一、生、愛知、武市利一、二女)を  
 伴ひ分家せりA三三五六(東京市牛込區矢來町四一電  
 牛込四三六三)

**二川末吉**  
 三菱銀行參事、船場支店長  
 大阪府在籍  
 妻 慶應 五、生、大阪、上田虎之助  
 長女 アイ

**二見直三**  
 從五位勳六等、宮城縣書記官、内  
 務部長、岩手縣在籍  
 妻 嘉豫 明三、一、生、山口、香川小次  
 女 嘉豫 明三、一、生、山口、香川小次

**二見滿次郎**  
 京王電氣鐵道監督任職、京王  
 砂利運搬監督、東京府在籍  
 妻 明三、一、生、東京、平山貞藏長女  
 女 明三、一、生、東京、平山貞藏長女

**二村種藏**  
 名古屋海運監督取締役、浴場主  
 愛知縣在籍  
 妻 安政 三、一、生、愛知、眞下惣右衛  
 女 明一、八、一、生、愛知、吉田與三

**二森保司**  
 東京市東區會議員、地主  
 東京府在籍  
 妻 明三、一、生、岩手、源澤利文  
 女 明三、一、生、岩手、源澤利文

**淵上徹郎**  
 福岡縣多額納稅者、吳服商  
 福岡縣在籍  
 妻 文久 二、八、生、福岡、猪城仁三  
 女 文久 二、八、生、福岡、猪城仁三

**二子石官太郎**  
 正四位勳二等功三級、陸軍中將  
 東京府在籍  
 妻 廣子 明三、一、生、山梨、石原彦太  
 女 廣子 明三、一、生、山梨、石原彦太

**二村權二郎**  
 天満織物専務取締役  
 兵庫縣在籍  
 妻 衛三 明三、一、生、兵庫、竹ノ内久兵  
 女 衛三 明三、一、生、兵庫、竹ノ内久兵

**淵上徹郎**  
 君は福岡縣土族淵上久三郎の長男にして明治十五年二  
 月十四日を以て生れ昭和五年家督を相續す吳服商を營  
 み現に福岡縣多額納稅者に列す家族は尙二男尚志(大  
 六、三、生)四男龜之助(同三、一、五、生)五男禮藏(同三、  
 一、五、生)

**二見滿次郎**  
 君は東京府人二見彦平の二男にして明治元年四月十四  
 日を以て生れ同三十一年分れて一家を創立す現時前記  
 會社の重役たり家族は尙孫津江(大、一、二、生、養子  
 確長女)同佳代(同三、二、生、同二女)同一雄(昭五、  
 八、生、同長男)あり二女ヨシ(明三、六、九、生)は長野縣  
 人堀房男に三女靜枝(同三、九、一、生)は東京府人樋口  
 日之吉に嫁せりA二七三(東京市澁谷區幡ヶ谷本町三  
 ノ五八三)

**二見直三**  
 君は岩手縣人二見直吉の長男にして明治二十一年十月  
 四日を以て生れ大正二年家督を相續す同四年東京帝國  
 大學法科大學を卒業し福井縣屬同警視同理事官山口縣  
 理事官地方事務官秋田縣書記官警務部長長分縣書記官  
 警察部長を経て昭和七年宮城縣書記官に任じ内務部長  
 に補せらるる家族は尙長女順子(昭八、一、生)あり(仙  
 臺市北一番丁電一〇三)

**二見滿次郎**  
 君は京王電氣鐵道監督任職、京王  
 砂利運搬監督、東京府在籍  
 妻 明三、一、生、東京、平山貞藏長女  
 女 明三、一、生、東京、平山貞藏長女

**二村種藏**  
 名古屋海運監督取締役、浴場主  
 愛知縣在籍  
 妻 安政 三、一、生、愛知、眞下惣右衛  
 女 明一、八、一、生、愛知、吉田與三

**二森保司**  
 東京市東區會議員、地主  
 東京府在籍  
 妻 明三、一、生、岩手、源澤利文  
 女 明三、一、生、岩手、源澤利文

**淵上徹郎**  
 福岡縣多額納稅者、吳服商  
 福岡縣在籍  
 妻 文久 二、八、生、福岡、猪城仁三  
 女 文久 二、八、生、福岡、猪城仁三

**二子石官太郎**  
 正四位勳二等功三級、陸軍中將  
 東京府在籍  
 妻 廣子 明三、一、生、山梨、石原彦太  
 女 廣子 明三、一、生、山梨、石原彦太

7之部 淵(上、田、野)

五、四生)弟亮助(明一七、八生)同妻雪(同三〇、一〇生)同妻シツカ(同三七、九生)大分、瓜生田塚磨(妹)及其二子ありA二〇九〇B四七五(福岡市瓦町二七ノ二電二八三五)

淵上市一郎 安田銀行長野支店長 福岡縣在籍 父久三、六生、福岡、齋藤喜三四 母 サク 文久三、六生、福岡、齋藤喜三四 妻 マツエ 明二〇、九生、福岡、木月與吉三

淵田太郎 伊藤忠商會取締役 三重縣在籍 父 捨吉 慶應元、八生、現戶主 繼母 いく 明一四、四生、三重、藤田芳之助 妻 光代 明三〇、一一生、三重、鳥羽彌三 養子 昌民 明三、四生、三重、稻葉俊治二男 君は三重縣人淵田捨吉の長男にして明治二十三年三月を以て生れる同十四年神戸高等商業學校を卒業し伊藤忠商會社に入り青島漢口天津各支店東京支店支配人等を経て現時同社取締役を擧げらる(明二六、三三)は三重縣人稻葉龜吉養子俊治(同四三〇、一〇生)は同縣人川北榮一に嫁し叔父兼佐男(同四三〇、一三九)は同縣土族谷よしの入夫となれり(津市綿内岩田一一三九)

淵野旭子 正四位勳三等、鹿兒島高等農林學校名譽教授、大分縣土族 父政六、一〇生、大分、士、右田貞吉二女

舟(越、橋)

妻 ハル 明一五、四生、大分、黒野喜一妹 男 光 明三九、五生 女 桂 明四一、二生 女 ヨハル 大元、八生 女 小岳 大五、一一生

舟越楫四郎 正四位勳一等功四級、海軍中將 東京府在籍 妻 さわ 明一七、四生 男 正 邦 大二、五生

舟橋 明 東海機械製作所常務取締役 大阪府在籍 妻 フミ 明三三、七生、福井、土谷友彦妹 男 敏 明 大一〇、四生

舟橋清賢 從四位、子爵、司法參事官、貴族院議員、舊公卿家 院議員、舊公卿家 父 明二七、八生、岡山、士、野崎丹斐 妻 正 太郎妹、同志社女學校專攻部出身 男 明賢 大一三、一一生

(※印は姻族關係)

とあり家族は尙二男準二(大一、一〇生)長女千江(同一五、一一生)三男康夫昭五、三生あり妹(明二五、一一生)は東京府人篠塚勝次に同籍(同二八、四生)は愛知縣人伏屋宮吉に嫁し弟榮藏(同三三、八生)は分家せり(大阪府南區豐町二ノ二六)

舟橋喜一 齋生金山、大同信託各種監査役、東京電氣鐵道、大分縣土族 妻 ツジ 明一三、一一生、大分、田口貫治二 男 諱一 明三三、五生 女 フジ 明四〇、八生、長男諱一妻、岩手 高橋壽太郎長女 男 三郎 明四二、一一生 女 キヨ子 大二、九生

舟橋清賢 從四位、子爵、司法參事官、貴族院議員、舊公卿家 院議員、舊公卿家 父 明二七、八生、岡山、士、野崎丹斐 妻 正 太郎妹、同志社女學校專攻部出身 男 明賢 大一三、一一生

府人吉本五郎右衛門弟英二(三六、七生)は絶家栗町家を再興せり(東京市大森區山王二ノ一九〇八電大森三六五一) 參照||大森松武右衛門、野崎丹斐太郎、吉本五郎右衛門の項

船井長治 神戸商工會議所議員、兵庫縣多額納税者、日本機織工業組合理事、兵庫縣在籍 妻 リヤウ 明一二、三生、養兒長四郎長女 男 明一、三生、養兒長四郎長女

船尾桂一 三井銀行員 東京府土族 妻 よしゑ 明一〇、五生、東京、箕孫左衛門 男 幸子 明三六、五生、京都、中江盛三妹 弘 昭三、一一生

君は福岡縣人淵上佐市郎の長男にして明治十六年十一月五日を以て生れ同二十八年家督を繼ぐ同三十年高等小學を卒業し同三十九年百三銀行に入る大正十二年同行合併に依り安田銀行に引續き勤務し累進して昭和二年神田支店長となり次で半込支店長を経て同七年長野支店長に轉じ今日に至る(長野市縣町一二三電三六八) 參照||淡路池右和司の項

員たり家族は尙妹愛子(明四一、一一生、御茶の水高女出身)弟謙四郎(同四三、三三)妹信子(同四五、六生)同榮子(大六、一一生)弟泰(同八、一一生)妹八重子(同一〇、一一生)あり同道子(明三五、四生)は高知縣人太田順路弟順喜に同籍(同三七、八生)女子學習院出身(身)は京都府人小林末夫に嫁せり(東京市麻布區本村町二二五電高輪七九二) 參照||中江盛三、淡路池右和司、淡路池右和司の項

船越重兵衛 高車、材木商 大阪府在籍 妻 多美 安政六、四生、大阪、勝田市良右衛門二女 男 良太郎 明二七、一一生、大阪、細井彌吉二女 女 三子 世戸悟五女

君は大阪府人先代重兵衛の長男にして明治十四年八月二日を以て生れ同十五年家督を繼ぎ前名勝太郎を改め重兵衛を襲名す高車と稱して材木商を營む家族は尙勇清次郎(大四、九生)六男春夫(同一、一一生)七男嘉三郎(同一五、三三)八男芳太郎(昭八、三三)あり二女種子(明三九、八生)は大阪府人妹尾秀三郎に嫁し二男善次郎(同四四、一一生)は分家せりA二一九四(大阪府西區長堀通一ノ四電新町三三三) 參照||妹尾秀三郎の項

船越達 三井生命保險金澤支店長 東京府在籍 妻 花子 明三一、五生、三重、士、大西重喬妹、山脇高女出身 男 欽 大七、一一生 女 勳 大七、一一生

參照||子爵加藤隆義、男爵船越光之丞、大西重喬、小林房次郎、小林康治、男爵山縣有光、淡路池右和司、淡路池右和司の項 船越光之丞 從三位勳二等、男爵 東京府土族 妻 松子 明一、一一生、公野山縣有遺叔母 行員 明二九、一一生、正五位、日本銀行員 男 光輔 明三四、三三、長男光輔妻、東京 士、伊藤三郎妹、雙葉高女出身

フ之部 船(坂、田、津、橋)

(※印は姻族関係)

七八六

○、(四生)は分家せり(東京市牛込區市谷加賀町二ノ二二(牛込二〇五八))
參照 公爵山縣有造、子爵加藤隆義、男爵山縣有光

船坂米太郎 東京府在籍

妻 キク 明二四、一、一生、神奈川、石田松

養子 ナツエ 大六、三、一生、神奈川、岸柳之助三

君は東京府人船坂猪之助の三男にして明治十九年十二月を以て生れ大正九年兄次郎方より分れて一家を創立す書齋を營み大盛堂書店主たりA四一七B一七〇(東京市澁谷區上通三ノ六(青山三十三五))

船田 一雄 三菱鐵業、三菱商事、九州炭礦汽船各社取締役、三菱監理事
妻 エイ 長女 嘉永三、五、一生、愛媛、柴田藤十郎
妻 明三二、一、一生、東京、士、本多
妻 成美 明二二、一、一生、東京、士、本多
君は愛媛縣人船田信衛の長男にして明治十年十二月を以て生れ同三十二年家督を相続す同十九年東京帝國大學法科大學獨法科を卒業し三菱鐵業社に入り現時同社取締役にして三菱商會社の理事たる外前記會社の重役たり兼に飯塚鐵業社、三菱鐵道會社、山陽中央水電會社、北博太鐵業會社、美田鐵道會社、山陽中津重役たりし事あり家族は尙二男(雄、大七、一〇、生、長女(一〇、二、生、二女(一、一、生、六、生))三男(雄、同二、七、生)あり伯母(嘉永五、九、生)は愛媛縣人船田源松に嫁せりA五〇二五(東京市牛込區納戸町三七(牛込五〇一))
參照 三佐藤正宗野季彦の項

妻 登 明三三、一、二、生、東京、元田肇五
妻 大一二、六、生
君は栃木縣人船田兵吾の長男にして明治二十八年四月を以て生れ大正十三年家督を相続す同七年東京帝國大學法科大學英法科を卒業し内務省に入り福島愛知各縣理事官を経て内閣書記官となり同十三年退官し辯護士となり地下工業會社事務取締役に就任し後東京市第三助役に推されし昭和四年之を辭し歐米各國を歴遊し同五年衆議院議員に當選し同七年再選立憲政友會に屬す兼に内閣總理大臣秘書官に任ぜらる又郷里に於て下野中學校を經營す家族は尙三女(洋子(昭四、一、生)あり(東京市赤坂區青山南町五ノ三(三寶青山一六九九))
參照 元田肇男爵小畑太太郎(中廣太郎)參照 伏完宗元田傳の項

船津 定藏 小倉商工會所常務議員、草具製鐵廠製鐵所常務議員、福岡縣在籍
妻 ハル 明一三、九、生、福岡、船津次吉二
養子 鐵之助 明三〇、一、生、養女マツヨ、夫、福
養子 マツヨ 明三六、五、生、養子鐵之助、夫、福
君は福岡縣人船津定右衛門の長男にして明治十二年一月を以て生れる風に漢學の修養を積み明治二十九年大阪に出で、靴製造法を研究し同三十年福岡市船津三平商店に入りて靴馬具の製造販賣に従事す同三十九年現住地に於て靴馬具の製造販賣を營み今日に至る大正八年以來引續き小倉商工會所常務議員に當選し其間國勢調査員小倉市所得稅調査委員小倉市會議員等にして現時其任にあり家族は尙孫定之(大、四、四、生、養子鐵之助(長男)同和夫(昭二、六、生、同二男)ありA二二一B一三三(小倉市京町二ノ三(電四五四))

船津 常治郎 資産家
妻 エイ 門二女 安政六、一、生、京都、佐原清左衛

船田 中 從五位、衆議院議員(栃木縣選出)
妻 エイ 慶應元、五、生、千葉、福井與兵衛

船水 喜幸 正五位勳四等、前日本放送協會本
妻 明元、四、生、現戸主

船橋 鏡治 醫師
妻 龍 安政四、三、生

船橋 茂 第一銀行船橋支店長

妻 信子 明三〇、七、生、大阪、松田喜太郎
妻 章 大八、三、生
君は兵庫縣人船田龜吉の二男にして明治二十五年二月二十日を以て生れ先代クラの養嗣子となり昭和三年家督を相続す大正四年東京高等商業學校専攻科を卒業し直に第一銀行に入り累進して廣島支店長となり現時船場支店長たりテニスゴルフ釣魚に興味を有す家族は尙長女(俊子(大、一、七、生)二男(二郎(同、一、四、一、生)三男(昭三、九、生)あり(大阪府南區安堂寺橋通二ノ三七(船場一〇))

船山 右松 正五位勳四等、地方技師、和歌山
妻 ヨシ 明三二、九、一〇、生、宮崎、九田吉廣

船橋 福松 洋服卸附屬品商
妻 久 明二一、一、生、岡山、吉田金太郎

船橋 鏡治 醫師
妻 龍 安政四、三、生

妻 清 明四五、一、生
君は宮崎縣人船ヶ山吉太郎の二男にして明治八年十二月を以て生れ同三十七年兄清松方より分れて一家を創立す同三十九年東京帝國大學農學部農學科を卒業し富山縣立農學校教諭に任じ後鹿児島縣農事試験場技師に轉じ一時官界を退き南洋貿易會社社員たりしが大正八年再び愛媛縣技師となり同九年靜岡縣技師に任ぜられ同十三年地方技師となり現時和歌山縣内務部農務課長の職に在り家族は尙三男(清純(大、四、一、生)二女(純子(同、一、一、生)三女(恭子(同、一、四、三、生)四女(晴

文野 巳之助 家主
妻 金子 明四一、三、生、大阪、前原眞三郎

文野 巳之助 家主
妻 金子 明四一、三、生、大阪、前原眞三郎

文野 巳之助 家主
妻 金子 明四一、三、生、大阪、前原眞三郎

船橋 三郎 新興證券取締役、東京會館監
妻 芳三 明三七、四、生、商學士

船橋 三郎 新興證券取締役、東京會館監
妻 芳三 明三七、四、生、商學士

文野 巳之助 家主
妻 金子 明四一、三、生、大阪、前原眞三郎

文野 巳之助 家主
妻 金子 明四一、三、生、大阪、前原眞三郎

フ之部

船(橋、水、山)鮎、文(野、箭)

(※印は姻族関係)

七八七



務に轉じ後名古屋鐵道局橋脚工場及同工作課機械掛長... (古川銀次郎)

古川銀次郎 滋賀縣土族... 元横濱倉庫社長... (古川銀次郎)

古川源三郎 古川製紙社長、第一倉庫代表取締役... (古川源三郎)

古川四郎 正四位勲二等功九級、海軍中將... (古川四郎)

古川源太郎 從四位勳三等、判事、大審院判事... (古川源太郎)

古川阪次郎 從三位勳一等、工學博士、錦旗會... (古川阪次郎)

古川淳三 正五位勳五等、鐵道技師、工務局... (古川淳三)

古川三郎 京都ホテル取締役、古川製紙... (古川三郎)

古川確悟 正五位勳五等、教育總監部出仕兼... (古川確悟)

古川三郎 正四位勳二等功五級、陸軍中將... (古川三郎)

古川源三郎 滋賀縣土族古川良雄の弟にして明治二十一年八月... (古川源三郎)

古川四郎 君は愛知縣人古川庄次左衛門の四男にして明治十年十一月... (古川四郎)

古川源三郎 君は滋賀縣土族古川銀次郎の弟にして明治十五年三月... (古川源三郎)

古川治郎兵衛 關田川汽船社長... (古川治郎兵衛)

古川鈔一郎 從五位勳五等、判事、東京控訴院... (古川鈔一郎)

古川三郎 君は滋賀縣土族古川銀次郎の弟にして明治十五年三月... (古川三郎)

君は新潟縣人古川傳五郎の三男にして明治八年十二月二十五日を生れる同三十六年東京帝國大學文學部哲...

古川長四郎

佐渡汽船社長、直江津商業銀行 直江津合同運送各務取締役 新潟縣在籍

古川常次郎

鐵道工業事務取締役 愛知縣在籍 明一七、五生、静岡、古川久吉長

父 房次郎 文久元、一生、現戸主 母 加 慶應元、九生、滋賀、士、河村眞...

古川善見

從七位、陸軍騎兵中尉、鐵工業 大阪府在籍 明二九、二生、和歌山、雜賀利兵衛...

君は福岡縣人高宮仁吉の二男にして明治九年一月を以て生れ後福岡縣人古川久吉の養子となり同四十四年分...

古川鼎三

愛知縣在籍 嘉永四、八生、岐阜、河合繁右衛門 門妹

古川鐵治郎

大阪商工會議所議員、大阪織物同業組合長、九紅商店事務取締役 滋賀縣在籍

父 半六 嘉永二、一生 妻 博一 大七、六生 女 漢子 大七、六生...

古川義天

正四位勳四等、宮内事務官、竹田宮附、兵庫縣在籍 明二一、六生、兵庫、喜多俊一姉...

古河從純

從五位、古河石炭鐵業(株)社長、古河鐵業(株)理事、東京府華族 明二〇、一生、現戸主...

古河直三郎

大阪府在籍 明一七、一〇生、大阪、西田徳治 郎長女

古川藤吉

古藤、捻糸製造業 大阪府在籍 明九、〇生、大阪、奥田清吉長女...

古川藤三郎

第一倉庫、古川製紙各務取締役 京都府在籍 明六、八生、現戸主...

古川虎三郎

三井物産船務部長、日本海運集會所會長代理、愛媛縣在籍 明二四、七生、岡山、小野林太郎...

古川光造

正五位勳四等、鐵道省電氣局長 滋賀縣在籍 明二四、七生、岡山、小野林太郎...

古河虎之助

從四位勳三等、男爵、古河鐵業、古河林業部各務社長、古河石炭鐵業社長、東京府華族 明二四、八生、侯爵西郷從徳妹、...

古河不子

從四位勳三等、男爵、古河鐵業、古河林業部各務社長、古河石炭鐵業社長、東京府華族 明二四、八生、侯爵西郷從徳妹、...

古崎音次郎 大阪府在籍、材木商

古崎喜八郎 大阪府在籍、材木商

古崎秀次郎 三池塗業工業三池工場長

古澤嘉兵衛 茨城縣在籍

古澤平八郎 安田保善社副理事

古澤健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古幸新太郎 大阪府在籍

古澤文作 白耳義名譽領事、滿洲ベイント

古澤彦太郎 東京府在籍、衣類商

古澤健次郎 熊本縣多額納税者、古庄、金貨

古澤幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄逸夫 正五位勳六等、朝鮮總督府事務官

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄健次郎 熊本縣多額納税者、古庄、金貨

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

古庄幹一郎 從四位勳二等功五級、陸軍中將

古庄伊三郎 熊本縣在籍

古庄健二 熊本縣多額納税者、吳服商

士族山戸貞治に嫁せり(東京市四谷區大番町二九電四谷三二五〇)

古田喜一郎 飛騨屋、足袋商、家主  
妻 すみ 明二八、八生、愛知、横井政次郎  
男 惣一 大六、一〇生  
女 喜美子 大八、一〇生

君は愛知縣人古田惣八の二男にして明治二十四年五月を以て生れ大正九年家督を相続す飛騨屋と稱し足袋商を營み家主たりA九五三(名古屋市東區東道東一〇三電東四五四六)  
參照 横井政次郎の項

古田敬徳 大阪製鐵所専務社長、日本電解製鐵所取締役、兵庫縣士族  
妻 こと 郎長女  
養子 俊之助 京都、井上數馬五男、住友伸綱、管務取締役兼支配人、工部省  
孫 芳徳 大三、二生、養子俊之助長男

君は島根縣士族秋元一郎の二男にして安政六年五月を以て生れ先代久代の養子となり明治二十四年家督を相続し前名榮三郎を改む現時前記各會社の重役たり家族は尙孫武徳(大六、七生、養子俊之助二男)同敬三(同八、一〇生、同三男あり)A二二二四(兵庫縣武庫郡本山村禮屋三三四五)

古田慶三 昭和石炭専務取締役  
妻 しげ 明一〇、一生、東京、佐渡啓一  
男 義一 明三八、二生

君は長野縣士族古田重威の長男にして慶應三年五月二十一日を以て生れ明治二十八年家督を相続す同二十四年東京高等商業學校を卒業し直に外務省に奉職後辭して三井礦山會社に入り商務部長に昇り大正七年之を辭し基礎礦會社を創立して常務取締役となり後北海道炭礦汽船會社に入り常務取締役を擧げ現時昭和石炭會社専務取締役たり又兼に石狩石炭共立汽船及夕張鐵道各會社の重役たりし事あり家族は尙兄藤吉(明一五、八生、現戸主)長女初枝(大六、一〇生)二女登美子(昭二、五生)ありA六四六(東京市淺草區下平右衛門町二五電淺草五〇三三・五〇三四)

古立千吉 柳光亭、刺業業  
君は東京府人古立清兵衛の七男にして明治二十年九月を以て生れ柳光亭と稱し刺業業を營む推されて淺草區會議員たりし事あり家族は尙兄藤吉(明一五、八生、現戸主)長女初枝(大六、一〇生)二女登美子(昭二、五生)ありA六四六(東京市淺草區下平右衛門町二五電淺草五〇三三・五〇三四)

古館正右衛門 佐賀縣多額納稅者、酒類醸造業  
妻 知恵子 明四〇、一〇生、長崎藤澤直孝妹、長崎高女出身  
男 鴻輔 大五、三生

君は佐賀縣人古館正右衛門の長男にして明治三十三年一月を以て生れ昭和八年家督を相続し前名正之輔を改め現名正之輔と稱し酒類醸造業を營む同十一年大阪大九に勤務せしが同十二年歸郷して家職に従ひ現時酒類醸造業を營み直接國稅千二百八十圓を納め縣下の多額納稅者に列す家族は尙長女寛(昭三、五生)二女均生弟理三(明四〇、三生、勤本本店勤務、經濟學士)同妻絲重(長壽吉二女、女子大卒業)妹いね(同四四、一生)同ひさ(大九、三生)あり叔父九一(明八、九生)同妻カナ(同四五、五生、佐賀、執行安太郎二女)は共に分家し妹ヤエ(同三五、二生)は長崎縣人川副正巳に叔母ハル(同一九、一生)は佐賀縣人宮島徳太郎弟明治郎に嫁せり(唐津市唐津一六四八)參照 長壽吉の項

古館市太郎 正五位勲六等、横濱高等商業學校教授、岩手縣在籍  
母 タマ 文久三、六生、岩手、本田甚兵衛二女

鐵道各會社の重役たりし事あり長男義一は高千穂高等商業學校卒業直に佛國に留學ソルボンヌ大學に在勤間修學歸朝後昭和石炭會社に入社現時大阪支店に在勤す二男忠夫(明四一、一生)三男徳郎(同四四、八生)は各分家し長女新子(同三〇、一生)は日本製鐵會社販賣部長阿部雅雄に二女君子は東京府立高等學校教授農學博士今井喜孝に嫁し四女三代子(昭二、三生)は東京府人石塚倉吉六女いしの養子となりA一四〇九(東京市大森區田園調布二ノ五五電田園調布三三)

古田佐兵衛 表産家  
妻 しな 明八、四生、愛知、小貝謙三郎二女  
男 良一 明三六、一〇生  
男 正三 明三九、一〇生、長男良一妻、愛知、山中律妹  
男 正夫 明三六、一〇生  
男 修吉 明四三、一〇生  
女 あや 明四四、五生  
女 ゆき 大四、八生

君は愛知縣人先代佐兵衛の長男にして慶應二年八月二十九日を以て生れ明治十九年家督を相続す表産家たり家族は尙孫徳郎(長男良一長男)同たゑ(昭四、四生、同長女)同あみ(同八、一生、同二女姉ちよ(文久二、二生)あり長女康(明三〇、四生)は愛知縣人元松昇蔵に三女ひさ(同四〇、一〇生)は同縣人加藤元に嫁せりA七八七(名古屋市南區熱田白鳥町三三二電南九二六)

古田宗二郎 三共専務取締役、三共藥品販賣所、柏木檢査製造所、日新醫學社、島居商店各専務取締役  
妻 鹿子 大一一、二生、生母、東京、勝又  
男 豊 大一一、二生、生母、東京、勝又

君は三重縣人古田杏祐の二男にして明治六年六月を以て生れ先代宗平の養子となり同二十二年家督を相続す同二十六年岡山醫學專門學校醫學科を卒業し現時三共會社専務取締役たりし外前記各會社の重役たり家族は尙養子鈴(大八、一〇生、三重、清水松太郎)ありA

古殿基 富士商會、保險代理業  
妻 セイ 明二〇、一〇生、廣島、三田尾長右衛門二女  
女 明代 明四〇、一生、亡養子乾妻

君は岩手縣人古殿長右衛門の長男にして明治九年十二月一日を以て生れ昭和五年家督を相続す明治三十四年東京高等商業學校を卒業し福岡市立商業學校教諭島根縣立商業學校教諭大倉商業學校教諭に歴任し後官を辭し大倉商業會社に入り同社會計課長たりしも大正十三年横濱高等學校教授に任ぜられ今日に至る家族は尙孫朝子(昭四、四生、亡養子乾妻)弟善次郎(明二五、七生)同妻よしの(同二六、一〇生、岩手、田中丑太郎二女)及其一男あり妹スエ(同三〇、四生)は東京府人花田三象に嫁せりA一一一(東京市小石川區同心町二四電小石川六〇三九)

古館市太郎 正五位勲六等、横濱高等商業學校教授、岩手縣在籍  
母 タマ 文久三、六生、岩手、本田甚兵衛二女

一〇八九(東京市中野區桃園町七電中野四六三二)

古田貞助 愛知縣多額納稅者、濱木屋商店  
妻 きし 明一八、四生、愛知、士、濱島昌一妹  
男 孫三郎 大七、一生  
女 ひろ 明四五、五生

君は愛知縣人古田孫三郎の二男にして明治十二年十一月を以て生れ同三十八年家督を相続す縣下の多額納稅者に列し直接國稅一千六百四十七圓を納む現に濱木屋商店副社長たり二女まき(明四〇、一生)は分家せり(名古屋市西區皆戸町一ノ一六電本局一九五六)

古田敏夫 大阪土地建物専務取締役支配人、大阪信用組合理事、大阪府在籍  
妻 ミチ 明二一、四生、愛知、福島民三郎  
男 通夫 大八、一〇生

君は徳島縣人古田喜三郎の三男にして明治九年六月を以て生れ大正八年兄菊太郎方より分れて一家を創立す夙に陸軍經理學校を卒業し現時前記各會社の重役たり家族は尙五女靖子(大一一、七生)あり長女小夜子(明三九、八生)は大阪府人染川雅俊に嫁せりA四〇三(大阪府住吉區田邊本町六ノ三七電平野七五〇)

古田廉三郎 從七位、朝鮮銀行大連支店支配人、岡山縣士族  
妻 萬龜 明八、二生、養父虎次郎二女、岡山縣女子師範學校出身  
男 久繼 明三二、一〇生、横濱正金銀行長崎支店勤務、慶大出身  
女 啓子 明四〇、五生、長男久繼妻、宮城相澤勝正妹、宮城第二高女出身

君は岡山縣士族村山博の三男にして明治八年十一月二日を以て生れ先代虎次郎の養子となり同三十年家督を相続す夙に岡山縣廳となり爾來岡山縣農工銀行鴻池銀行等に勤務し更に大藏省に轉じ専賣局參事補に進み後朝鮮銀行に入り元山支店支配人遼東出張所支配人本店支配人を経て現時同大連支店支配人たり養父虎次郎(天保七、五生)養母敬治(弘化元、一〇生、岡山、士、草野孫平長女)は二男孫康(明三五、五生、滿洲電

古橋健一郎 煙草商  
妻 武太郎 明三七、八生  
女 きみ 大元、一〇生



古松 鐵太郎 正五位勳四等、判事、濱松區裁判所監督判事兼支部長

古見 眞熊 高田商會常務取締役、高田船底塗料製造所、北辰電機製作所各社長

古見 平介 山口縣人古見又介の長男にして明治二十三年五月を以て生れ同三十年家督を相続す

古元 岩吉 兵庫縣在籍 君は新海縣土族古谷雄吉の長男にして明治三年十二月を以て生れ同四十三年家督を相続す

古谷 榮藏 從五位勳六等、上田蠶絲專門學校教授、神奈川縣在籍

古谷 吉造 東京市牛込區會議員、興信會、牛乳商、東京府在籍

古谷 辰四郎 北海道多額納税者、北海道釧路市豊島區池袋五ノ二八二電大塚三三三〇

古谷 傳次郎 古谷商店代表取締役、東洋製菓取締役、東京府在籍

古谷 清 正四位勳二等功四級、陸軍中將、帝國飛行協會理事、東京府在籍

古谷 孝次郎 織物商、東京府在籍 君は和歌山縣人古谷貞藏の弟にして明治十三年六月二十五日を以て生れ同十四年分れて一家を創立す

古谷 新太郎 正四位勳三等、公證人、美城縣土族 君は神奈川縣人小川霜平の弟にして明治二十年十月を以て生れ古谷香蔵の養子となり

古谷 利雄 三井生命保險經營部次長、廣島縣在籍 君は兵庫縣人中居寅之助の三男にして明治二十六年二月四日を以て生れ先代香蔵の養子となり

古谷 晉 正五位勳五等、鐵道技師、大阪改良事務所長、東京府在籍

古谷 精一 東京商工會議所議員、眞興合本店牛乳商、東京府在籍

古谷 辰四郎 北海道多額納税者、北海道釧路市豊島區池袋五ノ二八二電大塚三三三〇

古谷 傳次郎 古谷商店代表取締役、東洋製菓取締役、東京府在籍

古谷 松太郎 地主、大阪府在籍 君は大阪府人古谷治左衛門の四男にして明治六年二月二十三日を以て生れ古谷治一郎の養子となり

古谷 辰四郎 北海道多額納税者、北海道釧路市豊島區池袋五ノ二八二電大塚三三三〇

古谷 利雄 三井生命保險經營部次長、廣島縣在籍 君は兵庫縣人中居寅之助の三男にして明治二十六年二月四日を以て生れ先代香蔵の養子となり

長男伊義長女(同眞香)昭七、五生、同長男(同允子)昭九、八生、同二女(同眞久子)昭三〇、七生、大阪府立市岡女出身)は分家せり趣味は書道骨董にありA一八七六(大阪市此花區玉川町二ノ一五七番福島九九〇)

古屋 榮一 前松屋呉服店経営部長 東京府在籍 妻 政子 昭二、八生、東京、士、小野寺 男 健一 昭四、八生 男 一 昭四、一一生

古屋 清 醫學博士、山梨縣病院長、醫師 山梨縣在籍 妻 安政六、九生、山梨、志村勘兵衛 叔母 明三〇、二生、群馬、神保顯二 女 高崎高女出身 男 清一 昭三、四生

古屋 重雄 甲府市議員、山梨共進會事務取扱、甲府電力、甲府電力、若尾 山梨縣在籍 妻 いと 昭二、二生、山梨、田中文輔 男 昭二、二生

古屋 惣八 松屋呉服店経営部長、古屋宅 社員東京府在籍 妻 美津 昭一、四生、東京、青地伊一 姉 昭二、二生、山梨、青地伊一 弟 昭三、三生、山梨、青地伊一

古屋 徳兵衛 松屋呉服店社長、古屋宅代表社員 山梨縣在籍 妻 美津 昭一、四生、東京、青地伊一 姉 昭二、二生、山梨、青地伊一 弟 昭三、三生、山梨、青地伊一

古屋 政次郎 米穀問屋並雜貨貿易商 神奈川縣在籍 妻 慶應元、一一生、東京、士、柴田徳 姉 昭二、二生、山梨、青地伊一

古家 太郎兵衛 生魚問屋 大阪府在籍 妻 秀 昭一、二生、大阪、養父彌太郎 男 仙之助 昭四、一一生 女 好子 昭二、二生

古屋 慶隆 從四位勳三等、衆議院議員(岐阜縣選出)岐阜縣多額納税者、農業 岐阜縣在籍 妻 長女 昭一、一一生、岐阜、士、黒岩六 男 昭二、一一生、岐阜、須田萬右衛門 女 昭三、一一生

古屋 重雄 甲府市議員、山梨共進會事務取扱、甲府電力、甲府電力、若尾 山梨縣在籍 妻 いと 昭二、二生、山梨、田中文輔 男 昭二、二生

古屋 惣八 松屋呉服店経営部長、古屋宅 社員東京府在籍 妻 美津 昭一、四生、東京、青地伊一 姉 昭二、二生、山梨、青地伊一 弟 昭三、三生、山梨、青地伊一

古屋 徳兵衛 松屋呉服店社長、古屋宅代表社員 山梨縣在籍 妻 美津 昭一、四生、東京、青地伊一 姉 昭二、二生、山梨、青地伊一 弟 昭三、三生、山梨、青地伊一

古山 宇一 都島土地會社員、家主 大阪府在籍 妻 政 昭一、一一生、祖父宇右衛門長女 女 昭二、一一生、大阪、高橋孫十郎 男 昭三、一一生

古山 茂夫 從五位勳五等、判事、舞鶴區裁判所監督判事兼支部長 新潟縣在籍 妻 アキ 昭二、一〇生、士、内山光謙四 男 昭三、一〇生

古山 正容 正五位勳五等、辯護士 山梨縣在籍 妻 カタル 昭三、一〇生、久保田政兵衛長女 男 昭四、一〇生

古山 春司郎 正五位勳四等、臺灣總督府法院檢察官、臺北地方方法院檢察官長 千葉縣在籍 妻 謙 昭七、一〇生 男 謙 昭七、一〇生

古山 芳三郎 尾州銀行取締役兼支配人 大阪府在籍 妻 昭四、一〇生 男 昭五、一〇生

古山 正容 正五位勳五等、辯護士 山梨縣在籍 妻 カタル 昭三、一〇生、久保田政兵衛長女 男 昭四、一〇生

古山 春司郎 正五位勳四等、臺灣總督府法院檢察官、臺北地方方法院檢察官長 千葉縣在籍 妻 謙 昭七、一〇生 男 謙 昭七、一〇生

古山 茂夫 從五位勳五等、判事、舞鶴區裁判所監督判事兼支部長 新潟縣在籍 妻 アキ 昭二、一〇生、士、内山光謙四 男 昭三、一〇生

古山 宇一 都島土地會社員、家主 大阪府在籍 妻 政 昭一、一一生、祖父宇右衛門長女 女 昭二、一一生、大阪、高橋孫十郎 男 昭三、一一生

古山 茂夫 從五位勳五等、判事、舞鶴區裁判所監督判事兼支部長 新潟縣在籍 妻 アキ 昭二、一〇生、士、内山光謙四 男 昭三、一〇生

古山 宇一 都島土地會社員、家主 大阪府在籍 妻 政 昭一、一一生、祖父宇右衛門長女 女 昭二、一一生、大阪、高橋孫十郎 男 昭三、一一生

古山 茂夫 從五位勳五等、判事、舞鶴區裁判所監督判事兼支部長 新潟縣在籍 妻 アキ 昭二、一〇生、士、内山光謙四 男 昭三、一〇生

へ之部

日置徳太郎

從四位、男爵 舊岡山藩國老 安政三、九生、岡山、土、池田淡

別府哲二郎

竹葉亭務取締役、蒲燒料理業 東京府在籍 明二五、六生、福井、田邊江守長

別宮貞俊

正五位勳六等、工學博士、住友電線製造所取締役、製造部長兼研究部長、東京府在籍

別宮周三郎

愛媛縣農工銀行、第二宇和島自動車各務取締役、愛媛縣在籍 明二三、一、愛媛、大野常一郎

別宮秀夫

正五位勳四等、愛知縣書記官、内務部長、愛媛縣士族 安政四、三生

別所豊次郎

大和興業社社長 三重縣在籍 明一一、二生、三重、鈴木五平長

へ之部 日、別府、官、所

(※印は姻族關係)

之部 (別府) 龍、紅、逸見

(※印は姻族關係)

(名古屋市東區今池町ナゴヤパンシオン内電東二三九)

別府 時三

父 菊藏 東京府在籍  
母 芳雄 大正、四生、東京、清水庄三郎

妻 芳雄 大正、四生、東京、清水庄三郎

君は東京府人別府菊藏の庶子にして明治二十年十二月を以て生れる伊勢菊藏本店と稱し酒類商を営む妹花(明三〇、一〇生)同夫正治(同二六、二生)三重、伊藤萬藏(弟)は其子女を伴ひ分家し長女君子(大二、二生)同夫忠雄(明四一、一〇生)埼玉、久井文重郎(三男)も亦分家せりA八二一(東京市日本橋區濱町三)一電飛花四八六〇)

別府 睦

正八位、陸軍騎兵少尉、貿易商  
大阪府在籍

妻 八重 明三六、一〇生、大阪、鹿海文助妹

君は大府人小山彌一郎同勝彌の弟にして明治三十三年五月を以て生れ大正八年先代ムツの養子となり家督を相続し前名小三郎を改む同十二年英領印度方面を視察す貿易商を営み豫備陸軍騎兵少尉たり家族は尙長女蓉子(昭三、六生)ありA一三四七B一〇〇(大阪府南區瓦町三番丁五五電南五〇六〇)

龍宮谷 清松

三菱商事社員  
東京府在籍

妻 澄子 明三五、五生、東京、士、河合辰太郎二女、東京府立第一女高出身

君は石川縣人先代龍宮谷清平の長男にして明治二十九年十二月二十三日を以て生れ昭和八年家督を相続す大正九年東京帝國大學法學部政治學科を卒業後三菱造船會社に入り後三菱合資會社に轉じ現時三菱商事會社總務部に勤務す家族は尙二男和夫(昭三、九生)あり弟利

龍甲齋 虎丸

浪曲師  
東京府在籍

君は東京府人荒井三郎の三男にして明治十八年六月十九日を以て生れ大正六年家督を相続す藝名を龍甲齋虎丸と稱し浪曲師として知らるる家族は尙二男清忠(大五、九生)孫齋滿子(昭六、二生)長男正金(長女)妹よね(明二三、八生)ありA八〇〇(東京市中野區宮園通五ノ四八電中野四一〇〇)

紅粉 德藏

浪花亭、西洋料理業  
大阪府在籍

妻 ムメ 明二〇、四生、大阪、栗本俊男

君は大府人紅粉德藏の三男にして明治十年五月を以て生れ同四十年分れて一家を創立す浪花亭と稱し西洋料理業を営む家族は尙四男正四郎(大四、七生)五男良之助(同八、四生)三女志代(同二〇、四生)あり長女ツタ(明四〇、七生)は大府人福地哲六に嫁せりA三四六(大阪府南區宗右衛門町四九電南九五五)

逸見 斧吉

逸見山陽堂社長、一般食料雜詰  
東京府在籍

妻 菊枝 明一八、六生、東京、鹽谷作兵衛

君は廣島縣人逸見勝誠の長男にして明治十年十二月を以て生れ同三十七年家督を相続す凡に慶應義塾に學び山陽堂と稱し一般食料雜詰問屋業を營み金鶏印煉乳本舖として知らる大正七年一族を以て株式組織に改め業務を主宰し今日に至るA八二〇(東京市墨島區駒込四ノ一五電大塚六一八八店舖、同市日本橋區本町二ノ四

電浪花(三二)

逸見 嘉一郎

鴻池信託取締役  
和歌山縣士族

妻 重治 明三八、四生、經濟學士

君は和歌山縣士族逸見嘉藏の長男にして明治十二年四月三日を以て生れ同十六年家督を相続す同三十七年東京帝國大學法學部政治學科を卒業し日本銀行に入り果進して同行計算局長となり昭和元年十二月鴻池信託會社に轉じ現時其取締役たり家族は尙二男嘉彦(大七、四生)あり長女清子(明三五、六生)は福岡縣人福島文彦弟俊彦に二女清子(同四〇、八生)は滋賀縣人堀居左五郎二男左門に嫁せり(兵庫縣武庫郡御影町岸本一五七七電御影三一七六)

逸見 治郎

逸見製作所代表社員、計算尺製  
東京府在籍

妻 ゆき 明一八、二生、千葉、岡野忠藏妹

君は千葉縣人逸見新次郎の長男にして明治十一年十月を以て生れ同十九年家督を相続す現時計算尺製販賣業を營み逸見製作所代表社員たり二男一雄(大八、一〇生)は東京府人佐藤藤吉に妹せき(明一六、八生)は千葉縣人荒井喜代に同す(同二八、一〇生)は同縣人濱野庄太郎に各養子となりA二七七(東京市澁谷區猿樂町五電青山八一九四)

逸見 省三

合同運送社監査役  
福井縣在籍

妻 かね 明二三、一〇生

君は福井縣人逸見勘兵衛の長男伊藤竹之助の兄にして明治六年十一月を以て生れ同四十二年家督を相続す現時合同運送社監査役にして兼若州銀行江若鐵道小濱合同運送會社等の重役たり弟勉三(明二四、一〇生)同妻テイ(同三六、八生)福井、田中敬治郎(二女)は其二子を伴ひ分家し妹ハル(同二二、四生)は福井縣人松田源助に嫁せり(福井縣遠敷郡熊川村電三二〇)

逸見 常太郎

香川縣多額納税者、屋島製菓、筑  
前屋逸見商店取締役、屋島醬油  
香川縣在籍

妻 タメ 明七、五生、香川、田中藤三長女

君は香川縣人逸見傳次郎の二男にして明治五年九月を以て生れ同十七年家督を相続す現時綿絲商を營み前掲各會社の重役にして香川縣多額納税者に列し直接國稅千四百六十四圓を納む家族は尙庶子正次郎(大七、一〇生)生母香川、三井(エ)同公(同一、一〇生)生母同上、同龍雄(同三、八生)生母同上、弟貞次郎(明一〇、一〇生)同妻壽(同二四、二生)香川、井上和(三郎二女)及其子女あり弟好太郎(同九、一〇生)は香川縣人赤尾慶三郎の養子となり(高松市南新町四三電二〇一七二二三二三)

逸見 文雄

正五位勳四等、農學博士、北海道  
帝國大學教授、農學部勤務  
北海道在籍

妻 米 光朝妹  
慶應元、二生、福島、士、沖津醇

君は富山縣人逸見文綱の長男にして明治十九年三月を以て生れ昭和三年家督を相続す先は大正二年東北帝國大學農科大學農藝化學科を卒業し北海道帝國大學農科大學助教授に任じ同八年農學博士の學位を受け同十年英米獨逸伊各國に留學し歸朝後北海道帝國大學教授に任じ現在に至る家族は尙二男文次(大一一、一〇生)三女豐子(昭二、六生)三男日出雄(同八、五生)弟眞雄(明四〇、二生)あり同武雄(同二二、九生)農學博士、京大教授(同妻治子(同三五、四生)大阪、今居眞吉長女、夕陽丘高女出身)は其一男一女を伴ひ分家し弟重雄(同三二、七生)同行雄(同三五、八生)も亦分家し妹久子(同二八、八生)は宮崎縣人西尾秀太郎に同榮(同三

逸身 源三郎

逸身源商店代表社員、呉服太物  
大阪府在籍

妻 美代子 明三九、八生

君は大府人逸身源兵衛の長男にして明治六年五月を以て生れ後家督を相続す吳服太物問屋業を營み逸身源商店代表社員たり家族は尙孫榮夫(大一一、一〇生)二男一長男(同正子)同正子(同一五、五生)同長女(同豊)昭二、八生、同二男(同圓子)同圓子(同四、九生)同二女(同花)明三五、一〇生)は分家し三男誠二郎(同四〇、四生)は大府人山ノ上徳松の養子となりA四六七(大阪府北區天神橋筋一ノ二六電北五四八二三三〇三六)

邊 時 鵬

從五位勳六等、奉任待選、平安南  
道龍岡郡大代面長、平安南道在籍

妻 李淑子 慶應二、五生

君は平安南道の出身にして明治三年二月二十五日を以て生れる凡に任官し同四十年度支部主事に任じ同書記郎財務監督局主事財務署財務官に歴任其間江界財務署長定州財務署長等に歴補し同四十四年總督府書記を経て郡守に任じ爾來寧遠郡中和郡安川郡に在勤大正十三年官を辭す次で寧遠三和金融組合長に推され同十五年現職に就任す家族は尙三子及孫五名あり趣味は讀書を好み詩を愛す(平安南道龍岡郡大代面)

下 榮 和

正五位勳五等、前朝鮮總督府慶尙  
南道山清郡守、慶尙南道在籍

妻 潤珠 大四年生、釜山中學在學

君は慶尙南道山清郡の出身にして明治十九年五月を以て生れる同三十八年巡檢教習所を修了し更に同四十二年私立開進學校を卒業す同年晉州警察署巡査となり翌年

(※印は姻族關係)